

030201鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	6 ～ 8	被災者が乗用車で出勤した後、駐車場から事務所へ移動していたところ、敷地内の深さ2.5mの水路へ墜落した。被災者はその数日後に死亡した状態で同僚により発見された。死因は低体温症であった。	418	1	100 ～ 299
2022	1	14 ～ 16	マンション建設工事の1階において一人作業で型枠解体作業に従事していた被災者が、脚立の横で意識不明状態で倒れているところを発見された。その後、救急搬送されたが、意識が戻ることなく、約3週間後に死亡したもの。首に骨折があり、折れた骨が気道を圧迫したことにより、呼吸が出来なくなり意識不明となった。	371	1	1～9
2022	1	14 ～ 16	被災者は鳶職人として入場し足場の解体作業に従事していた。解体作業に伴い、足場の10段目か9段目にて足場のメッシュシートを取り外す作業を行っていたところ、何らかの原因で足場から墜落した。	411	1	50～ 99
2022	1	12 ～ 14	小学校の改築工事現場において、冬期養生上屋の仮設屋根（縦約45m、横約70m、高さ約5m）の一部が崩落し、現場内で作業を行っていた作業員約20名のうち、崩落箇所のあるところで作業を行っていた被災者が下敷きとなった。災害発生当時、仮設屋根上には約50cmの積雪があり、約30m四方に渡り仮設屋根が崩落したものの。	419	5	10～ 29
2022	1	16 ～ 18	鉄骨造6階建テナントビル新築工事現場において、外壁のコーキング作業を行っていたところ、5階付近の足場から墜落したものの。	411	1	1～9
			ドラグショベル（クレーンモード不使用）を用いて荷を吊り、移動させよ			

2022	1	8 ～ 10	うと走行・旋回した際に、ドラグショベルが転倒。被災者が運転席から投げ出され、ドラグショベルのヘッドガードと地面との間に腹部を挟まれた。直後、病院に搬送されたが、肝臓破裂で搬送先の病院で死亡が確認された。	142	2	1～9
2022	2	12 ～ 14	工場屋根改修工事において、スレート屋根上で作業していた被災者が、明り取り箇所の塩化ビニール製波板を踏み抜いて、約6m下の床に墜落したものの。	415	1	0
2022	2	16 ～ 18	被災者（3次下請）は躯体の2階屋上にて近隣敷地へ粉じんが飛散するのを防止するためのシートを設置していた。シートの設置作業を終えた被災者は事務所へ戻ろうと2階屋上を歩いていたところ、何らかの原因で2階屋上の天窓を踏み抜いてしまい墜落した。	415	1	50～ 99
2022	2	0 ～ 2	現場監督者である被災者は現場事務所から書類提出のためタクシーで移動中、長時間労働により致死性不整脈・虚血性心疾患を発症し意識不明となり、搬送先の病院で死亡した。	921	90	100 ～ 299
2022	3	16 ～ 18	個人宅のリフォーム工事現場において、塗装が不十分な箇所の再塗装のため、建屋の外階段（手すり未設置）を上っているときに、バランスを崩した被災者が高さ2.6メートルの階段上から墜落し、死亡した。	413	1	1～9
2022	3	6 ～ 8	被災者は、災害発生日当日の朝、建設工事現場に向かうため、事務所兼自宅を自家用車で出発し、県道を走行していたところ、反対車線にはみ出し、反対車線を走行していた中型貨物自動車と正面衝突した。当初意識不明の重体で治療を継続していたが、後日死亡した。	231	17	30～ 49
2022	3	8 ～ 10	型枠支保工の上に資材を仮置きするステージを設営するため、当該ステージの床となる床材を敷き詰める作業中に、固定されていない床材を踏み抜いて約5.8m下に墜落した。頸椎骨折等の傷害を負い、数日後に死亡した。	419	1	1～9
2022	3	14 ～ 16	工事用ラック式エレベーターのガイドレールの盛替え作業（10階から11階）を行っていた被災者が、搬器とともに10階から1階へ墜落したものの。	214	1	1～9

2022	4	8 ～ 10	被災者は、隣接する立体駐車場に駐車された自動車を養生するため、立体駐車場のキャットウォークに登ったところ、キャットウォークの昇降口から地上へ墜落した。なお、開口部から地上までの高さは5.65メートルであった。	419	1	10～ 29
2022	4	10 ～ 12	2階建て工場の解体工事で、スレート屋根を取り外し、いったん2階の床上で袋詰めし（スレート板用の専用袋で、袋詰め後の重量は1袋約500kg）、2階床に2m四方ほどの開口部をあけ、電動ウインチで荷降ろししていたところ、袋が破けて中身のスレート板が高さ約5mの箇所から落下し、1階で荷の待機をしていた労働者に当たった。	611	4	1～9
2022	5	14 ～ 16	被災者は屋根上の錆を研磨するため、高所作業車を使用して屋根に上ろうとしていたところ、地上から約2メートルの高さにあるバケットに乗り込むために車両に備え付けられている階段を使用し移動していた際に墜落し、死亡したもの。	146	1	1～9
2022	5	14 ～ 16	消防署庁舎改築工事現場において、被災者が現場内の掘削残土に混入するゴミを手で取り除く作業を行っていたところ、同残土の搬出作業を行っていた別事業場の労働者が運転するドラグショベルのバケットに接触し、意識不明で救急搬送された後、死亡したもの。	141	6	1～9
2022	6	8 ～ 10	地上10階建てSRC造のビルを解体する工事において、9階部分を解体する工程を進めていた。被災労働者は西面外壁の窓に固定されていた外部足場の壁つなぎを建物内側から取り外そうとしたところ、西面外壁の一部が被災者側に崩落し、これと窓の下部の外壁に胸部が挟まれ死亡した。崩落した外壁を支持していた柱と梁は、引き倒しの準備のため一部を破断させており、外壁は不安定な状態であった。	418	4	1～9
2022	6	8 ～ 10	コンクリートブロック造の倉庫の解体作業を行っており、倉庫北面と西面のみ残った状況で、最初に西面を解体しようとした。西面に、北面の横鉄筋3本がかぎ掛けされていたため、横鉄筋を切断しようとしたところ、2本切断し終えて3本目を切断中に、北面が倉庫外側に倒壊した。その影響で、西面が倉庫内側に倒れ、倉庫内側で切断作業をしていた被災者が下敷	418	5	1～9

			きとなり死亡した。			
2022	6	10 ～ 12	3階建て戸建住宅新築工事において、3階部分の足場上で塗装作業中に墜落し、死亡。	411	1	1～9
2022	6	10 ～ 12	R C造7階商業ビル新築現場において、被災者は基礎底部からはしごで地面に上がり、敷地境界柵に安全掲示板を取付け中、2. 2m下の基礎コンクリートに墜落した（ヘルメットに亀裂）。救急車到着時心肺停止、蘇生処置され病院搬送後、停止と蘇生を繰り返し後日死亡。死因は蘇生後脳症（原因は頸髄損傷）。	416	1	10～ 29
2022	7	8 ～ 10	門型クレーン（定格荷重11トン）の解体作業を行っていたところ、クレーンのガーダ及びサドルが崩壊し、当該ガーダ上で作業を行っていた労働者が墜落、地面に全身を打ち付けたもの。墜落制止用器具はガーダに取り付けていた。労働者2名が高所作業車を使用しており、被災者はここからガーダに移って作業をしていた。	211	5	10～ 29
2022	7	12 ～ 14	資材置場において、被災者がフォークリフト（最大荷重2500kg）を使用して結束した型枠資材を約3mの高さまで積み上げたのち、フォークリフトの運転席から降り、手作業で積み上げられた当該型枠資材の位置を整えていたところ、当該型枠資材が倒壊し、下敷きとなったもの。	611	5	10～ 29
2022	7	14 ～ 16	汚泥貯留槽の防食工事（劣化部除去工等）が終了した現場で、被災者は、1人で現場の片付け及び清掃作業（汚泥貯留槽内作業なし）を行い、作業終了後、上司にその旨を電話連絡した。翌日、被災者と連絡が付かなかったことから、上司が元請事業場の現場代理人に連絡し、現場代理人が現場を確認したところ、汚泥貯留槽のマンホールの蓋が開いており、底部に被災者が倒れていたもの。	514	12	1～9
2022	7	16 ～ 18	敷地内での杭工事のため掘削後の穴（エレベータシャフト設置用、深さ1.7m）から地上に上がる際、被災者が転落したもの。昇降に際し被災者は、同僚が運転するドラグショベルのバケット部分に搭乗しており、	142	1	10～ 29

			上昇中何らかのはずみでバランスを崩し転落に至った。			
2022	8	8 ～ 10	R C 7階建て新築工事の6階バルコニーで避難ハッチ部の型枠解体作業を行い、バルコニー付近に置いてあった型枠パネルを片付けようとした際、パネルに打ち付けられていた釘に足を引っ掛け下がったところ、バルコニー端部の段差部分に足をとられバランスを崩し、バルコニーに直付けされていたロングスパンエレベーター昇降路から1階に降ろしていた搬器上に墜落し死亡したもの。	418	1	1～9
2022	8	14 ～ 16	地上5階建てアパートの外壁改修工事現場において、元請会社の労働者である被災者が高さ約15.35メートルの屋上から地上コンクリート床へ墜落し、死亡した。	418	1	1～9
2022	8	8 ～ 10	軽自動車事業場から作業現場へ向かう途中、県道片側一車線、左にカーブする道路を走行中、中型トラックと正面衝突し、胸を強打し、外傷性心臓大血管損傷により死亡した。	231	17	10～ 29
2022	10	14 ～ 16	R C造3階建てマンションの解体工事において、屋根裏フロアの開口部（屋根を部分的に撤去）で被災者及び同僚1名は、建物の縁に脚立を立てかけ、その上を転がしてフレコンバッグを持ち上げ、地上に投げ落としたところ、何らかの理由により被災者が縁を乗り越えて転落し、高さ10.5m墜落してアスファルト舗装面に激突した。	418	1	10～ 29
2022	10	8 ～ 10	変電所新築工事現場において、被災者は建物2階倉庫内の箒ブラシを用いた床掃き業務に従事していたところ、倉庫内にあった開口部（約1.6m×0.7m）から電線引出室のピット内（高さ約8.5m）に墜落したものの。なお、災害発生時の被災者は保護帽、安全靴、胴ベルト型の墜落制止用器具を着用していたが、当該墜落制止用器具は使用していなかったものの。	414	1	1～9
2022	11	12 ～ 14	被災者はマンション新築工事現場4階ベランダで脚立を使用して雨どいの接続作業を行っていたところ、足を踏み外して9.29メートル下の地上へ転落した。救急車が到着し病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	371	1	1～9
		10	改修作業の様子を写真で撮影するために、屋根の上に上がり、雨除け鋼板			

2022	11	～	12	上に乗ったところ、足を踏み外し、明り取り用のポリカーボネート製の折板（厚さ1.5mm）を踏み抜いておよそ8m下の地上に墜落した。	415	1	10～ 29
2022	11	～	8 10	鉄骨造地上20階建て商業ビルの新築工事において、被災者が14階部の柱付近に設けられたステージ（床面から作業床までの高さ3.85メートル）に乗り、要求性能墜落制止用器具を使用し鉄骨の補強材の溶接作業を行っていたところ、何らかの理由でステージから墜落し、要求性能墜落制止用器具によって宙づりになり、その後、救出までの時間に意識を失い、死亡したものの。	411	1	1～9
2022	11	～	16 18	ミニドラグ・ショベル（機体重量約1.6トン）を移送するため、2トンダンプにアルミブリッジをかけて自走で積み込もうとしたところ、左側のアルミブリッジがずれて落下し、バランスを崩したミニドラグ・ショベルが横転したもの。負傷し、治療していたが死亡したもの。	142	1	1～9
2022	12	～	8 10	高さ約30mの立体駐車場の解体工事において、被災者は自動車を格納するための搬器に乗って建屋内上部の軽量鉄骨の溶断作業を行っていたところ、休憩のため高さ約19mの地点から搬器を垂直に降下させていたとき、搬器が徐々に傾き始め、高さ約14mの地点で搬器が約80度傾き停止したが、搬器には手すり等の墜落防止設備はなく、また、被災者は墜落制止用器具を着用していなかったためそのまま地上まで墜落し死亡したものの。	391	1	30～ 49
2022	12	～	18 20	1.5tフォークリフトを運転し、廃コンクリート（推定重量1.4t）を入れたフレコンバックを吊りながら移動中、敷き鉄板の窪みでバランスを崩し、フォークリフトが転倒。運転していた被災者は同時に投げ出され、ヘッドガードに挟まれた。被災者は無資格であった。	222	2	10～ 29
2021	1	～	14 16	建設現場から一次下請業者の資材置場へ向かうため自動車を運転していた際、前方の車を追い越そうと対向車線にはみだしたところ、対向車両及びその後続車と衝突した。	231	17	30～ 49
			8	8階デッキプレート上でクライミングクレーンを使用し、コン止め（デッ			

2021	2	～ 10	キプレートの段差部の端に設置する部材) の荷上げ作業を行っていたところ、作業床としていたデッキプレートが外れ、玉掛け作業を行っていた労働者(2名)が荷とともに5階床のスラブに墜落した。	416	1	1～9
2021	2	8 ～ 10	被災労働者が地山の掘削面の上部付近において、仮囲いに立て掛けてあった養生金網(幅約1m、長さ約2m、厚さ約1.5cm、自重約10kg)41枚の束を別の場所に移動させる作業を行っていたところ、当該金網の束が手前側に倒れ、被災労働者が当該金網に押し出されて地山の掘削面の下部に約1.9m墜落した。被災労働者は墜落箇所から露出していたH鋼の上端部に頭部を打ちつけ、外傷性くも膜下出血等により死亡した。	521	1	10～ 29
2021	3	16 ～ 18	RC造8階建共同住宅大規模修繕工事、西面外部足場組立時、4M単管4本を吊袋に入れ荷上中、6階部分で荷取後、1本目を引き抜いた時に、吊袋のバランスが崩れ、残りの3本が地上に落下し、被災者の頭上に落下した。	521	4	30～ 49
2021	3	10 ～ 12	クライミングクレーンで荷(鉄筋馬を束ねたもの)を吊り上げていたところ、荷崩れし地上にいた作業員に接触した。	372	4	1～9
2021	3	8 ～ 10	被災者は高所作業車バケットに乗り込んで上昇し、競輪場ドーム天井にあるセンターバンク(スクリーン設置設備)に乗り移り、センターバンクの手すりのボルト部分を塗装していたところ、一部作業床がなく開口部となっていた箇所から、約25メートル下の地上床面に墜落した。	418	1	10～ 29
2021	3	14 ～ 16	建築工事に先立ち地盤改良のため空地进行掘削していたところ、過去の建築物のPHC杭の残置が判明したが、杭を自立させたまま掘削を続けた。被災者は土留の矢板を設置するため、掘削深さ4.5mの箇所において、杭の東側で小型ドラグショベルで掘削していたところ、長さ4.1mの杭が倒壊し運転席に激突した。掘削深さは杭の下端まで達しており、杭が折れたことによる倒壊ではなかった。	418	5	1～9
			機械式駐車場の地下天井ボードの張り替えを施工していたところ、同所には、自動式二酸化炭素消火設備のガス供給配管、噴射口が側壁に、熱・煙			

2021	4	16 ～ 18	感知器が天井に各々布設されていて、施工のため熱・煙感知器の一時的な取り外し及び復旧を行ったことによって同消火設備が誤作動を起こし、消火用の二酸化炭素が噴出し、二酸化炭素中毒（酸素欠乏症）により作業員4名が死亡、1名が負傷した。	714	12	1～9
2021	4	16 ～ 18	機械式駐車場の地下天井ボードの張り替えを施工していたところ、同所には、自動式二酸化炭素消火設備のガス供給配管、噴射口が側壁に、熱・煙感知器が天井に各々布設されていて、施工のため熱・煙感知器の一時的な取り外し及び復旧を行ったことによって同消火設備が誤作動を起こし、消火用の二酸化炭素が噴出し、二酸化炭素中毒（酸素欠乏症）により作業員4名が死亡、1名が負傷した。	714	12	1～9
2021	4	16 ～ 18	機械式駐車場の地下天井ボードの張り替えを施工していたところ、同所には、自動式二酸化炭素消火設備のガス供給配管、噴射口が側壁に、熱・煙感知器が天井に各々布設されていて、施工のため熱・煙感知器の一時的な取り外し及び復旧を行ったことによって同消火設備が誤作動を起こし、消火用の二酸化炭素が噴出し、二酸化炭素中毒（酸素欠乏症）により作業員4名が死亡、1名が負傷した。	714	12	1～9
2021	4	10 ～ 12	地下3階で養生材を片付けていた作業員が、直径65センチメートルのマンホールから4.5メートル下の地下4階に墜落したものの。	414	1	100 ～ 299
2021	5	12 ～ 14	S造2階建て新築工事において、作業場内で不要になった碎石の山（約15立米）を移動させるため、被災者が0.5立米ドラグショベルで作業中にアーム・バケット部分の様子を確認するため降車していた際、同僚がそれに気づかず4tダンプを後進させたところ、ドラグショベルのアーム部分とダンプのあおり部分に胸部と頭部を挟まれたもの。	221	6	50～ 99
2021	5	14 ～ 16	型枠組立て作業中、作業通路から約1.2m下の地面に墜落した際に、パイプサポートに胸を強打した。作業通路は巾9cmの角材を2列に並べたもので、幅は18cmであった。	417	1	10～ 29

2021	5	16 ～ 18	建物の基礎（地下1.5m）の型枠解体作業に従事していた一次下請所属の作業員の男性が熱中症により死亡したもの。同社の現場主任が、被災者の動きが鈍く怠そうな様子であったため、現場の休憩所で休憩させていた。数分後、現場主任が声をかけて体をゆすると倒れこみ、動けなくなっていた。救急搬送され治療を受けたものの、死亡した。	715	11	10～ 29
2021	5	10 ～ 12	体育館アリーナ内に設けられた棚足場において、天井部分の建築部材等の解体及び廃材の搬出作業を行っていたところ、被災者は棚足場の床に開けてあった開口部（廃材を地上に投げ落とすために床付き布枠2枚を取り外してできた開口部）から約1.3m下のコンクリート地盤に墜落し、死亡した。	411	1	30～ 49
2021	6	0 ～ 2	建設工事現場で内装の解体作業に従事していた被災者が、発熱の症状が出て、PCR検査で新型コロナウイルス感染症の陽性判定となり、入院治療後に死亡したもの。本件建設工事現場では、被災者の他9名の労働者がPCR検査で陽性判定されている。	911	90	1～9
2021	6	10 ～ 12	他の作業員により被災者が床に仰向けで倒れているところを発見され、搬送先で硬膜下血腫と診断され治療を受けていたものの、意識が戻らず後日死亡したもの。被災者は当日、天井補修工事のため、高さ90cmの簡易作業台（立馬に木製足場板を固定したもの）に上り、天井にモルタルを塗る作業を一人で行っていた。被災者発見時、保護帽が被災者の頭の位置から約1.2m離れた箇所に置かれていた。	371	1	10～ 29
2021	6	14 ～ 16	6階建て研究新棟新築において、電気工事2次下請が、屋上設置の定格荷重1tの低床ジブクレーンで、4tトラックから、パレット積みバスダクト、168kgと345kgの荷を2連吊りで揚重していた。高さ30m付近で、345kgの荷のナイロンスリングが2本ともクレーンのフックから外れ、玉掛けをせず4tトラックから小物資材を手作業で荷卸し中の被災者の上に落下した。	372	4	10～ 29
	6	6	被災者6名は、社用車（ワンボックス車）で事業場を出発し、建設工事現場に向かうため高速自動車道の追い越し車線を走行中、中央分離帯に接触			

2021	7	8	しそうになったため左にハンドルを切った際に横転し、走行車線を走行中の大型トラックに追突された。運転手、他1名の計2名が死亡、同乗者4名が重症。	221	17	10～ 29
2021	7	8	被災者6名は、社用車（ワンボックス車）で事業場を出発し、建設工事現場に向かうため高速自動車道の追い越し車線を走行中、中央分離帯に接触し、しそうになったため左にハンドルを切った際に横転し、走行車線を走行中の大型トラックに追突された。運転手、他1名の計2名が死亡、同乗者4名が重症。	221	17	10～ 29
2021	7	10	建物の基礎（地下約7m）のコンクリート打設補助作業に従事していた一	715	11	1～9
		12	次下請所属の作業員の男性が熱中症により死亡したもの。午前中の作業を終え、昼休憩に入ってからすぐに体調が悪化、すぐに救急に連絡し、意識不明の状態での搬送された。集中治療室で治療を受け、一般病棟に移るも、すぐに肺に血栓が見つかり様態が急変。翌日死亡した。			
2021	7	10	被災者は、土場にて、屋根を設置するにあたり、高さ約5メートルを超える当該屋根の南東端上で、屋根材端部の切断のため、石筆チョークと差し	415	1	1～9
		12	金を用いて、切断箇所に線を引く作業をしていたところ、墜落したもの。			
2021	7	8	被災者はビル解体工事現場の地下3階で敷き鉄板の清掃作業に従事していたが、別の作業場所へ移動するため、コンクリートガラの山を徒歩で通過	141	6	1～9
		10	していた。一方、テレスコラムはそのコンクリートガラを掘削するため、アームを地下3階へ下げたところ、被災者はそのバケットに激突されたもの。多発性外傷で死亡が確認された。			
2021	7	12	4階建てマンション屋根の庇の交換等の自社直営工事で、南面に足場（幅約11m×最上層高さ約15mの一側足場）を組立中、足場部材の中間受け渡しを担当する被災者は、高さ約2.8mの1層目単管抱き足場から、	411	1	1～9
		14	高さ約4.8mの2層目単管ブラケット足場によじ登る途中で、バランスを崩して墜落した。第2・3頸椎骨折、頸髄損傷、意識不明で入院中に死亡した。			

2021	7	6 ~ 8	被災者2名がワゴン車に乗り合い、建設工事現場へ移動するため、同僚労働者との待ち合わせ場所である高速自動車道I Cに向けて国道と高速自動車道との接続道路を走行中、ワゴン車が対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。ワゴン車を運転をしていた被災者が死亡し、同乗していた被災者が重傷、大型トラックの運転者が軽傷を負った。	231	17	10~ 29
2021	7	14 ~ 16	外部枠組足場の組立作業を2スパン×3層分をブロックとして地上で組立てラフタークレーンで吊上げる大組工法により行っていたときに、ブロックとブロック間の布板だけとなっていた1スパンの布板上で、ブロックに載せて一緒に吊上げた控え単管パイプを取り出そうとした被災者が、単管パイプとともに2階型枠スラブ上まで約5.7m墜落した。被災者は直後より入院治療を行っていたが、数か月後に容態が急変し死亡した。	411	1	1~9
2021	7	14 ~ 16	学校棟外壁他改修工事にて、屋上防水作業の施工管理中、パラペットに侵入した生徒が飛び降りた際、助けようとし約11.5mから墜落したものの。	418	1	1~9
2021	8	16 ~ 18	新型コロナウイルス感染症による。当該被災者は、現場監督として、病院、社会福祉施設等の現場立ち合いを行っていたが、新型コロナウイルスに感染し、ホテル療養をした後に、入院先の病院で死亡したものの。	911	90	100~ 299
2021	8	8 ~ 10	ごみ処理施設屋根上で資材片付け作業中、照明設備を取り付けるための開口部(幅90cm×長さ90cm)を塞いでいたベニヤ板(幅90cm×長さ180cm×厚み1cm)の周辺を片付けようとした際、開口部から約11m下のコンクリートフロアに墜落した。	414	1	10~ 29
2021	8	12 ~ 14	被災者は、朝から基礎コンクリート打設に付随する作業に従事していた。休憩し、正午頃からは、差し筋に付着したコンクリートをブラシで清掃する作業を開始した。14時頃、被災者が地上からの深さ約2mの位置にあったベース基礎の横に倒れていたため救急搬送されたが、搬送先の病院で後日死亡した。	715	11	30~ 49
			店舗新築工事現場において、敷地内の汚水配管の敷設のため、深さ1.6			

2021	8	20 ～ 22	9 5メートルまでドラグ・ショベルにより溝掘削を行っていたところ、溝掘削内の片側の法面が崩壊し、溝掘削内に入っていた被災者が土砂に埋まったもの。	711	5	1～9
2021	9	8 ～ 10	4階建てアパート新築工事にて、建屋の鉄骨のみが組み立てられている状況下において、被災者が高さ7.4mの4階床面部分の鉄骨間に置かれた「折板」と呼ばれる幅60cmの床材（長尺のものが複数枚重ねられたものの上に、さらに短尺の折板がおかれた状態）の上に立っていたところ、当該場所から直下のコンクリート基礎床面に墜落したもの。災害発生当時被災者は墜落制止用器具を着装していたが、親綱や防綱は設けられていなかった。	414	1	1～9
2021	9	12 ～ 14	コンクリート造2階建て宿舎の解体工事現場において、2階のベランダの手すりが外されていた箇所から約3.75m下に墜落し、頸椎を損傷したもの。医療機関に搬送後、被災者は低酸素脳症となり、ICUにて治療を行っていたが、脳の機能不全状態が続き後日死亡したもの。	414	1	1～9
2021	9	14 ～ 16	解体用機械で発生する粉じんを抑制するため、被災者は午前中は屋上から散水、午後は1階で散水作業中、2階天井のコンクリート（約9×1×1m、推定13.6t）が崩壊（支えていた建物の壁が先に解体され、増築の張り出し天井部が隣接建物との摩擦で支えられ残っていたが工事の振動で離れたもの）し、下敷きとなった。	418	5	1～9
2021	9	10 ～ 12	土止め支保工の腹おこし及び火打ち上で資材の搬出作業を行っていたところ、墜落・転落したもの（墜落高さ3.78m）。	412	1	50～99
2021	9	12 ～ 14	被災者は、建設工事現場1階北東側のフロア上部でEPS室（電気配管区画）のフロア床材敷設作業中、同僚の外国人技能実習生にサンダー（素材の研磨等を行う工具）を持ってくるように指示し、同僚が作業場を離れている間、フロア上部（高さ約3m85cm）を移動中に端部から墜落した。	418	1	1～9

2021	10	14 ～ 16	被災者が締固め用機械（ロード・ローラー）を運転し、敷地内を移動していたところ、躯体基礎の端から高さ2.89m下に同機械とともに転落したものの。	144	1	30～ 49
2021	10	10 ～ 12	マンホール2か所の上に雨水排水管（塩ビ管）を新設するため、ドラグショベルを用いて表面のアスファルト舗装を剥がし、幅約0.7メートル、奥行約5.1メートルの範囲を深さ約1.95メートルまで掘削勾配90度で溝掘削した後、溝内に入り、雨水排水管をマンホール側面の穴に挿し込み、マンホールと雨水排水管の接続部分を確認していたところ、片側の掘削面が全面的に崩壊し、崩れたアスファルト片等が被災者に激突したものの。	711	5	10～ 29
2021	10	14 ～ 16	ジブクレーン解体中、ジブをワイヤーで固定し、起伏ワイヤーを緩めた状態で、被災者がジブ上で作業中、固定ワイヤーが破断し、ジブが傾いたため、緩んでいた起伏ワイヤーが瞬時に緊張した状態となった。被災者は、起伏ワイヤーに墜落制止用器具のフックを掛けていたため、緊張した起伏ワイヤーとともに上方へ跳ね上げられ、宙ぶりの状態となった。被災者は救助後、病院へ搬送されたが、その後、死亡した。	211	99	30～ 49
2021	10	8 ～ 10	外壁塗装工事後の足場解体のためシート外し作業をしていた被災者が屋根の端から約5メートル墜落し、搬送先の病院で死亡したものの。	415	1	1～9
2021	11	14 ～ 16	鉄骨造の旧自動車整備工場（一部住宅）の解体工事現場において被災者含む7名が作業に従事していたが、被災者は内部解体作業を行っていた。当日の作業工程がおおむね終了し、作業員全員で片付け作業を行い始めた中、脚立の付近で倒れている被災者を発見した。なお、被災者は建物の天井に近い部分をガス溶断作業中、脚立から墜落したものである。	371	1	1～9
2021	11	8 ～ 10	躯体の1階において、スロープ用フレームの鋼板の設置作業中、スラブ開口部（1950mm×550mm）から、養生蓋板とともに、約4.2m下の地下1階コンクリート床に墜落し、頭部内部出血、肺損傷、骨盤・背骨骨折した。搬送先の病院において死亡した。	414	1	1～9

2021	11	12 ～ 14	鉄骨造、地上9階建の商業ビル新築現場（請負約6億）で発生。被災者は、車両系建設機械で掘削した深さ2.28メートルの根切り床で、しゃがんだ姿勢で山留めの横矢板壁を寸法測定中、背後の地山が突然崩れ、床面に尻をついた体勢で胸の高さまで土砂に埋もれ、15時頃搬送先病院で死亡を確認した。崩壊箇所は基礎工のため掘り下げ中の掘削面で、当該作業の車両系建設機械が離れた合間に、被災者が掘削面に近づき作業していた。	711	5	10～ 29
2021	11	12 ～ 14	シアン化水素精製棟の定期修理工事の前に発注者が装置を停止し、管内の内容物を除害した熱交換器の上端の蓋を開放した後の管板上で、被災労働者は、内径15mmの伝熱管780本に閉塞した黒色粉末の塊を高圧水で洗浄する業務に従事していたところ、発生時間において管板上で痙攣を起こしながら意識を失い、その5日後に搬送先の病院にて死亡したもの。	514	12	10～ 29
2021	11	14 ～ 16	被災者及びその同僚は、災害発生当日、建設現場での打設作業を終え、自社に戻るため、コンクリートポンプ車にて、県道を走行していたところ、ガードレールに接触し、ガードレールを破損した後に、橋梁下の川のコンクリート床面に墜落したもの。	149	17	10～ 29
2021	12	12 ～ 14	鉄骨2階建ての地域住民のための公会堂の新築工事作業所において、1階の建物のシャッターの上の鋼製□型梁と建物の外部に取り付ける底を固定するためのアンカーボルトを取り付けるための穴の位置決めと墨出しを行う準備中、8尺の脚立を使用して地上から2メートルの個所でバランスを崩したため脚立が倒れ、脚立の上から約2メートル下のコンクリート床に頭部を打ち付けて頭部を強打した。墜落時か墜落の際に保護帽が脱げた。	371	1	1～9
2021	12	14 ～ 16	クライミグ式ジブクレーン（つり上げ荷重13.65t）の組立てを昇降フレーム上で行っていたところ、当該フレームを構成する油圧式のシリンダー（重量約675kg）が転倒し、その衝撃で墜落・転落したもの（墜落高さ約16m）。	211	1	1～9
			建築物解体工事において、3名でのスレート屋根の解体作業中に、被災者がスレート屋根を突き抜け、約6メートル下方の地上まで落下し死亡した			

2021	12	14 ～ 16	もの。被災者はスレート屋根の横にある金属製の屋根上で、屋根の解体で発生した開口部から廃材を地面に落とす作業をしていた。スレート屋根に踏抜防止措置は講じられておらず、また、墜落制止用器具を使用する等の墜落防止措置も講じられていなかった。	415	1	1～9
2020	1	10 ～ 12	病院の増築工事（S造2F建）において、鉄骨の組立作業を行っていた被災者が、梁材の上面（高さ約6.5m）から墜落し、脳挫傷により死亡した。移動式クレーンで吊られた梁材（1点吊）を支柱の取付プレート上に仮置きして、その梁材の上を移動していたところ、梁材がプレートから外れ、バランスを崩して墜落した。安全帯は着用していたが、墜落直前には使用されていなかった。保護帽は飛来落下用の物を着用していた。	415	1	1～9
2020	1	6 ～ 8	作業現場へ向かうため、代表者が運転する軽トラックに2名乗車で走行中、凍結箇所ですリップし路肩に停車したところ、後続の2台目車両が追突し、後続車両は中央線を越え、道をふさいで停車した。このため、被災者が2台目の車両の前へ行き、後続車に手を振り注意喚起していたが、3台目の後続車も手前でスリップし、被災者側に向かって滑ってきたため、3台目の車両と土留め壁に挟まれ死亡した。	221	17	1～9
2020	1	8 ～ 10	被災者が自宅のソファで横たわり、呼吸をしていないところを家族が発見し、救急車で搬送されたが、急性循環不全により死亡が確認されたもの。	921	90	30～ 49
2020	1	10 ～ 12	マンション外壁改修工事現場において、足場解体作業中に高さ約18メートルの足場上から墜落したもの。	411	1	10～ 29
2020	2	14 ～ 16	ドラグショベルの旋回範囲内にて二次下請所属の被災労働者に杭打機ドリルの洗浄作業をさせていた際、一次下請労働者がユンボ作業を行うべくエンジンをかけたところ、誤作動によりドラグショベルが旋回し始め、バケットと杭打機車体との間で頭部を挟まれ死亡したもの。	142	7	1～9
		10	解体工事において鉄骨3階建の屋根部分の鉄骨をガスバーナーで切断した			

2020	2	～ 12	ところ20分後に出火し、消火中に火傷。	331	16	1～9
2020	3	10 ～ 12	鉄骨部材（重量約160Kg）の溶接作業中、当該鉄骨部材の下敷きになったもの。	521	4	1～9
2020	3	6 ～ 8	被災者は、宿泊先から現場へ自家用車を使用し、1人で向かっている途中、交差点手前の道路脇に設置されている標識支柱に激突した。病院に搬送され、死亡が確認された。	231	17	1～9
2020	3	10 ～ 12	RC9階建てマンションの大規模修繕工事において組み立てた鋼管くさび緊結式足場の北面部分（高さ27m）（最高部の作業床は15段目）を解体していた被災者が、12段目の作業床から手すり1本とともに墜落した。	411	1	1～9
2020	3	12 ～ 14	民間住宅新築工事現場において、車両積載形トラッククレーンを用いて型枠資材撤去作業中に、当該トラッククレーンの荷台でリモコン操作をしていた被災者が荷台から墜落したものの。	212	1	10～ 29
2020	4	14 ～ 16	タービン建屋にタービンを冷やす海水を送るための配管を埋設するにあたり障害となる旧工場建屋の杭を撤去するために、コンクリートが充填された鋼管杭（直径50センチメートル、高さ1.87メートル）の表面の鋼管部分の根本付近をガス溶断していたところ、当該鋼管杭が倒壊し、溶断作業を行っていた被災者が下敷きとなったもの。	419	5	1～9
2020	4	8 ～ 10	工事用エレベーターを設置するため、既設のくさび緊結式足場の一部を解体する作業中、足場と躯体の隙間から地階まで約20メートル墜落した。	411	1	1～9
2020	6	16 ～ 18	被災者は、6階ベランダから同階ロフト部分の作業床開口部に架け渡してあった足場板上を通行していた際、約2.7m下の5階スラブに墜落し、死亡したもの。	418	1	1～9
		10	共同住宅新築工事にて、被災者は可搬式作業台を使って階段の壁補修仕上			30～

2020	7	7 ～ 12	げ作業をしていたところ、階段の踊り場で倒れているのを発見された。	371	1	49
2020	7	8 ～ 10	解体工事に伴う養生足場を撤去するため、被災者が同足場の7層目の作業床で作業をしていたところ、同作業床から地上（高さ約12メートル）に墜落して死亡したもの。	411	1	1～9
2020	7	8 ～ 10	休業中の飲食店の改修工事中であった店舗内に入場した施工管理者が、何らかの原因で発生した爆発に巻き込まれ、死亡したもの。その爆発の影響のあった範囲内にあった事業場及び一般住宅などにいた複数名が被災した。	513	14	10～ 29
2020	7	10 ～ 12	RC造10階建て集合住宅の改修工事現場において、建物の外壁に沿って足場を組み立てていたところ、被災者は当該足場3層目床面の妻側より5.8m下方の地上に墜落したもの。組立中の足場は、くさび緊結式の手すり先行足場であり、被災者は幅75cmの床上でフルハーネス型の要求性能墜落制止用器具（2丁掛け）を着用し作業に従事していたが、当該器具のフックを足場に取り付けていなかった。	411	1	1～9
2020	8	10 ～ 12	RC造11階建共同住宅の新築工事において、躯体北面に設置されていた枠組足場を解体中、被災者は当該足場の10層目で、解体された足場部材を地面に降ろすため、下層にいる作業者に手渡す際に、誤って足場から地面まで、約17メートル墜落した。救急搬送先の病院で死亡が確認されたもの。フルハーネス型墜落制止用器具を着用していたが、そのフックを10層目に張られていた親綱にかけていなかった。	411	1	10～ 29
2020	8	14 ～ 16	発電所予備取水口付近に設けられた排砂門に漂着した流木2本、竹2本を撤去するため、増水した河川内で保護帽、ライフジャケット等を着用し、排砂門の昇降用梯子に設置した親綱に胴ベルト型安全帯をかけ、鋸で流木等の切断撤去作業を行っていたところ、曲がっていた竹が反発動揺し、被災者は竹に引きずられて水中に転落。水流で引き上げられず、救助のためやむなく鉋で親綱を切断し、約850m下流で救助されたが死亡した。	713	10	10～ 29
			マンション新築工事において、外部足場の盛替えを行うため、組立作業の			

2020	8	10 ～ 12	補助を行っていた被災者が、休憩のため同僚の作業員達とともに、足場の昇降階段を使用して1階に降りていたとき、足場の4層目の踊場で痙攣を 発症し倒れていたところを休憩を終え、作業場所に戻る途中の別の会社作業員に発見され、救急搬送されたもの。同日、搬送先の病院で死亡した。	715	11	10～ 29
2020	8	8 ～ 10	現場作業が終了しホテルに宿泊。翌朝車に6人が乗車し本社に帰る途中、自動車道で落下物を避けようとした際、運転操作を誤って落下物に乗り上げ、後輪がバーストしてワイヤーに接触し横転した。	231	17	30～ 49
2020	8	8 ～ 10	現場作業が終了しホテルに宿泊。翌朝車に6人が乗車し本社に帰る途中、自動車道で落下物を避けようとした際、運転操作を誤って落下物に乗り上げ、後輪がバーストしてワイヤーに接触し横転した。	231	17	30～ 49
2020	9	10 ～ 12	S造平屋建倉庫建設工事現場において、被災者が鉄骨に登り鉄骨のボルトの本締めを行っていたところ、天井下地材の薄板鋼板を踏み抜き、高さ約6.42メートルの箇所からコンクリート床面に墜落し、死亡した。なお、墜落防止措置は講じられていなかった。	415	1	1～9
2020	9	12 ～ 14	被災者は、同僚2名と工場建屋の屋根（スレート下地金属板複合屋根、既存のスレート材に後から金属波板を取り付けた）上で外壁の腐食部分の撤去・清掃作業に従事していた。午前中に外壁腐食部の撤去作業が完了し、昼食休憩後、撤去した外壁の破片が屋根の上に落ちていたので、これを掃き集め片付ける作業中、下地であるスレート材及び上部の金属波板の腐食度合の高い箇所を踏み抜き、約8メートル下の工場床に墜落し、死亡した。	415	1	10～ 29
2020	9	0 ～ 2	担当現場の職人から当日昼ごろ、ALC板（2m×60cm×4cm、重量約25kg）と呼ばれる軽量気泡コンクリート板7枚を2日後までに現場へ運搬するよう依頼を受けた被災者が、資材置き場に赴きALC板を搬送しようとした際、崩れ落ちたALC板20枚の下敷きとなったもの。2日後に音信）不通であることから他従業員が確認したところ、ALC板の下敷きになり死亡している被災者を発見した。（被災時間不明）	529	5	1～9
			被災者が搭乗する移動式クレーンが、作業構台から7メートル下に墜落し			

2020	9	10 ～ 12	たもの。被災者は70トンクローラクレーンを使って、作業構台から、7メートル下の地下部分に、鉄筋等を下ろしていた。休憩中に当該クレーンがゆっくりと構台端部に動き出し、手すりをなぎ倒した後、そのまま被災者ごと墜落した。その後、搬送先の病院にて3日後に死亡した。	212	1	10～ 29
2020	9	0 ～ 2	鉄骨平屋建ての農作物貯蔵施設の新築工事において、梁の地組を行っていた被災者が、梁の中央部を油圧ジャッキで持ち上げていたところ、梁が被災者の方に倒れて、下敷きになったもの。梁は2本のH型鋼材を仮組して繋げた状態で、H型鋼材は高さ800mm、幅300mm、長さ8.7m、繋げたときの全長は18.3m、重さは約5.2tであった。架台は転倒方向に約2度傾斜していた。	521	5	1～9
2020	9	8 ～ 10	8階建てビルの解体工事で、被災者が屋上南面においてLPガスボンベおよび酸素ボンベを用いたガスにより、鉄筋の溶断作業を行っていたところ、作業箇所付近の開口部からコンクリート破片の集積地点までの高さ約20メートルを墜落し、死亡した。	414	1	1～9
2020	9	10 ～ 12	宗教施設躯体改修工事において、バルコニー部分の鉄骨組立作業を行うため、楔緊結式一側足場から躯体側へ鉄骨の搬入を行い、被災者以外の労働者が躯体側に移り、鉄骨組立作業を行っていたところ、担当作業がなく足場に残っていた被災者が高さ3m以上の足場板から墜落し、頭蓋内損傷により翌日死亡した。墜落の瞬間の目撃者はいないが、手すりがない躯体との隙間又は中さんのない手すりの下から落ちたと推測。	411	1	1～9
2020	10	8 ～ 10	地上43階地下2階複合ビル新築工事において、掘削深さ10m（縦穴状で土止め支保工済）から、さらに1.75mをドラグ・ショベル（0.1立方m）で掘削していた。予想外の湧水があり排水ポンプを設置する段取り中、横矢板下部より土砂が流出し、被災者がその土砂に埋まってしまったもの。その後、地上に引き上げ死亡が確認されたもの。	711	5	10～ 29
2020	10	12 ～ 14	被災者が碎石を積載した2トントラックを傾斜地に停車させ、運転席を離れたところ、無人の当該トラックが前進し始めたため、制止しようと荷台に手を掛けたが振り落とされ、当該トラックの右後輪に轢かれたもの。	221	7	1～9

2020	11	16 ～ 18	共同住宅の新築工事現場に設置された一側足場において、被災者は躯体の外壁にある穴にモルタルを詰める作業を行っていたところ、足場から墜落して死亡したもの。なお、現場内に被災者の墜落制止用器具が持ち込まれていたものの、作業時に使用していなかった。	411	1	1～9
2020	12	0 ～ 2	建設現場に資材を搬入するため、トラックに資材を積んで移動中に、高速道路上で交通事故にあったもの。	221	17	10～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は、鉄骨製倉庫の新築工事において、地上から高さ約5mにある倉庫屋根の端から墜落し死亡した。	418	1	1～9
2019	1	14 ～ 16	被災者が現場乗入口境界際の溝上で当該溝上のグレーチングの養生をしていたとき、合材を積んで待機していた10tダンプトラックが乗入口から歩道に出ようとしたところ、当該ダンプトラック左前にいた被災者を轢いた。被災者は緊急搬送されることなく即死であった。	221	17	10～ 29
2019	1	8 ～ 10	学校の建替工事現場において、コンクリートがらの破碎作業のために使用するドラグ・ショベルの点検作業を行っていた被災者が、車体と上部旋回フレームとの間にはさまっているところを発見され、病院に搬送されたが死亡した。	142	7	30～ 49
2019	2	8 ～ 10	被災者が倉庫棟東面の庇のスレートの撤去作業のため、当該スレートの上に乗った直後、当該スレートを踏み抜き、高さ約5.2m墜落し、死亡したものの。	415	1	10～ 29
2019	2	10 ～ 12	被災者は、工事現場内に設置された外部足場13層目作業床で、足場から躯体側に身を乗り出して外壁にトタンを貼る作業を同僚2名と行っていた。一方、別業者の作業員が移動式クレーンにより床材8枚の躯体内への搬入作業を行っていた。その際、吊り荷である床材の1番上の1枚（鋼製、長さ約2m、幅約30cm、重さ約25kg）が被災者らの作業していた足場と躯体の間に落下し、作業中の被災者の顔に当たり死亡した。	212	4	30～ 49

2019	2	14 ～ 16	自社資材置場においてドラグショベルの旋回中にブームの油圧が抜けブームが倒れ旋回範囲内にいた被災者にバケットが激突し死亡した	142	6	1～9
2019	2	10 ～ 12	ホテル新築工事の現場4階西面において、被災者が外部足場（一側足場）の6層目に立ち、型枠の建込作業を行っていたところ、何らかの拍子に足場外側に張られていたメッシュシートを突き抜けて足場外側の地面まで落下した。その際に頭部を強く打って出血しており、病院に搬送されたが、2日後に死亡が確認されたもの。	411	1	1～9
2019	3	12 ～ 14	被災者は基礎コンクリート打設工事において、ベース型枠に入った生コンクリートの天端を金コテを使って均すため、鉄筋足場の中段（高さ約3メートル）からベース上部に渡ろうとしたところ、誤って墜落し、掘削床面に頭部を強打した。被災者は急性硬膜下血腫により死亡した。	411	1	1～9
2019	3	14 ～ 16	賃貸用マンション新築工事現場における外構工事中に、ダンプカーの誘導作業を行っていた労働者が、ドラグ・ショベルに轢かれているところを見られ、病院に搬送されたが、午後に死亡したもの。	142	6	1～9
2019	4	8 ～ 10	集合住宅の解体工事現場において、被災者が足場の最上層（8層目）で解体作業を行っていたところ、当該箇所から14メートル下の地上に墜落して死亡した。災害発生時、被災者は墜落制止用器具の取付け設備である親綱に墜落制止用器具を取付けていなかったものである。	411	1	1～9
2019	4	20 ～ 22	建築現場駐車場において、高所作業車を使用してケーブルラックを設置するための準備作業を行っていたところ、当該作業車が転倒し、被災したものの。	146	1	1～9
2019	5	14 ～ 16	既設建物の改修工事のため外部足場（最高高さ30.5m）を組立てに際し、足場南側から北側に向かって歩行中、北側にいた対向者を避けるため、足場から建物梁に移動したところ、梁から足を滑らせて10階から2階（高さ約25m）に墜落したもの。移動時は胴ベルト型の安全帯を外していた。	415	1	1～9
		18	災害発生日の午前中は現場作業を行っていたが、午後に入ってから行方不			

2019	5	～ 20	明となり、夕方に自宅敷地内で心肺停止の状態で見られ、その後死亡が確認された。	921	90	50～ 99
2019	5	～ 16 18	個人住宅の屋根の防水工事を行っていた被災者が、当日予定していた作業を終え、既設の屋外階段を使用して屋上から2階の底に降りた。その後、2階の底に立てかけたはしごを使用して地上に降りようとしたところ、はしごを踏み外して、約3.8m下のコンクリート床面に墜落した。	371	1	1～9
2019	6	～ 12 14	新築工事の鉄骨建方において、鉄骨上部の高所作業で作業員3名がボルト締めを行っていたところ、鉄骨が倒壊した。倒壊した鉄骨と共に地上へ落下した作業員3名の内、被災者は倒壊した鉄骨の下敷きとなり死亡し、他2名も負傷した。	419	5	10～ 29
2019	6	～ 12 14	被災者はバイオガスプラントの新設工事現場において、同僚3名と共に木造の固形物乾燥室の柱と梁の建方作業に従事していた。同僚が被災者が一側足場の1層目（高さ2.17m）を歩行しているのを見かけたあと、大きな音がしたので確認したところ、被災者が顔面から出血して足場下のコンクリート床に倒れており、搬送先の病院で3日後に死亡したもの。なお、保護帽は着用しており、墜落制止用器具は未使用であった。	411	1	1～9
2019	7	～ 16 18	E V設置作業において、試運転及び調整作業を1名がピット内、1名が搬器内において行っていた際、ピット内作業員から、「搬器を2階定位置に高速アップにて」上昇させるよう指示が出された。よって、搬器内作業員が指示どおり高速アップ（定常速度）したところ、搬器の上昇に伴って下降するカウンターウエイトとピット下部に取り付けた緩衝器との間にピット内作業員が挟まれ、死亡したもの。	214	7	1000 ～ 9999
2019	7	～ 12 14	工場のスレート屋根に設置されたルーフファン（煙突）を塗装する作業を行っていた労働者が、スレートを踏み抜いて約1.4m下のコンクリート床に墜落し死亡したもの。	415	1	10～ 29
2019	7	～ 12	民間住宅改修工事現場において、2階窓の雨戸取り付け作業中、わく組足場の高さ約5.6メートルから墜落したもの。	411	1	1～9

		14			
2019	7	8 ～ 10	トラックに積まれていた砂（約0.9トン）が入っているフレキシブルコンテナ（フレコン）を移動式クレーンにより移動させようとしたところ、フレキシブルコンテナのつりベルトが切断し落下、下方にいた被災者がフレキシブルコンテナの下敷きになり死亡したものの。	611	4 30～ 49
2019	7	8 ～ 10	被災者は、着工予定の現場の見積もりを行うため、会社所有のトラックを被災者自身が運転して高速道路を走行していた。その途中、被災者が運転するトラックが道路の左側にはみ出し、法面に乗り上げた後、橋脚に衝突した。被災者は、病院に搬送されるも全身を強く打ち、およそ2時間後に死亡が確認された。	221	17 1～9
2019	8	14 ～ 16	倉庫の新設工事現場において、コンクリート基礎打設作業に従事していた被災者が、作業場所を移動のため打設済みのコンクリート基礎を歩いていたら転倒したため、コンクリート基礎から突き出していた長さ70センチメートル、直径1センチメートルの鉄筋が顎から頭部に刺さったものの。保護帽は着用していた。	418	2 1～9
2019	8	14 ～ 16	建物3階のバルコニーにおいて、バルコニー天井の水切目地棒撤去中、脚立（踏み面3段+天板のもの）に上がろうとして、右足を1段目にかけてところ、踏み外して脚立ごと倒れ、フェンスを入れる予定のバルコニー立ち上がり部に、うつ伏せで転倒し、体を強打した。転倒直後から四肢が動かなかったため救急搬送され、頸椎損傷と診断され入院中に死亡したものの。	371	2 1～9
2019	8	10 ～ 12	被災者が、タワークレーンのジブに取り付けてある煽り防止用ワイヤロープを旋回体に繋いだ状態でジブの起伏操作を行ったため、ジブが破損、倒壊した。これにより、被災者が落下したジブの根元部と旋回体との間に挟まれ死亡したものの。	211	5 10～ 29
2019	8	16 ～ 18	5階建て建屋新築工事において、被災者が、屋内階段から転落し頭を強く打ち、その後死亡が確認されたものの。	413	1 10～ 29

2019	9	10 ～ 12	被災者は、午前の休憩時間に、体育館天井等落下防止対策工事のため設置された内部足場を巡視中、荷卸しのため内部足場に設けられた開口部（手すり等なし）から約20m下のホール床面まで墜落したところを、休憩時間終了後に現場作業員に発見され、被災当日に死亡が確認されたもの。	411	1	1～9
2019	9	8 ～ 10	自社資材センター内に長さ2.7mの単管パイプ100本（約700kg）を金属枠で束ねたものが10束積まれていた。被災者は単管の塗装作業を行うためにフォークリフトを運転して単管パイプの束を移動させていたが、単管パイプの束の下敷きになって倒れているところを発見された。	611	5	10～ 29
2019	9	12 ～ 14	マンション新築工事中の建物8階において、外部枠組足場に設置された建設用リフト搬器から内装材（クロス材）を建物内に搬入する作業中に、外部枠組足場と躯体との隙間35センチから、21.6メートル下の地上まで墜落したもの。	418	1	10～ 29
2019	9	14 ～ 16	駐車場棟の地下ピット内にある型枠の解体作業において、次のピット内の型枠解体作業に取り掛かる前に被災者の姿が見当たらないため現場内を探していたところ、当日作業予定のないマンホールの蓋が開いていたため、同僚がピット内を確認したところ、仰向けの状態で倒れている被災者を見、搬送先の病院で死亡したものである。（ピットの深さ：約1810mm、奥行：約7500mm、幅：約2200mm）	714	12	10～ 29
2019	9	10 ～ 12	荷揚用開口部の工事にあたり、完成後の開口部養生施工の下準備作業を行っていた被災者が当該開口部から高さ3メートル階下の床面まで墜落した。なお、開口部は、1.4×1.4メートルで合板により1.4×0.6メートル程度にまでふさがれた状態であったが、当該合材も落下した。また、被災者は、保護帽及び墜落制止用器具は着用していなかった。	414	1	10～ 29
2019	10	10 ～ 12	マンションの新築工事現場において、1階住戸のアルミサッシ取り付け部分の壁コンクリートを高圧洗浄機で水ハツリ作業中、誤って洗浄ノズルが被災者の右腹部に向き、右腹部を裂傷したもの。約7時間半後に死亡した。	391	4	30～ 49
		10				

2019	10	～ 12	共同住宅建築現場における建物内部エレベータの地下1階ピット内に、被災者が倒れているところを発見されたもの。	414	1	30～ 49
2019	11	～ 12	鉄骨建屋の建築工事で、胴縁のタッチアップ塗装のため、被災者は外周足場4層目（地上高さ7.33メートル）において鉄骨に塗料を刷毛で手塗りしていたが、足場の階段開口部付近から墜落し、階段外側に設置されていた手すりを越えて、地上まで落下したもの。	411	1	1～9
2019	11	～ 10	ビル北側外壁8階部分の亀裂調査のため、被災者は、ロープ及びハーネスを用いて屋上（10階）から外壁面に沿って下降しようとしたところ、10階まで墜落したもの。	379	1	1～9
2019	11	～ 14	共同住宅建設現場における建物基礎部の地山掘削作業に関連し、幅約150cm、深さ約180cmである掘削底においてケレン棒を使用して土止め壁に付着した土砂の除去作業を行っていたところ、背後の地山が長さ約2m30cmにわたり崩壊し、腰部まで埋まったもの。	711	5	1～9
2019	12	～ 8	つり上げ荷重80tの移動式クレーン（ラフテレーンクレーン）で、成型機（10.5t）を構台から吊り上げ、トラック荷台に乗せるために旋回したところ、移動式クレーンが横転した。横転した移動式クレーンのブームは、現場敷地内に駐車していた車両数台に直撃し、車内で待機していた被災者が死亡したほか、5名が負傷した。	212	5	10～ 29
2018	1	～ 1	1次下請事業場の施工管理者として担当するビル立替工事の現場事務所に於いて執務を行っていたが、事務所内で縊死しているところを発見されたもの。	921	90	50～ 99
2018	1	～ 15	S造2階建て建屋の建築工事における建屋鉄骨組立て作業を行っていた際、主だった鉄骨の組立てが完了し、外部足場を使用して各部分のボルト締め作業を行っていたところ、地上で雑作業を行っていた作業者が後方で大きな音がしたため振り返ったところ土間に横向きの状態で倒れている被災者を見つけた。直ちに消防に通報し病院に搬送したが意識不明の状態が続き、死亡したもの。	411	1	1～9

2018	1	8 ～ 9	<p>工事中の工場建屋の屋根上で荷下ろし作業を終えて、被災者が移動中に足を滑らせ7.5メートル下の地上の敷鉄板上へ墜落した。当該屋根端部には墜落防止用の手すり及び中さんが設置され、屋根上には親綱が設置されていたが、被災者は安全帯を使用しておらず、降雪後は除雪に支障をきたす幅木は取りはずされていたため、手すりをすり抜けて墜落したものである。</p>	415	1	1～9
2018	1	10 ～ 11	<p>空港国際線ターミナルと国内線ターミナルを連結するターミナル拡張工事において、3階天井部分のPC梁が落下し2階床上で高所作業車を使用して作業をしていた作業員が巻き込まれ被災した。</p>	415	5	10～ 29
2018	1	12 ～ 13	<p>RC造新築工事において、構台上の移動式クレーンにより、構台上のヤードから地下階へ仮設資材の荷下ろし作業中、構台端部から地下階の状況を確認していた玉掛者兼合図者である被災者が、同じく構台上で作業をしていた別の移動式クレーンが旋回した際に、当該移動式クレーンの上部旋回体と付近の構台手すりとの間にはさまれたもの。</p>	212	7	50～ 99
2018	2	14 ～ 15	<p>3階建建物の外壁補修工事において、外部足場（一側足場）と建物躯体の一部に足を乗せて既存の外壁コーキング材の撤去作業を行っていた作業者が、メッシュシートの間隙から敷地外の隣家まで墜落したもの（墜落高さ約2メートル12センチメートル）。</p>	411	1	1～9
2018	2	16 ～ 17	<p>被災者は、作業現場の施工状況を確認するため、地上より約4メートル下にある地下作業場に梯子を使用して降りていたところ、墜落して死亡した。なお、梯子には、安全ブロックを取り付けていたが、使用していなかった。</p>	413	1	100 ～ 299
2018	3	8 ～ 9	<p>RC造、地上7階建内階段のコンクリート打設作業を行っていた労働者が、4階開口部から地上1Fまで10.5メートル墜落し死亡したもの。</p>	414	1	10～ 29
2018	3	10 ～	<p>マンション新築工事において、三次下請事業場所属の労働者が、14階において、部材を運ぶため、高さ19センチの台車に部材を乗せ、当該台車を押しつつ低姿勢で移動していたところ、同階の躯体端より地上まで墜落</p>	417	1	1～9

		11	したものの。躯体端の手すりの隙間からすり抜け、墜落したものと推測される。			
2018	3	18 ～ 19	自動車メーカーの敷地内において、労働者がコンクリートポンプ車のホッパー内の清掃作業中、攪拌機に巻き込まれたもの。	149	7	1～9
2018	4	8 ～ 9	工場の屋根及び雨樋の修繕工事において、現場代理人である被災者が同工場の波板スレート屋根（スレート部分とFRP部分あり）を歩いていたところ、FRPの波板を踏み抜き、約8.6メートル下のコンクリート床に墜落して死亡した。	415	1	10～ 29
2018	4	8 ～ 9	倉庫解体工事におけるスレート屋根撤去作業中に、屋根上で作業していた被災者が木毛板を踏み抜き約8m下の地面に墜落したものの。被災者の災害直前の作業状況から判断すると、屋根上のベンチレータを取り外そうとしたときに、木毛板に足をかけてしまったものと推定される。	415	1	10～ 29
2018	5	14 ～ 15	レストランの新築工事現場における駐車場舗装を行うため、車両系建設機械であるローラーを使用してアスファルトの転圧作業を行っていたところ、同作業を一人で行っていた運転者（被災者）が、同ローラーを後進させたまま運転席を離れ、同ローラーの下敷きになったというもの。被災者は、外傷性ショックにより、1時間後に死亡した。	144	7	1～9
2018	5	14 ～ 15	S造1階建て工場新築工事において、ラフタークレーンで横置き鉄骨柱（長さ9m、重量約1t）をつり上げるため、鉄骨柱の一方の端部に玉掛けをし、クレーンを巻き上げ、片側を浮かせたところ、玉掛け用具であるフック付きワイヤロープのフック外止めが破損して鉄骨柱から外れ、鉄骨柱（端部の高さ約6.4m）が安定を失い転倒した。周囲にいた玉掛け者（休業）と通行中の作業員（死亡）が下敷きになった。	372	4	10～ 29
2018	5	6 ～ 7	被災者は同僚2名と営業所からワゴン車に同乗し、工事現場に向う途中、道路でスリップし民家の塀に激突した。後部座席に乗っていた被災者が死亡した。	231	17	1～9
			工事現場において、被災者は地下2階の天井部（スラブ下）にワイヤ固定			

2018	5	14 ～ 15	吊具などを取り付ける作業を土止め支保工上で行っていた。当該天井部は、高所作業となるため、足がかりとして、土止め支保工の火打部分にクランプ2個を用いて、単管を立てて取り付けた。当該単管に被災者がよじ登り、天井部付近で作業していたところ、単管を固定していたクランプ1個が外れ、単管が横に倒れ、被災者は単管から約4.5m下に墜落した。	419	1	1～9
2018	5	14 ～ 15	被災者は、床から天板までの高さ2メートル83センチメートルの脚立に乗り、電気配線を通すための穴（梁スリーブ）にゴムシートで養生し、電線を通す作業を行い、当該作業を終えた後、脚立から墜落した。なお、被災者は、床から高さ2メートル25センチメートルの高さでこの作業を行っていたものである。	371	1	1～9
2018	5	14 ～ 15	物流センターの工事現場において、鉄骨建て方のため3Fの床に長さ約6.7メートルの鉄骨柱4本の根元の仮止めを行った。2本の柱に鉄骨梁を渡して柱と梁の仮止めを終えたところ、門型になった鉄骨が仮止めした柱の根元から倒れた。この時、仮止めのために柱の上部にいた作業員2人が投げ出され、一人が約20メートル下の地上に墜落、もう一人が墜落防止ネット上に墜落した。地上に墜落した作業員が頭部を強打し死亡したものの。	418	1	1～9
2018	6	8 ～ 9	被災者は、現場の施工管理のため、床掘作業の写真撮影を行っていたところ、鶏舎基礎コンクリートに設けられていたコンベヤー設置用のピット開口部に足を踏み外して約1.7メートル下のコンクリート床に墜落し、病院に搬送されたものの、その後脳内出血等により亡くなったもの。	414	1	1～9
2018	6	16 ～ 17	学生共同住宅（2階建軽量鉄骨）の屋根塗替工事現場において塗装作業中、屋根の南側端部から地上に墜落した。（高さ6.05m）	415	1	1～9
2018	6	16 ～	翌日から開始予定の商業施設新築工事における地盤改良工事において、前泊予定地であるの宿泊施設にかうため、同僚運転の4tトラックと被災者運転の3tトラックで高速道路上り線を走行中、渋滞で減速した同僚の4tトラックに追突し、さらに前方乗用車2台が絡む車両4台の玉突き事故	221	17	10～ 29

		17	となった。被災者が失血死し、同僚が頸椎捻挫で5日間の休業、乗用車の5名（私用）が頸椎捻挫等を負ったもの。			
2018	7	12 ～ 13	R C造10階建てマンション屋上にて、防水工事の確認作業中、屋上から外部足場へ乗り移り、足場づたいに10階共用廊下に下りたところ、バランスを崩したのか、10階エレベーターシャフト開口部から2階の養生柵まで墜落したもの。	414	1	1～9
2018	7	10 ～ 11	鉄骨造のD形倉庫の新築工事現場において、鉄骨の建方作業中、屋根下地の溝形鋼（チャンネル材）のボルト締めのため、もやに乗って移動していたところ、もやが折れて6.4m下のコンクリート床に墜落し、搬送先の病院で6時間半後に外傷性脳損傷により死亡したもの。保護帽と胴ベルトの安全帯を着用していたが、安全帯は使用せず、親綱の設置も無かった。	415	1	1～9
2018	7	14 ～ 15	被災者は配管工として建設現場に入場していたが、1階で作業をしていた内装業者よりエレベーターピット付近で人が墜落したような音がしたとの連絡を受け、元請作業所長が確認したところエレベーターピット内で倒れている被災者を発見した。発見後、A E Dによる救命措置等を行ったが搬送先の病院で脳挫傷による死亡が確認された。	418	1	1～9
2018	7	8 ～ 9	倉庫の屋根の改修工事現場において、当該倉庫の屋根の上でスレートの撤去作業を行っていたところ、スレートを踏み抜いて、高さ約6.5メートルの箇所から、コンクリート床面に墜落したもの。	415	1	1～9
2018	7	6 ～ 7	被災者は、会社事務所に出勤後、会社所有の軽ワゴン車を運転し、建築工事現場へ向かう途中、県道を走行中、下り左カーブのところでセンターラインを越え、対向してきた普通乗用車に正面衝突した。これにより、被災者は頭部を強打し、外傷性くも膜下出血で死亡した。	231	17	10～ 29
2018	7	10 ～ 11	天井クレーン設置建屋に設けられた建屋側歩道の手すり（壁）のさらに内側（手すり（壁）と天井クレーン走行レールの間）に設置されたグレーチングの床に工事（建屋梁改修工事）で使用した架設部材（作業床、単管）を移動式クレーンで荷下ろしのため仮置き作業中、グレーチング床端部	418	1	1～9

			(天井クレーン走行レール内側) より 2.5 m 下へ墜落したものの。			
2018	8	14 ～ 15	工場の増築工事において、既設の鉄骨の横梁の取外し作業を行っていた。被災者は、ローリングタワーを使用して横梁のボルトを取り外す作業を行っていたが、隣の列のボルトを取り外すためにローリングタワーから鉄骨に移り、鉄骨上でボルトの取外し作業を行っていたところ、約 3 m 下のコンクリート床に墜落した。なお、災害発生時において、被災者は保護帽を着用していなかった。	418	1	1～9
2018	8	14 ～ 15	車両所運用検修センター資材庫の雨漏りに対する屋根補修作業完了後、地上に戻ろうと屋根上を移動していた際に、スレート屋根の重ね合わせの部分が浮いていると感じた被災者が、スレートを何度か踏んで浮きを確認していたところ、スレートを踏み抜いて約 4.5 m 下の地面に墜落し、死亡したものの。	415	1	1～9
2018	8	12 ～ 13	新築工事（旅館）の資材を波止場に置いてあったコンテナより荷さばき中（トラックへ運ぶ）に、資材の扉 5 枚が被災者に倒れてきたものの。	611	5	10～ 29
2018	8	12 ～ 13	民家の残置物の撤去作業を朝から行い、昼頃になって被災者の様子がおかしいことに気づき、日陰で休ませたが、回復が見られなかったため、救急車を要請し、病院に搬送されたものの、熱中症により病院で死亡した。	715	11	50～ 99
2018	8	12 ～ 13	台風により飛ばされた工場建屋の屋根張替え工事に従事していた労働者が屋根上を通行していたところ、屋根に葺かれた木毛板を踏み抜き、約 1.3 メートル下の工場床面に墜落して死亡した。	415	1	1～9
2018	9	20 ～ 21	工事現場から、所属店社に帰社途中、自動車道下り線において、労働者 3 名が乗ったトラックが乗用車に追突し、運転者が脳挫傷により死亡、助手席の同乗者が右足首を骨折、後部座席の同乗者が肋骨を骨折した。	221	17	10～ 29
2018	9	2 ～	鉄骨造地下 1 階、地上 8 階建てビル新築工事現場において、トラックの荷台で外壁材（外壁パネル、長さ 4.3 m × 幅 0.7 ～ 0.9 m × 厚さ 0.06 m）を 7 枚玉掛し、移動式クレーンで約 1.5 m 吊り上げ、旋回していたところ、吊り荷の下 4 枚の外壁材が割れ、ケヤキの木に落下し、落下位	611	4	1～9

		3	置から約6 m離れた被災者に飛散した破片が当たり、頭、顔から出血した状態で倒れている被災者を発見した。			
2018	9	10 ～ 11	台風による2階建住宅の被害調査及び雨漏り養生を行うため、被災者と同僚の2名は屋根上で防水シート養生を行っていたが、防水シートが足りなくなつたため、同僚がシートを取りに行っている間に、2階屋根から1階屋根に立てていたはしごを降りようとしたところ、一旦1階屋根に墜落して、地面まで墜落したもの。保護帽、安全帯は使用していない。被災者は緊急手術後も意識不明の状態であったが、後日死亡した。	415	1	50～ 99
2018	9	14 ～ 15	被災者は、地上約8メートルの高所作業車の作業床で鉄骨ボルトの本締め作業を1名で行っていた。休憩を終えて現場に戻った塗装工が、高所作業車と鉄骨の間に頸部がはさまっている被災者を発見した。被災者は、すぐに救出され、ドクターヘリで病院に搬送されたが、翌日のに入院中の病院で低酸素脳症により死亡が確認された。	146	7	10～ 29
2018	9	6 ～ 7	工場建設工事に向かうため、労働者Aは自宅から社用車を運転し、途中で同僚の労働者Bを乗せ、国道1C付近の追越車線を走行していたところ、中央分離帯に接触し、ハンドルを左に急操作したことで法面に乗り上げ、当該車両が横転したもの。労働者Aは頭部を車体に挟まれて死亡し、労働者Bは左肩と左脛を打撲した（不休）。	231	17	10～ 29
2018	9	8 ～ 9	被災者及び同僚の計2名で、トラックに乗車して事務所から作業現場（道路保守工事の一環で、通行の邪魔になっている枝を除去する作業。一日で終了するもの）へ向かうべく国道を走行中（運転者は被災者）、対向車線にはみ出し、大型トラック（ユニック）と正面衝突して、被災者は全身を強く打ち死亡したもの。助手席に乗っていた同僚及び大型トラックの運転者も負傷した。	221	17	100 ～ 299
2018	10	10 ～	台風により破損した屋根明かり取り用FRP波板取替作業のため、被災者と同僚が屋根（スレート葺き）に登り、波板の取替作業を行っていたところ、バランスを崩し同建屋屋根上から建屋内に約4 m墜落したもの。被災	415	1	1～9

		11	者は保護帽は着用していたが、安全帯は着用しておらず、屋根には安全帯取付設備や防網は設けられていなかった。なお、屋根上には幅約20cmの歩み板2枚が設けられているものであった。			
2018	10	10 ～ 11	被災者が、屋上から4階出入り口に設置されている外部階段を使用し、屋上から荷物の運び出し作業を行っていたところ、当該階段の4階出入り口踊り場から2段目及び3段目の踏板が抜け、地上まで約9m墜落し、死亡したものの。	413	1	50～ 99
2018	10	10 ～ 11	R C 3階建学校改築工事現場において、被災者は3階壁型枠締付金具の取り付け作業を作業台（いわゆる立馬。天板高さ1.35m、長さ約1.6m、幅0.5m。）の上で行っていたが、作業台の脚が3階床面にある排水溝（幅20cm、深さ15cm。）に落ち、その反動で背中から床に落ちた（現認者なし）。被災者は脊椎損傷を負い、病院で入院治療中であったが、肺炎から低酸素脳症となり、死亡した。	371	1	1～9
2018	11	14 ～ 15	クローラクレーン（つり上げ荷重120トン、トラスジブ2段）のジブ解体作業にて、2段目のジブを1段目ジブ下部に格納、固定し、下向きになったジブ固定用ワイヤーロープのストラットを敷鉄板の上に置き、ジブ下部にてジブ先端に取り付けたカメラの配線、その他のケーブルの取り外し作業を行っていたところ、敷鉄板上ストラットが前方に滑り、そのはずみでジブがコンクリート床に落下しジブ下部で作業していた4名が被災した。	212	4	10～ 29
2018	11	8 ～ 9	ビルの新築工事現場において、被災者は11階エレベーターシャフト内の仮設デッキプレート上にてラス取付け作業中、仮設デッキプレートが未敷設の開口部分に敷かれていた養生シートを踏み抜き1階まで墜落した。	414	1	1～9
2018	12	10 ～ 11	被災者は、移動式クレーンで吊った埋め戻し用土砂を入れたバケツ（土砂運搬用の金属容器）を用い、掘削面の埋め戻し作業を行っていたが、当該バケツを吊り上げている途中、高さ12メートルの場所で移動式クレーンのフックに取り付けられた補助吊り具に取り付けられた玉掛けワイヤーロープが外れて、バケツが地上に落下して跳ね、近くにいた被災者	372	6	1～9

			に激突したものの。			
2018	12	8 ～ 9	請け負った倉庫の外壁工事が終了したため、足場の解体作業を行っていた。被災者は駐輪場の屋根に置いてあったインパクトドライバーを取りに行き、駐輪場の屋根から屋根（巾約80cm）に移動しようとしたところ、足を滑らせ約2.3m下のコンクリート床に墜落したものの。その後容体が急変し脳挫傷により死亡した。	415	1	30～ 49
2018	12	18 ～ 19	台風で破損した倉庫屋根の端部に取り付けられた部材交換作業終了後、同僚とともに屋根上から高所作業車のバスケット部に乗り移り、被災者が運転し地上に移動しようとしたところ、高所作業車が動かなくなり、被災者が状況確認のため、バスケット部から屋根上に移動しようとしたところ、突然、高所作業車が動き出して24メートル下の地面に墜落した。	146	1	1～9
2017	1	12 ～ 13	災害発生地において、南面単管ブラケット足場の解体作業中、4層目（地上から約7メートル）から3層目（約5.3メートル）へ建地に沿って降りようとしたところ、足を滑らせ墜落し死亡した。	411	1	1～9
2017	2	10 ～ 11	5階建ての建築物の新築工事現場において、移動式クレーンを使用して、トラックで搬入した鉄骨梁（長さ約7.3メートル）を現場内に仮置きする作業中、同僚と2名で玉外し作業を行っていた被災者が、架台（高さ約1.9メートル）の上を下ろした鉄骨梁から玉掛用具を取り外した後、架台から地上に落下した鉄骨梁に激突され、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	521	4	10～ 29
2017	2	8 ～ 9	玉ねぎ乾燥施設の建設工事現場において、被災者が建屋内部に設置した8つのローリングタワーのうち、2つのローリングタワーの間に3枚の鋼製の作業床を架け渡して作業床を敷き詰める作業を行っていたところ、高さ約5mの作業場所から墜落し、病院へ搬送されたが死亡した。被災者は保護帽を着用していたが、安全帯は着用していなかった。	411	1	10～ 29
		8	門型の鋼製構造物（以下「構造物」という。）の解体作業において、構造物を倒して地上で解体する作業を行っていた。構造物の支柱下部の一部を残して溶断し、倒し易くした状態で、ドラグ・ショベルのバケットで押し			10～

2017	2	9	倒す作業であった。ドラグ・ショベルで奥側に倒す作業をしていた際、構造物が手前側に倒れ、運転をしていた被災者が、構造物と運転席の間に挟まれた。	419	5	29
2017	2	16 ～ 17	建屋解体工事現場でスレート屋根をはがす作業終了後、地上に降りようと梁の上を移動していた際に、約7.5m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2017	2	20 ～ 21	3車線の真中車線を走行中、左車線の車にあてられ右車線に寄った。右車線の車に追突され横転して反対側車線に飛び出した時、対向車線の車に衝突された。	231	17	1～9
2017	3	8 ～ 9	RC造5階建て建設工事現場において、被災者が角鋼管約40本の束（重量約100kg）を玉掛けし、移動式クレーンを用いて屋上へとつり上げようとしたところ、高さ約20mに達したところで束から約10本が抜け落ち、下方にいた被災者の頭部へと落下した。被災者は、5日後に死亡した。角鋼管は5cm角×長さ1mで、番線で結束されており、これに玉掛ワイヤーロープを掛け、一本吊りにて吊り上げていた。	372	4	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	既存ごみ焼却施設解体工事において、蒸気タービン建屋最上階で、チッパーにてALC板の床の解体作業を行っていたところ、建屋西面の既に解体したALC板の破片が、水平ブレスに引っかかっていたため、被災者は、当該破片を落とそうとしたところ、ALC板の床の端部より約15メートル下の中間層に墜落した。	418	1	10～ 29
2017	4	14 ～ 15	共同住宅新築工事における基礎の掘削作業中に、ドラグショベルを用いて掘削斜面にセメントミルクの塊を置いたところ、掘削斜面を転がり出し、掘削底面で掘削作業を行っていた被災者に激突した。	523	4	1～9
2017	4	12 ～ 13	現場の作業が午前中で終わったため、工事現場から帰社するため、自動車道路を同僚の運転する社用車（ワゴン車）に乗り込んで移動中、下り坂で前方を走行する10tトラックを右側から追い越そうとしたところ、ハンドル操作を誤り、社用車の左側からトラック荷台下に追突し、助手席に	231	17	1～9

			乗っていた被災者が車の間に挟まれて死亡した。また、運転していた同僚は軽傷を負った。			
2017	4	16 ～ 17	被災者は工事中、雨樋の取り付けのため足場上で単独作業をしていた。他の現場作業員が、足場の上からボルトが落ちてきた音を聞いたため、現場代理人に説明した。現場代理人が足場上を確認したところ、北面の足場の3層目（地上からの高さ4.76m）で被災者が倒れていた。病院に搬送されたが、翌日死亡が確認された。	999	99	10～ 29
2017	4	8 ～ 9	自動倉庫建設工事における耐火コート吹付作業中、10、11段目棚の吹付場所から8段目棚上の吹付場所へ移動するため、自動倉庫の棚フレームに設置された作業床を移動していたところ、作業床の端から約1.1m下の床面へ墜落した。	416	1	1～9
2017	4	12 ～ 13	元請として施工する新築工事において、被災者は派遣労働者として当該店社に派遣され、施工管理を行うため当該現場で研修中、午後1時15分頃「ドン」という音が聞こえ、足場と躯体との間の地面に被災者が倒れていた。直ちに救急搬送され、入院加療していたが、死亡した。	411	1	1～9
2017	4	8 ～ 9	倉庫新築工事において、屋根、壁、樋等の板金工事施工のため、足場の1段目（高さ2.6m）で作業していたところ、地面へ転落して頭部を強打した。	416	1	1～9
2017	4	14 ～ 15	工場解体現場において、被災者は5階フロアでフォークリフトを運転し外部足場の部材を集積場所まで運搬していた。同フロアで作業を行っていた作業員が休憩に行こうとしたところ、フォークリフトの下敷きになっている被災者を発見した。病院に搬送されたが同日死亡が確認された。	222	2	10～ 29
2017	5	14 ～ 15	鉄骨建方作業を行う為、トラックからレッカーを用いて鉄骨を降ろす作業中、7本あるうちの4本目を降ろすにあたり、トラックの荷台に置かれた鉄骨上に上ったところ、当該鉄骨が動いた反動で、被災者はトラックから地面に墜落するとともに当該、鉄骨（0.8t）も被災者の上に落下した。	521	4	1～9
		12	屋根の塗装の確認作業のため、事務所1階の屋根に上り、更に隣の建物に			

2017	5	～	13	移るため、たたんだままの脚立を隣の屋根の端にたてかけて上がっているとき、脚立が滑り、倒れたことにより、脚立から地面に転落した。	371	1	10～ 29
2017	5	～	14 15	建設工事現場で作業を終え、労働者3名が社用車で事業場事務所に移動中、国道で被災者らが乗る社用車が反対車線にはみ出し、反対車線を走行中のダンプと衝突した。死亡した被災者は後部座席に乗車しており、シートベルトは装着していなかった。運転していた労働者は意識不明の重体、助手席に乗っていた労働者は打撲の軽傷で休業していない。	221	17	10～ 29
2017	6	～	8 9	被災者は居住用マンション（RC13階）の外壁（タイル）補修工事を行う予定で、5階屋上に設置されてあったゴンドラに乗り込もうと、高さ120センチメートルの手すりを乗り越えようと、パラペットに足を掛けて手すりを乗り越えようとしたところ、バランスを崩し高さ約13メートルから誤って墜落した。	414	1	1～9
2017	6	～	10 11	免震用の仮設H鋼材（長さ5メートル、重さ約1.75トン）の取り外し作業のため手動のチェーンブロック2個を使用して吊り上げていた。被災者は一旦退避していたのが確認されているが、何らかの要因で仮設ブレースの揺動があり、手動のチェーンブロックのアンカー部分に衝撃力が加わり落下した際に被災者側に仮設ブレースが揺動したと推定される。	419	4	0
2017	7	～	10 11	被災者は鉄骨建屋の高力ボルトの本締め作業中、鉄骨梁下に張られた水平ネット上に工具を落とし、他の作業者に拾ってもらい、受け取った直後、高さ13.5mの所で鉄骨梁をまたいだ状態から体勢を崩し、反対側のみ固定されていたブレース材を掴んだがブレース材が下がりネットを破り、その隙間から墜落した。	415	1	1～9
2017	7	～	16 17	住宅新築工事現場において、擁壁の型枠建込み作業中にけいれんを起こし倒れ、病院へ搬送されて入院中であったが、死亡した。	715	11	1～9
2017	7	～	10	3階建ての建物建設工事で、鉄骨建方作業中に、鉄骨の梁で下から2段目の端から地上に墜落（約8m）し、意識不明の状態ですら病院へ搬送され、そ	415	1	10～ 29

		11	の後死亡した。			
2017	7	14 ～ 15	耐震補強工事現場においてエンジン式ウェルダ－を使用して溶接作業を行っていた作業者が倒れているのを休憩の呼びかけに行った同僚が発見し、救急車にて搬送されたが病院で死亡が確認された。	332	12	10～ 29
2017	7	16 ～ 17	足場の材料を積載型トラッククレーンの荷台に当該クレーン（つり上げ能力3 t 未満）を用いて積む作業において、玉掛者（被災者と別人）が単管パイプ（長さ1 m）約50本を番線で結束したもの2束をスリング2本で玉掛けし、被災者がリモコン操作で吊り上げて旋回させながら荷台の方向へ歩行していたところ、吊荷の単管パイプが高さ約3 mの位置から落下して被災者に当たった。	212	4	1～9
2017	7	10 ～ 11	工場のスレート屋根を補修する作業を行っていた労働者が、休憩を終えて作業箇所へ移動していたところ、スレートを踏み抜いて約4メートル下のコンクリート上に墜落した。	415	1	1～9
2017	7	16 ～ 17	被災者は午前9時からコンクリート打設作業にかかる左官工事を開始。午後4時30分頃、被災者が倒れているところを発見し、救急車で病院に搬送されたが、死亡を確認。熱中症の疑い。	715	11	10～ 29
2017	8	8 ～ 9	保育所新築工事の基礎工事において、回転圧入する杭（長さ5.56 m、質量380 kg）を機体重量14トンの杭打ち機にセットするため、杭の一端に玉掛けワイヤーロープをくくりつけ、杭打ち機に設けられた巻上げ機でつり上げたところ、杭が鉛直になったときに玉掛けワイヤーロープが切れ、杭が杭打ち機の方に倒れ始めたため、運転者が驚いて降車したところ、倒れてきた杭が丁度その運転者の頭部を直撃し、運転者が死亡した。	372	6	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	被災者が、高さ約4メートルの既存ステージから、壁補修用の足場3層目（高さ約4.2メートル）に移動する際、スクレーパコンベヤー（上面高さ約4メートル、）内に落下し、巻き込まれた。	224	7	1～9
		16	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載った			

2017	8	～	ため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約3.6m下の	419	1	10～ 29
	17		地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と 他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。			
2017	8	～	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆った	419	1	10～ 29
	16		エレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載った			
	17		ため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約3.6m下の 地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と 他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。			
2017	8	～	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆った	419	1	1～9
	16		エレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載った			
	17		ため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約3.6m下の 地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と 他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。			
2017	8	～	薬局の倉庫のスレートぶき屋根の上において、スレート板を母屋材に留め	415	1	1～9
	14		るフックボルトの交換作業中、被災者が屋根の棟付近のフックボルトをサ			
	15		ンダーで切断していたところ、スレートを踏み抜き、約7.7mの高さか ら倉庫内床に墜落した。頭を強く打ち、死亡した。			
2017	8	～	被災者は、地上高さ約1.8メートルにおいて型枠足場を組み立て中に、肩	411	1	30～ 49
	16		に重さ1.8キロの調整枠2本を担いで、足場を移動中に足場に置いていた			
	17		ブラケットに、調整枠の一部が接触し、その反動により身体のバランスを 崩して墜落した。現場には親綱の設置がされていたが、被災者は安全帯を 着用はしていたが、使用していなかった。			
2017	8	～	車販売店の内装の改装工事において、天井を塗装する際の養生シートを取	371	1	1～9
	8		り付ける作業を行っていた被災者が、大きな音とともに床面に頭を打ち付			
	9		けた状態で発見された。病院に救急搬送されたものの、脳内の出血が止ま らず、死亡した。脚立を用いた壁面の養生作業であったため、被災者は脚 立の途中から床面に墜落したと思われる。			

2017	8	14 ～ 15	3 tトラックを被災者が坂道に停車させた後に運転席から降りて坂を下っていたところ、当該トラック（無人）が逸走し始めたため、被災者はトラックを止めようとしたが止まらず、トラックと坂道の途中にある電柱の間に挟まれ、被災した。	221	7	1～9
2017	9	8 ～ 9	地上5階・地下1階の病院（RC造）の解体工事現場において、被災者が湧水を汲み上げるためのホースを調整していたところ、頭部に飛来物が当たり被災し、療養していたが死亡した。飛来物は、ブレーカーにより破砕された基礎底盤と推測される。	145	4	1～9
2017	9	8 ～ 9	2. 9トン小型移動式クレーンを使用し、翌日以降に使用する資材（鉄筋）を降ろす際の災害。被災者は、左側アウトリガーを張り出して下降接地させたところ、前方に約8度下降傾斜する地形であったため車両が流れ出し、アウトリガーボックス前方に位置していた被災者がなぎ倒され、左後輪に轢かれた（単独作業のため目撃者なし）。	212	7	1～9
2017	9	12 ～ 13	コンクリートポンプ車（油圧4段屈折式ブーム）を用いて、2階建て建物の屋上部分にコンクリート打設していたところ、コンクリートポンプ車のブームの油圧装置の金属パイプが破損し、油圧装置のオイルが抜けてブームが落下した。この時、屋上でホースの先端を保持していた被災者が落下したブームに激突された。	149	6	1～9
2017	10	16 ～ 17	S造1階建て牛舎新築工事において、被災者は屋根材を梁の上に仮置きしようとした。設置済みの屋根材の端に足をかけたところ、折れ曲がり、墜落防止用の網のすき間から約6.5m下の地面に墜落した。梁等組み立てのため親綱が設置されていたが、屋根材設置にあたり、全て外されていた。被災者は安全帯を装着していたが、使用していなかった。	415	1	1～9
2017	10	10 ～ 11	RC造2階建て住宅新築工事現場の型枠設置工事において、外壁せき板の位置を調整するために一側ブラケット足場の高さ5.7メートルの箇所を移動中、足場上に伸びていたせき板固定用のさん木をくぐった際に、手すり下の隙間から足場外側に墜落して地面に頭を強打した。	411	1	1～9
			既設建屋の屋上防水及び外壁塗装工事において、外部足場で物音がしたた			

2017	10	12 ～ 13	め、他の労働者が駆け付けたところ、足場5段目に降りる階段上で頭部から出血して倒れている被災者を発見し、搬送先の病院にて死亡が確認された。被災者は保護帽を着用していなかった。被災者は足場最上段（6段目）から下段（5段目）に階段で降りようとしたところ、5段目に転落したものと推定される。	411	1	1～9
2017	10	18 ～ 19	現場での作業を終えて被災者を含む3名で社用車に乗り合わせて帰宅中、別の現場での作業を終えた同僚2名を迎えに行った先で駐車していたところ、被災者が何らかの理由で降車して道路を渡ろうとしたときに走行してきた車に轢かれた。	231	17	1～9
2017	11	8 ～ 9	住宅防音工事現場において、高さ2.97mの箇所の窓型枠解体を行っていた被災者が、架台（うま）と共に倒れているところを発見され病院へ搬送されたが、頭部打撲による頭蓋内損傷により死亡した。	371	1	1～9
2017	11	14 ～ 15	8階建ビルの震災復旧工事現場において、足場の作業床（下から10層目、高さ約19m）上にて足場の組み立て作業を行っていた被災労働者が転落し、死亡した。	411	1	1～9
2017	11	8 ～ 9	移動式クレーン（つり上げ荷重25t）を用いて、鉄骨柱材（約2.5t）を吊り上げる作業を行っていた際に発生した災害。吊り上げた鉄骨柱材が別の鉄骨柱材（以下「当該柱」という。）の下に敷いていたH型鋼と接触していたため、H型鋼がバランスを崩して倒れた。これにより、当該柱がスライドし、付近で作業していた被災者が当該柱と横に置かれていた鉄骨柱材の間に挟まれた。	212	5	10～ 29
2017	11	2 ～ 3	現場で発生した残土運搬のため、残土を積載したダンプトラックで現場を出発し、受入先である指定廃棄場所に向かっていたところ、途中の高速道路上でダンプが横転して、ダンプ運転手である被災者が死亡した。	221	17	10～ 29
2017	12	12 ～ 13	鉄骨造工場増築工事現場において、組み立て中の鉄骨柱が傾き、柱間を渡っていた梁の上にはいた被災者が約7mの高さから墜落した。被災者は安全帯を着用していたものの、親綱等の設備が設置されていなかったため使用していなかった。	415	1	1～9

2017	12	10 ～ 11	新築マンション外構の駐車場舗装工事において、タイヤローラーによりアスファルトの転圧を行っていたところ、後進してきたタイヤローラーに轢かれて死亡した。	144	7	10～ 29
2017	12	8 ～ 9	軽装鉄骨造の2階建てアパート新築工事において、外装工事を行う2次下請会社の被災者が、2階北側の開口部（139cm×139cm）の端にて壁パネルの調整を行っていたところ、囲い等の墜落防止措置が講じられていない開口部から3メートル下の地上に墜落し、その際頭蓋骨及び頭蓋底を骨折し、硬膜下血腫により死亡した。	414	1	1～9
2016	1	12 ～ 13	RC造8階建てのマンションの新築工事において、8階エレベーター前の廊下のコンクリート壁及び天井に玉吹き塗装を行っていた被災者と共同作者の2名が倒れているのを別の工事業者が発見した。廊下の大きさは、幅1.34m、長さ6m、高さ2.26mで窓、戸等の開口部は塗装養生シートで密閉されており、玉吹き塗装にガソリンエンジン式のコンプレッサーを使用していた。	514	12	10～ 29
2016	1	9 ～ 10	被災者とその同僚の2人で、建築工事の準備工として、チェーンソーで伐木作業を行っていた。同僚が高さ約15mの立木を倒すため、くさび打ちをしようとしたところ、当該立木が被災者の方向に倒れだした。当該立木から約11m離れた場所で待機していた被災者は倒れた木に背中を激突され、出血性ショックにより死亡した。	712	5	30～ 49
2016	2	10 ～ 11	高さ31メートルの立体駐車場等の解体工事現場において、粉じんの飛散養生等のため、立体駐車場の外周に設けた単管組みに、防音パネルを取り付ける作業を5名で行っていたところ、そのうちの1名が単管組みの水平材である単管上から約15メートル墜落し、同日死亡した。	419	1	1～9
2016	3	13 ～ 14	被災者は、RC造4階建共同住宅（1階は店舗）の改修工事において、地上からロール状の防水シートを屋上に上げるために足場に設置したウインチを移設する作業をしていた。物を屋上に引き入れるために足場の手すりを取り外してできた足場外側開口部（幅1.8m、高さ2.25m）からバランスを崩して11.2mの高さより地面に墜落した。	411	1	1～9

2016	3	13 ～ 14	ビル外壁修繕工事現場において、足場解体作業に従事していた被災者が、交差筋交いを取り外して鋼製布板を集積した高さ5.5mの足場作業床上を移動中に墜落した。	411	1	1～9
2016	3	14 ～ 15	貸店舗新築現場（S造1階建、延面積443.5平米）において、3次下請に派遣された被災者が、天井配管工事に伴う換気ボックス設置のため、10尺脚立の上（上から1段目の踏面、高さ2m57cm）でボックス支持材の必要な長さを計測していたところ、脚立から墜落し、床面に頭部を強打した。急性硬膜下出血及び脳挫傷の診断を受け、しばらく意識不明の状態が続いていたが、死亡した。	371	1	1～9
2016	3	3 ～ 4	SRC造、5階建てのビルの解体工事中、屋上で、ペントハウスを解体した際に発生したコンクリートガラの回収作業を行っていた被災者が、屋上の開口部から約11m下に転落した。	414	1	10～ 29
2016	3	17 ～ 18	貨物自動車（バン）を運転して、マンション建設現場から事務所に帰社するため、国道を走行中、対向車線にはみ出し、対向車線を走っていた10トントラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2016	3	10 ～ 11	作業構台上のドラグ・ショベルを使用し、構台から根切り底へ鉄筋の荷卸作業（用途外使用）が行われた。当該作業完了後、所定の置き場所まで自走後、180度時計回りに旋回させ停止させところ、脇に被災者が倒れていた。	142	7	50～ 99
2016	4	14 ～ 15	増改築工事現場において、R階の大梁を取り付けるため、柱頂部に取り付けられたスタンションに接続された安全ブロックを用い当該柱に昇り、梁位置調整用バールをボルト穴に仮差し後、何らかの原因でスタンションが外れ、スタンション、安全ブロックごと墜落した。	418	1	30～ 49
2016	4	11 ～ 12	2階鉄骨造りの車庫兼倉庫の解体工事にて、2階の床材、垂木の撤去作業を終え、被災者は根太を取り除くために根太とH鋼を固定しているアングル部の釘をハンマー、バールを使用し抜き終わったところ、被災者は根太及びH鋼の開口部から約2.8m下の1階のコンクリート床面に墜落し	415	1	1～9

			た。			
2016	5	12 ～ 13	被災者は、建設現場で使用した型枠用単管パイプを資材置場に片付けるため小型移動式クレーンを使用し荷下ろしを行っている際に単管パイプ41本（1本あたり4.5m、約10kg）の下敷きとなり、上半身を圧迫され死亡した。	372	4	1～9
2016	5	10 ～ 11	地上6階地下1階建てS造の会館の解体工事現場において、被災者が4階スラブにおいてスラブデッキの溶断作業中に4階スラブの一部を1階に落下させたところ、それによってできた開口部から地上まで墜落し死亡した。	414	1	1～9
2016	6	8 ～ 9	工場敷地内で構内運搬用のトラックにジブクレーンを用いて結束された鉄筋束（長さ1.5～2.85m、重量約140kg）の積込み作業中、吊り荷が振れ、荷台上で待機していた被災者に激突、荷台から墜落したところに吊り荷が落下して、地面に置いてあった鉄筋と落下した荷に腹部を挟まれた。入院し治療中であったが、28日後に肝臓損傷等により死亡した。	211	6	100 ～ 299
2016	6	14 ～ 15	バイオチップ製造工場の新築工事現場にて、建屋3階の天井クレーンのレールを設置するためのH鋼（床面から高さ5.4m、幅30cm）に、高所作業車で親綱を取付けするスタンプの設置を行っていた。H鋼にレール（重さ300kg、長さ10m）が仮置されており、スタンプの設置に差支えたため、H鋼に乗りレールを動かそうとしたところ、高さ5.4mのH鋼から床面まで墜落して負傷し、同日搬送先の病院で死亡した。	418	1	0
2016	6	9 ～ 10	2階建て建築物の解体工事現場において、脚立に上がり1階の天井に設けられた筋交いを取り外して脚立から降りる際、脚立から墜落した。	371	1	1～9
2016	6	14 ～ 15	被災者が鉄骨造の倉庫平家建て解体工事現場で、屋根材裏の板材を地上約4.5mの高さの木製の梁にのって撤去していたところ、同梁が折れて、墜落した。	415	1	10～ 29

2016	7	8 ～ 9	コンクリート圧砕機（車両系建設機械の解体用機械）の小割用アタッチメントに廃材を入れた袋の帯を引っ掛ける作業をしていた合図者の頭部が挟まれ死亡した。	145	7	10～ 29
2016	7	21 ～ 22	現場から帰宅のため、小型バンの社用車に3人が同乗し、会社指定の駐車場に戻る際、災害発生現場付近を走行中に、左前輪がパンクしたため路肩に駐車し、同乗していた被災者が右後輪に輪止め作業中、後方から来た軽自動車にはねられ、全身を強く打ち死亡した。	231	17	10～ 29
2016	7	16 ～ 17	ビルの内部土間等工事施工に雑工として入場していた被災者が、15時頃の作業終了後、1次下請の運転する車にて店社事務所に戻る途中、被災者は交差点での赤信号停車中に自ら降車。その後、16時頃に被災者が路上にて倒れているところを第三者により発見され、救急搬送も、熱中症により同日死亡確認。	715	11	10～ 29
2016	8	13 ～ 14	災害発生当日、被災者はマンション新築現場にてコンクリート打設の補助をしていた。昼の休憩後、午前中の作業の続きを始めたが、13時30分頃、突然転倒したので小休止を取らせ様子を見ていたが、顔色が悪く、熱中症が疑われたので、救急車で病院へ搬送した。救急隊が到着した時は意識があったが、15時前に意識を失い、死亡した。	715	11	10～ 29
2016	8	15 ～ 16	SRC造7階建てビルの解体工事現場で、一次下請けの労働者として就業していた被災者が、散水作業を行っていた別の労働者の要請を受け、作業を交替するため建物7階の散水箇所に向かう途中、7階の床に開けられた開口部（1.5m×1.4m）から1階まで約2.4m墜落し死亡した。	414	1	1～9
2016	8	15 ～ 16	マンション新築工事現場において、ロングスパン工事用エレベーターを使用して、13階に上がったところ、ロングスパン工事用エレベーターの床先と躯体との間隔が48cm開いていたため、その部分から約3.8m下の1階の地面に墜落した。	214	1	1～9
2016	8	11 ～ 12	被災者は、枠組足場を先行して組み立てる作業に同僚8人とともに朝から従事していた。北面の足場から組立てて4段目の組立てを同僚と2人で行っていたところ足場が倒れたため、同僚とともに墜落した。	411	1	10～ 29

2016	9	8 ～ 9	鉄骨組立作業において、高さ16メートルの位置に梁（長さ約6.6メートル、重量3.7トン）を移動式クレーン（つり上げ荷重90トン）を使用して設置後、同僚とともに梁の両端でバールを使用して梁位置の微調整を行う作業中、墜落した。	415	1	1～9
2016	9	17 ～ 18	病院の新築工事現場で作業していた労働者が、当日の作業が終了したことから自動車（社用車）に6名乗車して事業場に帰社する途中、自動車道西行き線を走行中に追越し車線から車線変更したところ、自動車がスリップしながら回転して車線左側のガードレールに激突した後、追越し車線側の中央分離帯付近で停車して被災者が車外に放り出された。	231	17	10～ 29
2016	10	8 ～ 9	被災者は、公民館解体工事現場で、地下埋設燃料タンクを撤去するため、解体用重機を運転して約5m下に移動していた。運転していた解体用重機が移動中の法面を滑り落ちる状態で、約5m下の地面に激突し、重機が横転した。被災者は、病院搬送後、死亡した。	145	1	30～ 49
2016	10	11 ～ 12	マンションの耐震補強工事において、南面外部足場14層目で解体作業を行っていた被災者が約22.6メートル下の歩道上に墜落し、当日死亡した。	411	1	10～ 29
2016	10	8 ～ 9	被災者は4階フラットデッキ上で配筋作業を行うための準備中、フラットデッキ上を歩いていたところ、フラットデッキにあらかじめ取り付けてあったインサートの突起につまずき、その衝撃でフラットデッキが梁からずり落ち、フラットデッキとともに4.55m下の3階床に墜落し、コンクリート床に激突して死亡した。	418	1	1～9
2016	10	15 ～ 16	工場新築棟の屋根上で防水シートの敷設作業を行っていた被災者が、ルーファン取付予定箇所に係る開口部から地上に墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2016	10	6 ～	当日からの応援で建設工事現場にワンボックスカーで向かっていた労働者が、途上で交通事故により死亡した。被災者の乗車位置は助手席だった。事故は、乗車していたワンボックスカーが高速道路の中央分離帯を越えて	231	17	1～9

		7	反対車線へ飛び出し、横転し、その後大型トラックが当該ワンボックスカーと衝突した。			
2016	10	9 ～ 10	格子型のコンクリートで養生された高さ約15メートルの法面の雑木除去作業において、雑木除去後の法面の清掃中、地面からの高さ約8メートルの地点で安全帯を外したところ墜落し、地面に頭部を強く打って死亡した。	419	1	30～ 49
2016	10	15 ～ 16	関係請負人の労働者（1次下請）がドラグ・ショベルを使用し、掘削した埋戻土を足元に敷固めるため、後退したところ、後部を通行していた被災者（元請職員）がクローラに接触し轢かれた。	142	7	30～ 49
2016	10	20 ～ 21	現場で足場解体作業を終え、2tトラックに3人乗車し自動車道を走行中、何らかの原因で車体左側前方がガードレールと接触。一人が死亡、他の二人は車外に投げ出され被災した。	221	17	1～9
2016	11	14 ～ 15	解体用建機のアタッチメント取替作業中に、手元作業員が突如動いた建機アームに激突された。	145	6	30～ 49
2016	11	11 ～ 12	急斜面の維持管理工事において、作業員が斜面上で伐木した樹木を移動式クレーン（つり上げ荷重35t）の補巻きワイヤーロープのフックに玉掛けして地上に降ろす作業に当たって、同クレーンの運転手に合図を送るため主巻きワイヤーロープのフックに玉掛けした搬器に搭乗していた被災者が高さ約13mから搬器と共に落下して死亡した。	212	1	30～ 49
2016	11	11 ～ 12	避難タワー建屋内スロープの踊場に位置する東端から高さ2.7メートルの地面に墜落した。	418	1	1～9
2016	11	14 ～ 15	共同住宅の建設工事において外部足場に付設する防護柵（朝顔）の設置作業を行っていた作業員が、付設済みの防護柵の端から約11.8メートル下の地面に墜落した。	419	1	100 ～ 299
		8	14階建マンション新築工事現場で、14階のロングスパン工事用エレ			

2016	11	9	ベーター前の荷取りステージ（高さ約4.1m）から墜落した。	416	1	1～9
2016	12	16	被災者は解体工事現場内において、エンジンカッターを用いブロック壁の	418	5	1～9
		17	切断・解体作業を行っていたところ、当該ブロック壁の上部（8m×2.4m重量約3.3t）が倒れてきて下敷きになり死亡した。			
2016	12	15	バックホーを使用して、現場に運び込まれた盛土を掘削箇所に埋め戻し作	141	6	1～9
		16	業中、手前側の盛土をすくうため、重機を移動させたところ、重機の近くにいた作業員が重機に接触し、轢死した。			
2015	2	6	仮設現場事務所に向かうため、乗用車を運転し、高速自動車道を通行中、	231	17	30～ 49
		7	後続車両（大型トラック）に追突された。頭部を強打し、心肺停止状態のところ、同日午前9時頃、死亡した。支店所属である被災者は、完成引き渡しを終えた物件の工事に関係する各種請求書の事務処理のため、残置された仮設現場事務所に向かっていた。			
2015	2	7	高速自動車道下り線、パーキングエリア入口付近において、車がスリップ	231	17	10～ 29
		8	し右側法面に乗り上げ横転したものの。			
2015	9	14	集合住宅の外壁改修工事現場において、被災者と同僚が外部足場の落下防	411	1	10～ 29
		15	止柵の組み立て作業を行っていたところ、被災者と同僚が乗っていた落下防止柵が崩壊し、作業をしていた2名が墜落した。			
2015	9	6	被災者は、工事現場内の駐車場所である作業構台に駐車しようとしたところ、車が作業構台端部の約7メートル手前で急加速し、駐車場所を越えて	231	1	30～ 49
		7	作業構台の手すりを突き破り、構台床から約1.2メートル下の地下コンクリート床へ車ごと転落したものの。			
2015	7	14	現場作業が終了したため運送会社に委託し、ケリーバー（杭打ち機に装着	142	6	10～ 29
		15	する部材で長さ1.2m、重さ約3t）を当該資材置場に搬出した。ケリーバーを保管するため、被災者がドラグショベル（機体重量22.5t）を使用し、トラックからケリーバーを下ろした際、ケリーバーが運転席に激突したものである。			

2015	4	10 ～ 11	被災者は、建築中の建屋北側の駐車場予定地において、汚水配管埋設作業のため、掘削された幅約70cm、深さ約1.5mの箇所に入り、同配管の取付作業を行っていたところ、掘削した箇所の側面が崩落し生き埋めとなり被災したもの。	711	5	1～9
2015	10	11 ～ 12	被災者がはしご（最上部の踏面の高さ480cm）を用いて建物2階の外窓（下枠までの高さ540cm）のシーリング打替え作業を行っていた時に地上へ墜落したもの（推測）。災害発生時、同僚作業者は高所作業車を用いて2階の別の外窓の作業を行っていたため、墜落の瞬間を目撃した者はいない。	371	1	10～ 29
2015	3	7 ～ 8	被災者である重機操作者が、2階スラブ上にて解体手順の打合せを終え、重機へ移動していた際に、開口養生していた蓋板に足をかけたところ当該蓋板が外れ、開口部から1階床面まで高さ8.7m墜落し、死亡したものの。蓋板は開口内部の既設ダクトに架ける構造となっていたが、前日に下方から引き抜くようにしてダクトが撤去されていたため、蓋板を固定する支持物が存しない状況となっていた。	414	1	30～ 49
2015	7	14 ～ 15	下記現場の建物屋上で防水作業を行っていた被災者が、午後2時頃に熱中症による体調不良を訴え、足元がふらつき始めた。そのため、現場近くの病院に搬送しようとしたが、被災者が自宅近くの病院の治療を強く望んだため、自家用車で被災者希望の病院へ搬送することにした。しかし、その途中、容態が急変し、急遽、救急車により搬送、入院による治療を行ったが、平成27年8月6日、熱射病による多臓器不全により死亡した。	715	11	1～9
2015	10	10 ～ 11	牧場の洗車場の屋根の改修工事を行うに際し、屋根板を剥がそうと屋根上を移動したところ、屋根板が曲り屋根板間の隙間から高さ7.3メートル下のコンクリート面に墜落したものである。	415	1	1～9
2015	7	13 ～	地上3階建てのRC造建築物を新築する工事において、作業員1名の頭部にドラグ・ショベルのバケットが激突したものの。当該ドラグ・ショベルは基礎工事において地山を設計深さまで掘削する作業に用いられており、掘削作業中にアームを前方へ伸ばした状態で後進したところ、伸びた状態の	142	6	1～9

		14	アームが横振れし、付近で掘削面の深さを測量していた被災者の頭部に激突した。			
2015	9	13 ～ 14	地上9階建て建築物の新築工事現場において、6階梁型枠上（地上からの高さ19.2m）でコンクリート打設作業中、流し込んだコンクリートが型枠から溢れ出たため、それを手で拾い上げようとして腰を下ろし、立ち上がろうとしたところ、バランスを崩して14.5m下にある外部足場の頭つなぎ単管上（地上からの高さ4.7m）に墜落した。	415	1	30～ 49
2015	9	14 ～ 15	公民館の屋根改修工事において、被災者は屋根の軒付近にある縦樋のゴミ除け用網かごに番線をかけ、コーキング樹脂で固定する作業を行っていた際、屋根の軒から吹き抜け廊下の屋根端のパラペットに移ろうとしたところ、約3メートル下の玄関ホールの屋根へ墜落した。被災者は第一日赤へ搬送され治療を受けていたが、容体が悪化して9月23日に死亡した。	415	1	1～9
2015	6	13 ～ 14	被災者は、災害発生当日の午前中に、現場11階にて芝生の搬入作業等を行っていたが、昼休憩時に喫煙所から出て行く姿を目撃されて以降行方不明となっていたところ、地下1階のOAシャフト内の底部コンクリート上に死亡した状態で横たわっているのを発見されたもの。	414	1	10～ 29
2015	9	9 ～ 10	改修工事現場において、外壁工事のための枠組足場の組立て中、足場7層目にて部材の受け取りを行っていた被災者が、高さ約12メートルから、荷揚げのため地上に仮置きされていた建枠上に墜落し、死亡したもの。足場には手すり枠が設置されていたが、被災者が荷を取り込んでいた箇所は、手すりが欠けており、その箇所から墜落したもの。荷の受け取り口付近に親綱の設置はなく、被災者は安全帯を着用していたが使用していなかった。	411	1	10～ 29
2015	7	9 ～ 10	足場解体作業中、高さ16メートルの足場から墜落したもの。災害時、親綱は張られており、被災者は安全帯を着用していたが、使用していなかった。保護帽は着用していた。	411	1	10～ 29
			自動車販売店の増築工事において、雨水排水用のU字溝を設置していた。			

2015	7	16 ～ 17	休憩を複数回取りつつ作業を行っていた。16時から後片付け作業を行っていたところ、両ひざをついて右肩から転がるように倒れた。意識がもうろうとしていたため、救急車で病院に搬送したが、約12時間後に熱中症で死亡した。	715	11	1～9
2015	5	20 ～ 21	体育館プール棟の建設工事（RC造）において、プール棟2階スラブコンクリートの打設後、腰壁部のコンクリートの天端均し作業を一人で行っていた被災者は、何らかの理由により、うつ伏せに倒れ、硬化していないスラブコンクリートに顔が埋まり、窒息により死亡した。	418	99	10～ 29
2015	1	11 ～ 12	鉄骨平屋建て牛舎資材置場の解体工事において、波板スレート屋根の取り外し作業をしていた被災者が屋根上を移動中に波板スレートを踏み抜いて約3.7m下に墜落した。被災者は入院先の病院で平成27年4月27日に脳挫傷で死亡した。	415	1	1～9
2015	3	18 ～ 19	既存建物のコンクリート壁を解体後に、飛び出している鉄筋をガス溶断により切断し撤去する作業中、頭上で土砂が崩壊し、被災者に直撃し生き埋めになった。崩壊した土砂は、解体前のコンクリート壁と山留杭との間（厚さ約0.8m）に残存していたものであり、その一部分（高さ約4m、幅約3m、奥行約0.8mの範囲）が崩壊、落下したものであった。	711	5	1～9
2015	12	13 ～ 14	マンションの修繕現場において単管本足場の解体中、上部から滑車により足場板をおろしていたところ足場板が落下し、地上で作業していた被災者に激突したものの。	361	4	1～9
2015	8	17 ～ 18	通常の製造作業終了後、被災者がJIS溶接技能試験の受験を控えているため、アーク溶接の訓練をしていたとき、感電により死亡したものの。	332	13	10～ 29
2015	6	12 ～ 13	ごみ焼却施設建設現場において、ピット内に組まれた足場の清掃作業を行っていた被災者が、ピットの床からの高さがおおよそ20メートルの足場上から墜落し、死亡した。	411	1	1～9
		9	小学校体育館の吊天井落下防止工事にて、既設天井の解体作業（ボード類の取り外し）で発生した、体育館床に散乱したボード類の破片の清掃作業			

2015	8	～	を、作業員8人で行っていたところ、被災者は工事に使用している棚足場の高さ3段目（4.62m）から体育館の床に墜落したもの。（足場上に落ちたボード類の破片を取り除くために登ったものと考えられる。）	411	1	30～ 49
2015	1	8 ～ 9	被災者は、社会福祉施設の新築工事現場において、午前7時30分頃から、1人で高さ約12メートルの3階屋根（庇）上で、屋根の付け根に「水切り」を取り付ける作業を行っていた。その付近に安全帯を取り付ける設備はなかった。午前8時10分、当該屋根の下を通りかかった別の作業員が、地面に倒れている被災者を発見した。被災者は、頭から血を流しており救急車で搬送されたが、午前9時20分頃に死亡が確認された。	415	1	1～9
2015	4	18 ～ 19	建設現場での作業終了後、2tダンプトラックにて所属事務所へ帰社途中、高速下り線右ルートにてスリップし、道路左側のガードレールに衝突し死亡。同乗者も重傷を負った。	221	17	10～ 29
2015	8	16 ～ 17	事業場の資材置場にてトラックの荷台に資材を積荷する作業中に転落した。病院へ救急搬送後、死亡が確認された。	221	1	10～ 29
2015	2	16 ～ 17	建物の2階床面の墨出し作業を行っていたところ、同床面の開口部（750mm×750mm）より1階の床面へ約3.25m墜落し、脳挫傷等により翌日死亡した。	414	1	1～9
2015	2	15 ～ 16	鉄筋のガス圧接業者の労働者がダブルキャブトラックの助手席で午後の休憩中に、トラック荷台で「ボン」及び「シュー」という音がしたので、アセチレンボンベのホースが外れたと思い、助手席から降りて荷台へ向かった時に突然爆発した。全身熱傷等で入院加療中の3月18日に、「全身熱傷による多臓器不全」で死亡した。	513	14	10～ 29
2015	10	18 ～ 19	現場作業を終えた後、会社倉庫に戻る予定で当該現場作業で待機していた被災者は、同じく隣地駐車場で待機していた同僚に缶コーヒーを奢って立ち去った数分後、当該隣地駐車場入り口付近で頭部から血を流して倒れていたもの。死因は外傷性脳内血腫、硬膜下血腫。入院後、平成27年10	921	2	1～9

			月21日に死亡なお、本件は遺族からの労災請求があり、平成28年3月14日付に認定されたもの。			
2015	2	7 ～ 8	高速自動車道下り線、パーキングエリア入口付近において、車がスリップし右側法面に乗り上げ横転したもの。	231	17	10～ 29
2015	1	9 ～ 10	足場の解体作業を行っていた被災者は、7層目の作業床（幅40cm）に立ち、建地を両手で取り外そうとしたところ足を踏み外し13.4m下の道路に墜落した。被災者が取り外そうとしていた建地は、2列ある足場の外側の建地で、当該部分には作業床がなかった。被災者が立っていた足場躯体側の作業床には、手すり及び中さんはなく、親綱も設置されていなかった。被災者は安全帯を着用していたが、使用していなかった。	411	1	1～9
2015	4	18 ～ 19	作業構台から地下4階部分の鉄骨建方を行うため、構台覆工板の一部を開けて移動式クレーンを使用して作業を進める過程で、被災者が覆工板開口部から約27.5m下の地下4階スラブ上に墜落したもの。病院に搬送され死亡が確認された。	418	1	10～ 29
2015	1	23 ～ 24	事業場で設置している寄宿舍の1階管理人室の中央付近からの出火により火災が発生し、鉄骨造2階建の建物346平方メートルが焼け、その際、管理人室で寝ていた被災者が逃げ遅れて焼死した。	911	16	100 ～ 299
2015	9	14 ～ 15	既設マンションの外壁補修工事現場において、外部足場（クサビ式）の解体作業を行っていたところ、7階バルコニー天井部に塗装不良があると下請労働者から報告を受け、手直し塗装を行うため外部足場（10層目）を移動していたところ、作業床に設けられた開口部（解体した足場部材を荷卸しするためのもの、長さ：1.7m×幅：0.4m）から18.5m下の地面に墜落し、死亡したもの。	411	1	50～ 99
2015	8	0 ～	SRC造り6階建のパチンコ店舗解体工事現場において、鉄筋切断機（解体用機械）を用いて1階天井の大梁（H鋼）と小梁（H鋼）を解体作業中、まず大梁を解体するため、鉄骨切断機で当該大梁をつかみ回転させたところ、その反動で当該大梁に取り付けられていた小梁（長さ6.77	415	4	1～9

		1	m、高さ44cm、幅20cm、重さ約500kg)の一つが一緒に動き落下し、下方にいた被災者に当たったもの。			
2015	10	9 ～ 10	物流倉庫の新築工事現場において基礎杭の打設中、被災者が測量器で杭の垂直精度を計測後、杭に近づこうと幅約6mの鉄板が敷かれた道路を横断しようとした際に、バックしてきたダンプトラック(10t)の後輪に轢かれた。	221	7	30～ 49
2015	10	9 ～ 10	被災者は工事現場の作業所長として、平成27年4月1日から当該現場の施工管理等の業務に従事していたが、平成27年9月30日午後1時頃に激しい頭痛を訴え、翌10月1日午後6時45分頃に単身赴任先居住地において死亡していることが発見された。	921	90	1～9
2015	8	13 ～ 14	6階建てビル解体工事のうち、屋上階において外部仮設足場補強用の単管等部材の運搬作業に従事していた被災者が、同階南西角に設けられていた解体ガラ投棄用開口部(縦1.7m、横3.0m)から墜落したもの。開口部は各階のほぼ同位置に同サイズで設けられており、屋上階まで吹き抜け状となっていたため墜落高さは約21mとなるもの。	414	1	1～9
2015	11	12 ～ 13	被災者は、平成27年11月1日に現場事務所で打ち合わせ後、翌日の作業準備のため、会社の資材置場へ向かった後、行方不明となった。その後、同月6日に、資材置場付近のブロック塀に挟まった状態で、遺体で見された。	231	1	10～ 29
2015	9	0 ～ 1	鉄骨造2階建の工場増築工事現場において、アース・オーガーを使用し杭打作業を施工中、2m程ドリルを穿孔させた際、埋設物に当たった影響等で、ドリル上部のモーター部(自重約5.5t)を支えるスライド金物(通称：ダッコ)がレールから外れ、車体左方向にドリルと共に約20m落下した。その際、落下方向にて杭をトラックから荷降ろし中のトラッククレーン(最大吊上荷重25t)の運転席に居たオペレーターを直撃したものの。	143	4	1～9
		9	外壁等改修工事にて、被災者は、鉄骨造の躯体から約1メートル外に張り			10～

2014	5	～	出している、高さ約7.8メートルの屋根の強度を調査するため（屋根	415	1	29
	10		に）登ったところ、崩壊し、当該屋根と共に墜落した。			
2014	1	～	ワゴン車にて建設現場へ向かうため走行中、同車がスリップし、道路左脇	231	17	10～
	7		へ逸れて横転した後、ガードレールを突き抜けて畑に転落した。このた			29
			め、運転者が死亡し、同乗していた3名全員が負傷した。			
2014	2	～	ワイヤーメッシュ（2メートル×4メートル、50枚、1.775トン）	419	1	10～
	15		を25トンラフタークレーンで吊り、作業構台に載せたところ、作業構台			29
	16		がたわみ、被災者がクレーンの躯体側ワイヤーを外し、次いで外側のワイ			
			ヤーを外そうとして作業構台を1、2歩歩いたところ、作業構台を支えて			
			いたクランプが外れ、被災者が墜落した。			
2014	2	10	被災者は、外部足場の解体作業にて、足場上で解体材料を上層の者から受	411	1	1～9
	～	11	け取り、移動して地上の者に受け渡す作業を行っていたところ、踏み板の			
			運搬途中にバランスを崩し、足場3層目の妻側開口部から約4.4m下の			
			地上まで墜落した。			
2014	3	23	4階に設置された足場を解体作業中、バランスを崩し、2階吹き抜け部分	411	1	1～9
	～	24	に足場と一緒に約12メートル墜落した。			
2014	3	～	3階に設置された壁型わく材をクレーンで吊り上げ、4階外壁に建て込も	419	4	1～9
	13		うとしたところ、4階に設置していた壁型わく材に接触し、4階の壁型わ			
	14		く材が落下。約3m下の足場上で、吊り上げた壁型わく材を固定していた			
			角材を壁から外していた被災者に接触し、パネルとともに約4m墜落し			
			た。			
2014	3	9	トラッククレーンで根太材用の単管パイプ100本を、躯体外周の大引き	412	5	1～9
	～	10	の上に置き、被災者が玉はずしの作業を行っていたところ、支保工が外側			
			に向かって崩壊。被災者は高さ約3.9メートルの位置から墜落し、落下			
			した根太材の下敷きになった。			
2014	3	～	事務所内にて会議中、急性大動脈解離により死亡した。	999	90	100
						～

		16				299
2014	3	10 ～ 11	工場建設現場にて、内装の配線作業を行っていた被災者は、高所作業車の手すり部と上部配管ラックに首、胸部付近を挟まれた。	146	7	10～ 29
2014	4	10 ～ 11	地下中2階の床面に、デッキプレートを敷設する作業中、幅1.65mの開口部に掛け渡したデッキプレートの上を通行しようとした被災者が、デッキプレートとともに墜落。被災者は、約7m下の地下2階床面から立ち上げられた鉄筋の上へ落下し、死亡した。	414	1	30～ 49
2014	4	14 ～ 15	敷鉄板相互を溶接により固定する作業を行っていた被災者は、右後方から前進してきた貨物自動車の前輪に巻き込まれ、死亡した。	221	7	30～ 49
2014	4	14 ～ 15	個人家屋建替工事にて、被災者がホースで散水し、同僚の重機オペレーターが解体用つかみ機を使用し、旧家屋を解体中、被災者が倒れているのが発見された。	145	7	30～ 49
2014	4	11 ～ 12	掘削床にて、雨水管を掘削していたところ、掘削面の一部が崩壊し、崩壊した土砂が被災者の胸部付近に激突。腰部付近まで土砂に埋まり、肺挫傷により死亡した。	711	5	10～ 29
2014	5	16 ～ 17	高所作業車を使用し、鉄骨貫通部にロックウールを詰める作業中、被災者が高所作業車の手すり部分と、躯体鉄骨に挟まれているのが発見された。	146	7	10～ 29
2014	5	17 ～ 18	解体工事現場にて、外周の養生シートの骨組みを解体するため、解体用つかみ機のつかみ具の部分に被災者を乗せ、つかみ具上で作業していたところ、作業していた被災者が約4mの高さから墜落した。	145	1	1～9
2014	5	14 ～ 15	下水処理施設の新築工事現場にて、脚立とバールを使用し、外部型枠材解体作業中、同僚がコンクリート床面に倒れている脚立と被災者を発見した。	371	1	10～ 29
		16	事務所のある雑居ビルの階段下にて、倒れているところを発見され、頭蓋			50～

2014	5	～ 17	骨陥没、脳挫傷にて死亡した。	413	1	99
2014	6	～ 11	外部足場の解体作業を行っていた際、枠組足場上で玉掛及びジョイント部外し作業を行っていた被災者は、引っ掛かっていたユニットが外れた衝撃でバランスを崩し、地上へ墜落した。	411	1	10～ 29
2014	6	～ 17	エレベーターピットのコンクリート型枠の解体作業中、意識不明の状態で見つかった被災者が発見された。	411	1	1～9
2014	6	～ 14	屋上に設置されている鉄塔看板を撤去する際、支柱のH型鋼を被災者がガス溶断していたところ、看板が倒れ、頭部を保護帽ごとはさまれた。	418	5	10～ 29
2014	6	～ 19	マンション外壁改修工事現場のマンション屋上にて、被災者がゴンドラのつりワイヤーロープ、垂直親綱及び電源コードの引き揚げ作業を行っていた際、マンション屋上から転落し、死亡した。	415	1	50～ 99
2014	6	～ 16	屋根に登り、屋根材であるスレートの取り外し作業を行っていたところ、被災者がスレートを踏み抜き、約4.6メートル下のコンクリート地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2014	7	～ 7	車で高速道路を走行中、緩やかなカーブにて、走行車線の車を追越車線を利用し、追い抜いたところ、路面が濡れていたため、車体がスリップし、制御不能となり、走行車線のコンクリート側壁に正面衝突した。	231	17	30～ 49
2014	7	～ 15	被災者は、耐震補強の鉄筋アンカー施工後の鉄筋アンカーを垂直に調整する作業を脚立足場上で行っていたところ、足場上でバランスを崩し、床面に設けた鉄筋アンカー上に転落。被災者の体にアンカーが突き刺さった。	411	1	1～9
2014	7	～ 19	被災者は、高圧洗浄機を用い、型枠に付着したコンクリートの洗浄作業後、コンクリート打設用の高さ約1.8mの足場から前向きに墜落。肝臓破裂による出血性ショックにより死亡した。	411	1	50～ 99
		2	外壁改修工事現場にて、ウィンチで足場の資材を取り込むための段取り作			

2014	7	3	業中、桝組足場9段目から道路側の地上に墜落した。	411	1	0
2014	7	15	ダンプの荷台に乗り、ドラグショベルにより積まれた掘削土砂からゴミを取り除く作業中、ドラグショベルのバケットから退避しようと、ダンプの	221	1	50~99
		16	あおりと付近にあった脚立の上に足をかけたところ、墜落した。			
2014	7	14	被災者は、屋外にてプラスチック配水管を並べる等の作業中、熱中症により死亡した。	715	11	1~9
		15				
2014	8	15	移動式クレーンを用いて足場の解体工事中、被災者は、桝組足場第8層にてワイヤーの玉掛け及び垂直ネットの処理を行っていたところ、地面まで	411	1	100~299
		16	14.2メートルの高さから墜落し、死亡した。			
2014	8	16	木造2階建の建屋の解体工事にて、屋根のスレート瓦を撤去する作業中、	415	1	50~99
		17	建物の周囲に設置された足場の手すりと屋根の間から下の停められていたダンプの荷台の中に墜落した。			
2014	8	17	国道トンネル内にて、事業場に戻るトラックが対向車線を超え蛇行し、ワ	221	17	10~29
		18	ンボックスカーと正面衝突。トラックの助手席に搭乗していた被災者が死亡した。			
2014	8	10	建築中の2階鉄骨の梁の上を歩いていたところ、墜落した	418	1	1~9
		11				
2014	8	15	改修工事にて、ビニール養生を撤去していたところ、足場から体育館2階	411	1	1~9
		16	の歩廊に墜落し、死亡した。			
2014	8	9	足場板上にて、足場の組立作業中、同僚とすれ違う為、体を引いたところ、ブレースに接触し、固定されていなかったブレースが外側にはね出し、隙間から体が出て、中間の防音パネルにバウンドした後、1階の土間	411	1	1~9
		10	上に墜落した。			

2014	9	7 ～ 8	トラックで建設現場に向かう途中、トンネルを出た後に雨でスリップし、中央分離帯のガードレールに激突し、横転。助手席にいた被災者は、車外に投げ出され、死亡した。	231	17	1～9
2014	9	8 ～ 9	被災者は、土間部に打設されたコンクリートの仕上げ作業中、コンクリートポンプ車のブームの下を通行したところ、ポンプ車のブームが根元付近で折損し、ブームが地上から落下。ブームの先端付近の下敷きになった。	149	4	10～ 29
2014	9	16 ～ 17	プレハブ造の事務所を組み立てる際、直流アーク溶接機を用いて、高さ1.9mの位置にある横梁を跨いだ状態で、上部に取り付ける横梁の溶接を行っていたところ、感電し、地面に墜落した。	332	13	1～9
2014	9	11 ～ 12	倉庫の2階部分増築作業中、下地材の取り付け作業を行っていたところ、作業床端から墜落した。	416	1	1～9
2014	9	9 ～ 10	建設工事現場にて、灰分散装置を据え付けるため、移動式クレーン運転士に合図し、つり上げて移動していた際、つり上げた灰分散装置が建屋のコンクリート製梁に接触し、状況を確認しようと立ち位置を変えていたところ、玉掛けしていたクランプが外れ、灰分散装置が落下し、被災者の方に倒れかかり、コンクリート基礎の間に挟まれた。	212	4	10～ 29
2014	9	11 ～ 12	つり足場の解体作業中、足場板の片側の水平緊結用自在クランプが取り付けられていないことに気付かず、その上に乗ったところ、足場板が下向きに回転し、7.8メートル下に停車していたトラック荷台上に墜落した。	411	1	10～ 29
2014	9	17 ～ 18	片側2車線の国道交差点にて、社用車を運転し帰宅中、右折してきた対向車と衝突した。車両には同僚3名も同乗しており、運転席、助手席にいた被災者ら2名が死亡し、後席の2名の同僚は負傷した。	231	17	1～9
2014	9	17 ～ 18	片側2車線の国道交差点にて、社用車を運転し帰宅中、右折してきた対向車と衝突した。車両には同僚3名も同乗しており、運転席、助手席にいた被災者ら2名が死亡し、後席の2名の同僚は負傷した。	231	17	1～9
		13	大講堂内に組まれていた内部棚足場の解体作業中、棚足場上で足場板を外			10～

2014	10	～ 14	そうとしたところ、2. 65メートル下のコンクリートへ墜落した。	411	1	29
2014	10	～ 12	杭工事に用いる鋼製水槽タンク搬出のため、アースドリルを用いてトラックに荷揚げした際、つり上げていた水槽タンクがつられたままの状態から地上までずり下がり、被災者が下敷きになった。	143	4	10～ 29
2014	10	～ 17	足場をつなげるため及び型枠作業中、足場を組み立てていたところ、被災者が足場より墜落した。	411	1	1～9
2014	10	～ 16	新築工事現場にて、外部足場上で4階外壁の飾柱部分の配筋作業中、15. 5メートル下の地上へ墜落した。	411	1	1～9
2014	10	～ 16	倉庫3階の増築工事にて、階段を降りていたところ、踊り場から地上まで墜落し、死亡した。	413	1	1～9
2014	10	～ 12	スレート葺きの屋根上にて、スレートの破損部分の補修作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き、コンクリート床に墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2014	10	～ 10	トラックを運転していたところ、前を走っていた車に追突し、さらに対向車線の大型トラックと衝突した。	221	17	1～9
2014	11	～ 12	エレベーターシャフト側に手すり単管を取り付けていた際、手すり2段目の手すりに片足を載せ、体重をかけ、安全帯フックをかけ直そうとしていたところ、手すりが脱落し、反動でシャフト内に墜落した。尚、安全帯は2丁がけであり、うち一丁は2段目手すりにかけていたが、手すりの脱落とともに外れた。	414	1	100 ～ 299
2014	11	～	事務所にて、打合中、被災者は呼吸困難となり、急性大動脈解離で死亡した。尚、直近3ヶ月の残業時間は7月度79. 5時間、8月度99時間、	921	90	10～ 29

		20	10月度107時間であった。			
2014	11	4 ～ 5	建設現場に向かっていた際、交差点で被災者の運転する車が路側帯に乗り上げ、信号機に激突し、横転した。	231	17	10～ 29
2014	11	14 ～ 15	被災者が高所作業車を使用し、屋根垂木の釘打ちによる固定作業中、同僚によって高所作業車の作業床から上半身を前のめりにし胸腹部で操作盤を押しつけるようにして、肩と背中を建物の鉄骨構造材に挟まれ、出血し、意識のない状態の被災者が発見された。	146	7	1～9
2014	11	8 ～ 9	屋根の防水工事中、同僚1名と被災者が足場の階段を使用し、地上から2階に登った際、先に登った同僚が足場2段目で下を見たところ、地上で被災者が倒れているのを発見した。被災者は頭部外傷により死亡した。尚、被災者は保護帽を着用していなかった。	417	2	1～9
2014	11	10 ～ 11	2階図書準備室屋根裏のコンクリートのはつりから清掃作業中、屋根裏に登ろうと図書準備室に設置されていた昇降設備に登っていた際、足を踏み外し、図書準備室床部分へ墜落した。	371	1	1～9
2014	12	8 ～ 9	解体予定の既設水路の天板上に立ち、同僚の墨出し作業のチェックをしていたところ、天板部が崩壊し、下の水路内へ墜落。天板部のコンクリート塊が被災者の頭部に激突し、その下敷きとなり、死亡した。	418	1	10～ 29
2014	12	13 ～ 14	ビルの解体作業中、4階の床部分にて、ハンドブレーカーを使用し、壁の下部のはつり作業を行っていたところ、壁が内側に倒れ、壁と4階の床部分との間に挟まれ、死亡した。	418	5	30～ 49
2014	12	15 ～ 16	鉄骨組立作業中、桁の上を移動していたところ、バランスを崩し、約8メートル墜落した。	415	1	1～9
2014	12	17 ～ 18	作業場から事務所に戻った際、バイクを運転し、信号のある交差点を前車に続いて右折したところ、対向車線を直進して交差点に進入してきた相手車と交差点内で衝突した。	231	17	10～ 29

2013	6	16 ～ 17	住宅新築工事現場において、2階リビングの内装作業中（はりの下塗り作業）、約3メートルの高さのはりから墜落した。	415	1	1～9
2013	12	7 ～ 8	被災者ら4名がワゴン車に同乗し、事業場から工事現場に向かっていた際、運転者が左側車線へ進路変更しようとしてハンドルを切ったところ、スリップして車体左前がワイヤー式ガードレールに激突し、車体がバランスを崩し半回転して車体後部をワイヤー式ガードレールに激突、この時、後部座席にいた被災者は、後部座席後ろの車内の荷台部分に放り出され、死亡した。	231	17	100 ～ 299
2013	3	11 ～ 12	建物新築工事に使用した単管ブラケット足場（建地2本）の解体作業を行うにあたり、被災者は第1層目の作業床（高さ1.86メートル）上から第2層目の作業床を取り外そうとしていたところ、バランスを崩し墜落した。	411	1	1～9
2013	2	15 ～ 16	事業主資材置き場において、集合住宅修繕工事に使用する資材を棚から取り出そうとしたところ、脚立（高さ約90cm）から転落した。転落の際、被っていた保護帽が脱げて頭部を強打した。	371	1	1～9
2013	4	9 ～ 10	マンションの外壁補修工事現場において、ゴンドラ2基の設置作業中、1基のゴンドラ設置完了後、被災者はもう1基のゴンドラ設置等に使用する資材をゴンドラへ積み込み上昇させたところ、屋上へ到達した際、ゴンドラを固定していた突りょう（支持金物）が外れ、被災者はゴンドラとともに落下した。	216	1	10～ 29
2013	12	19 ～ 20	8人乗りの社用車で、現場から6名の作業員（うち1名が運転）を乗車し出発。途中、別の現場に立ち寄り、そこで作業を行っていた労働者2名を乗車させ、計8名で高速道路を經由し事業場へ向かっていた。事故発生場所付近に差しかけたところ、分岐点で方向を誤ったため、急ハンドルを切ったところ車両が横転し、（乗車していた8名の労働者のうち）1名が死亡、残り7名が重軽傷を負った。	231	17	10～ 29
			2階の壁にあったシステム型枠部材（重さ約170kg）を3階へ上げる			

2013	9	15 ～ 16	ため、被災者が玉掛けを行い、16トンラフタークレーンを用いてつり上げたところ、当該型枠部材をつり上げるため取り付けていた木製の横棧のくぎが抜け、ワイヤーロープのアイに通していただだけの棧木が当該横棧からすり抜け、当該型枠部材が約2.5メートル落下し、下にいた被災者を直撃した。	611	4	1～9
2013	1	13 ～ 14	被災者は、はしごに昇りエアコンの室外機を取り外す作業を行っていた際、室外機を地面に落とそうと室外機を動かそうとしたところ、室外機が全く動かなかったため、室外機を強引に動かそうと強い力を加えた。その反動でバランスを崩し、はしごから約2メートル墜落した。	371	1	1～9
2013	7	11 ～ 12	養生単管の解体作業中、同僚作業者が解体した長さ6メートル、重さ約20キログラム（クランプ含む）の単管を被災者がステージ上で取り込もうとしたところ、バランスを崩して、高さ90センチメートルの手すりを乗り越え、当該単管とともに16メートル直下に墜落した。	416	1	1～9
2013	7	10 ～ 11	集合住宅修繕工事において中庭の足場組み立て中、被災者は、12層目の足場上で定格荷重150キログラムのウインチでつり上げられた足場の資材を取りこむ作業を行っていたところ、墜落した。尚、墜落瞬間の目撃者はいないが、被災者がウインチでつり上げられた荷にぶら下がっているのを、ウインチを操作していた者（作業主任者）が目撃している。	411	1	1～9
2013	12	9 ～ 10	流動化土再生処理プラントの攪拌機上部にあるミキサー排出口がうまく開閉しない不具合が発生したため、被災者を含む二人の作業員が点検修理に取り掛かった。被災者が機内に入り、サンダーで削る不具合箇所がわかるように赤色のスプレーを吹付けた後、もう一人の作業員がリモコンで上部の開閉部分を動かそうとしたところ、下部の攪拌翼が作動したため被災者は体を挟まれ、すぐにリモコンの非常停止装置を押したが死亡した。	162	7	10～ 29
2013	7	9 ～ 10	トラックから道板を使用してドラグ・ショベルを降ろす作業をしていた際、ドラグ・ショベルが転倒し、誘導していた被災者の頭部にドラグ・ショベルのアーム部が激突した。	379	6	1～9
			鉄骨造の工場解体工事において、屋根の解体作業を行うため、被災者は母			

2013	5	13 ～ 14	屋のガス溶断作業を行っていた。被災者は、母屋の不切断箇所を発見したため、頂部付近（高さ10.7メートル）に上がって母屋のガス溶断作業中、コンクリート床面に墜落した。	415	1	1～9
2013	6	11 ～ 12	クレーン機能付きドラグショベル（つり上げ荷重2.9t）を用いて、L型擁壁（重量1.8t）を3点つり（壁部2箇所・底盤部1箇所）にて仮置きを終了させ、被災者が壁部2箇所の玉外し作業を終えたところ、底盤部の玉外し作業が残っているにも関わらず、運転者は玉外し作業が完全に終了したものと思い込み、同ドラグショベルのブームを上昇させた際、L型擁壁が倒れ、L型擁壁と法面の間にいた被災者が挟まれ死亡した。	212	6	10～ 29
2013	7	11 ～ 12	建築物解体工事において、引き抜いた鋼矢板（長さ10m、重量750kg）を移動式クレーン（ジブが伸縮するホイールクレーン25t）でつり上げ、撤去する作業中、つり上げた鋼矢板を地面に横倒すため、その先端を地面上のコンパネに降ろしたところ、補巻きフック（外れ止め装置有り）より玉掛けワイヤロープが外れ鋼矢板が横倒しとなり、誘導していた被災者他1名が、倒れてきた鋼矢板の下敷きになった。	372	4	50～ 99
2013	3	8 ～ 9	標記所在地のS造4階建（一部RC造3階建）ビルの解体作業中、被災者は、4階床スラブ上にて、鉄骨の溶断作業の下準備を行っていた。解体用重機（鉄骨切断機を取り付けた建設機械）で5m程離れた4階屋根スラブ（コンクリート）を支える鉄骨を切断した際、その拍子で被災者の直上の4階屋根スラブが崩落、落下してきたコンクリートが被災者にぶつかり死亡した。	418	4	10～ 29
2013	5	12 ～ 13	SRC造・地下2階・地上4階の建物新築工事現場において、クラムシェルで掘削した土砂を現場から排出するトラックを、現場内において誘導する作業に従事していた1次下請の労働者が、後退してきたトラックに轢かれ、死亡した。	221	6	300～
2013	1	9 ～	集合住宅新築工事の外構工事においてドラグショベル（0.1t）を使用し、既存U字溝の撤去作業中、U字溝をアームに玉掛けし、地上に引きず	142	7	30～

		10	り出そうとしたところ、ドラグショベルが転倒し、補助作業を行っていた被災者が、アームと地面との間に挟まれた。			49
2013	12	9 ～ 10	被災者は、既存のブロック塀の解体作業中、ブロック塀が倒れ、倒れたブロック塀と隣地建物の外壁との間に身体を挟まれた。	418	5	10～ 29
2013	10	6 ～ 7	建設現場に向かうため乗用車にて移動中、運転手が居眠りをしてしまい、センターラインを越え対向車に激突し、同乗者2名が死亡した。	231	17	1～9
2013	10	6 ～ 7	建設現場に向かうため乗用車にて移動中、運転手が居眠りをしてしまい、センターラインを越え対向車に激突し、同乗者2名が死亡した。	231	17	1～9
2013	6	16 ～ 17	クライミングクレーン（つり上げ荷重1.06t）により型枠パネル（約300kg）の吊上げ作業をしていたところ、当該クレーンのジブが折れ曲がった際吊荷が降下し、労働者1名が吊荷の下敷きとなった。	211	5	10～ 29
2013	10	15 ～ 16	ビルの解体工事現場で、6階床にて同階にある什器類を、床に開けられた「ダメ穴」から1階に落とす作業をしていた被災者は、什器を持った際に自重のバランスを崩した等の理由で、什器と共に1階床まで墜落した。至近で作業をしていた労働者は2名いたものの、同作業場所は電灯が無いため暗く、その2名の労働者も被災者以外の方向を見ていたため、被災者墜落の瞬間を現認したものはない。	414	1	1～9
2013	7	15 ～ 16	被災労働者は、地下2階のエスカレーターの上部乗降口付近で、当該エスカレーター内部の調整作業を行っていた。当該エスカレーターは、調整作業のため踏み段が5枚取り外されており、被災労働者は上部乗降口からトラスの内部（深さ最大85cm）に転落し、作動していた当該エスカレーターに身体を巻き込まれた。	229	1	10～ 29
		14	建築現場において移動式クレーンを使用し、荷（押出成形セメント板）を地上から6階まで揚重中、高さ約20メートルの位置において、荷が玉掛用具から外れて落下し、地上で玉掛けを行っていた被災者の頭部に当たっ			10～

2013	11	～ 15	た。尚、荷は、長さ2.5m、幅60cmの板8枚、重量約780kgであり、玉掛用具は、バランスと呼ばれる荷取り治具にナイロンスリングを取付たものであった。	212	4	29
2013	12	～ 15	被災者は、軽量鉄骨造2階建新築工事において、室内階段の養生をしていたベニヤ板のテープを剥ぐ作業中、何らかの要因で転倒し、首および肩を強打し、意識不明となり病院に搬送されたが、死亡した。	413	2	1～9
2013	5	～ 13	被災者は、外管に内管を差し込んだ状態のパイプサポート32本をワイヤロープ2本で玉掛けし、タワークレーンでつり上げていたところ、地上から高さ15メートルぐらいの位置で、32本のうち半数の内管が外管から抜け、そのまま地上に落下し、つっていた荷の直下若しくはその付近を通行していた被災者の頭に直撃した。尚、被災者は休憩中であったため、ヘルメットは着用していなかった。	521	4	1～9
2013	11	～ 12	マンション大規模修繕工事において、外部足場（枠組足場）の解体作業中の鳶工が、当該足場の11層目の布板を取り外した後、10層目床から17m下の植栽へ墜落した。尚、現認者はおらず、バランスを崩して墜落したものと推測される。また、ブレス、下さんは先行して取り外されていた。親綱は設置されており、安全帯も着用していたが、使用していなかった。	411	1	10～ 29
2013	2	～ 10	被災者は、事務所の増築工事において、2階分の組み上がった鉄骨上にデッキプレートを移動式クレーンを用いて搬入していた。2階屋根部分の鉄骨梁上で交差筋交いを付け外していたところ、約8m下の地上まで墜落した。	415	1	1～9
2013	6	～ 15	被災者は、建屋の耐震補強工事において、既設の梁に取り付ける補強材の位置確認、修正作業中、はしご上から約13m下に墜落した。尚、被災者は、安全帯を着用し、親綱に掛けていたが、墜落時に親綱（ワイヤーロープ）自体が切断した。	371	1	10～ 29
		13				

2013	2	～ 14	被災者は、鉄骨組立作業において、高さ6.8mの鉄骨梁から墜落した。	418	1	1～9
2013	8	16 ～ 17	被災者は、5階建て建物の3階スラブ上で高所作業車（作業床が垂直方向にのみ上昇・下降するもの。）に乗り、高さ約6メートルの場所にある鉄骨の錆止め塗装等の作業に従事していたが、作業場所を移動する際、高所作業車の作業床を一旦降下させるべきところ、操作を誤り、作業床を上昇させてしまい、頭上にあった鉄骨梁と高所作業車の手摺との間に頸部を挟まれた。	146	7	1～9
2013	8	7 ～ 8	小学校校舎トイレ改造工事現場内において、現場に出勤してきた二次下請事業場の労働者が、地上に積んであった建築部材（壁、天井に使用する鋼製の下地材）と枠組み足場の間で仰向けで倒れている被災者（元請現場代理人）を発見した。	418	1	1～9
2013	11	9 ～ 10	被災者らは、賃貸住宅新築現場において、被災者を含めた4名にて敷地内の低地を水平に均すため、同僚作業員が0.5?のドラグショベルで盛り土をし、被災者が0.2?のドラグショベルの排土板で均す作業を行っていた。その際、被災者が均し作業のためドラグショベルを前進させたところ、同僚労働者が操作するドラグショベルが盛り土をしようと旋回してきたため、そのバケットが被災者の左側頭部に激突した。	141	6	1～9
2013	11	11 ～ 12	鉄骨で組まれた試験用工作物を解体していた際、天井クレーンで吊り上げられた工作物の鋼材（長さ8.8m、重さ17.1t）が、走行中に振れ、付近にいた被災者に激突し、当該鋼材と工作物の柱との間に頭部を挟まれた。	211	6	10～ 29
2013	9	10 ～ 11	型枠材の積込搬出作業において、パイプサポート24本をチェーンで束ねたものをクローラクレーンにて10tトラックの荷台に積み込んだ後、積荷のバランスが悪いので、被災者が荷台に乗ってパイプサポートの束を押ししていたところ、荷崩れし、被災者とパイプサポートの束が荷台から落ち、被災者はパイプサポートの束の下敷きになった。	611	5	10～ 29
			被災者は、建築物外部の鋼構造物の外周にコの字型に設置した塗装用枠組			

2013	8	13 ～ 14	足場（8段）の解体作業を行っていた。枠組足場上部から解体を始め、地上から3段目の足場上で作業を行っていた。コの字型に配置した枠組足場を固定するために水平に取付けられていた繋ぎの足場用単管（長さ5m）の直交クランプを外し終えた際、足場上（高さ5.6m）から地上に墜落した。	411	1	1～9
2013	1	10 ～ 11	解体工事にて、天井部をピックではつり解体のため枠組足場1層設置し当該足場上で作業していたところ、1.7メートル下のコンクリート土間に転落し、頭部を強打した。	411	1	30～ 49
2013	12	16 ～ 17	倉庫一部増築工事現場において、被災者等計5名で現場作業中、被災者は高さ約7.8mの鉄骨からコンクリート床上に墜落した。被災者が墜落する状況を目撃した者はいない。墜落後、同僚がコンクリート床に倒れていた被災者を発見した。	415	1	10～ 29
2013	1	14 ～ 15	珪のントリーエレベーター建築現場において、切妻屋根上（軒高6.3m）の足場を解体し、敷角下の敷板を外した後、屋根上の積雪が軒先方向に滑り出し、屋根上の作業員2名が巻き込まれ、軒先に面した足場上の作業員1名が押し出され、墜落し、落雪に埋もれた。うち、1名が雪で窒息死した。	719	5	10～ 29
2013	6	6 ～ 7	市道を走行中、右カーブの下り坂で被災者が運転する4tトラックがガードレールに接触し横転、出血性ショックにより死亡した。	221	17	10～ 29
2013	6	6 ～ 7	市道を走行中、右カーブの下り坂で同僚が運転する4tトラックがガードレールに接触し横転、脳挫傷により死亡した。	221	17	1～9
2013	9	16 ～ 17	住宅建設工事において、被災者（2次下請）がランマを使用し駐車場の転圧作業を、1次下請の労働者が車両系建設機械を使用し出入口スロープの砂利敷均し作業をそれぞれ行っていた。車両系建設機械が旋回した際、被災者がバケットをよけようとして転倒した。その際ランマのハンドルが腹部に当たった。	149	2	1～9

2013	11	15	被災者と同僚は、現場作業終了後、他の事業場で資機材等の補充等を行うため、トラック（2 t車）に乗車し、被災者が運転して現場を出発した。	231	17	1～9
		16	走行中、対向車が被災者側の走行車線にはみ出してきて前走車に衝突後、回転しながら被災者の運転するトラックに衝突した。尚、シートベルトは両名とも着用していた。			
2013	3	14	被災者は、現場工区内の埋戻し作業を行っていた。支持物の最下層の脚部	418	5	50～
		15	補強材を復旧する作業中に、支持物の構成材である単管が折れ、倒壊した降雪用仮屋根（30m×28mの範囲）の下敷きとなった。			99
2013	11	11	RC造2階建て建築物の改修工事現場において枠組足場の解体作業中、足場5層目より7メートル下方の地上に墜落した。被災者は、建枠の横架材	411	1	1～9
		12	上に仮置きした長さ6.8メートルの頭つなぎ用単管を地上に下すため、同単管の端部を持ちながら作業床（幅50cm）上を後退していたところ、足場の端部を越え墜落した。尚、被災者は、安全帯を着用していなかった。			
2012	1	17	マンション建築工事現場にて、当日予定分のコンクリート基礎杭の打設作業が終了し、打設作業で使用した機械設備（コンクリート製造用プラン	419	1	10～
		18	ト）の後片付けを行っていた被災者は、同機械設備と杭打機との間の地面で、頭から血を流して仰向けに倒れていたところを同僚労働者に発見された。			29
2012	10	11	牛舎のスレート屋根の補修工事を行うため、被災者和其他の労働者がスレート	415	1	1～9
		12	屋根の上に乗り、補修方法を話し合っていたところ、被災者がスレート屋根を踏み抜き、約5.6m下のコンクリート床に墜落した。			
2012	1	10	マンション新築工事現場において、基礎工事における単管と木製足場板で	711	5	10～
		11	構成された防護壁を設置する作業を行う際、掘削溝内で作業員2名が防護壁に足場板を重ねる作業を行っていたところ、隣接駐車場敷地内にあるフェンスの基礎コンクリート部及び基礎コンクリート下部の土砂が長さ約7.4m、幅約80cm、高さ1.66mにわたり崩壊し、作業員2名が土砂等に生き埋めになり1名が死亡、1名が負傷した。			29

2012	8	18	被災者はビル屋上塔屋部の外部足場を解体中、枠組足場（2層2スパン）から張り出したブラケット足場に移動した際、足場が傾き、足場と共に約35m下の連絡通路に墜落した。	411	1	1～9
2012	7	11	市営住宅外壁改修工事にて使用した足場の解体作業中、体調不良を訴えた被災者に対し、作業主任者は休憩を指示した。午後になり、休憩場所で再度様子を見たところ、症状悪化したと判断されたことから、救急搬送したが、搬送先病院で死亡した。司法解剖により、死因は多臓器不全（熱中症）とされた。	715	11	1～9
2012	2	9	焼却場として使用していた既存建物の2階部分を解体撤去する工事において、1階のスレート屋根の上を移動していた被災者は、スレート屋根を踏み抜き、約7mの高さからコンクリートの地面に墜落し死亡した。	415	1	1～9
2012	7	12	駐車場建設工事現場において、被災者が65 t 吊りのクローラクレーンの主巻の玉掛け用具に掛けられていた荷の玉はずしを終えた後、次の作業に移るため、クレーン運転手が主巻フックを巻上げ、補巻フックを巻下げたところ、高さ11.8mの位置の補巻フックに掛けられていた玉掛け用具（約20kg）が落下し、その下にいた被災者の頭部に激突した（保護帽の着用有り）。なお、災害発生時に主巻・補巻共に荷を吊っていなかった。	212	4	1～9
2012	9	14	被災者は市のクリーンセンター整備工事において、可燃物処理施設の屋根部でALC板を取付けたあとの目地にモルタルを流し込む作業を行っていた。屋根部には機械搬入用の開口部があり、その開口部（約7m×約9m）から被災者が約10m下のコンクリート床面上に転落したもの。なお、作業はモルタルを容器に充填しながら目地に沿って引っ張りながら行うもので、被災者はモルタルを目地に流し込むための容器を引っ張る作業を行っていた。	414	1	1～9
2012	3	13	建物の吹抜け部に設置された高さ9mの枠組足場（4層）の解体作業において、被災者は2層毎に解体するため3層目の足場（幅0.6m）でブラケット等の足場材料を取り外し中、筋交いの中から約5.3m下のコンクリート	411	1	10～29

			スラブに墜落し、頭部を強打し死亡した。			
2012	12	10 ～ 11	自宅から現場に社有車で向かっていた際、国道のトンネルでハンドル操作を誤りセンターラインを越え、対向車線の大型トラックに正面衝突し、脳挫傷により死亡した。	231	17	30～ 49
2012	7	8 ～ 9	新築工事現場において、2階床のコンクリートを打設するため、現場西側の公道上にコンクリートポンプ車を配置し、躯体側へブームを伸ばしたところ、ブームの先端が高圧電線に引っ掛かった。被災者が足場の最上層（わく組足場の6層目）で引っ掛かったブームを外そうとして、高圧電線を掴んだところ、感電して足場上に倒れた。	351	13	10～ 29
2012	6	16 ～ 17	体育館躯体解体工事現場において、強風による足場の倒壊を防止するため、足場と躯体を固縛すべく繊維ロープの取付け作業を行っている際に発生した。被災者は、高さ約13mの足場7段目若しくは8段目作業床から、手すり及び筋かいを乗り越えて躯体屋上の腰壁部分に移動しようとした際、躯体と足場の間から墜落し死亡した。	411	1	1～9
2012	6	9 ～ 10	新築マンション基礎工事のアース・オーガーでの土留め杭設置作業時、ドリルを低速回転させての掘削位置決定の際、杭つり上げ用の補巻きのフックが邪魔なため運転席正面右アウトリガーに固定させていた。補巻きのワイヤーロープがアース・オーガーのロッドに近接していたため、回転するロッドに絡まり強く引っ張られ、過重でアウトリガー固定金具が破損してアウトリガーが勢いよく機体側に折りたたまれ、被災者がはさまれた。	143	7	10～ 29
2012	6	10 ～ 11	被災者は解体工事現場で屋根のスレートをはがす作業中、スレートをはがした後、その下地の木工板にのってしまいこれを踏み抜き、約5mの高さから建屋外側のコンクリート土間に墜落した。	415	1	10～ 29
2012	8	15 ～ 16	SRC10階建の建物を5階建に改修する耐震補強工事において、7階スラブ上でコンクリート外壁（パイプスペース）部をワイヤーソーを用いて切断する運転作業を行っていたところ、ワイヤーソーのジョイント部より、金属片（ダイヤモンド入り）ビーズが外れ、被災者の右胸部に飛来し肺を貫通した。その後、直ちに救急搬送されたが、出血性ショックにより死亡し	521	4	1～9

			た。			
2012	6	15 ～ 16	倉庫の棟部に設けられた排煙用の開口部の木製ガラリ（羽板）を取り除き、FRP製の波板を取り付ける鉄骨の下地を既存の鉄骨に溶接するため、被災者は当該倉庫のスレート葺き屋根に上って作業していたところ、スレートを踏み抜き、約7m下へ墜落した。	415	1	1～9
2012	1	13 ～ 14	木製型枠を積載型トラッククレーンの荷台に積んで、資材置場に向かって県道走行中、積み荷が崩れそうになったため、被災者は路肩にトラックを止め、三段ある積み荷の最上層をクレーンで吊ったところ、二段目の型枠の束（長さ4m×幅25cmの木製型枠が約20束、重さ約200kg）が荷崩れし、その下敷きとなり死亡した。	212	4	10～ 29
2012	2	0 ～ 1	工事現場事務所に出張中、同現場事務所の会議席に着席したときに倒れ、救急搬送先の病院にて急性心筋梗塞により死亡した。被災者は高血圧等の所見があり、死亡直前に月約140時間の時間外労働を行っていた。	921	90	50～ 99
2012	2	7 ～ 8	現場管理者である被災者は、現場関係敷地内のトイレで倒れて死亡していたのを発見された。直接死因は「心のうタンポナーデ」（急性大動脈解離に伴い発症したもの）。なお、被災者には発症前1ヶ月間に100時間を超える時間外労働が認められた。	921	90	1～9
2012	2	10 ～ 11	新築工事現場（地下1階、地上2階）において、地下1階で作業を行うため、1階開口部に設置された移動はしごから地下に降りようとしたところ、誤って約3m下の地下1階床まで転落した。	414	1	1～9
2012	3	9 ～ 10	3階にてグレイチング付及び墨出し作業をしていたところ、被災者が何らかの理由により屋上へ上がり、パラペット上から約10m下に墜落した。	418	1	10～ 29
2012	3	14 ～ 15	7階建て建築物改修工事において、足場組立に従事する被災者は、屋上に設けられた手すりを乗り越え、約20m下の地上に墜落した。なお、安全帯は着用していたが、使用した形跡は確認されていない。	418	1	1～9
		11	被災者はスレート屋根の葺替え作業中、採光のために屋根に設けられた高			

2012	4	～ 12	さ約10mの強化プラスチック部から墜落した。	415	1	1～9
2012	4	～ 16 17	3階建て鉄骨S造の屋上防水工事中、被災者はトイレに行くため建物壁面に沿って設置されていた資材揚げおろしのための構造物（足場部材および電動ウィンチにより構成される）をつたって降りようとしたところ、高さ約9mの位置から足を踏み外して落下した。	419	1	1～9
2012	5	～ 17 18	被災者は業務を終了し、帰宅のため2F事務所の出入口から外部階段に通じる踊り場に出ようとしたところ、雨で濡れていたために転倒し、頸髄損傷により意識不明となり、救急搬送先の病院で死亡した。	417	2	1～9
2012	8	～ 11 12	被災者は同僚とともに、立体駐車場で15段目のパレット上で鉄骨などのボルトにさび止めの塗装をする作業を行っていた。その後、同僚が他の作業員を迎えに行くため昇降装置に乗り、地下1階まで下降させ、待っていた作業員を乗せて再び15段目のパレットの所まで上昇させたところ、被災者が15段目のパレット上でカウンターウェイトの防護カバーにもたれ掛って倒れていたのを発見した。	214	7	10～ 29
2012	9	～ 16 17	マンション外壁改修のための単管一側ブラケット足場の昇降設備として、単管を組み合わせたはしごを当該足場に組み立て中、はしごの踏さん（直交クランプで建地に緊結）の片方が外れ、そこに足をかけていた被災者が約6m墜落し、心臓破裂他で死亡した。	411	1	10～ 29
2012	1	～ 9 10	地上3階建ての新築工事現場において、建設用リフト及び当該リフト回りの外部足場解体作業を行っていた被災者は、足場の6段目（高さ約11m）において作業中、足場上から墜落した。	411	1	10～ 29
2012	2	～ 13 14	清掃工場屋上にベンチレーターを設置する工事において、ベンチレーター内部の塗装をするため内部に足を踏み入れたところバランスを崩し、ベンチレーター内部の開口部から約14m下にある建物4階箇所へ墜落した。	414	1	1～9
2012	1	～ 8	2階建軽量鉄骨造アパートの解体工事現場において、解体した資材を仮置き位置へ移動作業中、資材と共に重機が梁を引っ張ってしまい、2階外階段の床を支持していた鉄骨がたわみ、床が脱落、同床で溶断作業をしてい	418	5	10～ 29

		9	た作業員2名が墜落し、1名が死亡し、1名が重傷を負った。			
2012	2	10 ～ 11	屋上におけるケーブルラックの敷設工事中、休憩をするため、被災者は屋上から屋内の2階へ続くケーブルの引き込み口から入り、約80cm下の梁を渡り、床に降りるため、更に梁から約80cm下の枠組足場（4スパン2段）を通ったところ、足場の床の端から約4m下のコンクリート床に墜落し、重傷頭部外傷で死亡した。	417	1	10～ 29
2012	7	11 ～ 12	被災者は、工場屋根のスレートを交換中、スレートを踏みぬき、高さ約7mからコンクリートの床に墜落し、死亡した。なお、歩み板等は設けていなかった。	415	1	10～ 29
2012	3	5 ～ 6	社有車（ワゴン車）に5名の作業員が乗り込み、会社から当日の仕事先の建設現場へ向かっていた。片側2車線の幹線道路を走行中、緩い下り坂の緩い右カーブに差し掛かったところ、車体が右方向にスリップし対向車線へ飛び出した。そこへ、対向車線を走ってきた大型バスと正面衝突し、乗員1名が衝撃で車外に投げ出され死亡し、残り4名が重傷を負った。	231	17	10～ 29
2012	6	9 ～ 10	2層6連（高さ約3m、長さ約9m、幅約1m）の枠組足場を地上で組んで、クローラークレーンで吊上げ、既に構築された足場に設置する作業において、被災者は約30mの高さの足場上から地面に墜落した。なお、被災者は安全帯を装着していたが、足場上を移動するために親綱から安全帯を取り外した際、墜落した。	411	1	30～ 49
2012	9	16 ～ 17	被災者はコンクリート壁を解体中、6段積みされているブロックのうち一番下のコンクリート壁を壊し、鉄筋が見える状態してからエアカッターで鉄筋を切断している際、鉄筋が壁を支えられなくなり倒れ、逃げ遅れたため下敷きとなった。	418	5	1～9
2012	7	14 ～ 15	被災者は工事現場で土間の配筋作業中、「暑い、暑い」と声を上げ飲み物の自動販売機に向かって歩いていたら、突然倒れた。	715	11	1～9
		18	コンクリート打設作業を終了し、コンクリートポンプ車の生コンクリート			10～

2012	7	～	投入ホッパー部分の洗浄作業を行っていたところ、当該ホッパー内のスク 19	149	7	29
2012	6	～	18 資材センターにおいて、トラック荷台からの荷降ろし終了後、トラックが 前方へ逸走、置いてあったフォークリフトにトラックのドアが激突したた 19	221	6	10～ 29
2012	8	～	10 被災者は鉄骨平屋建ての商業施設新築工事において、躯体外部の鉄骨部材 の据え付け位置を微調整するため、地上から約5mの高さにある鉄骨部材 11	418	1	10～ 29
2011	2	～	15 現場の基礎工事において、ドラグ・ショベルによる掘削作業と、掘削後捨 コンクリートを打設するため砂利を敷き均し、打ち込んであった杭（パイ 16	142	6	30～ 49
2011	12	～	10 水道管敷設作業において、地山を深さ約2メートル、幅約1メートル、長 さ約8メートルにわたり、開削方法で掘削中、側面が崩壊して被災者が土 11	711	5	1～9
2011	5	～	17 地上6階、地下1階のRC造校舎の建築現場において、被災者は、地下1 階スラブ打設用のデッキスラブ（金属製の型枠）の設置作業を行った後の 片付を行っていた。17時50分頃、被災者が地下1階のデッキスラブの 18	414	1	1～9
2011	2	～	16 マンション新築工事の地中梁圧接作業の補助をしていた労働者が、高さ 17	419	1	1～9

2011	12	9 ～ 10	R C造14階建マンション新築工事において、南面7階付近の足場を解体中、足場上で2名の作業員が離合していたところ、安全帯を親綱から外した後踏み側の被災者がバランスを崩し、24m下の水路に墜落し、死亡したものの。足場上でバランスを崩し墜落した場所は、900mm幅の建枠に取り付けられていた階段を外し、その開口の一部を鋼製布板で養生していたものの、全面敷きされていない状況であった。	411	1	10～ 29
2011	6	6 ～ 7	雨の中を会社所有の2トントラックで移動中、高速自動車道下り線において、トラックがスリップし中央分離帯に激突し横転した。助手席に乗っていた被災者が死亡、外2名が負傷したものの。	221	17	1～9
2011	7	14 ～ 15	被災者は、排水管を敷設してマンホールに繋ぐ箇所をドラグショベルで深さ約1.6m、幅1.1m掘削した。被災者は、排水管敷設のため、この掘削した溝に入り底の整地作業している時、南側の土壁（約2立法メートル）が崩れ、ヘルメットの頂点が見える状態で頭まで土砂に埋まった。	711	5	30～ 49
2011	10	11 ～ 12	工場の屋根上に穴の開いた壁の改修作業に使用する丸太足場を組立てる作業を4名で行っていた。この丸太足場の昇降設備（タラップ）を取り付ける作業をしている時、被災者が屋根上（勾配15.8度）に置いていたタラップが滑り出したので、親綱から安全帯を外して追いかけたが、止まることが出来ず、高さ12.2mの当屋根の端からアスファルト地面に墜落した。	415	1	1～9
2011	11	16 ～ 17	工場内のサイロ・鉄骨・作業床等の解体工事のため、被災者が搭乗した搭乗設備（重量約100kg）を工場内の天井クレーン（定格荷重2.8t）で吊って溶断作業を行っていた。被災者は、当日の溶断作業が終了したので、一部作業床（約幅140cm、長さ400cm）が残っている箇所へ搭乗設備を降ろして、搭乗設備からフックを外して、搭乗設備から当作業床に移ろうとした時、搭乗設備と一緒に約8m下の2階床に墜落し死亡。	379	1	1～9
			積載型トラッククレーンを使用して、当該クレーンの荷台に据え付けてあったステンレス製還水タンク（高さ2m、奥行1m、幅1m、重量260			

2011	12	9 ～ 10	k g) を、隣に駐車させたトラックの荷台に積み込み、その後、当該トラックの運転席の屋根（高さ1.96m）に上がって作業を行った後、当該クレーンの荷台の方向を向いた形で当該クレーンのあおりに覆いかぶさっているところを発見された。（どのようにして転落したのかは不明。）	221	1	10～ 29
2011	10	11 ～ 12	鉄骨、スレート屋根の駐車場を解体するため、手ばらしでスレート屋根の解体を行っていた。被災者は地上で片付け等の雑作業を行う作業員であったが、休憩時間中に屋根の上に登っていたので、地上で休憩していた職長が降りるように指示をした後、スレートを踏み抜き約4.5m下に墜落した。スレートに歩み板はなく、3本親綱が張られているのみで、被災者は安全帯を所持していなかった。屋根の鉄骨梁の幅12.5cm。	415	1	1～9
2011	3	19 ～ 20	被災者ら3名がトラック（4tユニック車）に乗車し、工事現場から帰社途中にトラックの前輪右側のタイヤが破裂したため、スペアタイヤへの交換作業中、後方より走行してきた軽自動車にはねられた。搬送先の病院で死亡が確認された。	231	17	1～9
2011	3	19 ～ 20	被災者ら3名がトラック（4tユニック車）に乗車し、工事現場から帰社途中にトラックの前輪右側のタイヤが破裂したため、スペアタイヤへの交換作業中、後方より走行してきた軽自動車にはねられた。搬送先の病院で死亡が確認された。	231	17	1～9
2011	9	8 ～ 7	現場へ向け2台に分乗し出発。道路を走行中に先頭車両から後続車両へ連絡事項が生じたため左路側帯に先頭車両と後続車両が続けて停車し、会話をしていたところ、後続車両の後方部に大型トラックが衝突し、先頭車両と後続車両間にいた河野が挟まれ死亡、他2名が巻き込まれ負傷したものの。	221	17	1～9
2011	11	16 ～ 17	被災者及びフォークリフト運転者の2名で、前日に解体し、仮置きしていた柱システム型枠を次の設置場所へ移動するため、型枠をフォークリフトの専用アタッチメントに固定しようと、被災者がフォークリフト本体とマストの間に入り、金物を締め付けをしていたところ、被災者の尻部が	222	7	10～ 29

			フォークリフトの操作レバーに接触し、マスト部分が後方に傾斜し、頭部がマストとヘッドガードに挟まれた。			
2011	9	9 ～ 10	病院棟新築工事現場において、足場（工事用エレベーターのガイドレール支柱保持用の枠組足場）の外部側面防護ネット（メッシュシート）取付作業中、足場6層目（布板高さ8.8m）より、墜落した。（9月16日雇入れ、2日目の作業）10時52分死亡	411	1	30～ 49
2011	11	10 ～ 11	高所作業車で配管作業中、近くのプレス移設作業で使用されていた天井クレーンのガーターが当該高所作業車に接触し、同作業車が転倒し、同作業車の高さ約8メートル作業台上で作業をしていた被災者が、作業台とともに地上に激突、死亡したものの。	211	6	1～9
2011	2	10 ～ 11	12階建てマンション建築工事のクライミングクレーン（クライミング前は4マスト）のクライミング作業（3マスト追加）において発生。被災者は職長でありクレーン操作者。2マスト目を設置する際に地上で地切り後フロア上では強風のため作業中断を判断し5分ほど待機した。その後風が弱まり作業を開始した。マストを据え付けようとしたところ、マストが必要以上にガントリー側に振れウインチ付近にて操作していた被災者に激突した。	211	6	10～ 29
2011	8	8 ～ 7	出勤後、大学研究実験棟南棟屋上防水改修工事の現場に向かう途中の交通事故。高速道路の198kmポスト付近で中央分離帯の側溝部にぶつかり横転し、死亡した。	231	17	1～9
2011	9	18 ～ 19	被災者が一人で工事現場から軽トラックで会社へ帰る途中、川の堤防でダンプと正面衝突し、全身を強く打って死亡。なお、ダンプの運転手（自営）、被災者の後ろを走っていた乗用車の男性、ダンプの後ろを走っていたオートバイの男性、計3名が軽傷（全員通勤途中）。	221	17	10～ 29
2011	12	6 ～	市内の営業所から、労働者3名がワンボックスカーに乗り、市内の工事現場に向かうため高速道路上り線追い越し車線を走行していたところ、中央分離帯に乗り上げスピンし、走行車線を並走していた大型トラックと衝突、横転し後部座席にいた被災者が投げ出され胸部圧迫により死亡し、ま	231	17	30～ 49

		7	た、運転席、助手席に乗車していた2名の労働者も、肋骨を骨折する等の休業災害となったもの。			
2011	7	13 ～ 14	小学校の耐震補強工事現場において、校舎2階西側にある理科準備室のコンクリート壁を1段だけ組み立てた枠組足場の上で手持ち式のコンクリートブレイカーを使用して斫る作業中、作業者がバランスを崩して約1.7mの高さから後ろ向きに床へ墜落した。意識もはっきりしていて、後遺症が残る可能性がある程度のものであったが、平成23年9月19日になって死亡したもの。	411	1	10～ 29
2011	12	8 ～ 9	平成23年12月20日午前8時50分頃、高速自動車道上り線のIC付近のパーキングエリア入口で、建築用の足場を積んだ3トントラックが左カーブを曲がりきれず、道路右側のガードレールを突き破って横転し、運転していた被災者が死亡し、助手席にいた被災者が全身打撲で負傷したものの。	221	17	1～9
2011	2	13 ～ 14	RC壁柱（プレキャストコンクリート（PC）板（サイズ2540×880×200mm、重量980kg）をスリット状に建て込む構造の不連続壁）を築造するため、PC板を据え付け、控えサポートを設置後、クレーンの吊りワイヤロープの玉外しをしたところ、PC板が倒壊し、近くで次のPC板の建て込み準備作業をしていた被災者が下敷きとなったもの。	418	5	30～ 49
2011	6	8 ～ 9	簡易枠の外部足場上（6段目）で、外壁の型枠パネルの取り外し作業を行っていた被災者が、足場と躯体の間の1.4メートルある隙間から6.8メートル下の建物外階段の2階踊り場に墜落した。	411	1	1～9
2011	8	10 ～ 11	S造平屋建ての工場増築工事において、朝9時から1階コンクリート土間打設作業を行っていたところ、バイブレーターを使用してコンクリートのならしを行っていた被災者が10時半頃に体調が悪そうのため、職長が休憩を指示した。しかし、その後も体調が回復しないため、病院に搬送して治療を行ったが、21時07分に死亡したもの。	715	11	100 ～ 299
			マンション建築工事における、基礎工事中に発生した災害。被災者は、			

2011	10	10 ～ 11	深さ約1.9mに掘削された箇所の清掃作業を一旦終え、休憩のため地上に上がろうと、地面に手をかけ、柱鉄筋の上端に足を乗せて掘削箇所から直接地上に上がろうとしたところ、何らかの理由で足を滑らせ、柱鉄筋に右太ももを刺し貫かれ死亡したものの。	419	2	1～9
2011	10	8 ～ 9	当該事業場前の道路にトラックを止めて、フォークリフト運転手と協力して資材の積み込みを行っていた。被災者は荷台上で待機し、荷の積み込み後に固定作業を行う予定であった。最初の荷を積み込んだフォークリフトが転回し事業場内に戻ろうとしたところ通りがかりの自動車の運転手から「落ちたぞ」と声をかけられ、振り向いたところ、道路上にあおむけに倒れている被災者を発見した。	221	1	1～9
2011	5	13 ～ 14	地上2階、地下4階建て建築物の新築工事現場において、ドリリングバケットを装着したくい打機での掘削作業を終えて、バケットを砂礫層掘削用バケットに交換するため、くい打機のオペレーターが被災者に、くい打機を旋回させて良いか確認をした後に、上部旋回体を旋回させていたところ、被災者が杭穴への墜落防止用の手すりとかい打機のカウンターウエイトとの間にはさまれた。	143	7	10～ 29
2011	5	11 ～ 12	枠組足場解体作業中において、最上層で解体した鳥居枠2つを背負うように持って運んでいた労働者が、当該足場から地面まで墜落したものの。墜落高さは37.5m、安全帯を着用していたが、被災者が移動していたと思われる箇所には、安全帯を取り付ける親綱等が設置されていなかった。	411	1	30～ 49
2011	7	11 ～ 12	屋根上で足場の部材を人力で運搬していたところ、屋根上にある天窗を踏み抜き高さ約1.1mを墜落した。	415	1	1～9
2011	9	13 ～ 14	鉄骨造ビルの新築工事に伴う機械式立体駐車場の設置工事において、被災者ほか1名が、立体駐車場の昇降路内に設置されたゴンドラに搭乗して昇降路の柱を組立てていたところ、ゴンドラの吊元金物の固定ボルトが昇降路天井スラブ下から抜け落ち、高さ約10mのところからゴンドラが落下し、被災者ほか1名がゴンドラと共に墜落した。	216	1	1～9

2011	9	3 ～ 4	高層棟1Fテナント用バックヤードにおいて、被災者が梯子を使用して非常用照明器具（100V）の設置作業中に感電し、意識がない状態で天井配管に取り付けした安全帯からぶら下がっていたのが発見された。その後被災者は病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。	351	13	1～9
2011	9	9 ～ 10	被災者は、揚重作業中のタワークレーン上において、巻上ドラムと起伏ドラムとの間で、機器（クレーンの旋回状況を現場事務所でモニタリングするためのも）の配線作業を行っていたところ、起伏ドラムが回転し、起伏ワイヤーの尻手部分が被災者の安全帯のロープ部に引っ掛かり、起伏ドラムとタワークレーン床面との間に体ごと巻き込まれた。	211	7	30～ 49
2011	12	13 ～ 14	被災者は、地上から高さ5m17cmの底上（2階スラブ）において、仮置きした足場材の荷降ろし作業を行っていた際、当該箇所から墜落した。なお、当該スラブ端には、高さ75cmの親綱が張られていた。	416	1	1～9
2011	10	13 ～ 14	台風15号により屋根の損傷が生じ、その復旧工事作業中の災害。損傷した屋根材を撤去し、撤去後の梁上での作業中に墜落。地上から梁上までの高さは約5.5m。	415	1	1～9
2011	10	13 ～ 14	足場材の資材置場にて、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を使用し、結束された足場材60枚（835kg）をトラックの荷台から降ろす際にトラックのタイヤが浮き、ゆっくりと転倒した。なお、転倒した際に5段ブームのうち、4段ブームが被災者の脊髄を押しように激突した。	212	6	1～9
2011	2	10 ～ 11	倉庫スレート屋根塗装工事において、被災者が休憩のために作業場所から昇降設備（はしご）まで屋根上を移動中、スレート屋根を踏み抜き、約7メートル下の地面まで墜落したもの。	415	1	1～9
2011	8	15 ～ 16	壁面のALCボードの取り外し作業の後、H鋼の枠により自立していた鉄製の開閉扉の固定状態（上部H鋼溶接不十分）が不安定であり、また下部溶接部も簡易なもので経年劣化していたため、4人の人力により早急に取り外しを行おうと、2人が枠組みの両脇を支え、1名が徐々に力を加え枠組みごと溶接部より切り離し体育館床に押倒そうと降下させていたとこ	418	5	10～ 29

			ろ、急に下部溶接部が切り離れ、反対側で支えていた労働者の上に崩落したもの			
2011	12	16～17	鉄骨造平屋建て建屋の改修工事において、鉄骨の塗装作業を2名で行っていた。建屋の外部と内部に足場を組み、これに上がって作業を進めていた。1名が作業していたところ、背後で「ドサッ」という音がし、振り返ると被災者が地面に倒れていた。救急車が到着した時点で心肺停止の状態で、2日後の26日に搬送先の病院で死亡が確認された。	411	1	1～9
2011	2	11～12	倉庫改修工事において、スレート屋根の撤去作業中、作業床として使用していたアルミ製道板（幅：25cm・長さ：2m）を盛り替えようとしたところ、誤ってスレート屋根に足を着いたため、踏み抜き、高さ3.92mからコンクリート床に墜落し、直ちに病院に搬送されたが、平成23年2月26日午後0時52分に死亡した。	415	1	1～9
2011	1	13～14	気象観測用鉄塔を上部から約4～6mづつに切断しての解体作業中（当初高さ216m、災害発生時高さ56m）、被災者は高さ50mに位置する踊り場においてU字つり専用安全帯を直径30cmの鉄柱に回し鉄骨等の溶断作業に従事していたが、その鉄柱にクレーンで吊るためのシャックルを通し穴を加工中、溶断時に発生する溶解した鉄の滴が安全帯のランヤードのロープ部にかかり、その熱がロープを浸食し切断、地上に墜落したものの。	418	1	10～29
2011	12	15～16	建築中のメタン発酵槽コンクリート躯体に設け、コンクリート打設したメンテナンス作業架台（庇状のコンクリート構造物のもの）の脱型のため、パイプサポートを外し1名が構造物の上で、1名が下で型枠材を取り外していたところ、アンカーボルトが躯体から抜け構造物が落下、その下敷きになった。	418	5	1～9
2011	4	8～9	ビルの外壁補修工事に使う足場を組み立て作業において、足場15層目と16層目の間（高さ約28m）に滑車を設置し、地上から建地2本（1本当り重量12.8kg、長さ3.6m）をロープで揚げていたところ、ロープの結び目が解け建地1本が落下し、地上の作業員の頭部に当たった。	379	4	1～9

2011	5	9 ～ 10	震災復旧工事の班長として作業場所の巡視中、津波によって蓋がずれていた開口部から、約6m下の地下ピットに墜落した。（推定）	414	1	50～ 99
2011	10	15 ～ 16	鶏舎（鉄骨平屋建120坪）の解体作業を被災者を含む3名の労働者で作業中、解体した柱の部分（幅17cm、長3mのH鋼、重量50kg程度）をスリングを使用しグラップル（バケットに交換し車両系建機に転用可能）で吊り上げるため、被災者がスリングのアイの部分グラップルに掛けたときに、グラップルのオペレーターは被災者が退避したと誤ってグラップルを閉じたため、被災者の頭部がグラップルに挟まれた。	149	7	30～ 49
2011	7	8 ～ 9	被災者は、タワークレーンのクライミング時に使用した鉄骨仮設梁（H鋼1195×400×9000（mm）、重量4トン。以下「鉄骨という。」）をトラック荷台上に積み込む作業において、合図、誘導、玉外し作業を行っていた。2本目の鉄骨をトラックに積み込む際、タワークレーンで吊り下ろしてきた鉄骨が横ぶれし、トラック荷台上にいた被災者が、鉄骨とトラックのあいだの間にはさまれたもの。救急車搬送後、同日死亡。	211	7	1～9
2010	12	10 ～ 11	卸売市場内の立体荷捌場建設工事現場において、緊結されたパネル（1t、35枚）をラフタークレーン（つり上げ荷重25t）で荷上げ中、地上から約11mの地点で、玉掛け用ワイヤーロープのフックに掛けられたナイロン製スリングのアイ部分が突然フックから外れたため荷崩れを起こし、トラックの荷台上で玉掛け作業のため手待ちしていた被災者の頭部に落下し、頭部骨折により翌日の未明に死亡したもの。	611	4	1～9
2010	12	14 ～ 15	新築工事に伴う既存の鉄骨平屋建て倉庫の解体作業において、屋根に親綱ロープの取り付け作業中、当該屋根の波板スレートを踏み抜き、高さ約5.6mから倉庫内コンクリート床面に墜落した。歩み板等を設けていなかった。	415	1	10～ 29
		7	被災者ら4名は資材置場に集合し、ワゴン車（社有車）に乗車して工事現場に向かい片側1車線の見通しの良い直線道路を走行中、凍結路面でス			

2010	12	～	8	リップして対向車線にはみ出し、対向してきたダンプトラックと正面衝突し、3名が死亡し、1名が休業した。ダンプトラックの運転手は不休で、ワゴン車の後続の乗用車がワゴン車に追突し運転者は軽傷。	231	17	10～ 29
2010	12	～	7	被災者ら4名は資材置場に集合し、ワゴン車（社有車）に乗車して工事現場に向かい片側1車線の見通しの良い直線道路を走行中、凍結路面でスリップして対向車線にはみ出し、対向してきたダンプトラックと正面衝突し、3名が死亡し、1名が休業した。ダンプトラックの運転手は不休で、ワゴン車の後続の乗用車がワゴン車に追突し運転者は軽傷。	231	17	10～ 29
2010	12	～	7	被災者ら4名は資材置場に集合し、ワゴン車（社有車）に乗車して工事現場に向かい片側1車線の見通しの良い直線道路を走行中、凍結路面でスリップして対向車線にはみ出し、対向してきたダンプトラックと正面衝突し、3名が死亡し、1名が休業した。ダンプトラックの運転手は不休で、ワゴン車の後続の乗用車がワゴン車に追突し運転者は軽傷。	231	17	10～ 29
2010	12	～	8	学校校舎解体工事において、被災者が機体重量15tのドラグショベルを運転して高さ約3m、角度20度のコンクリートガラの斜面を登っていたところ、ドラグショベルのアームを上げて折り曲げた状態であったため、斜面を登るにつれ重心が後方へ移動し、当該ドラグショベルが後方へ転倒した。この際、背中への損傷し、脳内疾病を併発して3日後に死亡した。被災者は車両系建設機械について3t未満の特別教育を受講していたが、技能講習は修了していなかった。	142	2	10～ 29
2010	12	～	16 17	鉄骨造2階建の事務所新築工事現場において、下請の労働者が、型枠材の解体作業中、1階の建物の中から型枠材を持って建物の外へ搬出しようとした際、出口でつまずいて転倒し、出口付近の基礎から上方に出ていた鉄筋（長さ約40cm）が、被災者の顔面に刺さり死亡したものの。	417	2	1～9
2010	11	～	15	倉庫の増築工事現場において、鉄骨建方中に被災者が梁の上に乗り、取り付け付けた振れ止め（小梁）の寸法が合わなかったことからハンマーで叩いて取り外していたところ、振れ止めが外れた拍子にバランスを崩し、振れ止	415	1	1～9

		16	めと一緒に約6.6mの地上に膝から墜落し、死亡したものの。被災者は安全帯は着用していたが、使用はしていなかった。親綱の持ち込みを待たずに作業を始めていたもの。			
2010	11	14 ～ 15	校舎建替工事現場において、5階の内部足場上で柱の型枠組立作業中、バランスを崩して3層目の枠組足場（高さ3.8m）から墜落したものの。	411	1	30～ 49
2010	11	8 ～ 9	7階建てマンションの外壁修繕作業のため、当該マンションの外周に設置されているわく組足場の8段目付近（高さ約14m）にいた被災者が、足場を伝い7段目に降りようとし外側の筋交いとメッシュシートの間隙に身体を入れた際に体勢を崩し、足場外側面に張られたメッシュシートを破り、道路上に墜落したものの。	411	1	1～9
2010	11	9 ～ 10	鉄筋コンクリート造のアパートの解体工事において、解体したコンクリートの廃材を搬出するためドラグショベルでトラック（積載荷重10t）に積み込む作業中、トラックの運転手である被災者の姿が見えないことを不審に思ったドラグショベルのオペレーターがトラックの近くに行ったところ、トラックの横で倒れている被災者を発見した。倒れていた場所等から判断してトラック荷台のステップを昇ろうとした際に墜落したとみられる。3日後に死亡した。	221	1	10～ 29
2010	11	13 ～ 14	会館事務所の改修工事において、既設の窓を新しい壁の窓として流用するため、窓枠と柱との取付けされた鉄筋を切断しようとグラインダーを使用していたところ、グラインダーが反発してグラインダーの砥石が被災者の胸に接触して死亡した。	153	8	1～9
2010	11	13 ～ 14	足場上で、H鋼の柱の最上部の位置（高さ9.1m）のボルトをレンチで締める作業をしていたところ、ボルトからレンチが外れたため、バランスを崩し、後方の手すり（床面からの高さ45cm）を乗り越え、約7.5m下方のコンクリート床面に墜落し死亡した。	411	1	10～ 29
		9	エコシステムの増築工事において、サッシの取り付け作業を行っていた。被災者は作業場所に向かう途中、雨水のたまった通路を避けようとし、通			

2010	11	～ 10	路わきの雨水ピット端のコンクリート天端を歩いていたところ、深さ約3.8mの雨水ピットに墜落し、溺れて死亡したものと推測される。	417	10	1～9
2010	10	～ 16	事業場の資材置き場にて、労働者がフォークリフトを使って廃棄物の運搬作業中、フォークリフトを後退させたところ、すぐ後ろで作業をしていた被災者が轢かれ、死亡した。当初は、被災者がフォークリフトを運転していたが、前輪がぬかるみにはまったため、運転を交代していた。運転者は無資格であった。	222	7	10～ 29
2010	9	～ 16	RC2F建物新築工事において、うま足場の作業床上（高さ1.4m）で壁配筋作業中、うま足場の作業床と配筋作業箇所との間に間隔があり、身を乗り出して作業していた際に転落し、左胸部に鉄筋（直径10mm）が刺さり、死亡したものの。鉄筋に鉄筋保護キャップは取り付けられていなかった。	411	1	10～ 29
2010	9	13 ～ 14	被災者が鉄塔の作業床を解体する作業を行っている際に、作業床の端から安全帯と共に、約25m下の建築物屋上に墜落し死亡したものの。被災者使用の安全帯は、キーロック仕様の胴綱に接続していたものの、胴綱ごと墜落したものの。	418	1	10～ 29
2010	9	9 ～ 10	ビル新築工事現場において、9階床のコンクリート打設作業に伴い、生コンクリートが落下することにより外壁材が汚れることを防止するため、5階作業床の端で外壁材の上面に養生シート張り作業（1名がシートを延ばし、もう1名がテープで固定）を行っていたところ、外壁材の切れ目の作業床の端から3階外部足場へ墜落したものの。作業床の内部側には手すりが設けられていたが、被災者が安全帯の架け替え時に墜落したとみられる。	416	1	1～9
2010	9	9 ～ 10	建屋屋上のコンクリート打設に使用したプロペラ（コンクリート均し機械）を現場近くの材料置き場に保管していたので、被災当日、取りに行き、トラックに載せた後、コンクリート打設状況を見ようとして足場を昇り、足場から屋上に移ろうとした時、約7m墜落したものである。	411	1	1～9
			建築工事現場での作業を終え、事業場所有のワゴン車に2事業場8名の労			

2010	8	17	働者が相乗りして事業場に戻るため、高速自動車道の追越車線を走行中、	231	17	30～
		～	緩い左カーブの下り坂で右後輪がバーストしたことによってバランスが崩			49
		18	れ、蛇行した後に横転して2列目の座席に乗っていた2名が死亡した。死			
			亡した2名の他、ワゴン車に乗っていた6名が負傷している。			
2010	8	17	建築工事現場での作業を終え、事業場所有のワゴン車に2事業場8名の労	231	17	10～
		～	働者が相乗りして事業場に戻るため、高速自動車道の追越車線を走行中、			29
		18	緩い左カーブの下り坂で右後輪がバーストしたことによってバランスが崩			
			れ、蛇行した後に横転して2列目の座席に乗っていた2名が死亡した。死			
			亡した2名の他、ワゴン車に乗っていた6名が負傷している。			
2010	8	13	高速道路サービスエリア内の商業施設改築工事現場内において、昼過ぎ、	715	11	1～9
		～	被災者が、休憩所から作業場所まで工具を持って移動していたところ、熱			
		14	中症により現場通路の途中で倒れ、それを他の作業員が発見し、救急車に			
			より病院へ搬送したが死亡が確認された。			
2010	8	11	建設共同企業体が施工する「中学校耐震補強工事」現場において、外付け	411	1	1～9
		～	耐震補強ブレスの型枠脱型工事施工後、同ブレスに塗装下地処理をしよう			
		12	として被災者が外部足場に上った後、誤って外部足場3層目から地上へ墜			
			落したもの。			
2010	8	0	被災者は建築工事現場において、2階渡り廊下の鉄骨にサッシを取り付け	999	1	10～
		～	るための下地をアーク溶接により取り付ける作業を行っていた。昼休みに			29
		1	なるため、作業を一旦中断した後、何らかの原因で2階渡り廊下の開口部			
			分もしくは足場から墜落したと推定される。昼休み後、地面に倒れている			
			被災者が発見され、病院で死亡が確認された。目撃者はいない。			
2010	8	14	地上14階地下1階建てビルの新築工事現場において、基礎杭打設用の立	372	4	10～
		～	坑内の泥水置換に使用した泥水排出用鉄製パイプ（長さ約11m、直径1			29
		15	5cm、重量約175kg）1本をクローラクレーンで坑内から吊り上			
			げ、同パイプの端を地面に接地させ並べようとした際に、同パイプを玉掛			
			けしたワイヤロープがフックから外れ、倒れてきた同パイプが被災者の頭			
			部に当たったもの。			

2010	8	15 ～ 16	災害発生当日は、被災者を含む4名で、9階スラブコンクリート打設作業を行っていた。打設作業が終了したため、4名が地上へ移動する際、被災者を除く3名は内部階段で移動した。被災者が戻ってこないで、代表者が携帯電話で被災者を呼び出すが応答がなかった。その着信音に気づいた別会社の作業員が、外部足場の2層目仮設階段部に上向けて倒れている被災者を発見した。熱中症とみられる。	715	11	1～9
2010	8	11 ～ 12	病院の内装工事で撤去しようとしていた壁（コンクリートブロックを積み上げモルタルで固めたもの。一部に鉄筋が入り）が天井から離れて下に垂れ下がってきたので、その壁を被災者他4名で支えようとしたところ、壁が突然作業側側に倒れてきて、被災者が倒れてきた壁に激突されて死亡したものの。	418	5	10～ 29
2010	8	17 ～ 18	外壁改修工事において、既存のタイル壁に下地となるセメントを塗る作業中、単管足場（一側足場）の鋼製布板上（高さ1.94m）で作業していたところ、墜落したものの。病院に搬送されたが、約10日後に死亡が確認された。	411	1	1～9
2010	8	13 ～ 14	S造1階建工場のスレート葺屋根上（棟高6.5m）において、スレート板と梁を結ぶフックを切断する作業を行っていたところ、被災者（安全帯・保護帽着用）がスレート板を踏み抜いて地面（コンクリート土間）に墜落したものの。歩み板や防網の設置等の踏み抜き防止措置が講じられていなかった。	415	1	30～ 49
2010	7	9 ～ 10	工場（S造平屋建）解体工事現場において、25tラフタークレーンを用いて、鉄骨の梁（H鋼、重量約1t）を2本つり上げて左旋回中、ブーム全体が右方向にしなりだし、慌てて右旋回をしたところ、補助ジブ（2段）の先端側の根本部分から折れ曲がったため、つり上げていた鉄骨の梁が、次の鉄骨のボルトを外していた被災者に落下したものの。移動式クレーンの定格荷重を超えたとみられる。	212	4	1～9
		14	増築工事現場において、外壁用のセメントボードに穴を開け、金具を取り付ける作業を屋外（気温約33℃）で行っていた被災者が、体調が悪い旨			

2010	7	～	を職長に申し出て、現場から約70m離れた散水用の蛇口付近で休憩を取ろうと座ったところ、そのまま仰向けに倒れ意識を失った。搬送先の病院において治療を受けていたが、翌日熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2010	7	～	ビルの屋上において、塔屋周りに足場を組み立てる作業中、午後の休憩時にふらふらして水分を取ることもできない状態となり、被災者のために用意した飲み物を首の回りなどにかけて少し休ませたが、約1時間後にけいれんしていたため、病院へ搬送した。翌日、搬送先にて熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2010	6	～	コンテナボックスを積んだトラックが地下道（制限高3m）を通過する際、荷台部分（高さ3.5m）が地下道天井部分に衝突した弾みで荷台の扉が対向車線にはみ出して開き、反対方向から走行してきた被災者が運転する車のフロント部分を突き破って被災者の顔面を直撃した。被災者は顧客宅へ向かう途中であった。	231	17	30～ 49
2010	6	～	鉄骨・コンクリート造の工場解体工事現場において、地上から高さ約5mの鉄骨の梁を溶断するために、解体用建設機械のアタッチメント（鉄骨カッター）の上に労働者が乗って（用途外使用）溶断を行っていた際、家屋上部から落下物（コンクリート片）が溶接中の労働者に当たったため、バランスを崩して約3m下の地面に頭から墜落した。作業計画とは異なる解体方法であった。	418	4	30～ 49
2010	5	～	圧延工場のスレート屋根の葺き替え作業を行っていたところ、墜落防止措置を講じておらず、被災者がスレート屋根を踏み抜いて高さ8.4mから墜落し、搬送先病院にて死亡したもの。	415	1	1～9
2010	4	～	仮設倉庫の建設工事現場において、屋根材（単管）の組み立て作業を行うため、高さ約3.6mの足場（ビディ枠（600枠）を2段1層で組んだ物）の上で作業していたところ、足場の構造（滑動防止措置、つなぎ・控え等の倒壊防止措置）の不備によって倒壊し、労働者が墜落し、死亡した。被災者は、保護帽、安全帯ともに着用していなかった。	411	1	1～9
			工事現場において、被災者が作業中に突然うめき声をあげ倒れた。倒れた			

2010	4	10 ～ 11	被災者の傍らには通電中のアーク溶接用ホルダーが落ちていた。被災者は救急車により病院に搬送されたが、翌日死亡した。なお、アーク溶接作業は有資格者である労働者が行っており、被災者は溶接作業に係る準備を行っていた。死因が電撃症であることから被災者が通電中のアーク溶接用ホルダーに接触したことにより感電したとみられる。	332	13	0
2010	3	16 ～ 17	4階建てマンション外壁塗装工事を行う現場において、マンション建屋内の吹き抜け部分の内部足場の組立てを行っていたところ、高さ13mの吹き抜け最上部であるマンション屋根上より1階床面に墜落した。なお、災害発生時マンション屋根上に被災者以外の労働者はいたが、直接状況を目撃した者はいない。	414	1	1～9
2010	3	16 ～ 17	被災者は、鉄骨造家屋新築工事において、高さ6.25mの梁の上でプレートを取り付け作業を行っていたところ、足を滑らせて同所より墜落し、首を損傷した。病院に搬送され治療を受けていたが、2カ月半後に死亡した。なお、作業箇所には足場や防網、安全带取付設備等は設置されておらず、安全带も使用されていなかった。	418	1	10～ 29
2010	3	11 ～ 12	被災者は、スポーツセンター内の体育館天井裏にて、漏水調査の作業を行っていたところ、バランスを崩して天井裏の梁の上から落ち、天井板とともに12.5m下の体育館床に墜落した。本作業は、以前に行った防水工事の保証期間中であり、発注者から保証の対象となるかどうか調査の依頼を受けて、事前調査として行った出張作業中に発生したもの。	418	1	10～ 29
2010	2	8 ～ 9	建設会社のヤードで、型枠材料をつり上げ荷重2.9tの車両積載型トラッククレーンでつり上げ、トラック荷台に積み、被災者がワイヤーのフックを外して、荷台から降りようとしたところ、1.6m×6.3mの型枠材がバランスを崩して倒れ、被災者に激突、型枠材の下敷きになったもの。	529	5	10～ 29
2010	2	11 ～	屋内立体駐車場内部足場の解体作業中、他の労働者ととともに巻上げ機を使用して解体した足場の材料をつり降ろす作業を行っていた被災者が、躯体の梁上でかいしゃくロープを持っていたところ、約35m下の1階床面ま	418	1	1～9

		12	で墜落したものの。			
2010	2	11 ～ 12	建物7階仮設エレベーター開口部で、仮設エレベーターのジャバラゲート 取替作業中、被災者がジャバラゲート取付用単管パイプのクランプを取り 外していた際、バランスを崩し、7階床から3階床レベルに停止中の仮設 エレベーター屋根部に墜落した。安全帯を装着していたが使用していな かった。	414	1	1～9
2010	1	9 ～ 10	鉄骨造2階建事務所の新築工事において、高さ1.75mの位置のウマの 足掛りに乗り、アーク溶接で建屋内部の鉄骨にピースを取り付けする作業 を行っていたところ、十分な幅を有する作業面がなくバランスを崩して墜 落し、コンクリート製の床に頭部等を打ちつけ被災した。被災の翌々日 に、収容先の医療機関において死亡したものの。	371	1	1～9
2010	1	14 ～ 15	鉄骨造り平屋建ての店舗の新築工事現場にて、鉄骨工事を請け負っていた 事業場の労働者が柱材である角パイプを固定させるための胴縁ピースとい うアングルを枠組の外部足場の2層目（高さ約3.5m）の足場上で取り 付ける作業をしていたところ、当該足場より躯体側に墜落したものの。足場 の躯体側には筋交いは設けられていたが、墜落を防止するための下さんや 幅木などが設けられていなかった。	411	1	10～ 29
2010	1	15 ～ 16	電柱1本（長さ約12m、重さ約850kg）をクレーン機能付きドラグ ショベルにてバケット背面のフック（外れ止め装置あり）へワイヤロープ 1本による1本吊りをして設置位置に建柱作業していた。位置調整時、吊 り荷が想定外の方向へ傾き、アイが外れ止め装置とフックとの間隙をすり 抜け、吊りワイヤロープがよじれたため、アイがフックから外れた結 果、電柱が倒れ、付近にいた電気工が下敷きになったものの。	142	5	1～9
2010	1	7 ～ 8	RC造5階建ての共同住宅新築工事現場において、元請の職員が屋上のパ ラペットから約15m下の地面に墜落したものの。当日は関係会社が実施す る建物検査が予定され、被災者はその準備のため、竣工した建物の点検・ 清掃業務を行っていたものと思われる。	418	1	10～ 29

2010	1	17 ～ 18	4 tトラックの荷台に型枠支保工の材料を高さ約3 m積み、トラック荷台後部から資材がはみ出したのではみ出した部分に赤い布を取り付けるため、暗闇の中、荷の上に乗れり取り付け作業中、墜落したもの。	221	1	1～9
2009	9	13 ～ 14	高架橋建設現場において、足場等組立作業主任者の指示に従い、つり足場の解体作業をしていた被災者が移動中に足場から8m下のアスファルト道路に墜落した。	411	1	1～9
2009	5	17 ～ 18	RC造地上6F、地下2F建ての建築工事現場において、枠組足場の組み立て作業を終了し、躯体（6階床）から、枠組足場へ両手に荷物を持って移動するため、枠組足場内側の高さ55cmの位置に番線で固定された9×9cmの角材に右足をかけたところ、バランスを崩し、枠組足場外側の筋かいの下部からすり抜け、13m下の岩盤に墜落し、さらに3m下のくぼ地に墜落した。	411	1	1～9
2009	4	10 ～ 11	鉄骨造倉庫の移設工事現場において、移設した倉庫の屋根部分にスレート板を設置する作業中、鉄骨梁の上で作業を行っていた被災者が4.8m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2009	11	8 ～ 9	被災者は2tダンプを運転し、牛舎工事現場に向かっていたところ、左急カーブの上り坂において、被災者が運転していたダンプが中央線をはみ出し、対向してきた4tトラックと正面衝突した。被災者は搬送先の病院で死亡、4tトラックの運転者は負傷した。	221	17	1～9
2009	12	13 ～ 14	RC造地上7階建てマンション新築工事において、被災者は屋上の防水工事を2次下請、3次下請の作業員4人と共同で行っていた。施工内容は、ボンドで長さ10m、幅1.2mの塩ビシート（防水シート）を貼り付ける作業で、屋上平面部分を施工後、パラペット立ち上がり部分を施工するため、被災者は塩ビシートを後ろ向きに歩きながら並べていたところ、背後のパラペット部に気付かず、20m下の地面に墜落した。	418	1	1～9
		11	杭打工事（全周回転オールケーシング杭口径φ2300）を行っていたところ、クラムシエルのハンマーグラブ（φ2000、重量5t）上部の掘削バケット開閉連結治具（セントラルチェーン）のリンクがねじれ、巻き上げ			10～

2009	8	～ 12	困難となったため、ハンマーグラブを地面に降下させ、被災者含め2人で修復作業を行っていたところ、不安定であったハンマーグラブが回転しながら横倒しとなり、付近で作業をしていた被災者が下敷きとなった。	142	6	29
2009	1	～ 18	工事現場の掘削土が現場内に駐車する車両を介して、現場に隣接する国道を汚していたので、被災者がハイウォッシャーにより道路を洗浄していたところ、走行車両に衝突され、20mはね飛ばされた。	231	17	10～ 29
2009	7	～ 15	被災者が養鶏団地のビニルハウス増築工事現場で使用するセメントを当該団地内の資材置場までフォークリフトで取りに行き、当該工事現場に戻っている途中にフォークリフトが横転し下敷きになった。なお、資材置場から当該工事現場までの道路は下っており、また、横転した箇所は下りの緩やかなカーブで勾配は8度であった。	222	2	1～9
2009	3	～ 10	リゾートマンションの修繕工事現場において、組み立てられた足場の点検作業中、足場部材の運搬のために地上から10層目の足場板上を移動していたとき、約17m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2009	2	～ 14	鉄骨造の工場施設の建設工事において、高さGL19.6mの箇所で鉄骨に胴縁を取り付ける作業をされていて約11.8m下の2階の床に墜落した。作業床はなく、取付中の胴縁を足掛かりとして作業をしていた。	418	1	1～9
2009	12	4 ～ 5	被災者らはショッピングセンター新築工事に伴う雨水配管のために道路掘削作業に従事していたところ、国道を東方向から走行していた乗用車が通行規制内に侵入し、被災者2人をはね、うち1人が死亡、1人が重傷を負った。	231	17	1～9
2009	4	～ 17	住宅特定工事において、既存の住宅の内装解体作業中、被災者が2tトラックの荷台上に配置され、ベランダから解体した襖等の建具を手渡された際、同荷台より墜落し、収容先の病院において死亡が確認された。	221	1	10～ 29
2009	3	9 ～ 10	鉄骨造の個人住宅を解体する現場で、建物の解体を終え、廃材の仕分、収集等を行っていた際、敷地境界を越えた廃材を敷地内に移動させようと油圧ショベル（アタッチメント：カッター）を後進させたところ、油圧ショ	149	6	10～ 29

			ベルの後方にいた被災者と接触して被災した。			
2009	11	17 ～ 18	工場のスレート葺き替え工事において、被災者が屋根の養生シートの緊結作業をしていたところ、スレートを踏み抜いて約11.8m下の工場内床面へ墜落した。	415	1	1～9
2009	8	10 ～ 11	被災者を含む作業員3人により、地下電気室の換気ダクト設置工事中、壁の開口部に固定されていた仮設電気幹線ケーブルの束（9本200V）に取り付けようとした換気ダクトが接触し、作業員一人が感電により死亡した。なお、仮設電気幹線ケーブルの被覆に損傷が認められた。また、災害発生時には、雨が降っており、被災者は雨で濡れていた。	351	13	1～9
2009	8	9 ～ 10	外部に面するサッシ水切りのシール施工を行っていた被災者が足場から墜落した。すぐに救急車で病院に搬送されたが、後日死亡した。	411	1	10～ 29
2009	7	15 ～ 16	建物解体（RC造、一部4F建）工事現場において、3F壁部分をハンドブレーカーで縁切作業中、壁が倒壊し下敷きになった。	418	5	10～ 29
2009	6	14 ～ 15	火力発電所の脱硫装置のダクトとなる高さ約10m、幅約5m、重さ約2.5tの鉄板を方形に組む作業を行っていたところ、ダクトをU字型にまで組み上げたところで南側の鉄板が内側に倒れこみ、それに合わせて北側の鉄板も内側に倒れこんだため、内部で作業していた作業員3人がその下敷きとなった。	521	5	30～ 49
2009	6	14 ～ 15	火力発電所の脱硫装置のダクトとなる高さ約10m、幅約5m、重さ約2.5tの鉄板を方形に組む作業を行っていたところ、ダクトをU字型にまで組み上げたところで南側の鉄板が内側に倒れこみ、それに合わせて北側の鉄板も内側に倒れこんだため、内部で作業していた作業員3人がその下敷きとなった。	521	5	30～ 49
2009	10	10 ～	ガソリンスタンドの解体工事において、幅約27m、高さ2m40cmのコンクリートブロック塀を解体するため、重機の爪で塀の上部をはさみ重機の手前に引いたところ、塀全体が倒壊し、塀の近くで散水等の作業を行ってい	145	5	30～ 49

		11	た被災者が下敷きになった。			
2009	8	12 ～ 13	屋根スラブ上での配筋作業において、午前中の作業を終えて被災者と同僚が昼休みに入ろうとしたところ、被災者は屋根上でよろけており、自ら足場を降りたが、しゃがみこんだ。同僚らに手助けされ休憩室まで移動後、救急車で病院へ搬送されたが、後日死亡した。	715	11	50～ 99
2009	8	10 ～ 11	マンション外壁改修工事において、足場の解体作業中にマンション13階部分、足場21層目（高さ35.3m）から公道のアスファルト歩道に墜落した。	411	1	10～ 29
2009	12	16 ～ 17	民家の平屋倉庫兼車庫のスレート屋根取替工事現場において、取替作業終了後に被災者は、屋根上で道具等の片付けをしていた。その際スレートを踏み抜き、約3.7m下の倉庫床（コンクリート床）に墜落した。	415	1	1～9
2009	5	9 ～ 10	RC造分譲マンションの新築工事現場にて、ラフタークレーン（12t）を用いて、FRP製型枠パネル30枚重量約500kをスリングベルトで2点で絞り掛けして、搬出のために4tトラックに積載しようとした。作業半径約8mの位置でトラック荷台上につり下げようとした時、スリングベルトから荷が滑り落ち、荷台上で待機していた被災者に当たった。	372	4	1～9
2009	5	17 ～ 18	他社の資材置き場において、2tトラックと車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）を並列に配置して、2tトラックに積まれていた足場材を同トラッククレーンを使用して被災者を含め3人により荷下ろし作業中、つり荷（くさび式足場の水平材：重量約570kg）を所定の場所に下ろそうとしたところトラッククレーンが傾き、同クレーンと2tトラックとの間で操作していた被災者がはさまれた。	212	2	1～9
2009	4	7 ～ 8	工事現場にて鉄骨の建方中、建築中の20～21階の高さから墜落し、約58m下の6階外周に設置されていた仮設足場へ激突した。被災者が災害発生前に行っていた作業は、クライミングクレーンのオペレーターと無線で連絡を取りながら、つるされた鉄骨の梁を取り付け位置へ誘導する作業であった。	418	1	30～ 49

2009	9	10 ～ 11	地下1階、地上6階建のS造建築物新築工事現場において、仮設作業構台の組立作業中、コンクリート土間に敷桁を設置し、その上に3本の支柱を順にクレーンでつり上げ脚部を敷桁にボルト固定する作業を行っていた際、3本目の支柱を固定し終わり、つり上げていた玉掛けを取り外したところ支柱3本が敷桁ごと倒壊し、付近で作業を行っていた被災者が支柱の下敷きになった。	419	5	1～9
2009	7	8 ～ 9	トラックの荷台に鉄筋を載せ、工事現場へ搬送するため市道を走行中、右カーブを曲がろうとして路肩を踏み外しトラックとともに転落した。助手席に同乗していた被災者がシートベルトを着用していなかったことから被災者が車外に放り出され、トラックの下敷きになり病院で死亡した。	221	17	10～ 29
2009	1	15 ～ 16	鉄骨造2階建建築工事において、2階部分の柱の接続作業を行うにあたり、移動式クレーン（つり上げ荷重50t）で2階柱材をつり上げ、接続部分を2台の高所作業車（作業床高さ18m）の作業床にそれぞれ乗った2人がボルト締めにて固定していた。被災者は、高所作業車の作業床に乗り自ら操作をして作業床を接続作業箇所を上昇させていたとき、上部に既に設置していた大梁に気付かず、この大梁と作業床にはさまれた。	146	7	10～ 29
2009	12	11 ～ 12	マンションの外壁改修工事に使用した枠組み足場の解体作業において、西面の足場解体作業中に建枠を外す作業を行っていた被災者は、建枠とともに高さ15m地点から墜落した。	411	1	1～9
2009	9	13 ～ 14	現場内地下1階作業場において、配管ラックユニット上で保温作業中、被災者は配管の反対側へ移動しようとして配管をまたぎ、鉄骨フレーム上に足をかけようとしたところ、足を踏み外しフレーム下へ墜落（高さ約3.3m）した。	415	1	1～9
2009	6	7 ～ 8	鉄骨柱の建方作業中、通常地上から鉄骨柱を玉掛けしているコラムロックの玉外しを行うが、不具合により玉外しできなかったため、被災者が鉄骨柱（高さ約15m）に登り、コラムロックの玉外しを終了し、間もなくして鉄骨柱が倒れ、被災者が鉄骨柱とともに地上スラブ面に墜落した。	418	1	100 ～ 299
			鉄筋コンクリート一部鉄骨造の大規模倉庫の新築工事において、2階中央			

2009	6	11 ～ 12	車路の東側に残っていた型枠支保工を作業員3人が高所作業車を用いて解体する作業中、高さ約5.5mの位置にある大引材に架け渡した軽量支持梁（伸縮式鋼製材、重量約53.6kg）が落下し、高所作業車を運転していた被災者に当たった。	412	4	1～9
2009	2	14 ～ 15	被災者は、アパート新築工事現場において、高さ約8.8mの外部足場（単管ブラケット）上で、足場のシート張り作業を行っていたところ、足場から地上に墜落した。	411	1	1～9
2009	11	9 ～ 10	当該事業場の木材加工場において、木材加工用丸のこ盤を使用して、全長約72cm、12cm角の角材から車止めを作成する作業を行っていた。当該角材の2面を丸のこ盤で縦びきし、10.5cm角の角材にする作業を行っていたところ、角材が反ぱつし、被災者に直撃し死亡した。丸のこ盤には割刃等の反ぱつ予防装置が設けられていなかった。	131	6	30～ 49
2009	10	8 ～ 9	躯体上又は足場上にて作業の準備を行っていたところ、墜落した。目撃者がいないため、墜落高さは不明である。	999	1	1～9
2009	9	14 ～ 15	5階建既設建物の外壁改修工事現場で足場組立中、巻上機にて1本つりした足場部材（交さ筋かい6本、重量27kg）を枠組足場6層目鋼製足場板上にて取込もうとしたところ、交さ筋かい2～3本が落下したので残りの交さ筋かいを掴んだがバランスを崩し、8.8m下のコンクリート面に墜落した。安全帯フックを6層目枠組足場補剛材（足場板上1.17mの位置）に掛けていたが当該安全帯の帯ロープが破断した。	411	1	10～ 29
2009	7	16 ～ 17	地下1階にて床の配筋作業を行っていたところ、突然倒れ、周りにいた作業員が心臓マッサージ及び人工呼吸を施したが搬送先の病院で死亡した。	715	11	10～ 29
2009	7	13 ～	建替工事現場における既存地下部解体作業において、地下作業レベルから90cm高い箇所位置する3m×2.7mの作業箇所、カードルと呼ばれる鋼材で結束された酸素ボンベの束（約500kg）を置き、被災者はその上に搭乗して玉掛け作業をしていたところ、バランスを崩し作業箇所の西側の	416	1	10～ 29

		14	ピット部にカードルと共に3.4m墜落し、被災者はカードルの下敷きとなった。			
2009	6	9 ～ 10	現場で使用したクライミングクレーン（つり上げ荷重2.9t、ポスト高さ約24m）を解体するにあたり、ポスト1本分逆クライミングをするため、旋回体下部にある作業台上でクライミング装置の操作を行っていたところ、突然クレーン本体が約20m落下した。作業台上でクライミング装置の操作を行っていた被災者が作業台とクレーン本体にはさまれ死亡し、作業台上にいた鳶工1人が重傷を負った。	211	1	1～9
2009	2	7 ～ 8	会社の資材置場において、足場用のパイプを棚から降ろしている際、棚から約3m墜落した。	418	1	10～ 29
2009	2	16 ～ 17	被災者は、宅地造成工事で、配水管等の敷設作業に従事していたが、資材の片付けを行っていた際に、排土板で埋め戻し作業を行っていたドラグ・ショベル（機体重量5.9t）に接触した。	142	7	50～ 99
2009	8	8 ～ 9	型枠解体作業の段取りをしていた被災者が、仮設照明が点かないため分電盤を確認に行き作業場所に戻る際、通路を通らず近道しようと転落防止柵を乗り越え、外部足場の妻側の端に足をかけてよじ登り、庇に移ろうとしてバランスを崩し、高さ3.2mの箇所からコンクリートの地面に墜落した。	419	1	1～9
2009	2	11 ～ 12	基礎杭の周囲をドラグ・ショベルで掘削後、地表から深さ約2.5mの箇所で杭の周囲の隅部等をスコップを使い掘削していたところ、幅約7.2m×高さ約1.5m×奥行約0.5mの土砂が崩壊し、その土砂に押され杭に激突した。	711	5	10～ 29
2009	11	7 ～ 8	被災者は工事現場に向うため、同僚が運転する会社所有の軽ワゴン車の助手席に同乗し、事業場を出発、公道を走行していたところ、路面がブラックアイスバーンのため左カーブでスリップして対向車線に飛び出し、対向してきた大型ダンプトラックと正面衝突した。被災者は死亡し、運転手も	231	17	1～9

			負傷した。			
2009	11	18 ～ 19	屋上PHにおいて、つり足場の上で外部カーテンウォールのガラス取り付け作業を行っていた被災者が、つり足場の上を移動していたときに、62.46m下の6階に墜落した。つり足場の作業床の幅は24cm、内側に2段手すり、親綱が設置されていた。被災者は安全帯を着用していたが、移動のときには使用していなかった。	411	1	1～9
2008	9	8 ～ 9	小型移動式クレーンを使用してボード板等の建築資材を搬出しようとしたところ、当該クレーンの第二ブームが突然折れ曲がって倒れ、ブーム先端に取り付けられている籠がブーム下方の地上で角材の切断作業を行っていた被災者に激突した。籠はブーム先端にボルトで固定しているが、作業時は籠は使用せずに通常のつり作業が行われていた。	212	6	1～9
2008	8	14 ～ 15	体育館改築工事のため設置された足場の最上段（約19m）で、体育館屋上のプール部分へのコンクリート打設作業により発生したコンクリート片をバケツに入れて足場に設置されたウインチで地上に降ろす作業をしていた。その際、2段あった手すりの下段部分がはずれて、その手すりと共に地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2008	9	9 ～ 10	外構工事において、コンクリート製の暗渠（長さ2m、高さ0.43m、幅0.41m、重量0.5t）の据付けのため、ドラグ・ショベルのバケツに取り付けたフックにワイヤロープを掛けてつり上げ作業をしていた。その際、ドラグ・ショベルの運転者が暗渠をつったまま暗渠接続作業を確認するために運転席から降りようとしてズボンの一部を旋回レバーに接触させ、旋回した暗渠が接続作業をしていた被災者に激突した。	142	6	1～9
2008	7	14 ～ 15	工場敷地内の廃水処理施設建設工事現場において、足場の組立作業中に高さ1.9mの足場から転落して真下にあった鉄筋（直径16mm、壁型枠用の鉄筋で床面から1,360mm立ち上がっていたもの）が身体に刺さった。	411	1	1～9
2008	10	17 ～	8階建て（一部9階）の鉄筋コンクリート造マンション兼住宅建築工事において、被災者は、8階窓際の床に設置したうま足場上でボードの取り付け作業をしていた。その際、バランスを崩して荷の揚卸のためガラスをはめ	411	1	1～9

		18	込んでいなかった窓枠から21m下の地面に墜落して死亡した。			
2008	7	14 ～ 15	9階建てのビル建設現場で鉄骨の組立て作業を行っていた。7階部分の鉄骨を組み込むために6階床面（高さ15.7m）の鉄骨上でボルトを緩めていたところ、バランスを崩して墜落した。	415	1	1～9
2008	9	9 ～ 10	工事現場内の管理棟において、運送会社の運転手が、15tトラックに積載された鉄骨柱(重量3.5t、長さ約10m、44cm×44cm)を固定したチェーンを解く作業を行うためトラックの荷台付近にいたところ、荷台から落下した鉄骨柱の下敷きとなり死亡した。	611	4	10～ 29
2008	11	10 ～ 11	鉄骨倉庫(23×15×6m)建築工事で組み立て中の鉄骨柱が倒壊した。2本の柱に各々作業者が上り、梁を取り付けようとしていたところ、1本の柱が傾きだし、もう1本の柱に倒れ掛かかって2本とも倒れた。最初に傾き始めた柱の上部で作業をしていた作業者は、移動式クレーンでつられていた梁材に掴まり転落しなかったが、もう1本の柱で作業をしていた作業者は、倒壊する鉄柱とともにコンクリート床面に叩きつけられた。	418	5	10～ 29
2008	10	12 ～ 13	被災者が直径60cmの鋼管杭のガス切断作業を行っていたところ、被災者の後方にあった高さ約5mの掘削法面の上部から土が被災者に落下して死亡した。	711	5	1～9
2008	10	12 ～ 13	コンクリートポンプ車を使用して2階床のコンクリート打設中に、コンクリートポンプ車の3段ブームの内1段目と2段目のブームの継ぎ手部分の連結ピンが破断して、2段目以降のブームが地上に落下し、付近で作業をしていた3名が被災し内1名が死亡した。	149	6	10～ 29
2008	10	13 ～ 14	事務所の新築工事現場において、地盤改良用セメントミルク製造装置のミキサー上のセメント投入口にドラグ・ショベルでトン袋（セメントが1t入った袋）をつり上げてセメントを投入しようとしていた。その際、トン袋の上部が破れてミキサーの操作盤の所にいた被災者の上に落下して下敷きになった。	142	4	30～ 49
			倉庫壁面にスレートを設けるため、倉庫内側の地面から高さ170cmの仮設			

2008	4	13 ～ 14	足場上において、被災者は、右手を倉庫の外側に出して取り付け予定のスレートに左手をかけて身体を支えながら作業をしていた。その際、当該スレートが割れて反動で倉庫外部に飛び出し、地面からさらに2.4m下の側溝に墜落した。	418	1	10～ 29
2008	9	15 ～ 16	教室棟新築工事において、26tラフテレーンクレーンを使用して、土留用H型鋼（400×400mm×11m、約1.7t）打ち込みのため、補巻きフックでH型鋼をつり上げ、主巻きフックにつっていたバイブロハンマーに取り付ける作業を行っていた。その際、玉掛用ワイヤロープが切断し、ラフテレーンクレーンの運転席にH型鋼が激突してオペレーターが死亡した。	372	6	1～9
2008	8	8 ～ 9	煉瓦造平屋建事務所の新築工事現場で、高さ3.4mの梁の上に架けたバタ板上で矢切にラス板下地を取り付ける際、3本の梁にかけ渡してあったバタ板を移動させた。そのため、2本の梁のみにかけ渡した状態になった。移動させたことを知らなかった被災者が、梁にかけ渡したバタ板の梁から先の突出部に乗ったため、固縛されていないバタ板が天秤状態となり、バタ板と共に墜落した。	416	1	100 ～ 299
2008	4	10 ～ 11	被災者は、4階にあるダクトスペースのALC板建て込みのための準備作業中、開口部を階下の天井から打ち付けてあったグラスウール製吸音板を踏みぬき、約13m下の1階土間に墜落した。	414	1	10～ 29
2008	2	9 ～ 10	住宅棟の足場において、移動式クレーンを用いた足場の解体作業中（大ばらし、2層5スパン分）、被災者は同僚1名とともに足場へ玉掛けをして巻き上げたが、建枠が抜けなためつり上げられなかった。その後、突然、建枠が抜けてつり上がり、その際に被災者は約13.3m下の地面へ墜落した。	411	1	1～9
2008	5	11 ～ 12	S造8階建て事務所兼マンション解体工事現場の4階部分を解体するため、4階天井の鉄骨梁の柱付近の両端を溶断して解体を行っていた。被災者は、解体工事現場1階で車両系建設機械を運転して解体作業で出た廃棄物の整理を行っていたが、4階の解体作業区域の下に侵入したところ、解体していた長さ7m鉄骨（H鋼）大梁が落下し、鉄骨（H鋼）大梁と4階床	521	4	10～ 29

			にはさまれて死亡した。			
2008	9	1 ～ 2	被災者は、自宅で異常ないびきを発して昏睡状態となり、病院へ搬送されたが死亡した。	921	90	50～ 99
2008	3	16 ～ 17	エレベーター棟の新設に伴い建築中であった5階部分の鉄骨上から足を踏み外して高さ約11m下に墜落した。	415	1	1～9
2008	11	21 ～ 22	店舗改修工事において、既存建物6階部分に張り出したH鋼を切断して解体する作業を行っていたところ、一部を残して切断した状態の鉄骨片が突然破断して、450×158cm、長さ約60cm、重さ約50kgの鉄骨片が荷揚げ口より落下し、約22.15m下で搬出作業に当たっていた被災者に激突した。	521	4	10～ 29
2008	12	18 ～ 19	工事現場での作業を終了した後、当該事業場所有のワンボックス車に同乗して自社へ帰路の途中、国道交差点で同交差点を右折しようとした乗用車と衝突し、その弾みで電柱・ガードレール等に激突して後部座席にいた2名が車外に投げ出され死亡した。	221	17	1～9
2008	12	18 ～ 19	工事現場での作業を終了した後、当該事業場所有のワンボックス車に同乗して自社へ帰路の途中、国道交差点で同交差点を右折しようとした乗用車と衝突し、その弾みで電柱・ガードレール等に激突して後部座席にいた2名が車外に投げ出され死亡した。	221	17	1～9
2008	2	10 ～ 11	型枠作業者が躯体屋上で墨出し作業を行なうため、躯体外部の足場6層目の昇降階段横を通行していたところ、足場と躯体との間から1階床コンクリート面へ墜落した。1階床から足場までの高さは約10mであり、墜落する際は、張り出し足場等に当たりながらであった。	411	1	1～9
2008	11	11 ～ 12	寮の移転新築工事現場において、被災者が、当該工事躯体2階スラブで型枠と脚立に渡した踏み板（長さ3m、幅24cm、床面から高さ約1.9m）の下の床面に倒れているのを発見された。	416	1	10～ 29
			作業員2名により高所作業車を使用して工場内の内壁のボード張替え作業			

2008	7	10 ～ 11	を行っていた。被災者がバケット内から高所作業車を操作してボードを荷揚げした後、固定用ビスがないことに気付き、地上に降りようと高所作業車を操作したところ、バケット動作の不具合によりバケットから放り出されて7m下の床に墜落した。	146	1	10～ 29
2008	12	10 ～ 11	作業所事務所が入居している8階建ビルの屋上で施工中のビル新築工事現場を写真撮影中、約26.4m下の道路に墜落して死亡した。	418	1	300 ～
2008	11	13 ～ 14	倉庫建築工事現場で基礎の埋め戻し後、ハンドガイド式ローラーで転圧作業中、転圧箇所の切り返しをするために被災者がローラーとともに後進していたところ、被災者がコンクリート基礎の端から転落し、その上に後進してきたローラーが落下してきて下敷きになった。	144	4	10～ 29
2008	2	8 ～ 9	製紙工場の既存倉庫を工場に改装する工事中、当該既存倉庫2階床の土間の塗装作業をする際、当該土間のコンベヤーダクトが通る穴（開口部70cm×380cm）を塞いでいた木製の蓋（重量約50kg）を被災者と他の作業員1人の2人で持ち上げたところ、被災者が当該開口部から約7.5m下の1階床上に墜落した。	414	1	1～9
2008	1	10 ～ 11	撤去ガラを片付けるため、高所作業車にガラをのせてピット内を移動中、床の段差（高さ500mm程度）で脱輪して作業車が被災者と共に転倒したため、設置してあったコンベヤーとの間にはさまれ死亡した。	146	2	30～ 49
2008	11	10 ～ 11	事務所新築工事現場において、基礎の埋め戻しのため、ダンプトラック及びドラグ・ショベルの進入路をつくるための鉄板（1.5m×6m、重さ1.5t）を敷く作業を行っていた。ドラグ・ショベルのバケットに取り付けられたフックに玉掛け用具を使って鉄板をつり上げ（一点づり）、地中梁に鉄板を仮置きしようとしたところ、玉掛け用具のクランプから鉄板が外れて玉外しのため近くにいた被災者側に鉄板が倒れてきて地中梁と鉄板の間にはさまれた。	372	4	1～9
			既設建物（旧ショッピングセンター）の西側入口庇上部に設置されていた鉄骨製の看板塔の仕上げ塗装作業を被災者を含む4名で行っていた。被災			

2008	4	16 ～ 17	者は南側の中段の立て梁を塗っていたが、その後、作業が終了して片付けの作業を行っている際、バランスを崩して約2.5m下のコンクリート製の底上部へ墜落し死亡した。幅0.24m長さ3mの鋼製の足場板1枚が梁に渡されていた。	416	1	1～9
2008	2	15 ～ 16	外部枠組足場解体作業において、移動式クレーンで4層3スパンを大ばらしして所定場所に移した後、つった状態で下部の2層を解体した。この後、残った2層を地上で解体するため、2層目に作業員Aが乗り、玉外しを行った。その後、ワイヤロープを巻き上げたところ、このワイヤロープが足場材の一部に引っ掛かり、2層3スパンの足場が倒壊して地上にいた作業員Bの背部に倒れて、その下敷きとなった。作業員Aも軽症を負った。	411	5	10～ 29
2008	6	15 ～ 16	2階建てビルの屋上防水工事に使用する昇降設備（足場）の組立て作業中、工事対象の建屋へ渡るための仮設通路を設置するために、隣接する建屋の屋根の上で足場を組み立てていたところ足元が滑って転落した。	415	1	10～ 29
2008	1	12 ～ 13	工事の打ち合わせのため、被災者の運転するライトバンに当該工事管轄支店の社員を同乗させて国道を走行中、災害発生場所付近（緩やかな下り勾配）で車両がスリップして対向車線を走行してきた大型トラックに側面衝突した。	231	17	30～ 49
2008	7	17 ～ 18	掘削作業終了後、翌日の準備作業としてドラグ・ショベルのラジエーター補助タンクに冷却水を給水しに戻ったところ、掘削箇所に残ったレベルコンクリートの一部（長さ1.3m、幅0.5m、厚さ0.1mのほぼ三角形で、約75kg）が崩落して被災者が下敷きとなった。	419	4	1～9
2008	5	10 ～ 11	工事用エレベーターの解体作業を被災者を含め4名で行っていた。躯体4階付近のガイドレール1柱（高さ1.5m）を解体して工事用エレベーターの搬器の上に取り付けたクレーン（つり上荷重0.25t）でつり搬器を1階まで下ろした。その時、被災者だけが4階ガイドレールの壁つなぎ上に残り、次のガイドレールを解体する準備をしていた際、昇降路の隙間から地下3階まで22m墜落した。安全帯は着用していたが使用していなかった。	214	1	10～ 29

2008	7	17 ～ 18	コンクリート打設の翌日、外部足場を2段から4段に組立完了後にメッシュシート張りを行っていたところ、約7m下の外構コンクリート面に墜落した。	411	1	1～9
2008	11	14 ～ 15	鉄骨造3階建て新築工事において、床が未設置の3階の梁上で移動式クレーンを使用してデッキプレートの仮置き作業中に5.8m下の1階スラブに墜落した。	415	1	10～ 29
2008	7	14 ～ 15	共同住宅の新築現場で外部足場のせり上げ作業中、被災者は地上から11層目のブラケット足場作業床で上層のブラケット足場（12層目）の布板を取り付ける際、手すりの取り付けがない当該作業床から躯体の外側へ、17.3m下の地上（公道）に墜落した。	411	1	1～9
2008	9	14 ～ 15	立体駐車場建設にあたり、立体駐車場機械室の点検通路の取り付け作業で、被災者が通路の資材であるアングルを各取り付け場所まで運んでいたところ、別の業者が機械室の壁材であるALC板の荷揚げ用に開けておいた開口部から墜落し死亡した。また墜落時に持っていたアングルが落下してALC板の荷揚げを行っていた作業者に激突して負傷した。	414	1	30～ 49
2008	7	12 ～ 13	エレベーターシャフト内に設置された足場の盛替え作業を作業員数名で行っていたが、途中から単独作業となった。昼休みになっても休憩所に戻ってこないため、同僚作業員が捜したところ、作業を行っていたエレベーターピットの足場の最下層で倒れているところを発見された。	411	1	1～9
2008	2	9 ～ 10	ショッピングセンターの新築工事において、ALCパネルの建て込み作業を行っていた。専用のつり込み機械でALCをつり上げて一旦所定の位置に建て込んだが、寸法を直す必要が生じたため床にALCを寝かせせるようにつり下ろしていた際、専用のつり込み機械が転倒して操作していた作業員が下敷きとなった。	219	6	10～ 29
2008	12	15 ～ 16	9階建て建築物（ビジネスホテル）の解体工事で建築物内部の通路に設けられていて、9階から1階まで通じている開口部（約2m×1.3m）の7階から9階のいずれかの階から墜落して死亡した。	414	1	1～9
			被災者は、マンションの修繕工事のために設置された足場の解体作業に従			

2008	11	9 ～ 10	事していて、高さ約15.9mの足場板上（9段目）で足場の部材の運搬を他の作業員3名とともに行っていた。被災者が部材を仮置きするための足場上の所定位置に解体した足場板を置いて作業位置に戻って来る時に足場から墜落して死亡した。	411	1	1～9
2008	8	13 ～ 14	RC4階建ての建築工事現場において、外部足場（幅21m、高さ14m）を作業者5名で3層目から上の交差筋交い及び壁つなぎを外して足場部材を手渡しで降ろしていた時、3層目から8層目の足場が倒壊した。被災者は壁つなぎを取り外した跡のコーキング作業を5層目でしていたため、倒壊した足場に圧迫され死亡した。	411	5	100 ～ 299
2008	10	10 ～ 11	店舗ストックヤード改装工事において、2階天井裏に断熱材を敷き入れる作業を脚立に乗り行っていたところ、約1.4mの位置から転落してコンクリート床に強打し死亡した。なお、被災者は保護帽を着用していなかった。	371	1	1～9
2008	8	14 ～ 15	鉄骨造3階建て建築現場において、2階に仮置きしていたシャッター下地材の鉄骨（960cm）を吹き抜け部から高所作業車に乗せ1階に降ろす作業を行っていたところ、鉄骨が滑り落ちて1階で土間配筋作業を行っていた被災者を直撃した。	146	4	1～9
2008	10	13 ～ 14	階段室の最上部直下の中間踊場で壁補修用の枠組足場を架設中、枠組足場のスタート基本スパンより階段下り方向の隣スパンに移動したときに足場が天秤状態となり足場が傾いたため飛び降りた。被災者は下り階段手すりにあたった後、階段へ落下した。なお、基本スパンの隣スパンには足場脚元の調整単管が設置されていなかった。	411	1	10～ 29
2008	9	8 ～ 9	作業場建屋の屋根吹き替え工事において、被災者等が屋根（板金屋根）上で長尺板の撤去作業を行っていたところ、屋根板金の下（板金をはがした屋根の下地）の屋根材に使用されていた木毛板の上に被災者が乗った際に木毛板を踏み抜いて、6m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
		16	工場にタンクを設置するために工場の床のコンクリートを手持式ブレーカーで破壊して、コンクリートと一緒に打設してあった鉄骨を切断及び溶			

2008	10	～	断した。その鉄骨をドラグ・ショベルで引き抜く作業中に鉄骨の一部が切	521	4	1～9
		17	断等されていなかったため鉄骨がひっかかり、その反動で鉄骨の一部がはね飛び被災者に当たった。			
2008	9	～	ドラグ・ショベルの後部から右脇を通して作業者に声を掛けようとしたと	142	6	50～
		9	ころ、ドラグ・ショベルが左旋回したためカウンターウエイトと仮置きし			99
			ていたH鋼との間にはさまれ死亡した。			
2008	1	～	作業者の運転する社用車（ライトバン）の助手席に同乗して次の工事予定	231	17	10～
		13	の現場に移動中、緩い下り坂の直線道路でスピンして対向車線にはみ出			29
			し、対向してきた大型トラックの正面にライトバンの助手席側が衝突し			
			た。			
2008	6	～	作業終了後、現場から同僚3名を会社所有のワゴン車に乗せ各自の自宅に	231	17	30～
		17	向かっていたところ、中央分離帯に衝突して運転者が死亡した。同僚3名			49
			も重軽傷を負った。			
2008	3	～	被災者は、増築工場（SRC造）の2階の天井配線工事を最上部に手すりが	411	1	1～9
		11	設けられていない、高さ3.63mの移動式足場上で行っていた。移動式足場			
		12	から降りるために、安全帯を天井ブレスより取り外していたところ、バラ			
			ンスを崩して、墜落した。			
2008	10	～	マンション新築工事において、枠組み足場解体作業中、足場11段目から	411	1	10～
		2	13段目の3段について、3スパンずつクレーンでつり上げるため、13段目			29
		3	の布板をはずし、12段目の端に集積していた。被災者は布板を持ち、手す			
			りのない幅24cmの布板上（高さ19.24m）を移動していたとき、体勢を崩			
			して地上へ墜落した。			
2008	7	～	枠組足場を12名で組立中、1、3、5、7、9段目に配置された作業者が手渡	411	1	10～
		9	しで10段目にいた被災者まで足場材を上げていた。被災者は10段目の作			29
		10	業床で鳥居枠（W=1200）の片側の脚柱だけ下部鳥居枠と脚柱ジョイント			
			で連結し、その後使用する鳥居枠5枠を前記鳥居枠の横架材をまたぐよう			
			に掛けた。その際、安全帯を親綱に掛けていなかったため、バランスを崩			

			し墜落した。			
2008	7	10 ～ 11	事務所2階トイレの床材（クッションフロア）の剥離作業を第2種有機溶剤（ジクロルメタン80-90%、メタノール5-10% 9.5kg）を使用して、1人で 行っていた被災者が、倒れているところを発見された。発見時、窓は開放 されており、ドアは閉まっていた。被災者は呼吸用保護具を使用しておら ず、換気装置が設置されていたが使用していなかった。	514	12	1～9
2007	7	11 ～ 12	電気ケーブルを切断しながら撤去する作業を行っていたところ、被災者が ケーブルを切断した途端に痛いと言って倒れ意識を失った。	351	13	100 ～ 299
2007	11	16 ～ 17	校舎解体工事現場において、油圧圧砕機（ニブラー）を使用して、高さ約 19mの渡り廊下の階段部分を解体していたところ、当該階段部分が倒壊 し、ニブラーを運転していた作業者が下敷きになり死亡した。	418	5	30～ 49
2007	5	7 ～ 8	仕入先工場へ、穴明け加工を依頼したアングル（グレーチング受材、長さ 6m、重量1本あたり26.5kg、計8本、重量合計212kg）を被 災者ら2名で取りに行き、最大積載重量1.5tトラックに積載し、束ね た後、固定する作業中に当該アングルが横滑りしてバランスを崩し、支え ようとした被災者がトラックより落下、その上に束ねた当該アングルが落 下した。	611	5	1～9
2007	6	16 ～ 17	鉄骨3階建て新築工事現場において、被災者が3階床部のデッキプレート の敷設作業をしていたところ、開口部より7.45m下の地面に墜落し た。	414	1	1～9
2007	1	10 ～ 11	モニター室東側の2層目屋根上を歩行している際、屋根板として使用され ている折板構造の塩ビ鋼板を踏み抜き、約15.9m下のコンクリート床 に墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2007	10	11 ～ 12	鋼製枠組足場の解体作業を行っていたところ、部材等の落下防止のために 残っていた養生シートに被災者がもたれた際にシートをとめていた紐が切 れ、被災者が足場から墜落した。	411	1	1～9

2007	9	9 ～ 10	台風接近に伴い、屋上塔屋の外壁補修及び看板塗装用の外部足場の解体作業に取り掛かっていたところ、足場最上段の荷降ろしの開口部より20.4 m下の屋上へ墜落した。	411	1	10～ 29
2007	8	9 ～ 10	ホール新築工事現場において、被災者と同僚1名が1階と踊り場に渡る鉄骨階段の穴部と基礎ボルトを取り付けるための微調整を行っていたところ、被災者の上部にある踊り場から2階に渡る鉄骨階段（重量約1 t）が突然落下し、被災者に激突した。	418	4	1～9
2007	6	15 ～ 16	マンションの外壁改修工事現場において、建物東面に一側足場を組み立て、周囲にメッシュシート張りの作業を行っていたところ、足場の妻側から外側に背を向けた状態で約10 m下のコンクリート面に墜落した。シートの状態を確認するために、足場の妻側にエンドストッパーとして設置されていたブラケット（クランプ1点支持）に体を預け身を乗り出し、ブラケットが外側に回転したために墜落した。	411	1	10～ 29
2007	1	15 ～ 16	クレーンで足場材を地下の耐圧板上に下ろす作業をしていた。足場材を切梁の間を通すため、梁上で足場材の誘導をしていた被災者が誘導が終わり、仮設通路に戻ろうと、仮設通路の近くまで移動して来、親綱から安全帯をはずし、乗り移ろうとしたところ、バランスを崩し、7.8 m下の耐圧板上に墜落した。	415	1	1～9
2007	11	11 ～ 12	波形スレート屋根の平屋倉庫の解体工事で、被災者を含む作業員4人で、屋根上にてスレート材を取り外す作業を行っていたところ、被災者が厚さ5 mmのスレートを踏み抜き、墜落した。	415	1	1～9
2007	10	9 ～ 10	鉄骨造建築工事現場において、被災者が、高さ12 m 20 cmの枠組足場8層目付近で、鉄骨の梁上部に溶接された屋根材固定用フレーム溶接箇所のケレン作業及びさび止め塗装作業を行っていたところ、枠組足場と梁との隙間から地面へ墜落した。	411	1	1～9
2007	3	11 ～ 12	鉄骨2階建て倉庫の新築工事現場において、高さ7.4 mの大梁上（幅20 cm）で、小梁を取り付け作業中、地面に墜落した。	418	1	10～ 29

2007	7	11 ～ 12	工場内の建設工事現場において、鉄骨平屋建ての工場のスレート屋根と外壁の撤去工事中、スレート屋根の上を移動していた被災者がスレート屋根を踏み抜き、約7mの高さから地面（アスファルト舗装）に墜落した。	415	1	1～9
2007	12	14 ～ 15	造船工場内建物の一部撤去工事現場において、つり足場上で鉄骨補強作業に従事していた被災者が、屋根の上を移動していたとき、採光用の波板ガラスを踏み抜いて、29.95m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2007	10	11 ～ 12	学校新築現場において車両系建設機械を用いて鉄板を移動させていた（つり上げによる作業）。この時、オペレーターが一時的に運転室から身乗り出して安全確認を行ったが、操作レバーに服が引っかかり不意に機体が旋回して、被災者に鉄板が激突した。	141	6	10～ 29
2007	8	7 ～ 8	車両積載形移動式クレーン（つり上げ過重2.93t）で建設資材（コンクリート強化剤1袋15kg×60袋＝900kg）の荷降ろし中、当該クレーンがバランスを崩して左側に転倒し、近くで作業していた被災者に当該クレーンのジブが激突した。	212	2	10～ 29
2007	11	8 ～ 9	工場屋根の修繕工事において、被災者は、既存のスレート屋根上に鋼板屋根を設置するために、屋根上（高さ4m）で、鋼板屋根設置に支障がある部分のスレートを切断する作業を行っていたところ、切断によりできた開口部（76×343cm）から4m下の工場コンクリート床面に墜落した。	414	1	1～9
2007	11	15 ～ 16	軽量鉄骨2階建て建物の外壁塗装を行うため、丸太だき足場上で屋根ハチマキ部のケレン作業を行っていたところ、4.7m下のコンクリート地面に墜落した。	419	1	1～9
2007	6	15 ～ 16	作業員4名で、社有車に乗り現場に向かう途中の自動車道ジャンクション分岐地点で110kmで走行中に突然右後輪がパンクし車が横転、助手席後ろに乗っていた被災者が車外に投げ出された。	231	17	50～ 99
		18	資材置き場において、被災者と同僚1名が鉄筋の束を移動させる作業を行っていた。重さ約160kgの鉄筋の束に被災者がワイヤロープを掛			

2007	5	～ 19	け、同僚がフォークリフトの爪で鉄筋をつり上げ、フォークリフトを運転し、被災者が鉄筋の束を手でおさえるためフォークリフトの左前方を移動していた。約40m運転した地点で、被災者がフォークリフトにひかれ左前輪の下敷きになった。	222	6	1～9
2007	8	6 ～ 7	会社寮の自室にて就寝中、けいれんを起こして死亡した。なお、前日、会社の加工場（屋外）の整理・整頓（残鉄筋の区分け及び新たに入庫される鉄筋置場の確保等）を行っていた。最高気温37.4℃と炎天下での作業であった。	715	11	1～9
2007	12	11 ～ 12	現場内の中工区2階にて3階スラブ補強鉄骨を取り付ける作業を高所作業車に乗って行っていたところ、補強鉄骨を取り付ける位置に天井アンカーが出ていたため、ガス溶断にて取り除いていた。その際に高所作業車の作業台に置いていたペンキ缶に切断時の火花が入り引火した。その火を慌てて消そうとしたところペンキ缶が倒れて火が広がり被災者の作業服に着火した。	514	16	30～ 49
2007	6	～ 9	工場内の建物を新築する工事現場において、杭打ち重機の運転手が同重機アウトリガー近くにいた時、近接するドラグ・ショベルが旋回したため、同カウンターウエイトとアウトリガーとの間にはさまれた。	142	6	10～ 29
2007	2	13 ～ 14	クライミングクレーンにブルーシートで造られたワイヤモッコを玉掛けし、土砂を運搬していたところ、土砂の埋め戻し作業をするため待機していた被災者が、鉄筋で組んだ柱とつり荷であるワイヤモッコとの間にはさまれた。	211	7	10～ 29
2007	8	11 ～ 12	被災者は、マンション新築工事現場において、ガラ集積作業・運搬作業を行っていた。午前11時頃、職長が足元がおぼつかない被災者に気付き、詰所で休憩させていたが、被災者の呼吸の異常に気付き、病院に搬送したが、死亡した。	715	11	1～9
2007	6	～ 14	マンション新築工事現場において、掘削土砂を一輪車で2tダンプ車に積み込む作業中、ダンプ車の荷台（高さ約1m）と地面に架けてあった歩み板（幅25cm）から一輪車ごと転落し、地面から出ていた差し筋（径1	416	1	1～9

		15	0 mm) が被災者に刺さった。なお、差し筋上部にはキャップ等の養生措置がとられていなかった。			
2007	10	16 ~ 17	管敷設作業において、ドラグ・ショベルで掘削した法面が約4. 2 m×約1 mにわたって崩壊し、掘削溝の中（深さ約2. 3 m）で作業していた作業員2名のうち1名が埋まった。	711	5	1~9
2007	8	9 ~ 10	立体駐車場用ピット（深さ2 m4 9 c m）に、枠組足場を組むために、部材を運搬していたところ、ピット内に転落した。	414	1	10~ 29
2007	8	11 ~ 12	被災者は、15階建てマンションの新築工事現場において、7階外部足場の組立作業中、当該外部足場から15. 6 m下のエントランス外側に設置されている足場（地上より3段）に墜落した後、当該足場を転げ、1階建物内部に落下した。	411	1	30~ 49
2007	4	16 ~ 17	被災者は、トラックの荷台上にて荷取り作業に従事していたが、束ねた部材の一部が長尺部材のため荷台に積み込めなかったため、長尺部材以外の部材を積み込もうとトラックの荷台から飛び降りたところ、安全帯が引っ掛かり荷が動揺し、トラックの荷台から落下した荷が着地した被災者を直撃した。	221	4	1~9
2007	7	10 ~ 11	L型擁壁（PC版、重量4. 3 t）を据え付けるため、25 tトラッククレーンを用いて立て起こし作業をしていた。L型擁壁を立て起こして、取り付けていた4箇所の専用のつりクランプを外したところ擁壁が倒れ、つりクランプを外す作業のために立て掛けていたはしごを支えていた被災者が、倒れた擁壁の下敷きとなった。	418	5	10~ 29
2007	8	12 ~ 13	基礎工事中の建設現場において型枠大工が作業を終了して軽トラックに廃材を積んでいる最中に突然倒れ、救急車で病院に運ばれたが死亡した。	715	11	1~9
2007	12	16 ~ 17	被災者が、天井クレーン（10+2 t）のガータ受けピースを既設柱に取り付ける作業をしていたところ、当該天井クレーンが移動し、被災者は背後から近づいていることに気付かず、クレーンと柱の間にはさまれた。	211	7	1~9

2007	12	13 ～ 14	倉庫解体工事現場において、鉄骨平屋建の屋根でスレート板を取り外していたところ、木毛板を踏み抜き、約5 m下に墜落した。	415	1	1～9
2007	7	13 ～ 14	鉄筋コンクリート造の住宅解体現場にて、住宅南面の壁兼ブロック塀をチッパーにて解体中、倒壊してきた高さ約2 m、幅約2.6 mのブロック塀の下敷きになった。	418	5	10～ 29
2007	2	15 ～ 16	マンション新築工事現場において、外部足場（枠組足場）解体作業に従事していた被災者は、21段目の足場解体中、建て枠とともに24.5 mの下の隣家の屋上に墜落した。	411	1	30～ 49
2007	2	14 ～ 15	下水用配管の埋設作業のため、ドラグ・ショベルで深さ約2.7 mを掘削していたところ、土砂崩壊により埋まった。	711	5	1～9
2007	2	17 ～ 18	マンション新築工事において、22階のエレベーターシャフト部に設けられた仮設床（アンカーで支えられた角材と矢板で構成）に、同階で使用するコンクリートを上階から圧送し、コンクリートが1立米貯まったところで圧送を停止したところ、仮設床がアンカーの破断とともに落下し、同仮設床上にいた作業員2名が1階までの高さ約70 mを部材とともに墜落し、1名が死亡した。	416	1	50～ 99
2007	9	11 ～ 12	小学校校舎の耐震補強工事現場において、クサビ緊結式足場の1段目の作業床上で作業員2名が2階バルコニー下部の型枠組立作業していたところ、1名が1.85 m下のコンクリート基礎部分に墜落した。なお、墜落した開口部には高さ49 cmの手すりが設けられており、これは元々高さ93 cmの位置に設けていたが梁の型枠を組立てるときに邪魔になり下げた。	411	1	1～9
2007	4	16 ～ 17	山小屋の改築計画があり、現場視察を終え、ヘリコプターに乗り離陸した直後、ヘリコプターが墜落した。（小屋から約50 m地点）	239	18	100 ～ 299

2007	8	17 ～ 18	高等学校改築工事（第1体育館棟・建築）において、建築中の体育館屋上で解体した型枠材の片付け作業に従事していた被災者が、気分が悪くなり座り込んだため、しばらく休ませていたが、症状が良くならないため救急車で病院に搬送されたが死亡した。	715	11	1～9
2007	11	14 ～ 15	建物解体工事において、被災者が倉庫の屋根に上がり切断した梁を取り外す作業をしていたところ、足が滑り約6m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2007	1	11 ～ 12	新築工事において、鉄骨造の支柱に折板で屋根を葺く作業を被災者と事業主の2名で行っていた際、被災者は前かがみの状態で屋根の端に雨どい取り付け箇所を電動工具で折板に穴をあけていたところ、バランスを崩して3.1m下の地面（アスファルト舗道）に墜落した。	415	1	1～9
2007	10	13 ～ 14	事務所及び資材置き場として使用されていた建物の解体作業中、RC造の本体部分の解体が終了し、残った鉄製の外部階段（高さ約5m）を中間部分で溶断したところ、階段の中間より下の部分が崩れ、更に上の部分が崩れ、作業者が下敷きになった。階段の中間より下の部分には地中に基礎は無く、地面に置かれただけの状況だった。	413	5	10～ 29
2007	12	7 ～ 8	会社のライトバンにて現場へ向かう途中、道路をはずれ車が横転した。路面凍結によるスリップ事故である。	719	17	10～ 29
2007	3	13 ～ 14	鉄骨造の建屋の塗装工事において、被災者が単管抱き足場の上で長さ4mの角材を躯体階段の側面に電動ドライバーを使ってねじ止めしようとしたところ、単管抱き足場上から5.4m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2007	10	8 ～ 9	RC造3階建ての新築工事において、3階廊下の天井に設けられた屋上へ昇るための点検口部分に、塗装のための養生用ガムテープ貼りを脚立の上で行っていたところ、脚立から廊下コンクリート床面に転落した。	371	1	1～9
2007	8	14 ～ 15	ビル屋上防水工事において、パラペット立ち上がり部分のコーキング作業を行っていた被災者が、しゃがみこみ、意識がなくなったため、病院に搬送されたが死亡した。当時の気温は35.5℃であった。	715	11	1～9

2007	3	8 ～ 9	マンション建設工事現場の立体駐車場用コンクリート製ピット横にある通路上で朝礼を行っていた際に、ピットの状況を確認しようとピット横のA型バリケードをつかみピット内を覗き込んだ際、バリケードと共に深さ約3.6mのピット内に墜落した。	414	1	10～ 29
2007	3	9 ～ 10	鉄筋コンクリート造9階建てマンション新築工事現場において、外部足場の外側に設置した建設用リフト（積載荷重240kg）の搬器にユニットバス等を載せ8階の荷取りステージで荷卸しようとしたところ、搬器とステージとの開口部（幅約1820mm、奥行き約400mm）から21m下の1階地面に墜落した。	414	1	1～9
2007	9	5 ～ 6	資材置き場内において、2tトラックで現場に資材を配達のため、出入口の坂にトラックを止め、車から降りて金属製の観音扉を開けようとしたところ、止めたトラックが動き出し、門扉との間にはさまれ、さらに門扉ごと押し出されトラックにひかれた。	221	6	1～9
2007	8	17 ～ 18	11階外周足場（わく組、単管ブラケット足場）の組立後、鳶工が貼った垂直養生シートを単管ブラケット足場部分に結束する作業を被災者が行っていた際、11階床の壁筋（D13mm）の上に墜落（墜落高さ4m）した。	411	1	1～9
2007	6	14 ～ 15	鉄骨階段の梁のボルトの本締め作業を外部足場（21段目）の上で行っていたところ、足場と躯体間の隙間（60cm）から約40m下の地上に墜落した。	411	1	1～9
2007	12	15 ～ 16	6階屋上から仮設デッキ型ゴンドラの搬器に乗り移り、ライフラインに安全帯を掛けようとしたところ、突然ゴンドラのつりワイヤー2本の内の1本のつりワイヤーがつり元から外れゴンドラの搬器が傾き、高さ19.8mから墜落した。	216	1	10～ 29
2007	9	13 ～ 14	工専用ラック式エレベーターシャフト内11階において、シャフト内にあった溶接用二酸化炭素高圧ガスホースを接続しようとして稼動中のエレベーターシャフト内に進入し、上昇してきたカウンターウェイトとマスト	214	7	10～ 29

			の間にはさまれた。			
2007	7	11 ～ 12	建築工事現場内において、タンクローリー車からドラグ・ショベル（機体重量10.8t）に燃料を補給し、検収のため立会っていた被災者が、検収を終え作業場所に戻る時、後退してきた同僚が運転する当該ドラグ・ショベルと接触し、クローラにひかれた。	142	7	10～ 29
2007	11	9 ～ 10	被災者は、4階建てマンションの屋上で、ハッチの塗装作業を行っていた。養生のために敷いていた布が風で飛んだため、これを追いかけて取ろうとしたところ、高さ11.95mのマンションの屋上から墜落した。	418	1	30～ 49
2007	8	8 ～ 9	基礎型枠の資材を小型移動式クレーンで積み下ろす準備をしていた被災者が、荷台後部より墜落した。	212	1	10～ 29
2007	10	14 ～ 15	体育館のつり天井を固定する「つりボルト」設置作業を、屋根梁の下部に設置された棚足場の作業床上で行っていた。つりボルトの長さが梁から作業床までの空間より長いため、作業床の足場板を横にずらし、隙間を調整しながらつりボルトを設置していた。つりボルトを通す隙間を作るため、足場板を取外したところ、生じた開口部から約9m下に墜落した。	411	1	1～9
2007	6	11 ～ 12	被災者は3階コンクリート床にうま（高さ1.77m）を設置し、その上で柱のフープ鉄筋を結束作業していた。主筋とフープ筋を結束線で密着させようとして、結束線を絡ませてハッカーに掛けて引いたところ、ハッカーから結束線が抜けたためバランスを崩し、3階床に転落した。	411	1	50～ 99
2007	6	9 ～ 10	土留めのためのH鋼埋め込み、引抜きを請け負い、被災者がトレーラーの荷台上で積載してある10本1束のH鋼を5本ずつに分けるため、クレーンオペレーターと手合図を交わしながら、ワイヤロープでつり上げたところ、H鋼が荷崩れし、H鋼1本（重量450kg）とともに地面に落下し、H鋼の下敷きとなった。	521	5	10～ 29
2007	3	18 ～	被災者は、枠組み足場の3段目（高さ5.5m）において、移動式クレーンによる鉄骨部材の荷卸しの誘導作業を行った後、枠組み足場の枠の補鋼材に足を掛けて降りていたところ、足を滑らせて約5m下の地面に墜落し	411	1	1～9

		19	た。			
2007	9	16 ～ 17	現場にてエアコンダクトの支持金物点検のため、脚立（6尺アルミ製）を使用して行っていた際、バランスを崩して当該脚立の高さ1m80cmのところから、コンクリートの床に墜落した。	371	1	1～9
2007	9	10 ～ 11	被災者は、同僚3名と3階で配筋作業を行っていた。地上から足場の昇降設備を使って3階まで栈木（長さ約50cmの木材）を手で運び、足場から躯体に投げ入れた後に、足場（高さ約7.5m）から墜落した。	411	1	1～9
2007	8	15 ～ 16	鉄骨造3階建て建物の解体工事現場において、被災者が地上約3.7mの鉄骨梁の上で鉄骨同士をつないでいる部分をガス溶断したところ、被災者が片足を載せていた一方の鉄骨が垂れ下がり、被災者がバランスを崩しコンクリート地面に墜落した。作業場所には親綱が張っており、被災者は保護帽、安全帯を着用していたが、安全帯は使用していなかった。	418	1	1～9
2007	11	19 ～ 20	被災者は、工事が全て終了し、軽自動車で所属事業場へ帰る途中、自動車道上り線で、中央分離帯に衝突した。	231	17	1～9
2007	12	13 ～ 14	軽量鉄骨平屋建ての倉庫新築工事現場において、被災者は屋根鉄板の取り付け作業中にバランスを崩し乗っていた梁（幅約15cm）から約4.35m下へ墜落した。なお、被災者は安全帯は着用していたが使用していなかった。	415	1	10～ 29
2007	3	9 ～ 10	被災者は、牛舎の新築工事現場において、垂直昇降型の高所作業車から地上より高さ4.9mの鉄骨横梁に乗り移ろうとしたところ、墜落した。	146	1	1～9
2006	12	14 ～ 15	バルコニー防水塗装工事を被災者が1人で作業で行っていた際、被災者が喫煙したタバコの火種が被災者が着用し、キシレン等の引火性が高い溶剤を含む塗料が付着していた軍手に引火し、被災者の衣服全体に延焼し、全身に火傷を負った。	512	16	1～9
			新築工事現場において、フィニッシャで敷き詰められたアスファルトをタ			

2006	11	10 ～ 11	ンデムローラー（機体荷重3.52トン）で転圧作業中、被災者がタンデムローラーの運行経路内に入り、後退してきたタンデムローラーにひかれた。	144	7	50～ 99
2006	12	6 ～ 7	被災者4名は、会社所有のワゴン車に同乗し会社を出発、現場に向けて走行していたが、左カーブで、スリップにより対向車線にはみ出し、対向車線を走っていたダンプトラックに正面衝突し、運転席及び助手席の者が死亡した。	231	17	10～ 29
2006	12	6 ～ 7	被災者4名は、会社所有のワゴン車に同乗し会社を出発、現場に向けて走行していたが、左カーブで、スリップにより対向車線にはみ出し、対向車線を走っていたダンプトラックに正面衝突し、運転席及び助手席の者が死亡した。	231	17	10～ 29
2006	10	10 ～ 11	被災者は、建築工事現場の残土をダンプを運転して運搬する業務に従事していた。被災者は、ダンプの荷台の上がりの状態が悪かったため、荷台を上げた状態で荷台下のシャーシの上に上がり油圧系統等の状況を見ていたとき、荷台が降下し荷台とステップとシャーシの間にはさまれた。	221	7	1～9
2006	11	9 ～ 10	空家となっている貸工場（S造一部2階建スレート屋根）において、被災者がコーキングガンを持って屋根に上がって雨洩りの修理を行っていたとき、屋根を踏み抜き5.5m余り下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2006	11	15 ～ 16	被災者が現場作業終了後に自社事務所へ帰社のため軽トラックの運転中、片側1車線道路で対向車線に出たところ、反対方向から走行してきた牽引レッカー車と正面衝突した。	231	17	1～9
2006	12	14 ～ 15	高速自動車道の中央分離帯の樹木剪定作業等が上り線・下り線の追越車線を工事規制して行われた。被災者が上り線の追越車線において、当該作業後に飛散した枯葉等をブローワーにより中央分離帯側へ寄せる作業をしていたとき、剪定した枝葉等を回収し搬出するため上り線追越車線を後進してきたパッカー車に轢かれた。	229	7	1～9
		4	事務所兼事業場附属寄宿舍（鉄骨造）2階にて3名の労働者が就寝してい			

2006	11	5	たところ 1 階の資材置場付近から出火し、2 階の窓から飛び降りた被災者は死亡、1 名が軽症、1 名はほぼ無傷で、事務所兼事業場付属寄宿舍は全焼した。	418	16	10～ 29
2006	11	18～ 19	倉庫新築工事現場での作業を終え、被災者らがトラックで、同事業場に帰る途中の市道上において、ハザードランプをつけないで停車していた 10 トントラックを追い越そうとした際に 10 トントラック後部に激突した。	221	17	1～9
2006	11	14～ 15	S 造のレストラン等を建築する現場において、基礎部の壁筋（293×510×37cm、約470kg）の歪みを修正するに当たり、壁筋転倒防止のため、被災者がうまにのり、壁筋の上部から移動式クレーンのフックまでナイロンスリングをまわし玉掛けしようとした際、別の労働者が壁筋の上部にあった別のナイロンスリングを取ろうとして、壁筋に足をかけ体重をかけたため壁筋が倒れ、それに伴うまも倒れ、被災者が墜落した。	371	1	10～ 29
2006	11	14～ 15	建物の解体作業現場で、コンクリートブロック壁が倒壊し、解体作業に従事していた作業員がコンクリートブロック壁と鉄骨に激突され、床面と鉄骨の間にはさまれた。	418	5	0
2006	10	16～ 17	外部足場の解体作業中、足場上（高さ12.25m）において、一段上の足場板を取り外し、運搬していた際、姿勢を崩し、外部に墜落した。	411	1	1～9
2006	10	13～ 14	地下受水槽の清掃作業のため、1 階床部にある既設地下へ行くための昇降口のフタを開けて入り、地下で作業を行っていたところ、隣の部屋で造作作業を行う予定の被災者がフタを開けたままの箇所（590mm×590mm）から墜落した（高さ約5m）。地下受水槽清掃業者と被災者は別の業者の所属である。	414	1	1～9
2006	11	16～ 17	作業構台（5 階部；高さ 14 m）にて型枠解体材（パイプサポート、鋼管）を集積中に構台が崩壊し、作業構台上で作業をしていた労働者 2 名が荷とともに落下し、1 名が死亡、1 名が重傷を負った。崩壊時に作業構台に集積されていた型枠解体材の重量は約 11 トンであった。	416	5	10～ 29
		14				

2006	11	～ 15	工事中のダクト地下3階底にうつ伏せで倒れ死亡している被災者が発見された。	414	1	30～ 49
2006	11	～ 16	10階建てマンションの屋上で、ペントハウスの壁タイルの補修をしていた作業員のところに、別棟で作業をしていた被災者が来て、話をしていた時に、被災者が屋上の吹き抜け開口部から後ろ向きに倒れ、墜落した。	414	1	1～9
2006	10	～ 10	9 工事現場にて高さ12.3メートルの外部足場上で外壁波鉄板の取り付け準備中の被災者が地上に墜落した。	411	1	1～9
2006	10	～ 16	15 地下連絡通路掘削工事場所において、地上GL上に車両系掘削用建設機械（クラムシェル）を設置し、深さ8.5mの場所の掘削土搬出作業中、水中ポンプの修理作業を終えた被災者が、当該掘削土近くを通り過ぎようとしたところ、降下してきたクラムシェルのバケット（1立方メートル）に、激突された。	142	6	1～9
2006	7	～ 17	16 ビル改築工事現場において、2階外部壁面窓枠上部に取り付けられた換気扇用排気口グリル（雨水等浸入防止カバー）の取替え作業を行っていた被災者が、高さ約5メートルの2階窓枠部分から地上へ転落した。	418	1	1～9
2006	10	～ 15	14 新築のスーパーマーケット店舗内装工事で、店舗の柱の上部（170センチ以上）に鏡を貼り付けるため、位置決めのため計測を脚立（7尺）に乗って行っていたところ、脚立から転落した。	371	1	1～9
2006	10	～ 12	11 RC造2階建て建物新築工事現場において、R階の型枠工事のため、移動式クレーン（35tラフター）でコンパネ100枚（180cm×90cm、総重量1.2t）をR階に荷上げする作業中、当該コンパネが崩れて落下し、1人がコンパネに激突されてその下敷きになり、もう1人が激突されて高さ約2.8メートル下の2階コンクリート床に墜落した。	522	4	1～9
2006	10	～	11 RC造2階建て建物新築工事現場において、R階の型枠工事のため、移動式クレーン（35tラフター）でコンパネ100枚（180cm×90cm、総重量1.2t）をR階に荷上げする作業中、当該コンパネが崩れて	522	4	1～9

		12	落下し、1人がコンパネに激突されてその下敷きになり、もう1人が激突されて高さ約2.8メートル下の2階コンクリート床に墜落した。			
2006	10	14 ～ 15	被災者は、工事現場での型枠解体作業を終え、別の工事現場での型枠組み立て作業を行うため、同僚が運転する2Tトラックの助手席に乗車し移動中、乗車していたトラックが市道交差点において、右側方から進入してきた乗用車に衝突され、横転しそのはずみで強打した。	231	17	1～9
2006	9	10 ～ 11	大型圧延工場のロール着脱作業場において、圧延用ロールの交換作業のため軸受けの抜き取り作業を5名で行なっていたところ、軸受け台がロールから抜けた時に近づいた被災者に倒れてきて強打した。	416	1	100 ～ 299
2006	9	11 ～ 12	浄化槽埋設のため3.5メートル×1.6メートル、深さ約2メートルの穴を機械掘りしたあと、床ならしのため被災者が穴の底に入り、鍬で作業中に側壁が崩壊し、土砂に埋もれた。土砂の量は1立方メートル程度。	711	5	1～9
2006	10	3 ～ 4	被災者外3名は産業廃棄物を産業廃棄物ボックスに廃棄しようとした。しかし産業廃棄物ボックスの横約40センチメートルの位置に高所作業車が駐車しており、廃棄に支障をきたしていた。そのため、高所作業車を前進させてさせようとしたところ、路面の傾斜により高所作業車が後退し、被災者に激突。高所作業車と産業廃棄物ボックスの突起部に挟まれた。	146	6	1～9
2006	9	15 ～ 16	機械式立体駐車場（1昇降路に2機の昇降設備を有する）設置工事最終段階において、奥側の設備の支柱等の塗装タッチアップを行っていた。入口側設備では性能確認のため中速（1m/S）で昇降試験を行っており、入口側設備のパレット上で入口側設備のタッチアップを行っていた被災者が、昇降設備の上昇に伴って降りてきたカウンターウェイトはさまれた。	219	7	1～9
2006	9	11 ～ 12	店舗→住宅用途変更改装工事において、コンクリート壁に窓を設けるために、はつり作業し、壁に鉄筋で繋がったままのコンクリート壁を取り除こうとした被災者が、鉄筋をサンダーにて切断し左右及上部の繋がれた鉄筋をすべて切断した際に、コンクリート壁の塊が倒壊し被災者に激突した。避けようとした被災者の倒れた場所にコンクリート壁に繋がった鉄筋がコンクリートの塊とともに倒壊して、倒れた被災者にあたった。	418	5	1～9

2006	8	16 ～ 17	工場内の治具置場として使用する下屋を設置する工事中、被災者が「うま」足場（高さ170cm）に乗って工場の建屋に下屋の鉄骨梁を一時的に固定する作業を行っていたところ、突然被災者が後向きに地上に転落し、「うま」も一緒に地上に倒れた。	371	1	1～9
2006	9	16 ～ 17	牛舎牛糞置き場の建設中、ドラグ・ショベルを用途外で使用し、重量1トンのコンクリートブロック（以下「ブロック」という。）を吊って、所定位置に敷設するため右旋回したところ、吊ったブロックが大きく揺れた。吊ったブロックの揺れを止めようと左旋回し地面に置こうとしたところ、被災者が見えたので、右に急旋回したところ、吊ったブロックの揺れが加速し被災者にブロックが激突した。	142	6	1～9
2006	9	15 ～ 16	1階建、鉄筋コンクリート造の新築工事現場において、外部足場の解体作業中、5層目の足場上で6層目の床（鋼製布板15.1kg）を同僚と外していたところ、バランスをくずし布板とともに約7m下の地面に墜落した。	411	1	30～ 49
2006	7	15 ～ 16	ドラグ・ショベルの用途外使用によりバケットフックで生コンクリートを仮受けしたホッパー（推定600キログラム）を吊り上げ、深さ約3メートルのピット底部に降ろそうとしたところ、ホッパーに取り付けられたワイヤがフックから外れ、ホッパーが落下し、ホッパーの下にいた被災者に激突した。	142	4	10～ 29
2006	8	11 ～ 12	3階建ての鉄骨鉄筋コンクリート造の建物の解体工事において、被災者はアセチレンガスを用いて屋上のペントハウスの南側の壁の鉄骨を溶断する作業を行っていた。被災者が南側の鉄骨の溶断を行った後ロープ等で引っ張って壁を倒す予定であったが、被災者が溶断作業を行っているときに南側壁面が突然被災者側に倒れてきて挟まれた。	418	5	50～ 99
2006	8	8 ～ 9	中学校校舎の屋根葺き替え作業において、被災者は隣接する建物から作業場所に掛け渡した作業通路を使用して、屋根材である木毛板を運搬していたところ、バランスを崩して軒天井を突き破り、7.7メートル下の地面に墜落した。	417	1	1～9

2006	7	15	事業場の駐車場で4 t 車両積載形トラッククレーンにより解体工事用アタッチメント（大型ブレーカー）を吊り降ろしていた際、大型ブレーカーが吊りフックから外れて、被災者の上に落下した。	212	4	10～29
2006	8	9	鉄骨造倉庫建築工事において、鉄骨材を屋外から鉄骨組立中の屋内へ移動式クレーンにて搬入中、高さ約8 mの梁の上で吊り荷の誘導作業を行っていたところ、墜落した。	417	1	1～9
2006	8	7	被災者が、乗用車で建替工事現場へ向う途中、飲酒運転を行っていたタンク車が、右側にはみ出し正面衝突した。	221	17	10～29
2006	8	15	コンクリートの打設作業中に倒れている被災者を別の作業員が発見した。被災者はこのとき既に意識がなく、すぐに救急車を呼んで病院へ搬送されたものの意識が回復することなく死亡した。	715	11	1～9
2006	7	12	店改装工事現場から道路向かい側のコンビニエンスストアに買物に行き、戻るため道路を横断していたところトラックにはねられた。	221	17	1～9
2006	8	14	土留め工事開始日のため、午前中に準備作業と2時間ほど親杭打設作業を行い、1時間ほど昼休みを取った。13時から引き続き作業を行っていたところ、14時30分頃に手元作業を行っていた被災者が休憩室に入りお茶を飲んで休憩していたが、しばらくして倒れた。そのため、すぐに冷たい飲み物等で体を冷やしたが、それでも様子が悪そうに見えたので救急車を手配したところ、翌日病院で死亡した。	719	11	1～9
2006	8	15	幼稚園増築工事現場において、既設フェンスの撤去に伴って出た解体後のフェンス部材を、仮置場から約3.5 m離れた集積場所に、手作業で運搬する業務を行っていたが、午後、敷地外で倒れているところを第三者に発見された。被災者は、救急車で病院に搬送されたが、翌日に死亡した。	715	11	10～29
2006	7	10	建設工事で使用するH形鋼を、工場内の深さ約1.5 mのピット上で溶接しようとしていたところ、H形鋼と一緒にピットに墜落した。溶接しよ	521	4	30～

		11	うとしていたH形鋼は長さ約1 mのもので、幅25 cmの鋼材の上に置かれていた。			49
2006	7	11 ～ 12	工場の増築工事において鉄骨の組立作業中、高さ10.6 mの大梁の上でつり足場（重量約13 kg）を被災者一人で設置しようとしたところ、つり足場ごと1階の床に墜落した。	415	1	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	鉄骨建方の際に使用していた墜落防止用ネットの撤去作業を行ない、被災者が同僚らと2人1組で、撤去したネット（10 m×10 mを俵状に畳んだ物、重さ約45 kg）を2階から1階床に投下する作業を行っていた際、投下の瞬間にネットが被災者の安全帯に引っ掛かり、ネットに引き込まれる様な形で、約5.5 m下のコンクリートスラブ上に墜落した。	414	1	1～9
2006	7	17 ～ 18	高さ約3.2メートルの位置にある車庫の雨樋の状態を確認するため、被災者は自身の乗用車の屋根上（高さ1.71メートル）に上り、乗用車の屋根上から車庫の屋根に立てかけた脚立を使って当該確認作業を行った後、同脚立を地上に降ろして前かがみの状態になった時、そのままの姿勢で地上に墜落した。	231	1	50～ 99
2006	7	15 ～ 16	マンション新築工事において、鉄骨組立作業のために親綱を張るべく、移動式クレーンにて親綱（8階と7階分を各10本）を束ね、ワイヤロープで玉掛けし、荷揚げを行った。被災者は、8階鉄骨梁上で当該親綱を待ち受け、8階用10本を荷下ろしした後、バランスを崩し、玉掛けワイヤロープにつかまったが、手がすべり1階コンクリート床に約2.4 m墜落した。	418	1	10～ 29
2006	7	15 ～ 16	ショッピングセンター新築工事において、モール吹き抜け部に棚足場を設置するため、地上1.7 m上で木製足場板を敷きならべる組立作業を行っていた。その上部（4階スラブ）に設置されている鉄骨組立作業時に用いられていた水平ネット（落下養生）が当該足場の設置位置に重なり作業に支障を来すため、足場板端部で当該ネットを取り除いていたところ、1階コンクリート床に墜落した。	411	1	100 ～ 299
		10				

2006	7	~ 11	工場のスレート拭き屋根の工事中、スレートを踏み抜き、約10メートル下に墜落した。	415	1	1~9
2006	7	~ 16 ~ 17	解体工事現場において、電気室の周囲の電線を移設作業終了後、被災者が防護網を取り付けていた建地の単管の最上部と横方向の単管が外れていたのを固定させるため脚立を使って低圧配電盤（高さ約2m）の上上がった後、よろけて低圧充電部（220Vの銅板）に触れたと同時に倒れた。	351	13	100 ~ 299
2006	7	8 ~ 9	マンション新築工事現場において、アース・ドリル（つり上げ荷重35tのクローラークレーン）で発電機をつり上げて左旋回したところ、隣に停めていたドラグ・ショベルの運転席にいた被災者が、アース・ドリル旋回体右後部と搭乗するドラグ・ショベル運転席左前部にはさまれた。	212	7	1~9
2006	4	~ 15 ~ 16	マンション新築工事現場において行われていた外足場の解体作業中、西側外階段部分の幅2スパン×高さ27層の枠組足場の下から5層が北側に流れるように崩れ、上部22層が南側に倒壊し、当該足場の下方で根がらみの取り外し作業を行っていた被災者が崩れた足場の下敷きとなった。	411	5	1~9
2006	6	~ 15 ~ 16	被災者は、コンクリートを打設するため、工場で加工された鉄筋を、建設工事現場において組み立てる作業に従事していたところ、体調が悪くなり、日陰で休憩したが、体調が回復せず、自力で自転車に乗り、居住している寮へ帰宅した。職長が被災者が帰ったことを聞き、被災者を追いかけたところ、帰宅途中の道端で倒れているのを発見し、病院へ搬送したが、死亡した。	715	11	1~9
2006	6	~ 8 ~ 9	マンション新築工事現場において、足場の外側に設けられた張り出しステージの解体作業中、ステージ上から1階に墜落した。（墜落高さ12.5m）	414	1	10~ 29
2006	6	~ 11 ~ 12	建築現場から残材を回収し、自社の加工場へ戻るためトラックを運転していた被災者が、交差点で右折のため停車中に、対向車線を走行してきた10tダンプが衝突した。	221	17	1~9
		13	鉄骨造3階建ての建築物新築工事において、3階フロア部のスラブデッキ			10~

2006	6	～	を配分及び仮置きする作業を行っていたところ、高さ8.5メートルの梁	415	1	29
	14		から地上に墜落した。			
2006	6	～	立体駐車場設置工事において、被災者は、立体駐車場内22段目（高さ約	416	1	10～
	16		38メートル）附近の外壁材のジョイント部のコーキング作業を行ってい			29
			たところ、作業床（カーリフト）と外壁との隙間から墜落した。			
2006	6	～	アパートの新築工事に付帯する駐車場の造成工事で、RC基礎を設けるた	419	1	1～9
	10		めドラグ・ショベルによる掘削作業の近くで測量を行っていたところ、盛			
			土された法の端から2.4m下の隣地に転落した。			
2006	5	～	事務所ビルの改修工事現場において、3階天井（漆喰天井）の解体作業	418	5	30～
	10		中、解体作業責任者がバールを使用して天井の漆喰を剥がしていたとこ			49
	11		ろ、突然、天井（幅2.2m×長さ11.2m）が壁を支点として落下し			
			た。解体作業責任者は声が聞こえたので、声の方を見ると10m先で被			
			災者が落下した天井に寄りかかった状態で座り込んでいた。			
2006	5	～	鉄骨造2階建ての建築現場で、建方作業当日に、同作業に従事していた労	415	1	1～9
	14		働者が、2階梁（地上高さ約5メートル）から、地上に墜落した。			
2006	5	～	被災者らは、マンション新築工事現場で使った基礎工事前用鋼矢板40枚	222	4	1～9
	14		（1枚の長さ7メートル、重量420キログラム）を10枚、4組に分			
	15		け、トラックに積み、自社内で荷卸しする作業に従事していた。同僚が			
			フォークリフト（最大積載荷重8トン）で3組目の鋼矢板を卸そうとし			
			た時、フォークリフトのフォークの先端が4組目の鋼矢板の縁にかかり、			
			4組目の鋼矢板がトラックの荷台より落下、トラック側面にいた被災者が			
			被災した。			
2006	6	～	鉄骨平屋建ての倉庫新築工事現場において、被災者は地上より高さ3.5	415	1	1～9
	9		m、巾17.5cmの鉄骨梁上でボルトの本締めを行っていたところ、バ			
			ランスを崩して地上基礎部に墜落した。			
			被災者は建屋の外壁（腰PC板高さ1.185M、長さ3.2M、幅0.			
			13M、重量1.3t）取付け作業中、PC板を溶接で仮止めした後、P			

2006	5	11 ～ 12	C板の取り付けを行ったが、取付け位置が低かったことから、位置を修正しようと別の作業者が被災者の反対側からバールにて浮かして当て板をその隙間に入れて高さ調整を図っていた時に、仮止めしていた溶接部分が外れたことにより、PC板が被災者側に倒れて挟まれた。	419	5	1～9
2006	3	10 ～ 11	立体駐車場の鉄骨の建方等の工事において被災者が、建ち上がった鉄骨の最上部（地上から高さ約70m）に上がったとき、ウインチのワイヤロープを通すための開口部（58cm×141cm）から地上まで墜落した。	414	1	300 ～ 499
2006	4	19 ～ 20	営業所で打合せを行い、本社に戻るため走行していたところ、対向車が中央分離帯を越えて接近し、その後正面衝突した。	231	17	10～ 29
2006	5	9 ～ 10	当該事業場の車両を整備する車庫の屋根上において、屋根上に寄りかかったがじゅまるの木の枝の伐採のため同僚と2人で屋根上に上り木の枝の伐採行っていた。被災者はその後木の上ののって伐採作業中に、4.93m下の地面に墜落した。	712	1	1～9
2006	5	9 ～ 10	RC造2階建の新築工事現場において、2階のこう配屋根に防水シートを張る作業中、明り取り用天窓の開口部より防水シートを踏み抜いて墜落した。	414	1	10～ 29
2006	2	17 ～ 18	屋根のメンテナンス用安全バー支柱の根元部分のシーリング作業のため、屋根頂上付近に安全ブロックをセットして、一人で作業にて行っていたところ転倒し、安全ブロックのワイヤが被災者に巻きつき、転落、屋根から懸垂状態になっているところを発見された。	415	1	1～9
2006	4	10 ～ 11	鉄骨造建物解体現場において、北側1階外壁を重機で掴み、敷地内側へ倒そうとしたところ、外壁が重機から外れ、その反動で敷地外側へ倒壊した。その際、北側養生用足場も倒壊し、ロープにより控えを取っていた東側養生用足場も北側に引かれたため、東側養生用足場のロープ緊結部の単管が外れ、その近くにいた被災者を直撃した。	379	4	1～9
			スーパー新築工事現場の生活排水路の一部を撤去してボックスカルバート			

2006	4	9 ～ 10	に改修する作業において、生活廃水路の一部を撤去後その下部をドラグ・ショベルで明かり掘削していたとき、下流にあった生活排水路が崩壊し（高さ2m、長さ3.9m、奥行1.8m、重量約14.5トン）、崩壊した排水路内で掘削溝の水の汲み出し作業をしていた作業員とともに掘削溝に転落し、作業員1名が死亡した。	418	5	1～9
2006	4	1 ～ 2	躯体屋上の雨水のくみ出しと清掃を一人で行うよう指示されたため、清掃用具を持って外部足場を利用し躯体の屋上へ向かった。しばらくすると鈍い音がしたので、近くにいた設備工の作業員が確認すると現場の敷地内に被災者が倒れていた。	411	1	1～9
2006	4	15 ～ 16	アスベスト撤去工事に伴い、壁面の足場上で養生用ビニールシートの取り付け作業中、突然倒れた。安全帯により転落をまぬがれたが、収容先の病院で死亡した。付近に天井クレーンのトロリー線（400V）が設けられており活線であった。	211	13	30～ 49
2006	4	14 ～ 15	社屋新築工事の基礎工事において、敷地整備に敷いていた敷鉄板（1枚約1.6トン）をドラグ・ショベル（つり上げ最大荷重600Kg）のバケットのフックにワイヤロープ（先端にシャックル及び外れ止めが壊れたフック付）を掛け、これで敷鉄板を吊り移動させ、地上に卸したところ敷鉄板がフックからはずれ、敷鉄板が予定の反対方向に倒れた。倒れた時に敷鉄板の舵をとっていた作業員が、敷鉄板の下敷きになった。	372	5	10～ 29
2006	3	13 ～ 14	スレート屋根の上に波板の鉄板を葺く作業中、屋根上に仮置きしていた鉄板が強風にあおられ、被災者に当たり、バランスを崩した被災者がスレートを踏み抜いて約9.3m下に墜落した。	415	1	1～9
2006	1	14 ～ 15	法面整形現場において、トラック運転手（被災者）が、法面整形をしていたドラグ・ショベルの手元作業をするためにドラグ・ショベルに近寄ったところ、ドラグ・ショベルが横移動し、被災者がクローラー部分に轢かれた。	142	7	1～9
2006	3	16	被災者は高さ約2.8mの箇所にある壁のボード貼り作業を単独で行っていたが、離れた場所で作業していた職長が脚立の倒れる音を聞き、当該場	419	1	1～9

		17	所へ行ったところ、地面に脚立とともに被災者が倒れていた。			
2006	2	10 ～ 11	ドラグ・ショベルにて残土をダンプに積込み搬出後、ドラグ・ショベルを回転しながら後退させたところ、敷鉄板をクローラーに引っ掛け、敷鉄板を後方に引きずり、近くの1.2mの深さの箇所で、基礎のアンカーボルトを設置していた被災者に敷鉄板が当たり、基礎の型枠との間に挟まれ被災した。（敷鉄板1.5m×6m）	142	7	30～ 49
2006	3	15 ～ 16	下部に脚輪を付けた調整枠を筋かいでつなぎ台車を組立て（布板は組んでいない）、この台車により軽天下地材等（C型鋼；長さ5m、総重量約1.57t）を5名で運搬していた。途中、脚輪のストッパーがかかったためか押せなくなったため、被災者が後方枠の真後ろ荷の下に入り、一斉に押したところ台車が崩れ、被災した。	611	5	1～9
2006	2	16 ～ 17	マンション新築工事現場において、貯水槽設置時に設けた土止め支保工の背板盛りかえのため、ドラグ・ショベルで地山を約3.5mまで掘削した後、被災者が掘削溝底面において土止め支保工の親杭付近の地山を手掘り掘削していたところ、掘削面が深さ約3.5m、幅約1m、長さ約2mにわたり崩壊し、被災者が生き埋めとなった。	711	5	30～ 49
2006	3	6 ～ 7	労働者3名が会社所有のワゴン車に乗り、会社事務所から工事現場に向かう途中、国道において、走行中のワゴン車が対向車線を越えて被災者の乗ったワゴン車の前を走行していた乗用車に接触した後、被災者のワゴン車に衝突した。	231	17	1～9
2006	3	8 ～ 9	被災者は、13階建てのマンション新築工事現場内において、屋上及び足場に積もった雪を除雪していたところ、高さ41.5メートル下へ墜落した。	411	1	1～9
2006	2	15 ～ 16	事業所内の解体工事現場において、トラックに積載した廃材を重機で整理していたところ、トラックの荷台からH鋼（長さ約8m、重さ約700kg）が落下し、トラックのそばで清掃作業をしていた被災者に当たった。	521	4	30～ 49
2006	2	17	被災者の家族から会社に自宅に戻ってないとの連絡があり、工事現場の建屋屋根下の雪山を掘り搜索したところ、シャベルを下にうつぶせの状態の	719	5	1～9

		18	被災者を発見した。			
2006	2	16 ～ 17	4階建マンションの防水工事を、被災者は4階ベランダで、もう一人の作業員は屋上で作業をしていたところ、4階ベランダの物置が倒れる音があったので、屋上の作業員が確認したところ、13.37m下の隣地住宅の庭に被災者が墜落していた。	391	1	10～ 29
2006	1	9 ～ 10	鉄骨平屋建の鶏糞乾燥場において、上屋根からの落雪により下屋根が破損したため、作業員4名で下屋根に上がり、作業開始前に取付けた親綱に安全帯を掛け、被災者は屋根下地となる野地板張り作業を行っていた。移動のため、安全帯を親綱から外した直後、バランスを崩し、事前に切断され取り除かれていた下屋根の開口部（1.8m×0.6m）から、高さ8.8m下のコンクリート床面に墜落した。	414	1	1～9
2006	1	14 ～ 15	逆打工事の2次掘削で被災者は地下1階部分を掘削機で掘削していたが、上部捨コンから5メートル弱の掘削中に上部から（型枠工事に使った）単管パイプが落ちたため、立入り禁止区域に入り片付けていたところ、上部の土砂が崩れ下敷きになった。	711	5	50～ 99
2006	1	16 ～ 17	4階建てビル解体作業において、3階床面にて作業をしていたところ、ビル床面に設けられた廃棄物を落下させていくための開口部より1階床面まで転落した。	414	1	30～ 49
2006	1	19 ～ 20	地下機械式立体駐輪場の建設のため、立坑（直径7m、深さ15m）を掘削していた。他の下請け事業者が、翌日の作業に備え、立坑を覆っていた鋼製の覆工板（縦1m×横3m）を一部取り外し、開口部としていた。そこに資材を運搬していた被災者が、開口部より墜落し被災した。	418	1	10～ 29
2006	1	15 ～ 16	移動式足場の手すりを97cmから75cmに付け替える作業中に、高さ3.3mの高さの作業床の端から墜落した。	411	1	10～ 29
2005	11	20 ～	コンビニエンスストアで従業員の夜食を買い現場に戻る途中、横断歩道上で酒気帯び運転の車両にはねられた。	231	17	10～ 29

		21				
2005	8	14 ～ 15	鋼材3本を束ねて2カ所をつりクランプで固定し、クローラクレーンで高さ10mまでつり上げたところ、つりクランプが外れて鋼材が落下し、被災者に激突した。	372	4	10～ 29
2005	1	11 ～ 12	店舗の新築工事現場において、広告塔鉄骨（高さ12m）の錆止め塗装作業中に墜落した。作業箇所から6m下の安全ネットで墜落は止まったが、その間、張り出していた梁に激突していた。	418	1	1～9
2005	10	8 ～ 9	鉄骨平屋建ての倉庫解体工事現場において、高さ6mの屋根のスレートを踏み抜き、倉庫の土間に墜落した。	415	1	1～9
2005	4	16 ～ 17	盛土の上で作業していたドラグ・ショベルを下ろそうと勾配が30度の斜面を下っていたところ、機体が転落し、被災者が機体の下敷きとなった。	142	1	50～ 99
2005	7	19 ～ 20	建物立替・新築工事現場からワゴン車で帰る途中で車の中で気分が悪くなり、足がつる、目が見えなくなってきた等の症状を訴え、車の中で意識を失った。	715	11	1～9
2005	7	6 ～ 7	社用車で高速自動車道を走行中、タイヤがパンクし、交通事故となった。	231	17	0
2005	6	8 ～ 9	ドラグ・ショベルにて、発電機をつってトラックに積み込み、つっていたワイヤロープの一端を外し、ドラグ・ショベルを旋回させたところ、ワイヤロープが発電機から外れず、発電機はそのまま荷台より落下、ワイヤロープを外す作業を行っていた被災者とともに転落し、落ちた発電機に挟まれた。	142	4	1～9
2005	11	15 ～ 16	高さ14mの足場上で、足場を解体するため足場部材をロープでくくり、路上につり下ろす作業中、既設足場の筋交いにつり下ろし中の部材が噛んでしまったため、ロープを引き上げたところ、ロープで括っていた部材が緩	411	1	1～9

			んで落ち、直後に作業中の被災者が墜落した。			
2005	3	9 ～ 10	型枠資材の廃材を資材置場よりフォークリフトで焼却場へ運搬し、フォークを上下に揺すって廃材を振り落としていたところ焼却ピットへフォークリフトとともに転落した。	222	1	50～ 99
2005	4	9 ～ 10	鉄骨造倉庫新築作業現場において、瓦ふき作業中に高さ4mのひさし屋根上から墜落した。	415	1	1～9
2005	10	11 ～ 12	煙突の改修工事で、円形ゴンドラに搭乗し、作業を行っていたところ120mの高さにあったゴンドラから墜落した。	216	1	1～9
2005	12	14 ～ 15	乗用車の助手席に乗り移動中、対向車と衝突し、さらに後続の大型トラックと衝突した。	231	17	30～ 49
2005	2	16 ～ 17	マンション新築工事現場において、外部足場の解体作業中に、建屋6階荷受けステージの単管クランプを外した際に単管が斜めに下がり、15m下に墜落した。	411	1	10～ 29
2005	1	17 ～ 18	倉庫の屋根の塩化ビニル製の波板のふき替え作業中、側にあった高圧電線（交流6,600V）に触れて感電した。	351	13	10～ 29
2005	6	9 ～ 10	工事現場の事務所で打合せ中に突然倒れ、搬送された病院で、死亡した。	911	90	10～ 29
2005	11	7 ～ 8	ワゴン車で国道を走行中、センターラインをはみ出し、対向してきた路線バスと正面衝突した。	231	17	1～9
2005	9	11 ～	RC造3階建家屋の建築工事現場において、被災者は、配筋作業を行っていたところ、体調不良となり、死亡した。	715	11	1～9

		12				
2005	7	16 ～ 17	店舗内部解体工事において、廃材等の外部への搬出作業を行っていたところ、体調不良となり、その後、死亡した。	715	11	10～ 29
2005	7	8 ～ 9	工場の新築工事現場において、基礎杭の打設のために掘削した縦穴から染み出てきた湧水をドラグ・ショベルで掬い、現場内の別の場所へ移動させる作業を行っていた。被災者は工場の窓ガラスを清掃していたが、ドラグ・ショベルの稼働区域に立ち入り、突然旋回してきたドラグ・ショベルのバケットに強打された。	142	6	1～9
2005	4	9 ～ 10	建物の雨水処理のため、脚立に昇り、電気チッパーで、はつり作業を行っていたところ、脚立が倒れ、墜落した。	371	1	1～9
2005	7	15 ～ 16	建設工事において、スラブ上で資材の運搬を指示していたところ、足場の南面から外部に張り出したブラケットと歩み板もろとも地上に墜落した。	411	1	10～ 29
2005	12	15 ～ 16	鉄骨建て方中の梁上で、鉄骨製の柱にボルト取り付ける作業を行っていたところ、柱が傾き、アンカーボルトが抜け、柱と梁がともに倒壊し、柱と梁との間に挟まれた。	418	5	10～ 29
2005	1	11 ～ 12	工事現場において、アースドリルを用いて基礎杭打ち作業を行っている時に、ドリルが自然落下し、被災者に激突した。	143	4	1～9
2005	1	13 ～ 14	室内の間仕切壁撤去作業を行うため、壁の上下左右の端部を鉄筋が露出するまではつり、片側をパイプサポートとチェーンブロックで支持したところ、壁が倒れ、被災した。	418	5	1～9
2005	2	14 ～ 15	足場で組立作業をしていた作業者が火打ち材として使用する単管を枠組足場の枠の上に仮置きしていたところ、強風により単管が落下、下で作業中の被災者に激突した。	521	4	1～9

2005	12	14 ～ 15	増改築工事現場において、鉄骨組立て作業中にボルトの本締めを行っている際、5mの高さから墜落した。	415	1	1～9
2005	4	19 ～ 20	地上16mの躯体5階端で、外壁取付けのためのアングルをアーク溶接する作業中、地上まで墜落した。	418	1	10～ 29
2005	8	8 ～ 9	トラックの荷台に向かって歩行中、他のトラックが後進してきて、2台のトラックの荷台との間に挟まれた。	221	7	50～ 99
2005	11	15 ～ 16	住宅新築工事現場において、屋根瓦の運搬作業を行っていたところ、高さ3.9mの軒から地上に墜落した。	415	1	1～9
2005	3	0 ～ 1	鉄骨2階建住宅工事現場において、梁の上で寸法を図る作業中に高さ3.2mの梁の上から転落した。	415	1	1～9
2005	8	16 ～ 17	棚足場組立作業中、結束されていない鋼製足場板の先端に乗ったため当該足場板が天秤状態となり、22m下のスタンド部に墜落した。	411	1	10～ 29
2005	7	9 ～ 10	2階建て住宅の解体工事現場において、解体用重機を用いて解体作業中、廃材投入用コンテナ内の廃材を重機アタッチメント部分を用いて均そうとしたところ、コンテナ内で作業していた被災者にアタッチメント部が激突した。	149	6	1～9
2005	7	13 ～ 14	2階建鉄骨造個人住宅の新築工事現場において、スコップを使用して、外構、アプローチ部分の路盤の整地作業に従事していたところ、突然、その場に座り込み、その後、死亡した。	715	11	30～ 49
2005	12	11 ～	梁鉄骨搬入のため、トレーラートラックの荷台からクローラクレーンで梁鉄骨を荷降ろししている際、梁鉄骨が荷崩れ・落下し、被災者が下敷きと	611	4	10～ 29

		12	なった。			
2005	12	19 ～ 20	トラックの荷台に機材等を積み込む作業中、後方より走行して来た乗用車が前方不注意のため最後尾のトラックに追突し、はずみで押し出された最後尾のトラックと中央のトラックとの間に挟まれた。	231	17	1～9
2005	11	10 ～ 11	照明設備取付けのため、天井板裏の梁に足場板を掛け渡す作業中、梁から足を踏み外し、天井板を突き破り、6m下のコンクリート床に墜落した。	411	1	30～ 49
2005	2	17 ～ 18	自動車で行中、国道交差点内で左折した際に、曲がりきれずガードレールに激突した。	231	17	1～9
2005	11	11 ～ 12	ドラグ・ショベルにフォークグリップ状のアタッチメントを取り付け、庭石を挟んでダンプトラックに載せようとしたところ、庭石が荷台上に落下し、荷台上を滑動したため、反動であおりから荷台に投げ出された被災者らに激突した。	149	4	10～ 29
2005	4	15 ～ 16	ビル新築工事現場において、高さ22mのデッキプレートの溶接作業中に墜落した。	416	1	1～9
2005	3	13 ～ 14	自社所有の資材置き場内で自社の資材を利用した倉庫を建てる作業で、屋根の下地となる杉板を打ち付ける作業を高さ5.7mの鉄骨屋根梁上で行っていたところ、既に取り付け終えた下地板の端から地上においてあった塩ビ管の束の上に墜落した。	415	1	10～ 29
2005	2	10 ～ 11	作業場所に戻る途中、急旋回したクラッシャーと切土の壁面との間に挟まれた。	149	7	1～9
2005	12	6 ～ 7	トラックで高速自動車道走行中にガソリン不足となり、路肩に停車し荷台に積んでいたガソリンを給油しようとしたところ、後続の乗用車にはねられた。	231	17	1～9

2005	10	15 ～ 16	左官補修工事を、高さ6.5mの足場の上で行っていたところ、躯体と足場の間の開口部より墜落した。	411	1	10～ 29
2005	7	10 ～ 11	基礎工事のため掘削された部分の埋戻し作業に関連して、スラブ側に埋戻しの土砂が入り込まないようにするため、ドラグ・ショベルにて鉄板（重さ700kg）をつり込み、これを立てて鉄板が自立したところで玉掛用具を外したところ、当該鉄板が倒れて、これと地山との間に挟まれた。	419	5	30～ 49
2005	5	15 ～ 16	地下駐車場の足場組立中、高さ5.5mの足場の3段目からコンクリート床に墜落した。	411	1	100 ～ 299
2005	5	8 ～ 9	マンションにおいて、暖房屋外機の置き場の床シートの貼り状況を確認するために、5階の窓から幅が70cmの屋外機置き場に下りようとして窓の手すりを乗り越えた際に、そのまま12m墜落した。	418	1	1～9
2005	6	14 ～ 15	外壁パネルの取付け作業中、積み重ねられている外壁パネルの最上部の1枚を取り付けやすいように向きを変えようとしたところ、後方にあるエレベーターピットの手すりの下方をすり抜け、9m下のエレベーターピット内に墜落した。	414	1	1～9
2005	4	14 ～ 15	足場の組立作業中に、足場の床から8.4m下の隣接する立体駐車場の庇まで墜落した。	411	1	10～ 29
2005	2	18 ～ 19	マンション新築工事現場で、鉄骨梁を移動中に墜落した。	415	1	10～ 29
2005	1	13 ～ 14	マンション新築工事現場内で、場内の仮設道路に敷き並べられた鉄板をズレ止めのためアーク溶接作業を行っていた被災者が、向きを変えようと後進したダンプトラックにひかれた。	221	6	1～9
		8	工事記録の写真の撮影を行うため、高さ3.8mの2階鉄骨梁上を移動中、鉄			

2005	3	～ 9	骨梁から1階へ墜落した。	415	1	1～9
2005	2	10 ～ 11	杭打ち機械の解体作業において、ワイヤが引っ張られて切断し、取付部下の滑車が、ステー根本近くに飛来し、被災者を直撃した。	143	4	1～9
2005	10	10 ～ 11	構内を詰所に向けて歩行中、バックで走行してきたトレーラートラックに激突された。	221	7	50～ 99
2005	2	9 ～ 10	コンクリート建設現場の足場の4層目から墜落した。	411	1	300 ～
2005	8	11 ～ 12	鉄骨造ビル建設現場において、鉄骨用クライミング足場の盛替え準備作業を6階梁下に設けられた当該足場上で行っていた際、当該足場と柱を挟んで設けられていたつり足場との間の渡し板を手前に引きこもうとしたとき、4階コンクリート床まで7m墜落した。	411	1	30～ 49
2005	6	15 ～ 16	マンション建設現場にて、被災者は同僚とともに高温下で屋上階のコンクリートスラブ均し作業を行っていたところ、体調不良となり倒れた。当日の最高気温は36℃であった。	715	11	10～ 29
2005	2	12 ～ 13	杭打ち機のメンテナンス作業中、中間振れ止めカバーが落下し、下部振れ止めカバーとの間に挟まれた。	143	7	1～9
2005	10	16 ～ 17	鉄骨コンクリートブロック造の車庫解体工事において、鉄骨の屋根部分を撤去後、軽量コンクリートブロックで造られた壁の一部を残して解体する作業中、残す部分をコンクリートカッターで縁切りしても完全に縁が切れなかった箇所を被災者がハンマーで叩いて縁切りしていたところ、壁が高さ約3m、幅7mにわたって倒れ、その下敷きとなった。	418	5	10～ 29
		8	鉄骨の高さ調整作業を高所作業車に乗り行っていたところ、鉄骨が落下			50～

2005	2	～ 9	し、下にいた被災者に当たった。	418	4	99
2005	8	～ 11	10 3階建て校舎屋上の端で防水用シートを同僚と一緒に敷き込む作業中、 シートの巻終わりを芯から剥ぎ取ったところ、勢いあまって作業床の端か ら地上に墜落した。	416	1	10～ 29
2005	6	～ 15	14 マンション築造工事現場で、型枠補強のため、モルタル8kg入りのバケツ を3階まで階段で運搬する作業で、10往復ほどしたところ、階段付近で 倒れた。	715	90	50～ 99
2005	8	～ 16	15 解体作業で、スレート屋根に上って、スレートを剥がす作業を行っていた ところ、開口部から4m下に墜落した。	415	1	1～9
2005	10	～ 15	14 既存建物内部の改修工事のうち、2階床の開口部の周囲をハツリ、開口面 積を広げる作業を行っていたところ、開口部から6m下に墜落した。	414	1	10～ 29
2005	12	～ 14	13 足場シートの取外し作業を行うため、足場を移動中、本来2枚敷きである はずの布板が1枚のみの場所があり、そこから地面へ墜落した。	411	1	1～9
2005	3	～ 14	13 工事現場に、車両積載形トラッククレーンに積載された鉄骨資材を搬入す るため、坂道をブレーキを掛けながら下りていたところ、途中でブレーキ が効かない状態となり、擁壁側で誘導していた被災者が、車体と擁壁との 間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2005	1	～ 8	7 軽ワゴン車で走行中、雪にハンドルを取られた対向車が被災者の前方には み出し、被災者の運転する車両と衝突した。	231	17	50～ 99
2005	1	～ 14	13 土止め支保工として使用していたH鋼を撤去するためにH鋼の根元をガス 溶断していたところ、溶断していたH鋼が被災者の上に倒れてきた。	419	5	1～9

2005	7	11 ～ 12	小学校体育館建築工事現場において、高さ1.8mの可搬式作業台から地上1階床面に下りる際、後方に転落した。	371	1	30～ 49
2005	6	15 ～ 16	鉄骨柱の建方作業中、移動式クレーンにより基礎に据え付けて仮止めを行った建方開始後、3本目の柱の頂上部に上り、玉掛けワイヤロープを外し、地上へ下りる際、鉄骨柱が傾き始めたため頂上部に戻ったものの、そのまま鉄骨柱が倒壊し、被災者が鉄骨柱とともに墜落した。	418	5	10～ 29
2005	8	16 ～ 17	被災者は、自社構内の新築途中の倉庫の2階に仮置きしていた袋詰め原料を使用することとなったため、倉庫外側に設置してあった足場に上がり、倉庫内から原料を足場上に取出し作業中、袋と一緒に地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2004	3	10 ～ 11	共同住宅新築工事の躯（く）体2階ベランダの型枠解体作業で、天井部分のベニヤ板を外す作業を外部足場2層目から行おうとしたところ、手すりのない足場から墜落した。	411	1	1～9
2004	9	10 ～ 11	マンション新築現場において、3階部分の窓ガラス取付けのため、足場の昇降階段からガラス板（1200×49、厚さ6mm）を1人で抱え運びあげる作業中、足場の下から3層目の踊場でバランスを崩し3.6m下に墜落し、そこにガラスが落下してきた。	411	1	10～ 29
2004	1	15 ～ 16	お寺の納骨堂新築工事のため、本堂と渡り廊下でつながっている家屋を解体する作業において、渡り廊下の途中を切断するため、渡り廊下の屋根に上り軒げたをのこぎりで切っているとき約3m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2004	7	9 ～ 10	高さ約9mの工場屋根上で、火気養生用のシートをたたむ際、養生シート端を手に持ち後退したところ、明り取り用の波板を踏み抜き、工場内の床へ墜落した。	415	1	10～ 29
2004	7	16 ～ 17	新築マンションの工事現場にて、外部足場を降りてきた被災者の様子がふらふらとしておかしいので、2階のベランダにてハツリ作業をしていた他社の作業者が気付き休ませていたが回復しないため、被災者の所属する事業場の事業主が被災者を自宅に連れ帰ったところ熱中症で死亡した。	715	11	10～ 29

2004	6	6 ～ 7	軽ワゴン車で国道を運転中、誤って車線をはみ出し、反対車線を走行して来た4 tトラックに正面衝突した。	231	17	1～9
2004	10	10 ～ 11	集荷場において、被災者は台風により破損したスレート屋根の補修見積りをするため、屋根上で、道板と単管を屋根に上げて安全通路を確保する作業をしていたところ、スレートを踏み抜いて墜落した。	415	1	1～9
2004	8	8 ～ 9	工場のヒサシを取付ける工事において、フォークリフトで上昇させたパレット上でネットのワイヤロープの取外し作業を行っていたところ、被災者が墜落した。	222	1	1～9
2004	8	15 ～ 16	鉄筋コンクリート造建築工事にかかる玄関ポーチひさしの鉄骨組立作業中において、ひさし鉄骨の水平出しのため、ホイールクレーン（10t）で鉄骨梁先の先端部をつり上げ、パイプサポートで支持作業中、番線で仮固定されていた溝形鋼（長さ10m、約350kg）が落下し、被災者に当たった。	415	4	10～ 29
2004	9	8 ～ 9	台風により吹き飛んだ工場屋根の波形スレート（セメント製）および明り取りのための波形スレート（塩化ビニール製）を取り替える作業中、材料を取りに行くために屋根上を移動していた被災者が明り取りスレートを踏み抜き、約14.4m下の床面に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	7	16 ～ 17	朝から、コンクリート打設作業に従事していたところ、午後になって熱中症で倒れた。	719	90	30～ 49
2004	12	10 ～ 11	増築工事現場において、鉄骨に立掛けられた移動はしごに上がり筋かいの端を鉄骨の取り付け部にボルトで取付ける作業中、上がっていたはしごが転位し、モルタルの法面（のりめん）に墜落した。	371	1	1～9
2004	2	8 ～ 9	マンション新築工事の杭掘削作業において、掘削に使用するコアバケットのピンの固定作業を行っていたところ、後退して来たアース・ドリル掘削機のカウンターウエイト部とコアバケットに挟まれた。	143	7	1～9
		11	石材の設置作業において、コンクリート打設するため仮置きしていた石材			

2004	10	～	から当該石材を移動させるときに用いたワイヤロープを外そうとしたとき、当該石材が倒れ、挟まれた。	523	5	1～9
2004	3	～	9 産業廃棄物処理会社の防音対策工事で、壁に鉄板を溶接して取り付ける作業中、高さ約3メートルの木製の歩み板の上で溶接作業していた際、足を滑らせコンクリート土間に墜落した。	416	1	1～9
2004	2	～	8 建設機械のブレーカをダンプに積んで現場に搬入し、ダンプの荷台とコンクリート舗装の地面との間にアルミ製の板を渡して、ブレーカを自ら運転してダンプから降ろしていたときに、ブレーカが転倒し、被災者はブレーカから投げ出された。	145	2	30～ 49
2004	3	～	10 工場新築工事現場において、3階での作業を終えて階段を下りていたところ、つまずいて2階床面まで墜落した。	413	1	1～9
2004	4	～	10 老人ホーム新築工事で、塔屋部の鉄骨梁にまたがって梁の本締め作業を行っていたところ、バランスを崩して約11m下の地上に墜落した。	415	1	1～9
2004	7	～	10 工事現場において、壁と床の間隙間をモルタルで詰める作業中、2階開口部付近までモルタル用のホースを後ろ向きに後退しながら引っ張ってきたところ、何らかの原因で開口部を塞いでいたベニヤ板がずれて、その開口部から墜落した。	414	1	1～9
2004	11	～	9 鉄筋7階建てビル新築工事現場において、基礎部分の掘削（最深部250cm）および矢板の設置作業を被災者ら3名で行っていたところ、突然掘削側面の上部から土砂が崩れ落ち、そのまま土砂に埋まった。	711	5	10～ 29
2004	8	～	10 鉄骨5階建て、倉庫新築工事において、本柱と本柱との間に間柱および耐風梁を取り付け作業中、地上約30mに設置されていたタラップから墜落した。	419	1	10～ 29
2004	4	～	11 鉄骨2階デッキプレート敷き込み作業において、デッキプレートを取りに行くため大梁から小梁へ移動する際バランスを崩し、5m下の地中梁に墜	415	1	1～9

		12	落した。			
2004	10	8 ～ 9	10階の住戸玄関前廊下の端部の開口部付近で脚立を使用して壁の吹付養生を行っていたが、その際にバランスを崩し墜落した。	414	1	1～9
2004	9	9 ～ 10	マンション新築工事現場の5階作業床の端付近で、コンクリート打設時の飛散防止のため、周囲の足場にシートを緊結するシート張り作業を行っていたところ、同作業床から墜落した。	416	1	1～9
2004	12	15 ～ 16	建設現場で使用した足場をトラック（1.5 t 積み）に積み帰社する途中、トラックなど4台が衝突する事故に、トラックの運転をしていた被災者が巻き込まれた。	221	17	10～ 29
2004	10	14 ～ 15	県道と敷地の境界の側溝工事を行っていたところ、県道を走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2004	12	13 ～ 14	被災者は、補助者を付けて、機体重量8.39tのドラグ・ショベルを運転し鉄板の移動作業に従事していた。補助者が作業場所を離れた時、異常な音が発生したため補助者が振り返ると、旋回レバーに被災者の安全帯のロープが引っかかり宙つり状態で振り回されているのを発見した。	142	3	30～ 49
2004	9	9 ～ 10	店舗解体工事において使用する資材等を調達するため、4トントラックを運転し、構内を走行中、敷地境界に設けられた幅3.6mの非舗装直線道から敷地外左側の高さ3.7m下の雑草地にトラックとともに転落した。	221	1	1～9
2004	6	18 ～ 19	作業を終了し帰宅準備を終えた後、現場内のドラグ・ショベルに鍵を戻しに行くため現場に戻ろうとして鍵を閉めてあったクロスゲートを乗り越えようとしたところ、ゲート上部でバランスを崩し飛び降り、着地時に下に敷いてあった鉄板で足を滑らせ転倒した。	417	2	30～ 49
2004	8	9 ～ 10	工場新築工事現場において、建家内部の仮設足場解体作業中、足場4段目上で上段（5段目）からの足場材（建柱）を、手渡しで受け取っていたところ、足場材とともに墜落し、途中の単管に当たった後、6.5m下のコン	411	1	30～ 49

			クリート床に激突した。			
2004	11	8 ～ 9	ビル屋上広告塔撤去工事のうちの広告塔内部塗装工事において、被災者が丸太足場上で、広告塔内部に設けた道板（長さ4m、幅20cm）足場を移動させるため道板の端を持ち上げたところ、反対側の足場端が梁からずれ落ち、丸太足場と一緒に約8m下のコンクリート床に墜落した。	411	1	1～9
2004	4	9 ～ 10	足場の解体作業において、解体した5枚の足場部材（鳥居枠）を被災者が結束して、タワークレーンをリモコン操作してつり下ろしていたところ、隣接するビルに墜落した。	411	1	1～9
2004	9	16 ～ 17	鉄骨建て方現場において、高さ約8mの梁（幅10cm）の上で、長さ約4mのC型チャンネルを両手で持って運んでいる時、バランスを崩し、墜落した。	415	1	1～9
2004	8	13 ～ 14	マンション新築工事現場において、3階部分へのコンクリート打設をするために、その近くの足場へ移ろうと壁用横筋に足をかけて躯（く）体側から渡ろうとしたところ、横筋と縦筋を固定している番線が切れて墜落した。	419	1	1～9
2004	7	15 ～ 16	屋外にて屋根部材の段取り作業を行っていた作業者が、午後の休憩後、動くことができず、休憩していたマイクロバスの中で意識を失った。	715	11	100 ～ 299
2004	5	16 ～ 17	鉄骨2階建倉庫解体工事現場で鉄骨の梁（長さ約6m、重量約300kg）を、アームの先端に鉄骨カッターを取り付けたドラグ・ショベルで2階から下ろそうと梁を挟んで持ち上げたところ、梁が振れて近くにいた被災者がその梁を避けようとして墜落した。	418	1	1～9
2004	6	9 ～ 10	高速道路高架下で、通信ケーブルを増設するためのつり足場の設置作業中に12m下の雑草地に墜落した。	411	1	1～9
2004	1	11 ～	会議室改修工事において、冷暖房用のダクトを取り外すため、ダクトを囲むコンクリート壁を解体中、コンクリート壁の下部のはつりが終わったた	418	5	10～

		12	め一時作業を中断しようとした直後、突然東側のコンクリート壁が倒壊し下敷きとなった。			29
2004	12	8 9	車両積載形トラッククレーンの荷台から鉄筋の束を下ろすため移動式クレーン運転者が荷台から無線操作をし鉄筋をつり上げブームを旋回させたところ、定格荷重を超えていたため車両積載形トラッククレーンが転倒し、玉外しを行うため現場内にいた被災者にブームの先端が激突、倒れたブームの下敷きになった。	212	6	10～ 29
2004	11	16 17	型枠解体作業終了後、使用していたベニヤ板を搬出する作業中に、パイプサポートに立てかけていた900mm×1800mmのベニヤ板40枚が倒壊し、その下敷きとなった。	522	5	1～9
2004	7	7 8	トラックで高速道を走行中、自動車道対向車線に飛び出し、対面から走行してきた乗用車と正面衝突した。	221	17	10～ 29
2004	7	7 8	トラックで高速道を走行中、自動車道対向車線に飛び出し、対面から走行してきた乗用車と正面衝突した。	221	17	10～ 29
2004	7	8 9	事故当時、被災者は一人で2階梁鉄骨のボルトの本締め作業中、バランスをくずして高さ3.4mから墜落した。	418	1	1～9
2004	3	9 10	木造家屋屋根の張替え工事において材料を手を持って脚立（最大高さ1.7m）を上っているときに、バランスを崩し、脚立から地上に墜落した。	371	1	1～9
2004	9	17 18	橋の耐震補強工事において、つり足場の組み立て作業中、緊結されていない足場板の上に乗る、これが滑り落ちたために、約4m下のダム湖に墜落した。	411	1	1～9
2004	8	8	7階建てマンションの補修工事のため設置されていた足場を解体する作業において、作業の前の下見をしていたところ、足場（高さ約20m）から墜	411	1	10～ 29

		9	落した。			
2004	7	10 ～ 11	工場の搬出口にある張り出し屋根の解体工事において、屋根の雨どいを持ち式グラインダーで切断解体中、ローリングタワーから屋根の上に移り、2mほど切断したところで高さ5.5mの屋根の上から墜落した。	415	1	10～ 29
2004	3	16 ～ 17	建物改修工事現場の地下1階において、コンクリートブロック製の間仕切り壁（高さ4.9m、横4.2m、厚さ0.15m）を解体中、壁の下部分をハンマーで叩いていたところ、壁が手前に倒れ、その下敷きとなった。	418	5	1～9
2004	11	9 ～ 10	屋内練習場新築工事現場で、屋内練習場の天井および壁に防球ネットを取り付けていた被災者が、ローリングタワー（手すりまでの高さ約6.4メートル、作業床の高さ約5m）から墜落した。	411	1	1～9
2004	5	10 ～ 11	建物改修工事において、建物内の鉄製らせん階段取付け作業中、2階作業床端（高さ3.65m）から、すぐ下に置かれていたローリングタワーに移った時、ローリングタワーが転倒し、被災者が1階作業床に墜落した。	411	5	1～9
2004	7	14 ～ 15	ごみ焼却施設において、ごみ焼却溶融炉の配管に設けた集じん装置の点検、掃除作業中、集じん装置内に充満していた一酸化炭素を吸引し被災した。	514	12	100 ～ 299
2004	10	9 ～ 10	団地の外壁補修塗装工事において足場組立中、床付布枠を持上げて建枠の上に乗せた直後バランスを崩し約33m下の地上に墜落した。	411	1	300 ～ 499
2004	6	13 ～ 14	土止め支保工の変更作業中、既設の土止め支保工の親杭（H形鋼材、200×200×8×12mm）を杭頭から約5mの個所でガス溶断した際に親杭の裏側の土砂が崩壊して、下敷きになった。	711	5	1～9
2004	10	13 ～ 14	集合住宅の防水工事において、被災者が枠組足場を移動中地面に墜落した。	411	1	1～9
2004	2	14	共同住宅新築工事現場の地下駐車場の建設工事において、土止め支保工の解体作業中、切梁が突然落下し、下を通りかかった被災者が下敷きになっ	412	4	50～ 99

		15	た。			
2004	10	11 ～ 12	平屋倉庫の屋根スレートの上に新しくトタン屋根を設置する工事中、スレートを踏み抜き、約5m下方の床に墜落した。	415	1	1～9
2004	8	13 ～ 14	建設会社の資材置場で、被災者が運転していた車両積載形トラッククレーンの荷台後方が脇に野積みされていた鋼管の束に接触し、これを緊結していた鉄帯2カ所のうち1カ所が切れ、被災者がこれを直そうと車から降りたところ、上段の鋼管数束が落下、崩壊したため、車両積載形トラッククレーンと鋼管の間に挟まれて死亡した。	611	5	1～9
2004	7	18 ～ 19	マンション新築工事において、コンクリート打設終了後、コンクリートポンプ車の清掃のため、同ポンプ車の後部にあるホッパーの横に上がって内部を水道ホースの水で洗い流していたところ、ホッパーの攪拌用スクリュブレードを回転させていたため、作業服が絡まって巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2004	9	13 ～ 14	作業場内でエアーホースの切回し作業をしていたところ、シートパイルに移動式クレーンのワイヤロープを掛けたまま待機していた所へドラグ・ショベルが激突し、シートパイルが振れ、被災者に激突した。	142	6	30～ 49
2004	9	16 ～ 17	マンション新築工事において、透水枘設置工事の終了後、敷鉄板により枘上部の養生をするため、被災者はドラッグショベルを運転して敷鉄板をつり上げたところ、運転席の左側方向にドラッグショベルが転倒し、ドラグ・ショベルのヘッドガードと敷鉄板の間に挟まれた。	142	2	10～ 29
2004	7	19 ～ 20	7階スラブのコンクリート打設作業終了後、コンクリート圧送車の後部ホッパ内で回転中の攪拌羽根にこびりついた生コンクリートを被災者がバールで除去中に、攪拌羽根に巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2004	12	8 ～ 9	ビル新築工事現場において鉄骨柱搬入作業中、つり荷の鉄骨柱（約14t）をつり上げ荷重50tクローラクレーンを用いてトレーラーからつり上げ、地上3m程の位置で左旋回させ所定の位置まで移動させていたところ、つり荷がクローラクレーンから約18mの場所で別の作業を行っていた被災者に激突した。	212	6	10～ 29

2004	9	13 ～ 14	クレーンを使用して、長さ120cmのパイプサポート42本を、軀（く）体19階付近の鋼製枠組み足場に設けた作業構台（地上55.1m）から、躯体屋上へ荷上げしようとして作業構台から約9mつり上げたところ、6本のパイプサポートが地上に落下し、地上で作業を行っていた被災者に当たった。	521	4	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	マンション新築工事の掘削作業において、被災者は車両系建設機械（掘削機械）を運転し、GL-2.5m付近を掘削していた。前方のGL-1.5mの高さにある切梁をくぐろうとしたところ、運転席後のヘッドガード取付用支柱受け部がこの切梁に当たった。アームとバケットを動かし、掘削機械前方を上げたところ、機体が傾き運転レバーと切梁に挟まれた。	142	7	10～ 29
2004	10	11 ～ 12	台風対策として、メッシュシートの取り付け作業をしていたところ、屋上外部足場から地上に墜落した。	411	1	10～ 29
2004	3	8 ～ 9	ビル新築工事現場にて3階床の型枠材料のベニヤ板約70枚を道路上の車両積載形トラッククレーンの荷台からクレーンで外部足場上に荷上げしていたときに荷崩れを起こし、ベニヤ板とともに足場上で荷上げの補助をしていた作業者が2.06m下の軀（く）体2階床上に墜落した。その際、2階床上で作業していた被災者に墜落した作業者と数枚のベニヤ板がぶつかった。	611	4	1～9
2004	8	15 ～ 16	マンション建設工事現場において、圧接作業の補助を行っていたところ、体調が悪くなった。	715	11	1～9
2004	7	16 ～ 17	ビル新築工事において、アーク溶接作業中、猛暑であったため、意識障害を起こし、誤って溶接棒が接触した。	332	13	10～ 29
2004	8	9 ～ 10	トラック荷台に積載したALC板（寸法：4300×600×120mm、180kg）6枚を専用玉掛用具を使用して移動式クレーンでつり上げ2階床に荷上げしようとしたところ、シャックルの1つのねじが抜け落ち、つり荷であるALC板が約3.5mの高さから落下し、被災者に激突した。	372	4	10～ 29

2004	12	11 ～ 12	マンションの基礎工事において、被災者が掘削底面で埋戻し作業を行うた め、人通孔の養生を行っていたところ、ドラグ・ショベルのオペレーター が被災者の付近の地山を切り崩したため、被災者が土砂に埋没した。	711	5	30～ 49
2004	9	13 ～ 14	鉄筋コンクリート3階建て新築工事現場で、外部鋼管枠組足場の足場解体 作業を行っていたところ、足場3段目の作業床から地面に墜落した。	411	1	30～ 49
2004	1	19 ～ 20	バーストしたタイヤを交換するため、コンクリートポンプ車のスペアタイ ヤを地上に降ろそうと車台から外しているとき、転倒してコンクリートポ ンプ車に激突した。	149	2	10～ 29
2004	10	14 ～ 15	汚水処理施設建設工事において、鉄筋組みをしていたところ、鉄筋上に倒 れその際に鉄筋（直径13mm）が刺さった。	419	99	1～9
2004	2	9 ～ 10	地上において、鉄骨梁（重さ約1 t）につり足場を取り付けるため、高さ 約1mのうま足場2脚に当該梁を載せて作業を行っていたところ、当該梁 が、作業側側に倒れて被災者に激突した。	521	6	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	高さ24mのマンション新築工事において、屋上の配管接続作業中、調整具 合を後ずさりしながら目視点検していた時、外壁立ち上りに当たり墜落し た。	418	1	1～9
2004	2	14 ～ 15	携帯丸のこ盤を使用して木材を切断中、誤って切創した。	131	8	1～9
2004	9	11 ～ 12	スタックークレーン（能力0.5 t）の解体作業中、搬器が最下位置、ウエ イトが最上部にある状態で、点検用ステージ上から支柱内のウエイトに接 続される駆動チェーンをガス溶断し、ウエイトを落下させたところ、その 衝撃で昇降用モーターの取付ボルトが破断してモーターが落下し、点検用 ステージおよびステージに通じる昇降タラップごと崩壊し、地上に墜落し た。	211	1	10～ 29

2004	10	9 ～ 10	製罐工場の屋根上に、地上から移動式クレーンを使用して資材を荷揚げ作業中、屋根（スレート製）を踏み抜いて10m下の床面に墜落した。	415	1	1～9
2004	8	14 ～ 15	社用車（普通乗用車）を運転中、片側1車線の道路で対向車線にはみ出し、対向車に正面衝突した。	231	17	1～9
2004	7	15 ～ 16	工場新築工事現場の鉄骨組み立て作業中に、高所作業車に乗り、梁上の親綱張り作業を行っていたところ、スタクションが外れ、梁上から約9m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2004	12	14 ～ 15	倉庫増築工事現場で、鉄骨のもやに屋根材を取り付けるためにローリングタワーの最上部に乗り溶接作業中、約5m下のコンクリート土間に墜落した。	411	1	1～9
2004	12	9 ～ 10	屋上内の壁上部への笠木取付作業中、屋上に置かれた笠木を一人で運搬しようとして、強風によりバランスを崩し、笠木とともに墜落した。	417	1	1～9
2004	8	13 ～ 14	工場新築工事現場内において、荷揚げ用に使用していたエレベーターの昇降路の2階開口部から約4m下の1階床面に転落した。	414	1	10～ 29
2004	2	16 ～ 17	作業を終え、ワゴン車で会社に戻る途中、トンネルで対向車線を越えて側壁に衝突、横転した。	231	17	10～ 29
2004	8	15 ～ 16	屋根葺き替え工事における外部足場の組立作業中、電気線の接続部分に触れ感電した。	351	13	1～9
2004	4	8 ～ 9	病院の改修工事において、袋詰めされた石膏ボードをトラックの荷台に積み込む作業中、屋上の端から袋ごと墜落した。	415	1	1～9

2003	12	11 ～ 12	ロングスパン工専用エレベーターの屋上ステージで、リミットスイッチの配線作業を終了したときに、屋上のパラペットを越えて31m下の地上に墜落した。	418	1	30～ 49
2003	12	13 ～ 14	普通乗用自動車で交差点を青で右折しようとしたときに、対向車線から直進してきたトレーラーに左側面から衝突された。	231	17	30～ 49
2003	12	13 ～ 14	11階建マンションの新築工事において、同僚と2名で建屋内9階のロングスパン工専用エレベーター昇降路周辺のコンクリートに足場から垂直方向に墨出し作業を行っていて、昇降路内の梁へ移動しようとしたときに約25m下に墜落した。	411	1	10～ 29
2003	12	15 ～ 16	体育館の雨漏り改修工事において、最上層の足場端部の手すりを乗り越えて屋根に「螻羽（けらば＝屋根妻側端部に取付ける部材）」を取付けていたときに、高さ約16mのところから墜落した。	411	1	1～9
2003	12	15 ～ 16	遊技場の建築工事において、建枠を使用して組み立てた照明灯を設置するためのタワー（10.5m）が強風にあおられて転倒し、そばでタワー部材の片付け作業を行っていた者が下敷きになった。	419	5	1～9
2003	12	11 ～ 12	マンション新築工事の3階壁のコンクリート打設で、壁型枠を支えている単管パイプ（高さ1.5～2m位）に足を掛けて壁型枠の叩き作業を行っていたときに、パイプが倒れて床に倒れた。	419	1	1～9
2003	12	11 ～ 12	4階の床に積み上げた解体ガラ上に重機を載せて上階の解体作業を行っていたときに、4階の床が抜け落ちたため3階と1階の床を突き抜けて落下し、重機の運転士ががれきの下敷きになった。	418	1	1～9
2003	11	11 ～ 12	倉庫解体作業で、同僚3名とともに屋根材（スレート材および木毛板の2重構造）の撤去作業を行っていたときに、木毛板を踏み抜いて高さ5.33mのところから墜落した。	415	1	10～ 29
2003	11	11 ～	軽量鉄骨造3階建の住宅工事において、3階の鉄骨梁のボルト固定作業を鉄骨柱に取り付けられた作業床（30×40cm）上で行っていたときに、バラ	411	1	1～9

		12	ンスを崩して約7.5m下の土間コンクリートに墜落した。			
2003	11	13 ～ 14	6階マンション新築工事で、屋上の床面の仕上げを行って電気コードリールを片付けているときに、高さ30数cmの parapet を越えて18.7m下の歩道に転落した。	418	1	10～ 29
2003	11	10 ～ 11	保育園の新築工事で、高さ172cmの脚立を使用してトイレ部分の壁型枠の上部の締付材の取付作業を行っていたときに、脚立からコンクリート床に転落した。	371	1	1～9
2003	11	10 ～ 11	体育館建築工事で、内部足場（ステージ）の組立作業中に、単管に掛け渡して固定されていなかった木製の足場板とともに約8.7m下のコンクリート床に墜落した。	411	1	30～ 49
2003	10	8 ～ 9	外部足場の解体作業で、部材の上げ下ろしのため外部足場・繋ぎのコーナー部の単管手すりを外した直後に5段目の足場から約8.5m下のウッドデッキ上に墜落した。	411	1	30～ 49
2003	10	14 ～ 15	マンション新築工事の外部足場の解体作業において、枠組み足場4スパン・2段ユニットを移動式クレーン（つり上げ荷重50t）でつり上げたところ、建枠のピンに手袋が引っかかって足場材とともに宙ぶりとなり、その後、約7mの高さから地上に墜落した。	411	1	50～ 99
2003	10	18 ～ 19	マンション新築工事において、1階型枠工事の後片付けのためロングスパン工事用エレベーターに搭乗して1階から11階へ向かっていたときに、突然ヘッドガード上へ乗り移ってヘッドガードと4階乗込みステージとの間に頭部をはさまれた。	214	7	10～ 29
2003	10	17 ～ 18	遊歩道等の建設工事において、ドラグ・ショベルで幅約1.5mの管理道路上にある伐根の除去作業中に機械の後部が路肩から落ちそうになったので、運転を代って約32度の斜面を約1m下ったときに、機械が斜め左前方に傾いて転倒し倒れてきた機械の下敷きになった。	141	1	30～ 49
2003	10	10 ～	堆肥舎（平屋）新築工事で、屋根の鉄骨部の組立を終えて屋根垂木（長さ2m11cm）を掛け渡していたときに、バランスを崩して約9m下のコンク	415	1	1～9

		11	リート床に墜落した。			
2003	10	14 ～ 15	保健センターの改修工事において、塗装前の前処理としてひさし部の汚れを落とす作業の前に脚立を使用して指示された個所を下見しているときに墜落した。	371	1	1～9
2003	10	17 ～ 18	クライミングクレーンのマストに沿って設置されているはしごを足場として、一本つり用安全帯を工具差し用カラビナにかけてU字つり状態で使用して体勢を確保し、クライミングクレーン作業台下部に水銀灯を設置しているときにカラビナが破損して約10m下の2階スラブ上に墜落した。	211	1	10～ 29
2003	10	16 ～ 17	鉄骨平屋建の店舗建設工事において、鉄骨組み立てのため親綱の一端をスタンションに取り付け、他端を持って幅約14cmの鉄骨梁上を移動しているときに、約6m下のコンクリート土間に墜落した。	415	1	10～ 29
2003	10	14 ～ 15	鋼製屋根の仮葺き作業で、鋼製屋根材（長さ52m、質量327kg）を作業員24名で運搬していたときに、1名が梁上で足を滑らせて転倒し、屋根材を固定するため梁上に設置してあったタイトフレームで腹部を強打した。	415	2	1～9
2003	10	13 ～ 14	雨樋資材を購入して自動車（ライトバン）で国道を走行中、ハンドル操作を誤りガードパイプに衝突した。	231	17	1～9
2003	9	11 ～ 12	住宅新築工事において、ALC板の貼り付け作業が終了して次の作業の準備にとりかかるため、足場1段目に昇っていて足場から地面へ墜落した。	411	1	1～9
2003	9	6 ～ 7	住宅新築工事現場へ向かうため小型トラックで県道を走行中、対向の乗用車がセンターラインをはみ出してきて正面衝突された。	231	17	50～ 99
2003	9	13 ～ 14	個人住宅の工事現場から廃棄物を積んで国道を2tトラックで走行中、居眠り運転により対向車線に飛び出して競走馬用の輸送トラックと正面衝突した。	221	17	100 ～ 299
			解体現場のコンクリート塊をドラグ・ショベルでダンプ・トラックに積み			

2003	9	14 ～ 15	込む作業で、ダンプの運転席から降りたときに、荷台に積み込んだコンクリート塊の位置を調整するためドラグ・ショベルで荷台上のコンクリート塊を引っ張ったため、ダンプが後退してダンプのドアとドラグ・ショベルのカウンターウエイトとの間にはさまれた。	221	6	1～9
2003	9	14 ～ 15	外部足場の解体作業で、水平支持材として用いられていた長さ4m50cmの単管パイプを取り外していたときに、単管パイプとともに足場上から約21m下の建物2階ひさしに墜落した。	411	1	30～ 49
2003	9	11 ～ 12	建設現場の軀（く）体階段の内側手すりのアーク溶接作業で、溶接棒ホルダーを持ち本溶接を始めたときに感電し、突然溶接棒ホルダーと手持防護面を持ったまま仰向けに倒れた。	332	13	1～9
2003	9	11 ～ 12	監視棟屋根上の作業床において、アルミ材の母屋の受け渡しを行っていて母屋を受け取ったときに、バランスを崩し3.5m下の地面に墜落した。	416	1	30～ 49
2003	8	16 ～ 17	ローリングタワー（枠組み1段）上で内壁のボードを取り付けているときに、1.88m下のコンクリート床に墜落した。	411	1	10～ 29
2003	8	16 ～ 17	体育館の屋根（31m×51m）の解体作業で、解体した屋根材を屋根上に設けられた廃材置場に運搬しているときに、解体するためにカッターで切れ込みが入っていた個所に載ったため、屋根材を踏み抜いて約8.9m下の床に墜落した。	415	1	1～9
2003	8	14 ～ 15	ドラグ・ショベルで敷鉄板（重さ750kg）の中央上部の穴にフック付きワイヤロープを掛けてつり上げたところ、フック付きワイヤロープのフックがはずれて敷鉄板が落下し、頭部および胸部を直撃された。	142	4	1～9
2003	8	8 ～ 9	外壁補修のために組み立てた外部足場の解体作業中に、解体手順を誤り高さ約12mの張出した足場から地上のコンクリートブロック敷のところに墜落した。	411	1	10～ 29
		10	2階建鉄骨造アパート工事において、建物東側の屋外足場第2層目（高さ約			30～

2003	8	8 ～ 11	4m) で休憩中に熱射病で意識不明となった。	715	90	49
2003	8	15 ～ 16	鉄骨平屋造建築工事において、高さ約20mの広告塔の垂直方向の歪みの調整作業をほぼ終了して片付作業を行っていたときに、踊場の足場板上（地上約5.5mの高さ）に墜落した。	418	1	1～9
2003	8	11 ～ 12	3階床のコンクリート打設作業において、作業合間の小休止中にカキ氷の差し入れがあったので3階床の型枠上で受け取り、足場上の同僚に渡すために躯（く）体から足場に渡ったときに、足場上で転倒して高さ82cmの手すりの下から11m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2003	8	11 ～ 12	鉄骨本締め作業用のつり足場を設けるため、鋼製足場板（25cm×4m×4cm）を仮置場から手作業により運び入れていたときに、乗っていた足場板が折れたため、足場板とともに約10.5m下に墜落した。	416	1	1～9
2003	8	10 ～ 11	マンションの新築工事で雨水槽の水を抜くため、ガソリン式排水ポンプの電源を入れたのち、型枠の梁受け作業を職長と2人で行っていたが一服することになり、その前にポンプ燃料の残量を確認しに一人で雨水槽に行っていたが、休憩場所に現れないので職長が様子を見に行ったら雨水槽に浮いていた。（CO中毒）	111	12	1～9
2003	8	15 ～ 16	外壁タイルのクリーニング作業中に、誤って枠組足場の3層目の作業床（高さ5.2m）から墜落した。	411	1	100 ～ 299
2003	8	14 ～ 15	2階建新築工事において、足場の組立て作業を行って残った足場材をトラックに積み込んでいたところ、突然、言動がおかしくなったためトラックの助手席で休憩させていたが、そのうち意識がなくなってきて熱中症により病院で死亡した。	715	11	1～9
2003	8	18 ～ 19	工事用エレベーターの昇降路を金網枠を用いて囲う作業中に、昇降路の内側に取付けられたブラケット足場から地下1階の床まで約26m墜落した。	411	1	50～ 99

2003	7	16 ～ 17	小学校の校舎解体工事において、校舎3階の上部防音パネルを一枚とり外してその開口部からガラ袋を投下していたときに、バランスを崩して後ろ向きに倒れこみ、そのときに下部の防音パネルが外れたため高さ8.07mの足場から転落した。	411	1	30～ 49
2003	7	16 ～ 17	倉庫屋根に鉄板を貼り付ける工事において、屋根の現状確認のため屋根に上ったときにスレート屋根を踏み抜き、約5.5m下へ墜落した。	415	1	1～9
2003	7	15 ～ 16	ビルのダストシュートの最下層部を補修していたときに、4階の作業員が運搬車でコンクリート塊を投下したため、それが頭部に当たった。	523	4	1～9
2003	7	16 ～ 17	倉庫の間の通路上に鉄骨屋根を設置する工事で、組み上がった鉄骨の塗装作業を行うため、通路の南西の端に高所作業車を設置して作業台を4.2mの高さに付けて「はけ塗り」作業を行っていたときに、大型トラックが通路西側から入ってきて高所作業車のアームに激突したため作業台から転落した。	221	6	1～9
2003	7	10 ～ 11	屋根の葺き替えのため、倉庫の屋根上（高さ約10m）でスレート板の取り外し作業中にスレート屋根を踏み抜き墜落した。	415	1	1～9
2003	7	16 ～ 17	朝顔先端部の鉄板を単管パイプに番線で結束するため2名で先端部で作業していたときに、朝顔の先端が前に傾いたため高さ9mの位置から墜落した。	411	1	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	朝顔先端部の鉄板を単管パイプに番線で結束するため2名で先端部で作業していたときに、朝顔の先端が前に傾いたため高さ9mの位置から墜落した。	411	1	10～ 29
2003	7	11 ～ 12	マンション建設工事において、建物6階のコンクリート打設作業者が突然体調不良を訴え、最寄の病院に行ったものの医者の診察を振切って病院を抜け出し熱中症により路上で倒れた。	715	11	10～ 29

2003	7	13 ～ 14	長さ約10mのH型鋼3本をボルトで連結して長さ32mの梁（重さ約8.5t）を組み上げる作業で、梁の地組作業が2本並行して行われていて、2名が地上に2本平行に置かれている梁の約1mの隙間に入ってボルトを締める作業を行おうとしたときに、1本の梁が倒れ2名が下敷きとなって1名が胸部圧迫で死亡した。	419	5	10～ 29
2003	6	15 ～ 16	解体作業中の鉄骨の上で、2階柱のH鋼を切断して次の作業のため梁の上を移動中に、足を滑らせて2m下の1階のガラおよび鉄骨クズ上に墜落した。	415	1	10～ 29
2003	6	13 ～ 14	地上7階建のパチンコ店の新築工事で、6階床スラブのデッキプレート上にワイヤメッシュの敷き込み作業を行っていたときに、エレベーターシャフトの開口部より約20m下に墜落した。	414	1	1～9
2003	6	9 ～ 10	移動式クレーンを用いて6階部分の大梁上に鉄骨柱（300mm×300mm×12mm、長さ2.9m）を組付けし、柱最上部の玉掛け用具（鉄骨クランプ）を取り外すため、昇降用金具であるタラップを昇っていたときに、5段目（最上段）の仮付けされていた受け金具がタラップごと剥がれ、約17m下の地上に墜落した。	413	1	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	物流センター外壁工事に伴う足場の組み立て作業中に、屋根の明かり採り用のビニール製のスレートを踏み抜いて約12m下の1階コンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2003	5	14 ～ 15	事務所新築に伴う基礎工事において、基礎コンクリート打設のためドラグ・ショベルで生コンクリートの入ったバケツ（直径1m、高さ1m）をつり上げて移動させていたときに、ドラグ・ショベルが横転しつり上げていたバケツに直撃された。	142	6	1～9
2003	5	16 ～ 17	アースドリルにドリリングバケツを取り付けて基礎杭用の穴を掘削中に、バケツの排土作業を行うため近くにいた者が深さ約1mの穴の中でドリリングバケツに巻込まれた。	143	7	10～ 29
2003	5	16 ～	米の倉庫の新築工事において、屋根のベニヤ張り作業を行っていたときに、足を乗せていた垂木が折れたため墜落し、途中高さ4mの位置にあっ	415	1	1～9

		17	た鉄製通路に激突しさらに地面へと落下した。			
2003	5	15 ～ 16	破砕機（グラップル）による店舗の解体作業で、配線の切断作業を行っていた者に解体したコンクリート片（幅約4.2m、高さ約2.2m、厚さ約0.4m、重さ約1.5t）が落下し激突した。	149	6	10～ 29
2003	5	14 ～ 15	工場新築工事において、土手に置いた足場材を使うため結束した4カ所のうち3カ所をカッターで切断し、最後の1カ所を切ったときに束が崩れ、1本15.5kgの足場材35本とともに河川（高さ160cm）に転落して足場材の下敷きとなった。	611	5	10～ 29
2003	5	11 ～ 12	外付け階段の取替工事で、古い階段を取り外して新しい階段をセットし、接続部分の状況を確認するため階段に続いている既設の廊下にいたところ、廊下が崩れたため3.8m下のコンクリート床に墜落し、ほぼ同時に落下したコンクリート片に頭を直撃された。	416	1	1～9
2003	5	16 ～ 17	高さ約8.7mの個所での足場組立作業で、足場板を取り付けようとしたときに、バランスを崩してコンクリートタイル張りの地上に墜落した。	411	1	1～9
2003	5	11 ～ 12	ビル外壁の塗装工事において、足場（10段）の組み立てが終了し、引き続いて足場へ養生ネットを設置するため足場の外側を伝って下の段に降りようとしたとき、約10m（足場5～6段目）下に墜落した。	411	1	1～9
2003	5	8 ～ 9	110t移動式クレーンの作業範囲を確認するため、つり荷なしでジブを最大に伸ばして旋回、起伏したときにクレーンが転倒し、地上で足場組立の資材準備のため移動中の者2名にジブが激突した。	212	6	1～9
2003	5	8 ～ 9	110t移動式クレーンの作業範囲を確認するため、つり荷なしでジブを最大に伸ばして旋回、起伏したときにクレーンが転倒し、地上で足場組立の資材準備のため移動中の者2名にジブが激突した。	212	6	1～9
2003	5	14 ～ 15	工場の増改築工事において、トラクター・ショベルを運転して工場のひさに廃材であるプラスチックタイルを集積する作業を行っていたときに、トラクター・ショベルとともに約4m下の地上に転落した。	141	1	10～ 29

2003	4	8 ～ 9	自宅で、朝起きてこないことから妻が起こしに行ったところ、急性心筋梗塞で死亡している夫を発見した。	911	90	30～ 49
2003	4	16 ～ 17	作業室（0.365Mpa）での機械装置の解体作業が終了し、マンロック（気こう室）で減圧を開始したところ、作業員が膝部等に痛みを訴えたので急いで再圧室に搬送し再圧を行ったところ、いったんは回復に向ったので減圧したが再び痛みが生じ意識不明の状態になった。	714	12	30～ 49
2003	4	16 ～ 17	6階建RC造ビル解体工事において、当日の解体作業を終えて、後片付け等の作業を行っていたときに、高さ約15mの6階フロアの吹き抜けの開口部（2.1m×1.4m）から墜落した。	414	1	50～ 99
2003	3	18 ～ 19	普通貨物自動車に同乗して高速道路を走行中、後輪がパンクしたので路側帯に停車して2名が降車して様子を見ていたときに、走行してきた普通貨物自動車に追突され、車外にいた2名が車体とガードレールにはさまれ1名が死亡した。	221	17	1～9
2003	3	13 ～ 14	工場建設工事において、1階の天井に点検口を設置するため、脚立に乗って可搬式グラインダーで天井ボードに約50cm四方の開口部を開ける作業を行っていて、グラインダーの歯が割れ破片が被災者に当たり、脚立から墜落した。	153	4	1～9
2003	3	16 ～ 17	鉄筋コンクリート建築物屋上で、厚さ約8cmに敷いた玉砂利をレーキを用いて後退しながら均していき、高さ約47cmの腰壁を乗り越え、4.68m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	10～ 29
2003	3	13 ～ 14	解体中の建物4階で、床面（地上高さ9.1m）のコンクリートがら等の片付け作業中に、建物から墜落して地上に設置してあったクレーンに激突した。	418	1	1～9
2003	3	15 ～ 16	ビル解体工事において、5階外壁解体作業中に建物外壁および鉄骨梁、柱の一部が外部足場とともに約15m下の道路に崩落したため、外部足場上にいた作業員も同時に墜落した。なお、道路上で信号待のため停車だった自動車の運転手2名（非労働者）も死亡した。	418	1	10～ 29

2003	3	13 ～ 14	8階建マンションの外壁改修工事において、躯体（く）体南側6層目の作業床上で7層目の枠組足場を組立てているときに、高さ約10mの足場から墜落した。	411	1	10～ 29
2003	3	11 ～ 12	水源地の地下水位観測機器の撤去のため、不整地運搬車（ホイール駆動式、最大積載質量1.5t）の荷台に関係機材を積んで撤去作業場所まで柔泥の傾斜通路を後進で移動中、滑落して車の下敷きになった。	227	7	1～9
2003	3	10 ～ 11	ビル新築工事において、外壁のタイル割付作業のための寸法計測中、外部足場上から建設用リフト（0.24t）の昇降路内に身体を乗り出したときに、1階から荷を積んで上昇してきた建設用リフトの搬器と足場との間に首をはさまれた。	214	7	1～9
2003	3	13 ～ 14	屋根の張り替え工事で、既存の屋根板（幅60cm・長さ約13m）4枚を取り外して6名で屋根板を運搬中に、1名が屋根板を取り外したためにできた開口部（2.4×13m）から6.4m下の地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2003	2	11 ～ 12	鉄筋コンクリート3階建の3階外壁の補修作業で、地上約7mの鋼製枠組み足場の上を移動中に墜落した。	411	1	1～9
2003	2	23 ～ 24	建築工事の打合せを終えて帰社するため乗用車で県道を走行中、脇見運転によりセンターラインを越えて反対車線に進入し、対向車線を走行してきた大型トラック（12t）と正面衝突した。	231	17	1～9
2003	2	17 ～ 18	ビルの内装工事中、脚立から約80cm下のコンクリートの土間へ転落した。	371	1	1～9
2003	2	11 ～ 12	11階建マンション建築工事で、内装用資材であるボード（900mm×1800mm×50mm）を8階の各部屋へ搬入していたときに、8階エレベーターシャフトの開口部より約22m下の1階エレベーターピットへ墜落した。	414	1	30～ 49
		11	2階建て住宅新築工事現場において、2階部の柱間に設置されていた間仕切			

2003	1	~ 12	壁取付け用の下地材（10cm×10cm角鋼管）の上から約3.8m下へ、または、近接して設置されていたローリングタワーの作業床上から約5m下へと墜落した。	418	1	1~9
2003	1	~ 16	15 工事現場において、足場設置後にコンパネで全床を養生するために、長さ 4mのさん木を450mm間隔で後向きに仮置き作業中、荷上げ用の開口部よ り約4m下のアスファルト道に転落した。	411	1	10~ 29
2003	1	9 ~ 10	スレート屋根の改修工事で、はがした屋根のもや部分を持って移動中に、 スレートが割れたため6.4m下のコンクリートの床に墜落した。	415	1	1~9
2003	1	~ 19	18 新築工事現場の仕事を終え自社の乗用車（1Boxカー）で本社に帰る途 中、高速道路のインター付近で前方を走行中のトレーラー後部に追突し た。	231	17	10~ 29
2003	1	~ 22	21 ビルの6, 7階バルコニーのコンクリート仕上げ具合を点検するため、7階 西側バルコニーの外側にあたるひさしの端を通行中に、約17m下の地上に 墜落した。	418	1	1~9
2003	1	15 ~ 16	車庫上部にあるC型鋼にさび止めペンキを塗るため、はしごをかけて上が ろうとしたときにはしごが横に滑ったため墜落した。	371	1	1~9
2003	1	8 ~ 9	屋根張り作業を行うため、地上から高さ約5.5mの屋根上に登ったとこ ろ、ベニヤ板に書き込むエンピツを忘れたのに気づいて屋根から躯（く） 体外側に設置されたブラケット足場の2段目（高さ約4.1m）に移ろうとし たときに、足場上でつまずき躯（く）体内側に落下した。	411	1	1~9
2003	1	11 ~ 12	鉄骨3階建の住宅建設工事で、外部足場の組立作業中、3階床面で足場材の 受け渡しを行っていて3階床面の開口部から墜落した。	416	1	1~9
2003	1	~ 14	同僚の放火により、鉄骨プレハブ平屋3棟と2階建て1棟の計約450m ² が全 焼し、1名が焼死体で発見された。	418	16	30~ 49

		15				
2002	12	15 ～ 16	鉄骨平屋造り社屋の新築工事において、左足を鉄骨にかけて2階床の根太取付け作業中に、足が滑って約3m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	1～9
2002	7	15 ～ 16	鉄骨造の病院新築工事において、玄関の底部材であるチャンネルを取付けるボルトを締めしようとしたときに、高さ4.46mの鉄骨上から基礎のコンクリート床へ墜落した。	418	1	1～9
2002	11	7 ～ 8	工事に使用した道具類の撤収のため軽貨物自動車で国道を走行中、緩やかなカーブを抜けた見通しの良い道路のセンターライン付近で前方から来た大型貨物自動車（10 t）と衝突した。	221	17	30～ 49
2002	12	13 ～ 14	倉庫の増改築工事において、高さ4mの箇所に胴縁を取り付けるため鉄骨に立て掛けた移動はしご（全長4.4m）に昇っていたときに、移動はしごが倒れ一緒に墜落した。	371	1	1～9
2002	12	7 ～ 8	自社の自動車に労働者9名が同乗して工事現場に向けて自動車道を走行中、自動車の左後輪がバーストしたため、バランスを崩して道路の右側壁及び左側壁への激突を続けて横転し1名が死亡した。	231	17	10～ 29
2002	1	7 ～ 8	乗用車で自動車道を走行中、道路を飛び出して道路左脇の法面を駆け上がり、その後、法面を転落した。	231	17	10～ 29
2002	12	15 ～ 16	4階建鉄筋コンクリート造新築工事において、2階のコンクリート打設床面を均す作業をしていて、2階床の開口部の枠組み足場最上段（2段足場）に積んであった歩み板に乗ったときに5.4m下の地上に墜落した。	521	1	1～9
2002	12	17 ～ 18	作業構台上の水銀灯を移動させる作業を50 t クローラクレーンの立入禁止区域で行っていたため、クレーンが右旋回したときにカウンターウェイトと構台手すりとの間に挟まれた。	212	7	10～ 29
2002	12	14 ～	農作業場の改築工事において、高さ2.94mのところ折板屋根取り付けの補助作業を行っていて、作業床から地上に墜落した。	416	1	1～9

		15				
2002	12	19 ～ 20	自動車販売店の鉄骨造りテントの設置作業において、鉄骨上に張ったテント上でテント布の接合部に布を貼る作業を行っているときに、テントの端から約3.7m下の道路に墜落した。	415	1	1～9
2002	12	11 ～ 12	マンション新築工事のための床掘り作業において、敷地境界のよう壁（厚さ44cm、高さ1.3m、長さ15m）を補強するためドラグショベルで深さ2.3m、幅1.2m、長さ16mにわたり床掘りし型枠を組んでいたときに、よう壁が倒壊し挟まれた。	418	5	10～ 29
2002	12	13 ～ 14	立体駐車場の解体作業において、昼食が終わって午後の作業場所に向かうため、既設リフトの点検用垂直梯子を昇降しているときに17m下に墜落した。	419	1	100 ～ 299
2002	11	16 ～ 17	増改築工事において、積載型トラッククレーン（2.93t）でトラックの荷台から高さ3.7mまで吊上げた鉄筋（直径1.3mm×長さ2.6m×本数27本、質量71.2kg）を2階へ取り込むためブームを旋回させたところ、吊上げていた荷のバランスが崩れて落下し、トラック荷台上で次に運ぶ鉄筋を束ねていた者の頭部に落下した。	611	4	50～ 99
2002	12	11 ～ 12	6階の柱の建て方を行ってその後6階の孫梁を納めていたところ、同僚の側のボルトが入り難い状態になったので、応援するため建て方の終わった小梁上に左足をかけたときに、足を滑らせて約7m下に墜落した。	418	1	1～9
2002	11	11 ～ 12	地上28階地下4階建ビル新築工事の7階鉄骨組立作業において、7階の梁上で鉄骨柱間のひずみ調整のためレバブロックを使用していたところ、レバブロックのチェーンが切れ、その反動で梁上から13m下の階段に墜落した。	415	1	30～ 49
2002	11	16 ～ 17	建物屋上に排水パイプを設置する工事で、取付け位置を床下から確認するため屋上から外部足場に乗り移ったときに、約8.5m下に墜落した。	411	1	1～9
		10	増改築工事において、3階サンルーム解体用のステージ組立のため、鋼管			

2002	1	～	11	<p>枠組足場1段目布板上（高さ1.81m）で2段目布板上の足場板を番線で固定しているときに1.81m下の2階床面に墜落した。</p>	411	1	1～9
2002	12	～	17	<p>マンションの新築工事において、トラックの荷台（高さ約90cm）に積んである廃材等の上に乗って軽自動車の後方にあるコンテナに廃材を投げ込んでいたときに、荷台の上で転倒し側面に立ててあったベニヤ板の上端に後頭部を打ちつけた。</p>	221	2	10～ 29
2002	8	～	17	<p>小学校の大規模改造工事において、トラックから足場部材を降ろす作業を行っていた者が身体の不調（足がつる症状）を訴えたため、病院に移送したが熱中症により死亡した。</p>	715	11	10～ 29
2002	11	～	23	<p>10建マンションのベランダ改修工事において、足場（19層目）の交さ筋かいに安全帯をかけメッシュ製養生シート（質量4.5kg）5枚をロープで引き上げていたときに、交さ筋かいが交差部で折れたため27.7m下のコンクリート屋根に墜落した。</p>	411	1	1～9
2002	8	～	14	<p>4階建物の新築工事において、鉄骨組立終了後のボルト締めのため、ボルトの入ったダンボールを担いで4階の東側に設置されていた階段から降りる途中で階段下のデッキプレートを布設していない箇所から地面に墜落した。</p>	418	1	1～9
2002	2	～	8	<p>事業所のワゴン車2台で工事現場に向けて国道を走行中、ゆるやかなカーブで先頭車が対向のダンプトラックと衝突し、ワゴン車の2列目に乗っていた者が死亡した。</p>	221	17	10～ 29
2002	11	～	17	<p>病院のトイレ専用棟の増築工事において、トイレ専用棟の鉄骨にデッキプレートを設置するため、鉄骨の外部に取り付けた昇降用タラップを移動中に約13m下のコンクリートの階段に墜落した。</p>	418	1	1～9
2002	11	～	11	<p>邸宅の改修工事において、高さ約6mの2階屋根上で銅板の取り替え作業を行っていて、休憩を取るため垂直梯子で降りようとしたときに最上段から墜落した。</p>	413	1	1～9
			11	<p>6階の鉄骨床の端で、鉄骨に長さ約30cmの鉄製アングルを本溶接により</p>			

2002	10	～ 12	取り付ける作業で、仮溶接されたアングルを手で動かして水平器を使い位置決めをしていたときに、アングルが外れ20m下に墜落して地上にあった型枠に激突した。	416	1	30～ 49
2002	10	～ 10	9 鉄骨造平屋建て建築工事において、屋根梁上でデッキプレートの敷き込み作業を行なっていて3.2m下の基礎コンクリート上に墜落した。	415	1	1～9
2002	10	～ 12	11 足場解体作業で、建枠材（幅900mm）18枚（計270kg）を電動ウィンチ（能力400kg）で荷卸して吊荷が地上約2mの高さまで下りてきたときに、フックに掛けていた玉掛ロープのシャックルが外れて地上に落下したため、下にいた者が吊荷の下敷きになった。	372	4	1～9
2002	10	～ 11	10 2階建の建築工事において、駐車場棟の車の出入口部の既設側溝解体のため、バックホーで解体したコンクリートブロックを2tトラックに積み込んでいるときに、バックホーのバケットの爪に掛けていたワイヤーロープが外れコンクリートブロック（重さ370kg）が落下した。	142	4	1～9
2002	9	～ 12	11 モルタル入りのペール缶（重さ約10kg）を高さ約3.5mのステージ上へトラロープで引き揚げる作業中、ペール缶が落下しそうになったのでペール缶を掴むため手すりの中さんの隙間から身を乗り出して墜落した。	411	1	10～ 29
2002	8	～ 10	9 倉庫の解体工事で、幅7.5cmの鉄骨製の梁（高さ6.03m）を足場にしてスレート屋根の取り壊し作業を行っていたときに、バランスを崩してコンクリート土間に墜落した。	415	1	1～9
2002	9	～ 12	11 賃貸アパートの新築工事において、駐車場のアスファルト舗装材の締め固めのため、コンバインド・ローラー（機体質量3.3t）を後進させていたときにローラーの右後方にいた者を轢いた。	144	7	10～ 29
2002	10	～ 15	14 飼料置き場増築工事において、梁として設置するH鋼を小型移動式クレーンで仮置きして溶接するため、補助者が高さ約5mの飼料置き場屋根上からH鋼を支えていたところ、仮置きしていたH鋼が落下し同時に補助者も墜落した。	415	1	1～9

2002	10	8 ~ 9	タイヤローラー（機体質量8.5 t）のエンジンが作動しないので、同僚が4 t ダンプトラックに乗ってワイヤロープで両方の車両をつなぎ、ダンプでタイヤローラーを牽引しながらエンジンを作動させたところエンジンがかかったので、タイヤローラーから降りてつないでいたワイヤロープを外していたときに、無人のタイヤローラーが前進してダンプとの間に頭部を挟まれた。	144	7	10~ 29
2002	10	9 ~ 10	牧場の牛舎において、2人でストレート屋根の補修作業中に、1人が屋根の一部を踏み抜き約10m下の地面に墜落した。	415	1	1~9
2002	8	10 ~ 11	鉄骨造ブロック積み3階建てビルの解体工事において、午前の休憩後に解体用重機のオペレーターが現場に戻るときに、ビルの鉄骨階段（階段手すりは撤去されていた）から2.5m離れた地面に解体工が倒れているのを発見した。	999	99	1~9
2002	9	11 ~ 12	6F建パチンコ店及び駐車場の新築工事において、屋上部分の墨出し作業を電気工事士が行うために仮置きされていたデッキプレートが作業の邪魔になるので移動していたときに、敷設されていた屋上デッキプレートの端（地上約24m）から3階部分（地上約7m）まで墜落した。	418	1	1~9
2002	7	8 ~ 9	R C 造2階建ての建設物の外壁改修工事に使用した枠組み足場の解体作業で、建枠を取り外したときにバランスを崩して高さ8.8mのところから隣接する屋根に転落したのち地上に墜落した。	411	1	1~9
2002	8	8 ~ 9	病院の増築工事で、車両系建設機械で整地作業を行っていたときに、重機の作業範囲内に立ち入った者が重機のクローラに巻き込まれた。	142	7	50~ 99
2002	8	16 ~ 17	朝から屋上で型枠設置作業を行った後、4階へ移動して4階天井スラブ面のダメ穴を塞ぐための作業を1人で行って倒れた。（熱中症）	715	11	1~9
		7	玉掛ワイヤロープが掛けられた丸太（直径15cm、長さ1.8m）約50本を移動させるため、ドラグショベルのバケットのフックを使用して丸太を吊			

2002	8	8	上げた状態で谷側に旋回したところ、ドラグショベルが横転しキャビンに頭部を挟まれた。	142	2	1～9
2002	3	11 ～ 12	車庫新築工事において、小梁の取付け作業のためアルミ製の梯子をかけて7段目（約2.1m）まで上ったときに、梯子が横滑りして墜落した。	371	1	1～9
2002	7	21 ～ 22	国道のバス停留所において、バスターミナル内の店舗改修工事で発生した廃材を停車中の2 tトラックへ積み込む作業を行っていたところ、バス路線を走行してきた乗用車に撥ねられた。	231	17	1～9
2002	6	9 ～ 10	フォークリフトのフォークにパレットをセットしてその上で高さ635cmの棟梁に鉄骨部材の取り合いプレートをアーク溶接し、作業を終わったので運転者がフォークを降下させたとき作業員から安全帯を外すのを忘れたとの声がかかったので約1m下降させて停止し、作業員がフックを筋かいから外そうとしたときに、筋かいが折れたため4m下の地面に墜落した。	222	1	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	4階建てマンションの鉄骨組立て作業で3階部分の鉄骨のボルト締め作業中、床に墜落した。	418	1	1～9
2002	4	16 ～ 17	鉄骨2階建ての倉庫建築工事において、鉄骨建方作業のため2階床面の梁（幅30cm）の上（高さ約10m）でボルト入れの作業を行っていて次の作業場所へ移るため、梁の上を移動中に5m下のクレーン設置用の梁上に墜落した。	415	1	1～9
2002	7	9 ～ 10	外壁塗装準備のため躯体と外部足場の間に取り付けられた水平養生ネットの撤去作業中に、高さ約6mの足場作業床と躯体の間から墜落した。	411	1	100 ～ 299
2002	12	15 ～ 16	7階建ての工場棟建築工事において、仮止めのため高さ17.9mの地点で胴縁の取付け作業を行っていたところ、足を掛けていたと思われる下から15本目の胴縁がピースから外れたため地面に墜落した。	418	1	10～ 29
		0	マンション新築工事で、型枠資材の荷降し中に玉掛けに使用したチェーン			

2002	7	1	が破断し、2.9tクレーンを無線操縦していた者の顔面に型枠資材（約200kg）が落下した。	372	4	30～49
2002	4	15 16	鉄骨3階建て住宅新築工事において、2階ベランダ天上部の仕上げ作業を終えて2階床面階段部の開口部に掛けていたはしごで1階に降りようとしたときに、約3m下の1階床面に墜落した。	371	1	1～9
2002	7	19 20	防火水槽の掘削床付け完了後、水槽の位置出しのため2名で掘削法面の異常の有無を確認し墨入れ作業していたところ、敷き鉄板下の土砂が突然崩壊し1名が逃げ遅れた。	711	5	1～9
2002	6	13 14	病院の工事において、作業構台上で掘削した土砂を運び出すダンプトラックの誘導を行っていて、土砂をダンプトラックに積み込む作業を行っていたパワーショベルの旋回した上部機構と作業構台の単管手すりとの間に押しつけられ挟まれた。	142	7	30～49
2002	6	15 16	1階の土止め切梁に設置されている安全带取付用の親綱（被覆ワイヤーロープ）に安全带を掛け親綱に足をかけて登って鉄骨梁をつかんだときに、親綱を接いでいるクリップ（4個）からワイヤーロープが抜けたため、バランスを崩し約13m下の地下2階の鉄骨梁に張られた安全ネットまで墜落した。	379	1	300～499
2002	5	11 12	24階建てマンションの新築工事において、23階で型枠作業に従事していた者が22階に資材を取りに行くため階段付近を通行中に、高さ約2.4mのパイプサポート上に仮置きされていた重さ2.4tのPC梁が胴体部に落下し頭蓋骨破碎骨折となった。	412	5	10～29
2002	5	8 9	掘削溝（巾1.3m、深さ0.7m）に土止支保工の鋼板をドラグショベルで吊り込んで溝壁に立てかけ、ドラグショベルからワイヤロープを外した2、3分後に鋼板が倒れたため、反対側に既に立込んであった鋼板との間に胴部が挟まれた。	521	7	10～29
2002	3	9	マンション新築工事現場で、ドラグショベルを用いて高さ1mほどの地山を掘削していたところ、ユンボが転落してその下敷きになった。	711	1	10～29

		10				
2002	3	10 ～ 11	新築倉庫の垂直搬送機設置工事で、垂直搬送機出入口となる開口部から垂直搬送機の部材を各フロアーに荷取りするため、開口部の単管手すりに安全帯のフックを掛けてシャフト内部に身を乗り出したところ、手すりが外れて19m下のピットに墜落した。	414	1	1～9
2002	4	9 ～ 10	地上14階建て建築工事の高さ40.8mの外部足場解体作業において、解体済み足場材のブレスを1組ずつ降ろししていたところ、2組の長さの違うブレス材が混じりこみその内1組が18段目（高さ30.8m）から落下し、下で足場材の片付け作業に従事していた者に激突した。	419	4	30～ 49
2002	6	17 ～ 18	新築倉庫の鉄骨建方作業で、柱4本を建て長手方向の傾斜梁を2本架設し次の梁を架設するために、高所作業車（ケージ内で運転）で移動して梁横で待機しているときに、架設した柱と梁が倒れたため高所作業車のケージと倒れた梁との間に挟まれた。	418	5	1～9
2002	5	16 ～ 17	RC5階建築現場の2階壁のコンクリート打設で使用した12mmベニヤ製型わくパネル（7m×4.8m）を3階へ上げるため、クレーンのフックにワイヤを2本掛けし、アイの部分をパネルにフォームタイで固定した単管とベニヤ板の隙間に通して、アイ部分に短く切った単管を通してフォームタイを締めて吊り上げたところ、フォームタイが抜けてパネルが落下した。	522	4	10～ 29
2002	5	14 ～ 15	地上1階部分のコンクリート打設作業において、コンクリートポンプ車から生コンクリートの圧送作業を行い労働者がコンクリート均し作業を行っていたところ、コンクリートポンプ車のブームが折れてブーム先端部が地上に落下し、地上1階付近でコンクリート均し作業を行っていた者に当たった。	149	4	1～9
2002	1	14 ～ 15	食品加工所の鉄骨組み立て作業で、西側に取り付けるパラペットをアーク溶接で仮止めしたのち、移動式クレーンで吊り上げてきた鉄骨部材を北側の位置へボルト締めするため高さ約4mの鉄骨の梁上で待機していたところ、西側の仮止めした鉄骨部材につり上げた鉄骨部材が触れたために鉄骨部材とともにコンクリート床上へ墜落した。	415	1	1～9

2002	5	14 ～ 15	工場建屋の改築工事で、L字型間仕切り（コンクリートブロック製）の一面を解体して基礎部分のはつり作業を行っていたところ、残りの一面（2.5m×3.1m、約1 t）が倒れ下敷きになった。	418	5	10～ 29
2002	7	16 ～ 17	鉄骨平屋建ての店舗新築工事で、鉄骨の組立作業中に高さ3.7mの梁の上から地上へ墜落した。	415	1	1～9
2002	4	16 ～ 17	建物3階の型わく解体のため、4尺脚立に上り梁と壁の間のスラブ型わくを解体していたときに、脚立が転倒して落下し頭部に激突した。	419	1	10～ 29
2002	4	14 ～ 15	つり上げ荷重2.75 tのクローラクレーンで、約5m四方の開口部から地下の構台に使用していた溝型鋼の廃材（質量約1.1 t）を地上へつり上げる作業中に1階床の梁部の鉄筋1本が約1.7m張出していたので、それをかわすためクレーンのブームを伸ばして伏せていたところ、クレーンが転倒し開口部からクローラクレーンとともに地下1階へ墜落（5.1m）した。	212	1	30～ 49
2002	3	8 ～ 9	自宅車庫の解体作業で、天井梁下の地上4.88mの位置にある鉄骨梁（幅6cm）に足を掛けて鉄製の筋交いを固定しているボルトのナットをレンチで緩めようとしたときに、足を踏み外して墜落した。	415	1	1～9
2002	4	15 ～ 16	掘削作業の際に大量に水が流出したので、対処のために構内に水張り部を作ることになり、中間杭の周囲の足場板を少しずつ上げてその上に更に足場板を敷き番線で留める作業を行っていたが、立入禁止の足場下に降りて作業を行っていた者が行方不明になり水中で発見された。	713	10	10～ 29
2002	3	14 ～ 15	11tトラックで資材置場へ土を運搬中、交差点を右折しようとしたところに直進してきた11tトラックと衝突した。	221	17	1～9
2002	4	11 ～	基礎の掘削作業で深さ1.4mのところ床付作業を行っていたところ、壁面が突然崩落し土砂に埋まった。	711	5	30～ 49

		12				
2002	2	10 ～ 11	建物解体工事において、土間の解体ガラの搬出作業をドラグ・ショベルを使用し行っていたときに、作業箇所へ散水をしていた者がドラグ・ショベルの作業範囲内に立ち込んだため旋回したドラグ・ショベルのバケットが頭部に激突した。	142	6	10～ 29
2002	2	11 ～ 12	スタンドの工事現場内で天井部分に空調ダクトを設置する作業中、天井デッキ近くまで上昇した高所作業車の作業床で倒れていた。	146	7	10～ 29
2002	3	10 ～ 11	地上29階の建物の7階で雑壁のPC板（重さ0.9t）を設置するため、PC板の両側面にあるアイボルトにシャックルをかけチェーンブロック（1.5t）2基で少しずつ起こしていたときに、突然アイボルトが根元から折れて作業者に激突した。	529	5	10～ 29
2002	8	11 ～ 12	車庫新築工事において、完成した建物の窓ガラスを高さ約4mの位置で清掃作業中、移動梯子からバランスを崩して地面に墜落した。	371	1	30～ 49
2002	3	13 ～ 14	トラッククレーンでトラックの荷台から内装材の石膏ボード（約500kg）を吊って旋回しながら運搬中、つり荷が単管足場の建地に接触したため玉掛け用具のベルトスリングから抜け落ち、2階ベランダ出入り口から出てきた者の頭部に激突した。	372	4	1～9
2002	2	10 ～ 11	精米工場の庇の化粧用ALC板の塗装作業中、高さ5.1mの足場から墜落した。	411	1	1～9
2002	12	7 ～ 8	事業場から作業場所へ軽トラックで走行中、道路渋滞で停止していたところに、対向車線を後方から追い抜いてきたダンプトラック（10t）に車体右後部を追突された。	221	17	1～9
2002	2	15 ～	7階建マンション外装工事において、7階部分に設けられたつり足場（隣接した2つの建屋の屋上パラペットに渡された単管から吊り下げられたも	411	1	1～9

		16	の)の解体を行うため、足場の作業床を取り外したところ足場が振れたため、バランスを崩して約19m下の地面に墜落した。			
2002	2	9 ～ 10	新規入場者に1階から上の階へ順に現場案内を行った後、5階北側のベランダの状況確認中に墜落した。	418	1	300 ～
2002	2	10 ～ 11	食品加工工場新築現場の2階のサッシ枠をアーク溶接作業中、床と壁面の隙間から火種が1階の天井に落下し、保冷断熱のために1階天井全面に吹き付けられていた発泡ウレタンが燃えて火災となり、2階まで広がったため2階の中央部に居た者が焼死した。	332	16	10～ 29
2002	2	16 ～ 17	工場の一部改修工事で、アルミサッシュを取り外すため脚立(うま)を3つ並べ鋼製の足場板(長さ4m、幅24cm)を架け渡し、その上に乗って、工具でサッシュ周囲の壁面の石膏板をはがしていたときに、高さ、1.87mのコンクリート床に墜落した。	416	1	1～9
2002	1	16 ～ 17	7階の外部に面した柱の型枠を解体するため、建築物の床の端部に設けられた手すりの上に乗って作業していて、22.5m下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2002	1	7 ～ 8	5人乗りバンで建設現場に向かう途中、高速道路のトンネル付近で事故により追い越し車線に停車していた大型トラックに気が付きブレーキを踏んだがスリップして追突し、同乗者2名が死亡した。	231	17	1～9
2002	12	7 ～ 8	5人乗りバンで建設現場に向かう途中、高速道路のトンネル付近で事故により追い越し車線に停車していた大型トラックに気が付きブレーキを踏んだがスリップして追突し、同乗者2名が死亡した。	231	17	1～9
2002	2	15 ～ 16	ビル外壁補修工事に伴う足場組立作業中、足場上から約33.1m下の歩道(レンガ敷詰め)に墜落した。	411	1	1～9
2002	4	14 ～	鉄骨モルタル造建物の解体工事において、屋根のトタンをはがした後の下地材(木毛セメント板、厚さ20mm)上で鉄骨材をガス溶断する作業をし	415	1	10～

		15	ていて、次の溶断箇所へ移動中に下地材を踏み抜き、約5.7m下のコンクリート床へ頭部から墜落した。			29
2002	2	10 ～ 11	屋根付き駐車場の鉄骨の建方工事において、高さ175cmのうまの上から2段目（高さ130cm）に載り、地上から280cmの高さにあるボルト締め作業中にバランスを崩して頭から地面に墜落した。	371	1	1～9
2002	7	10 ～ 11	養護施設の新築工事現場において、休憩後、外壁の型枠取付作業を開始しようとした時に、足場の手すり（高さ82.5cm）と作業床の間隙から5.17m下に墜落した。	411	1	1～9
2002	1	13 ～ 14	バックホーによる擁壁周囲の埋め戻し作業中、付近で作業していた者が見当たらないので、もう1台のバックホーで埋め戻し箇所を掘り返したところ、1.5mの深さのところに埋まっていた。	142	6	1～9
2001	9	6 ～ 7	6名がワゴン車に乗り建設現場へ向かって自動車道を走行中、ワゴン車の左後輪がバーストしたためハンドルをとられて中央分離帯に接触後、横転した。	231	17	10～ 29
2001	11	13 ～ 14	新築マンションの三段式昇降駐車設備の工事で自動車収納パレットを載せていた支柱が傾いていたため、傾きを直そうと、パレットの下に入り支柱を固定しているボルトを緩めたところ、パレットが支柱から外れ落下した。	418	4	1～9
2001	8	11 ～ 12	被災者は、災害発生当日の13時過ぎに9階ベランダ床に倒れている被災者が発見され、目撃者がいないため発生状況は不明であるが次の状況が推定される。10階建ビルの新築工事において、9階から10階にかけて一部吹き抜けとなっている10階天井の鉄骨ボルトの錆止め塗装作業のため鉄骨上を移動しているときに、9階床まで約9m墜落した。	415	1	1～9
2001	12	13 ～ 14	免震構造の建物の建築工事で、元請の係員が昼食時間になっても戻らないので探したところ、1階床下の免震ピットのクリアランス(振動を吸収する隙間)の開口部から約11m下のエレベーターシャフトに墜落して倒れているのを発見した。	414	1	10～ 29

2001	12	16 ～ 17	送電線鉄塔基礎の築山法面に設置したコンクリート花壇の欠けた部分のモルタル補修を行っていたときに、排土板付のドラグショベル(機体質量5.6t)が敷地内の整地のため表土を押し均ながら進んできて、アーム先端のバケットでバケットとコンクリート花壇との間にはさまれた。	141	7	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	8階建マンション建設工事において、枠組足場12層目で養生メッシュシート等を結び直して建わくにつかまって一層下の足場に降りようとしたときに1階にあったロングスパンエレベーターの屋根上に約15m墜落した。	411	1	10～ 29
2001	12	9 ～ 10	工場建屋・倉庫の解体工事に当たって、倉庫屋根上に設置してある看板の撤去を行うためスレート屋根に上がっていた被災者が、スレート屋根を踏み抜き約7m下のコンクリート土間に墜落し、頭蓋骨粉碎骨折により死亡したものの。	415	1	1～9
2001	12	16 ～ 17	堆肥舎の建設工事において、鉄骨の梁上に跨って間柱の据え付け作業を行っていて、クレーンで間柱を持ち上げたところ間柱が基礎部と梁の間に入らなかったため間柱がずれ高さ約8mの鉄骨の梁上から床面のコンクリートに落下した。	415	1	10～ 29
2001	12	10 ～ 11	工場の増築工事において、前日の夜間作業に使用した高さ約4.5mの位置に取付けてあった投光器を取り外して胴縁を伝って降りるときに転落した。	418	1	1～9
2001	12	10 ～ 11	鉄骨造9階建ホテル建設工事において、移動式クレーン(16t)で床配筋用金網1束(質量0.8t)を3階に取り込むときに吊荷の奥左角を手摺単管に押し当て右手前を躯体方向へ引張ったところ、手摺単管のベース金物が破損して支えを失った吊荷が回転して左側で作業指揮と合図を行っていた者にあたり、3階(高さ約8m)より墜落した。	418	1	1～9
2001	12	9 ～ 10	図書館改造工事において、2階床で窓枠のガラスを割る作業の準備としてビニルシートを広げているときに、近くの開口部(エレベーターの昇降路、縦184cm横155cm)から、9.2m下の地下1階ピットに墜落した。	414	1	10～ 29
2001	12	9 ～	立体駐車場の建築現場で防護ネットを取り外す作業を行っていたところ、別作業で稼働中であった車運搬用搬送機のカウンターウエイトと立体駐車	229	7	10～

		10	場の鉄骨との間にはさまれた。			29
2001	11	0 ～ 1	リゾートマンションのエントランス部の立木に取り付けられた電飾を取り外す作業で、擁壁上から杭上へ飛び降りたときにバランスを崩して杭から墜落し、頭部を強打した。	418	1	30～ 49
2001	12	～ 15 16	土間で採石の敷き均し作業において、ダンパーで転圧したのちバックホーの後を横切ろうとしたときに、バックしてきたバックホーのキャタピラに下腿部をひかれた。	142	7	50～ 99
2001	10	～ 13 14	ラック式工事用エレベーター(積載荷重2t、定員30名)に26人を乗せて2階から20階へ上昇中、4階を経過した時点でエレベーターの内扉が全開したため、扉の前に立っていた者が搬器の外へ投げ出され、エレベーターシャフト地下2階床(約20m下)に墜落した。	214	1	30～ 49
2001	11	～ 9 10	工事用エレベーター(2.8t)の延長部分の垂直養生取付け作業をシャフト内の20階付近の壁つなぎ上で作業中に、3階にあったエレベーター搬器が下方に動き出したため19階付近にあったカウンターウェイトが上昇し、20階付近のトラスにかけていた作業者の安全帯ロープを切断したため、地下2階まで約96m墜落した。	214	1	10～ 29
2001	11	～ 11 12	学校体育館の天井部分のシステムトラスを組み上げるため、体育館のほぼ全面にわたり枠組み足場を組み立て、最上層において墜落防止用の防網張りを行っていて足場から8.9m下の体育館床面に墜落した。	411	1	10～ 29
2001	10	～ 13 14	共同住宅新築工事において、場内道路の敷鉄板を溶接作業中にコンクリート打設工事のため後進してきた生コン車にひかれた。	229	7	10～ 29
2001	10	～ 10 11	マンション新築工事において、建物の外部足場9層から張り出した荷取りステージ(高さ14.1m)の解体でステージ南端の単管のクランプを外していたときにステージの作業床が崩れ、作業床ごと2名が地上に墜落し、1名が死亡した。	416	1	10～ 29
		9	900kgの鉄板を60m先に移動させるため、2.9tのトラッククレーンで鉄			100

2001	11	～	板をハッカーで吊り上げ荷台の端に立てた状態で載せたときにハッカーが	372	4	～
		10	外れ、リモコン操作を行っていた者が下敷になった。			299
2001	10	15	倉庫2階天井に設置してある定格荷重0.98tのホイストで倉庫1階から木	414	1	10～
		～	製型枠6枚を2階に吊り上げ、2階床面に降ろすため2階床面の開口部の縁			
		16	に立ち型枠に手を伸ばし引き寄せようとしたときに、4.1m下の倉庫1階			29
			の土間に墜落した。			
2001	10	6	鉄骨鉄筋コンクリート建築工事において、朝礼後、コンクリート打設作業	411	3	30～
		～	を行うためロングスパン工事用エレベーターで8階のステージに上り、打			
		7	設箇所の点検を行っていたところ、8階の外部足場階段付近でうずくま			49
			り、その後4mほど歩いてうつ伏せに倒れた。(急性硬膜外血腫)			
2001	11	15	マンション新築工事において、基礎工事のために掘った窪地(深さ約4m、	711	5	1～9
		～	広さ約400㎡)の壁面の地山(地質：細砂)が崩壊し、窪地の底部で基礎杭の			
		16	ハツリ作業を行っていた者が埋った。			
2001	10	16	ホテル建設工事において、吊り足場の組立で高さ1m、幅1mの架台に置か	521	4	10～
		～	れている鉄骨の吊り足場に乘って鉄骨上部に親綱を取付ていたときに、体			
		17	の重みで突然鉄骨が倒れて架台から落ちた鉄骨(総質量643kg)の下敷きに			29
			なった。			
2001	10	15	分譲用マンション建設工事において、12階南面に設置された作業構台の解	416	1	10～
		～	体のため作業床とそれを支持する単管を固定していた番線を取り外してい			
		16	たときに、作業床を支持していた単管のクランプのうち片方が外れたため			29
			作業床全体が崩れ、地上まで約32m墜落した。			
2001	10	15	フォークリフトで現場内の型枠材を集積場に運搬していたときに、フォー	222	1	10～
		～	クリフトが鉄板通路の端から掘削した深さ1.3mの地中梁基礎床に車両と			
		16	ともに転落し、掘削面と車両との間にはさまれた。			29
2001	10	11	介護老人保健施設の建設工事において、3階床面部分に取り付けられてい	412	5	10～
		～	たデッキプレート上にクレーンを使用して約2.5tの鉄筋の仮置をしたと			
		12	ころ、デッキプレートが崩壊し2階床面パイプサポートの建て込み作業を			29
			していた型枠組立作業員が鉄筋の下敷きになった。			

2001	10	16 ～ 17	2階床のコンクリート打設のための型わく支保工(組立鋼柱式型わく支保工)を組立作業において、1階基礎上に建てた四角支柱に登って作業をしていたときに支柱が倒壊し、支柱とともに高さ約1.8m下のコンクリート床に墜落した。	412	1	～ 299
2001	10	11 ～ 12	工場の増築工事において、外壁を取り付けるための下地となる胴縁を鉄骨柱に取りつける作業を行っていて鉄骨梁の上から13.4m下に墜落した。	418	1	10～ 29
2001	9	0 ～ 1	11階建のビル新築工事において、移動式クレーンで鉄骨組立てを行っていて鉄骨柱頂部の玉掛用具を外そうと鉄骨柱に取付けられた昇降用タラップを昇っているときに、手を掛けたタラップの溶接部が外れ、部材とともに約20m下の1階スラブ上に墜落した。	418	1	1～9
2001	10	11 ～ 12	タワークレーンを解体する為、移動式クレーンの補巻(能力6.75t)を用いてタワークレーンのジブ(重さ4.6t)を吊上げたところ、補巻ワイヤーロープが切れジブが落下した。この時、Aフレーム上で介錯作業に従事していた被災者にジブが激突したと思われ、そのままAフレーム下部ステージまで墜落。また、ジブが落下途中Aフレーム下部ステージに激突しステージごと落下。そこで別の作業をしていた被災者も地面まで墜落した	212	4	30～ 49
2001	10	11 ～ 12	タワークレーンの解体で、移動式クレーンの補巻(能力6.75t)を用いてクレーンのジブ(重さ4.6t)を吊上げたところ補巻ワイヤーロープが切れジブが落下し、フレーム上で介錯作業に従事していた者にジブが激突し、そのままフレーム下部ステージまで墜落した。また、ジブが落下するとき下部ステージに激突し、そこで別の作業をしていた者も地面まで墜落した。	212	4	10～ 29
2001	10	14 ～ 15	屋上の冷却装置の解体作業中に漏電が発生したため待避していたときに、冷却装置に触れ感電した。	359	13	30～ 49
		8	鉄骨を吊るために使用していた玉掛用具の自動解除装置がリモコン操作で			

2001	9	～ 9	は外れなくなったので、鉄骨上(高さ15m)に昇りシャックルを手で外したところ、乗っていた鉄骨が倒れはじめたので自ら飛び降り地面に激突した。	418	3	10～ 29
2001	8	～ 10	資材の片付け作業を行っていた者が気分が悪くなったので現場事務所で休憩後、病院に移送したが熱中症のため死亡した。	715	11	1～9
2001	8	～ 8	直径1.5m、長さ3m、重さ3.34tの基礎杭工事用のアースオーガのケーシングをクローラクレーン(吊り上げ荷重35t)でトラックに積み込み中、介錯ロープがケーシングにからまったので取り外そうと近づいたときに、クレーン運転者が自由下降の足踏みブレーキを放してしまったため、ケーシングが落下し激突した。	212	4	10～ 29
2001	9	～ 6	杭打ち工事において、地質がボーリング調査結果と異なるのでボーリングマシンのビット交換を行うため、ボーリングマシンから取り外したビット(約800kg)を小型クローラクレーン(吊上げ荷重2.52t)で吊上げ、旋回したときにクレーンが転倒し、玉掛け者がブームとビットとの間にはさまれた。	212	6	10～ 29
2001	9	～ 14	橋台に設けている枠組足場の4層目布板上に仮置きしていた鉄筋の整理・運搬作業を行っていたところ、急に布板上に寝そべり、その後すぐに寝返りをうつ感じで布板と中さんとの隙間(約35cm)から約7m下のコンクリートに墜落した。	411	1	1～9
2001	9	～ 11	屋外の業務用冷蔵庫の上に屋根をかける工事で、屋根になる鉄製の波板を仮置きしてあった駐車場の屋根から2名で運んでいたところ、後向きに進んでいた者が駐車場の屋根の端(高さ4.5m)から建屋との隙間の地面に墜落した。	414	1	1～9
2001	8	～ 20	マンション新築工事現場での作業を終了しライトバンで帰社途中、対向車線にはみ出して対向車と衝突し車外に投げ出された。	231	17	1～9
		11	ウインチと滑車を使用して電線ケーブルを地下を通して建物内に引き込ん			

2001	8	～ 12	でいたとき、滑車(約3kg)をL字アングルに繋いでいた番線が切れ、滑車が飛んできて胸部を強打した。	219	4	1～9
2001	8	～ 15	建物の新築工事において、積載型移動式クレーン(2.9t)で7枚目の鉄板(1.6t)を吊って左旋回をしていたところ、急に右旋回を始めたため、逃げ遅れた手元が鉄板と移動式クレーンの車体との間に挟まれた。	212	7	30～ 49
2001	8	～ 12	9階建マンションの補修工事において、高さ22.2mの鋼管足場を使用して外壁の塗装作業を行なっていて、足場の12段目(20.5m)付近から地上に墜落した。	411	1	1～9
2001	7	～ 17	ブラケット足場上で外部型枠建て込みのための単管パイプ取付作業中に、足を踏外し約19m下の隣接する木造倉庫のトタン屋根上に墜落した。	411	1	50～ 99
2001	8	～ 17	浴室ブロックを積む作業中、天井の梁(H鋼)下部に溶接されていたブロック補強用の鉄筋(直径13mm)の取付位置が悪かったので修正しようと手前に引っ張ったところ、溶接部分が外れその勢いで高さ1.8mの足場作業床からコンクリート床面に墜落した。	411	1	1～9
2001	8	～ 11	作業者数名で足場上がっていた屋根波板の成形作業を見ていて、足場上を移動したときに作業床の隙間につまづいて転倒し、手すり中さん(高さ59cm)の下から約8.6m下へ墜落した。	411	1	10～ 29
2001	8	～ 17	工場新築工事において、2階エレベーターピット部の梁に足場板を掛け渡してその上でALC板取付金具の塗装作業を行ったのち2.2m下の2階床面へ下りるときに、バランスを崩してエレベーターピット内を1階まで約12m墜落した。	411	1	1～9
2001	7	～ 11	2名で3～5Fのボードを1Fまで運ぶ作業を行っている途中でハウス横の自販機にジュースを買いに行き約5分後に戻ったところ、1F廊下部分に倒れている同僚を発見した。(熱中症)	715	11	10～ 29
2001	8	～ 9	高さ5mの鉄骨梁に取付けられた胴縁の位置を変えるため、高所作業車(揚程12m)に乗り高さ4.7mの位置で作業中に作業床から墜落した。	146	1	10～ 29

		10				
2001	8	13 ～ 14	SRC造14階建のマンション建築で型枠解体工として午前の作業が終わり、 昼食休憩中に体の不調を訴え横になって休憩したが体調が急変したため病 院に移送したが熱中症で死亡した。	715	11	1～9
2001	7	13 ～ 14	マンション新築工事において、杭打ち作業の準備作業としてアース・ドリ ルで直径1.2mの孔を掘削し、ドリリングバケットに溜まった土砂を排出 するため機体上部を右旋回させたところ、アース・ドリルの手元作業をし ていた者が機体上部とクローラとの間に挟まれた。	143	7	50～ 99
2001	8	11 ～ 12	建築中の鉄骨6階の東端の幅30cmの大梁上で次に取付ける小梁がクレーン で吊り下ろされてくるのを待っていて後向きに約21.4m下の地上まで墜 落した。	415	1	10～ 29
2001	4	9 ～ 10	3階建建築物の非常階段設置作業において、地上から電気コードリールを 持って上がっていたときに3階踊り場(高さ約10m)に床板を張っていな かったため、その開口部から墜落した。	418	1	10～ 29
2001	7	11 ～ 12	7階建の共同住宅新築工事において、足場に張ってある防音シートの撤去 作業中に単管抱き足場上から約11m下に墜落した。	411	1	10～ 29
2001	7	14 ～ 15	マンションの修繕工事において、駐車場補修のため2tダンプで合材工場に アスファルト合材を取りに行き、合材を積んだのちシートを掛けるときに ダンプの荷台(高さ1.07m)から墜落した。	221	1	1～9
2001	6	17 ～ 18	雨水ポンプ場の新築工事において、足場に荷取構台を組み立てるため鋼製 足場板を支持用単管パイプに番線で結束しているときに約5m下の敷鉄板 上に墜落した。	418	1	50～ 99
2001	5	7 ～ 8	始業時刻前に、地上階に設置された足場から基礎の床面に弁当の箸が落ち たので拾うために足場に掛けられた梯子で降りているときに梯子が外れ、 梯子とともに床面に転落した。	371	1	1～9
		12	駅構内においてプラットホーム建屋のクラック等の補修のため、高さ約			10～

2001	7	7	13	6mの枠組み足場上で溶接に伴う火花除けの養生を行っていたときに、足場から墜落した。	411	1	29
2001	7	9	10	建屋一部の改築工事のためスレート屋根に登り、新設する鉄骨梁の位置調整を行って降りようとしたときに、スレート屋根が割れて6.2m下に墜落した。	415	1	1～9
2001	7	17	18	雨漏り点検作業を屋上に設置されている受電設備(キュービクル)の中で行っていて高圧(6600V)充電部分に触れ感電した。	352	13	10～29
2001	6	11	12	多目的ホールの天井の内装工事において、化粧用見切り縁を天井の下地材に取付ける作業中に感電した。	332	13	10～29
2001	6	13	14	工事用エレベーターの支持用足場の撤去で、エレベーターの控えを別の躯体用足場に架け替える作業中に、支持用足場と躯体用足場の間(1m15cm)から地上まで約27m墜落した。	411	1	1～9
2001	6	13	14	防水工事のため、屋根上で天窗の既存シール材を撤去中に、天窗の硝子が割れて約9m下に墜落した。	415	1	1～9
2001	6	15	16	マンション新築工事において、小型移動式クレーンで運んだ木製の梁受けをクレーンの荷台から降ろす作業をリモートコントロール装置を使用しているときに、玉掛け用つりチェーンの一部が破断して吊り荷が落下し頭部に激突した。	212	4	1～9
2001	5	16	17	外壁の改修工事において、外部足場の設置作業をしていたときに、6層目で部材の受取作業を行っていた職長が足を滑らせ約10m墜落した。	411	1	10～29
2001	5	12	13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	418	16	30～49

2001	5	12 ～ 13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	418	16	30～ 49
2001	5	12 ～ 13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	418	16	30～ 49
2001	5	12 ～ 13	鉄骨プレハブ2階建の寄宿舍より出火してほぼ全焼し、約3時間30分後に鎮火したものの4名が焼死した。	418	16	30～ 49
2001	5	11 ～ 12	コンクリート打設中にコンクリートポンプ車の生コンが出てこなかったため、作業の停止、逆送の動作を2度行ったのち、ブームの先端にあるホースと接続していた鉄製輸送管を切り離しポンプ車に戻ったときに、コンクリートが吹き出しブーム先端部のホースが右肩に激突した。	149	6	1～9
2001	2	5 ～ 6	ワゴン車に事業主、労働者1名と派遣労働者1名を乗せ事業主の長男の運転で建設現場へ向って走行中、対向車線にはみ出したため対向の大型トレーラーと正面衝突し、運転者が全身打撲で死亡、他の3名が重傷になった。	231	17	1～9
2001	3	11 ～ 12	3階スラブ上でアルミ作業台に載って4階梁のピーコン穴のモルタル補修を行うため、昇降階段を上がっていたときに、左手に持っていたコテが落ちそうになったので右手で取ろうとした時にバランスを崩し、昇降階段から約1m下のコンクリートに転落した。	371	1	1～9
2001	5	14 ～ 15	スレート屋根の張り替え工事において、当日の張り替え作業を終えて地上に降りるため梁の上を移動していたときに、老朽化したスレート上に足を載せたため踏み抜いて5.5m下の地上に墜落した。	415	1	10～ 29
2001	5	11 ～ 12	体育館改築工事現場において、内部足場の組立て作業中に、足場の最上部(高さ約12m)から墜落した。	411	1	30～ 49
		15	建築中のマンション7階バルコニーにおいて、ワイヤーメッシュの寸法切			50～

2001	5	15	～	りを行っていて躯体側の吹き抜けから14. 2m下の2階バルコニーのコン	418	1	99
		16		クリート床上に墜落した。			
2001	5	16	～	共同住宅建設現場において、外壁の補修作業に使用する水をバケツに汲ん	411	1	50～
		17		で枠組足場を通り作業場所へ戻る途中に、手すりとして取り付けられてい			99
				た交さ筋かいの隙間から約6. 9m下の地面に墜落した。			
2001	5	9	～	建物内部に設置されているクレーンガーターを撤去するため、高さ約5m	411	1	1～9
		10		のローリングタワー上で溶断作業を行っていて作業床から地上に墜落し			
				た。			
2001	3	8	～	高さ5. 23mの枠組足場第3層上で石材を固定するために結束されていた	411	1	10～
		9		ステンレス線をペンチで除去する作業を行っていたところ、足場第2層上			29
				にペンチを落としたので取りに行くため手すりを越えて枠の外側に出たと			
				きに、バランスを崩して墜落した。			
2001	5	0	～	解体工事において、解体したアルミ建材をダンプトラックに積み込もうと	229	4	1～9
		1		したが、荷台に載っていた重機アタッチメントのスケルトンバケットが邪魔			
				になる爪状のフォークグラブで掴んで荷台から降ろそうとしたところ、爪			
				からスケルトンバケットが滑り落ちダンプトラックの近くにいた者が激突さ			
				れた。			
2001	4	13	～	高さ約8mの倉庫と約2m離れた倉庫の間に屋根を設置する作業で、屋根の	415	1	1～9
		14		基礎となる鉄骨をボルト締めするため鉄骨の上に乗って作業を行っていた			
				ときに9.1m下の地上に墜落した。			
2001	4	16	～	鉄骨の建方作業において、2階部分の梁をとりつけるため梁のボルト孔に	411	1	100
		17		取り付けであった布バケツ(仮ボルト14本入り、質量8. 4kg)を外し、梁を			～
				所定位置にセットするために、コラムステージの手すりと柱のダイヤフラ			299
				ムの上に足を乗せていたときに、約22m下の地下4階のスラブ上に墜落し			
				た。			
2001	4	10	～	推進工事の発進立坑において、騒音防止のための防音壁(天井付)を解体	418	1	1～9
		11		し、外したパネルを防音壁の屋上で運搬中に歩いていたパネルが外れ、パ			
				ネルとともに約15m下に墜落した。			

2001	4	8 ～ 9	開口面をふさぐ敷鉄板(質量約693kg)をドラグ・ショベル(機体質量2.5t)で吊り上げ旋回したところ、機体が横転したためコンクリート壁とヘッドガードとの間に頭を挟まれた。	142	2	10～ 29
2001	2	11 ～ 12	鉄骨の建方作業で、ラフタークレーンで吊り上げた梁を躯体に仮留めする作業を行っていて18m下の地上に墜落した。	418	1	10～ 29
2001	1	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造5階建宿舍の解体で、3階の倒した壁の鉄筋をバーナーを用いて3段目の枠組み足場上で溶断しているときに、高さ5.6mの足場上から建物と足場との間(70cm)の地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2001	1	11 ～ 12	事務所棟の新築工事において、玄関車寄せの底に設けられたトップライト(明かり取り用窓)のガラスシールを行っていて、ガラスを踏み抜いて6.2m下のコンクリート面に墜落した。	418	1	50～ 99
2001	3	20 ～ 21	3階スラブのコンクリート打設後の均し作業で、高さ7mの足場上で散水用ホースを手繰り込んでいたときに、筋かいの隙間から墜落した。	411	1	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	トラック(2t)で現場へ向けて走行中、前方で発生したライトバンとオートバイの接触事故を避けようとしたときに前方を走行中のトラック(10t)に追突した。	221	17	30～ 49
2001	3	9 ～ 10	屋根の張出工事において、重量62.5kg(長さ3.52m、10cm角)の鉄骨を仮止めするため、高さ1.92mの枠組足場上に取付けられた幅50cmの鋼製布板上で鉄骨を受ける準備をしていたときに誤って転落した。	411	1	1～9
2001	3	10 ～ 11	孵卵舎新築工事において、杭打機でパイル吊込みのため本体を旋回させたところ先端がキャタピラに接触しそうになったので、再巻上げをするため3m巻上げられている杭頭キャップの下に入って、オーガーの確認をしていたときに杭頭キャップが落下してきて激突した。	143	4	30～ 49
2001	3	11 ～	逆打工法による地下3階部分の根伐工事において、床付地盤の高さをレーザーレベルで測量していたときに、後方の地山(シルト層を石灰で地盤改	711	5	10～ 29

		12	良したものが崩壊し生き埋めになった。			
2001	2	11 ～ 12	鉄骨組立作業において、幅約10cmの鉄骨上を移動中に足を滑らせ、約7.8m下の地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2001	2	18 ～ 19	高圧受電設備の制御回路を改造するため、断路器、遮断器を開放し、受電盤内の配線を行っていたときに、断路器の1次側の端子に触れ感電した。	352	13	30～ 49
2001	2	11 ～ 12	足場解体作業中、6階のバルコニーに取り込んであった丸パイプ(長さ4m)1本を、幅50cmの開口部から外部足場上にいたとび工に手渡ししようとしたときにバランスを崩し15m下に墜落した。	411	1	10～ 29
2001	2	16 ～ 17	2つで1組の鋼製型枠の解体作業中、立てかけていた片方の鋼製型枠(質量900kg)が強風のため倒れ、倒れてきた型枠と解体中の型枠との間に頭部をはさまれた。	419	5	30～ 49
2001	2	8 ～ 9	元請の現場主任が、朝礼前に5階のエレベーターピットの開口部(高さ18.62m)から墜落した。	414	1	1～9
2001	1	16 ～ 17	機械工場の折板葺の屋根の上にルーフファンを取付けるため、屋根の開口部の周囲に水切り板を取付ける作業のために移動していて、折板が未設置の開口部(約1m×1m)に掛けられたブルーシートを踏み抜き9.6m下の土間に墜落した。	415	1	1～9
2001	2	13 ～ 14	鉄筋コンクリート10階建のマンション建設工事において、8階ベランダ壁の型枠支保工を解体しているときに、ベランダの手すりと外側にある逆梁との間の開口部から2階床まで墜落した。	414	1	1～9
2001	1	14 ～ 15	単管足場(勾配約72度の屋根用足場)の組立中に、資材受け渡し用の開口部から約10m下に墜落した。	411	1	10～ 29
			鉄筋コンクリート5階建建築工事において、枠組み足場8層目の作業床の清			

2001	1	13 ～ 14	掃中に、散在していた型枠の組立用金具を手を持って移動していたところ、5階部分の型枠を固定するパイプサポートが作業床上(高さ約15cm)を横断していたためこれに躓いて転倒し、さらに筋交いの隙間から12.7m下の地面に墜落した。	411	1	30～ 49
2001	1	14 ～ 15	型枠大工が10.5m下のコンクリート法面に足場板(鋼製180cm×40cm)とともに墜落し、バウンドしてさらに5m下の川で発見された。	411	1	1～9
2001	1	11 ～ 12	熱延工場酸洗棟の屋根上においてスレートのフックボルトの取り替え作業中に、スレートを踏み抜き工場内に墜落(約15m)した。	415	1	1～9
2000	8	15 ～ 16	住宅建設工事において、8.87mの足場上に置かれている7mの鉄筋材を躯体側へ渡そうとしたときに、足場の端から2.3m離れている6600ボルトの架空高圧線に鉄筋材が接触して感電し、地上へ墜落した。	351	13	1～9
2000	11	16 ～ 17	くい打ちのためオーガー組立て作業中に、高さ約6mのオーガー取付け箇所から鉄板が敷かれた地面に墜落した。	143	1	1～9
2000	5	18 ～ 19	空港内の手荷物搬送口の屋根補修工事において、高さ3.7mの屋根に登ってコンクリートのはつり作業中にコンクリート屋根の一部が崩れたため地面に墜落し、直後に落ちてきたコンクリート塊の下敷きになった。	415	1	1～9
2000	7	18 ～ 19	トンネル工事現場から帰るためワゴン車で走行中、中央線を越え対向のトラックと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2000	7	18 ～ 19	トンネル工事現場から帰るためワゴン車で走行中、中央線を越え対向のトラックと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2000	7	18 ～	トンネル工事現場から帰るためワゴン車で走行中、中央線を越え対向のトラックと正面衝突した。	231	17	100 ～

		19				299
2000	6	9 ～ 10	雨漏りの点検補修工事において、テント状の屋根に親綱を張って、作業を開始するため親綱に体重をかけたときに親綱が切れ、テント上を約28m滑落したのち高さ5.6mの軒先より墜落した。	415	1	10～ 29
2000	6	9 ～ 10	スレート屋根補修工事において、屋根に登り葺き替えるスレートの枚数を数える作業を行なっていてスレートを踏み抜き7.44m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2000	4	8 ～ 9	ビル新築工事において、トラック荷台の鋼材(長さ3.3m、重さ660kg)をクレーンで吊り荷台で地切りしたところ、すぐ隣に積んでいた同形状の鋼材が倒壊しそうになったので、玉掛者が手で押さえようとしたが危険を感じ荷台より飛び降りたところに鋼材が落下した。	521	4	10～ 29
2000	6	1 ～ 2	国道沿いの新築工事現場において、カラーコーン等の資材を片付けていたときに、直進してきた酒気帯び運転の車にはねられた。	231	17	10～ 29
2000	4	17 ～ 18	鉄骨造3階の新築工事において、鉄骨梁に耐火被覆材(岩綿)を吹き付ける作業を高所作業車(作業床の最大高さ4m)の作業床に搭乗して行っていたとき、高所作業車が転倒し地上に転落した。	146	2	10～ 29
2000	12	14 ～ 15	地上10階建マンションの外壁補修工事において、最上階出窓上の庇または足場の最上層で、外壁の防水塗装作業中に約28m下に墜落した。	418	1	0
2000	10	16 ～ 17	14階建ビル新築工事において、屋上で打設されたコンクリートの均し作業を行っていて約20m下のエレベーター開口部に設けた蛇腹まで墜落した。	415	1	1～9
2000	8	11 ～ 12	マンション新築工事において、足場の養生金網50枚分(重さ800kg)をタワークレーン(定格荷重2t)を使って、足場6段目で2スパン分の筋かいを外した箇所に搬入していたときに吊荷が当たり足場から約9m下に墜落した。	211	1	1～9

2000	7	17 ～ 18	建設工事現場ワゴン車(定員10名)に乗って県道を走行中、前方から来た大型トラックとの離合時に1.5m下の堤防下に転落した。	231	17	10～ 29
2000	5	9 ～ 10	新築工事の高さ17.45mの4階鉄骨上(幅30cm)にデッキプレート(重量17kg)を梁の間に置いていて、地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2000	4	15 ～ 16	立体駐車場組立工事において、地上約30mの場所で胴縁に足を乗せて鉄骨外周に胴縁(水平角パイプ)をボルトで取付ける作業中に、体のバランスを崩し胴縁と外周安全ネットの間から最下段の胴縁まで墜落した。	415	1	10～ 29
2000	3	17 ～ 18	エレベーターピットを施工で、ピットの側壁として設けていた高さ約1m40cm、長さ7mのブロック塀が山留めをしていた土砂約1m3とともに崩壊し、電気コードを移動していた者がその下敷きになった。	418	5	50～ 99
2000	7	14 ～ 15	鉄骨造建築工事において、3階の鉄骨梁上で手すり固定用の鞘管を溶接していたときに、バランスを崩して12m下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	7	15 ～ 16	店舗建築工事現場の屋外において側溝の掃除及び蓋据付に従事していたが、午後の休憩時に体調不良となり軽トラックに乗車したが運転席で意識不明となり病院へ移送したが熱中症で死亡した。	715	11	10～ 29
2000	1	9 ～ 10	軽トラックで工事現場へ向かって走行中、反対車線にはみ出し、対向の10tトラックと正面衝突した。	221	17	10～ 29
2000	11	21 ～ 22	建物の改修工事において、4階の窓に鋼鉄製のステージ(長さ2.5m、幅1.35m)を設置し、地上で移動式クレーン、4階でフォークリフトを使って資材の搬入を行っていたときにフォークリフトがステージに当たってステージがはずれたため、ステージから約12m下の地上に墜落した。	419	1	1～9
2000	8	9 ～	1階床のレベル出しが終わり、休憩のため躯体側から外部足場に後ろ向きで乗り移っていたときにバランスを崩して布わく上で尻もちをつき、外側	411	1	10～

		10	の筋かい下部からすり抜けて5.81cm下の地下コンクリート面に墜落した。			29
2000	7	18 ～ 19	鉄骨造2階建新築工事において、幅15cmの鋼製梁上で、2階の梁間にデッキプレートを架け渡していたときに、梁上から約3m下のコンクリート地面に墜落した。	415	1	1～9
2000	8	10 ～ 11	工場のスレート屋根の補修工事で、作業が終了して後片付けの最中に、スレート屋根を踏み抜いて転落した。	415	1	1～9
2000	8	10 ～ 11	野外ステージの鉄骨建作業中、鉄骨のボルト1本がうまく入らないので、同僚と鉄骨にまたがってボルト穴にバールを差し込んでボルト穴合せをしようとしたときにバールが抜け、その反動で鉄骨から6.85m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	1～9
2000	4	5 ～ 6	ワゴン車で走行中、中央分離帯及び走行車線の左ガードレールに激突した。	231	17	1～9
2000	4	5 ～ 6	ワゴン車で走行中、中央分離帯及び走行車線の左ガードレールに激突した。	231	17	1～9
2000	11	18 ～ 19	工事現場で後片付け作業中に者の姿が見えなくなったので捜していたところ、駐車場から作業場所へつながる通路横の側溝に倒れていた。	417	1	10～ 29
2000	8	11 ～ 12	解体用車両系建設機械でRC造3階建ビルの3階部を解体中、解体箇所の背後にあった煙突が上部から約7mにわたって倒れ、建設機械の運転席を直撃した。	418	5	10～ 29
2000	12	12 ～ 13	工事現場での作業を終え会社の軽乗用車に2名が乗り国道を走行中、センターラインを超えてきた対向の大型トラックと衝突し、2名とも死亡した。	231	17	1～9

2000	12	12	工事現場での作業を終え会社の軽乗用車に2名が乗り国道を走行中、センターラインを超えてきた対向の大型トラックと衝突し、2名とも死亡した。	231	17	1～9
2000	7	11	食品工場の製造プラント設置工事で、外壁となるPC板(推定質量900kg)の取り付け、位置調整を行っていたときにPC板が倒れ下敷きになった。	529	5	10～29
2000	6	13	高さ約1, 6m、長さ約5, 3mの7段積のブロック塀を金属製のハンマーで解体中に、ブロック塀が倒れてきて下敷きになった。	418	5	1～9
2000	5	13	マンション新築工事現場において、高層棟7階部分の足場組立作業で足場材料を受け取り運搬しようとしたときに、バランスを崩し15・3m下のコンクリート地面に落下した。	411	1	30～49
2000	12	11	鉄骨3階建の住宅新築工事において、3階梁上(高さ6m)でボルトの本締め作業を行っていたときにバランスを崩し、地上の基礎コンクリート上に墜落した。	415	1	1～9
2000	9	11	足場の解体作業中に、床材の端部を歩いていてバランスを崩し、12. 7m下の地上に落下した。	411	1	1～9
2000	8	9	建築物の解体撤去作業で、高さ6mの屋根上のスレートを撤去していたときに誤ってスレートを踏み抜いて墜落した。	415	1	1～9
2000	4	8	パチンコ店の建築工事において、鉄骨の組立作業中に高さ約4. 8mの2階梁から墜落して1階基礎の鉄筋が頭部を貫通した。	415	1	1～9
2000	4	11	振動ミル屋根嵩上げ工事において、同僚と2人で振動ミルの上部に載って配管の支持金具の締め付け作業中に振動ミルの上部から墜落した。	418	1	1～9

2000	3	11 ～ 12	立体駐車場建設現場の2階フロアで床材(900×1800×50mm重量40kg)を敷く作業中に、床材の片面が小梁からずれ落ちたため一緒に墜落した。	416	1	30～ 49
2000	7	13 ～ 14	工事現場へ向けて社用車で国道走行中、カーブでセンターラインを越えて対向の軽自動車に接触し、その弾みで次に来たパッカー車に正面から衝突した。	231	17	1～9
2000	7	11 ～ 12	個人住宅新築工事現場において、2階ベランダ部で鉄骨梁材の配置作業中に3. 2m下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2000	3	10 ～ 11	鉄骨建方工事において、長さ約12mの柱鉄骨をクレーンで吊り上げて脚部をボルト締めしたのち、上部にあるクランプを外して鉄骨を降りようとしたときに鉄骨が倒れ、鉄骨とともに約12m下のコンクリート面に墜落した。	418	1	1～9
2000	8	14 ～ 15	杭打機により基礎杭を打設する作業中に、オーガー上部の張り出しピン(約15kg)が落下し、約13m下で作業していた作業員の頭部を直撃した。	143	4	30～ 49
2000	12	10 ～ 11	3階建RC造マンション工事現場において、中低層用外部足場の3層目、4層目作業床上にて3階窓のひさしの型枠組立作業を行なっていて足場外側の地上に転落した。	411	1	1～9
2000	7	15 ～ 16	RC3階店舗新築工事において、解体した型枠パネルを移動式クレーンで吊り上げ搬出するため3名で手渡しによる運搬集積を行っていたところ、立っていた基礎梁の上面(高さ88cm)の端から左足を踏み外して基礎から出ていた鉄筋に顔面から倒れ込み、鉄筋が左眼窩より頭蓋内に貫通した。	418	1	10～ 29
2000	1	0 ～ 1	マンション新築工事の足場解体作業において、工事用エレベーター付近の足場(1h16層)をブロックにまとめて取り外し、50t移動式クレーンで吊り上げようとしたときに、載っていた足場が振れた弾みで高さ19. 4m(10層目の足場)から地上に墜落した。	411	1	1～9

2000	1	17 ～ 18	乗用車で家に書類を取りに行った帰路、道路工事のため渋滞していたので停車したところに後の車が追突した。	231	17	1～9
2000	12	10 ～ 11	工場新築工事で、現場内に入っていた生コン車のタイヤについた泥を公道に出る前に洗い流す作業をされていて、発進した生コン車にひかれた。	221	7	10～ 29
2000	1	16 ～ 17	作業終了後に同僚4名が乗用車に乗って走行中、センターラインを超えて追い越しをかけたとき対向の軽乗用車と接触して左ガードレールに接触し、その反動で再び反対車線に飛び出して対向の普通トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2000	11	14 ～ 15	屋根改修工事において、屋根の下見のために屋根に登って移動中に、バランスを崩して8.5m下に墜落した。	415	1	1～9
2000	11	8 ～ 9	下水処理施設の建築工事において、型枠材料を移動式クレーンで運搬するため、合図者として無線装置をもって枠組み足場を移動中に地上へ墜落した。	411	1	1～9
2000	10	9 ～ 10	外部足場の養生朝顔取付作業で、枠組足場9段目の西南コーナーで朝顔の取付作業中にバランスを崩して約16m下へ墜落した。	419	1	10～ 29
2000	7	15 ～ 16	スレート屋根の修繕工事で、スレートの交換等の作業をほぼ終了し、最後の修繕を行うため明かり取り用のスレートに載ったところスレートがずれるように外れ、約5m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2000	5	13 ～ 14	杭打ち工事で、アースオーガーのロッドを取り替えるためロッドをドラグショベルで吊り、アースオーガー付近まで運んでロッドを建てたところ、ワイヤーロープがバケットのフックから外れてロッドが運転台方向に倒れ、ドラグショベルの運転者に当たった。	142	6	10～ 29
		6	会社の寮に住む8人がワゴン車に同乗し現場に向かって走行中、橋に差し			10～

2000	2	～	掛かったときにスリップして対向車線に入り、高さ20cm歩道をのり上げて高さ75cmの欄干を突き破り、約4.7m下の川に車ごと転落した。	231	17	29
2000	2	～	6 会社の寮に住む8人がワゴン車に同乗し現場に向かって走行中、橋に差し掛かったときにスリップして対向車線に入り、高さ20cm歩道をのり上げて高さ75cmの欄干を突き破り、約4.7m下の川に車ごと転落した。	231	17	10～ 29
2000	2	～	6 会社の寮に住む8人がワゴン車に同乗し現場に向かって走行中、橋に差し掛かったときにスリップして対向車線に入り、高さ20cm歩道をのり上げて高さ75cmの欄干を突き破り、約4.7m下の川に車ごと転落した。	231	17	10～ 29
2000	2	～	6 会社の寮に住む8人がワゴン車に同乗し現場に向かって走行中、橋に差し掛かったときにスリップして対向車線に入り、高さ20cm歩道をのり上げて高さ75cmの欄干を突き破り、約4.7m下の川に車ごと転落した。	231	17	10～ 29
2000	10	～	9 ショッピングプラザ新築工事で、鋼製階段をクランプ2本で斜め吊りをするため重心を外して玉掛し、地切りしたところ階段がクランプから滑ったように抜け、階段に並行して歩いていた者の上に落下した。	372	4	10～ 29
2000	11	～	6 会社所有のワゴン車に作業員4人が走行中、前の車を追い越そうとしたときに路面が凍結していたためスリップし、道路左側のガードレールを突き破り約14m下の湖へ転落した。	231	17	1～9
2000	11	～	6 会社所有のワゴン車に作業員4人が走行中、前の車を追い越そうとしたときに路面が凍結していたためスリップし、道路左側のガードレールを突き破り約14m下の湖へ転落した。	231	17	1～9
2000	12	～	7 工場新築現場へワゴン車に5人が乗って走行中、高速道路の右車線から左車線へ車線変更をした際にスリップし、道路左側のガードレールに激突したのち後方からきたトラックに追突され、ワゴン車の2名が車外へ投げ出された。(同乗者3名が負傷)	231	17	1～9
2000	12	～	7 工場新築現場へワゴン車に5人が乗って走行中、高速道路の右車線から左車線へ車線変更をした際にスリップし、道路左側のガードレールに激突したのち後方からきたトラックに追突され、ワゴン車の2名が車外へ投げ出	231	17	1～9

			された。(同乗者3名が負傷)			
2000	3	14 ～ 15	鉄骨2階造増改装工事現場で2階床で間仕切壁の下地取り付けの作業をしていて、取り付けた胴縁(下地鋼材)をはしごの代わりに登っていたところ、胴縁の一本の溶接をし忘れていたため胴縁が外れ開口部から地面に墜落した。	418	1	1～9
2000	9	14 ～ 15	ガソリンスタンド建設工事において、土間に敷く砕石を均す作業をしていたときに、締め固め作業をしていたローラーとキャノピー鉄骨との間に挟まれた。	144	7	1～9
2000	2	7 ～ 8	会社の車で工事現場へ向かって走行中、対向の4tトラックが雪でスリップして進路を塞いだため衝突した。	719	17	0
2000	6	19 ～ 20	現場でコンクリート面に付着したモルタル除去作業を午前8時から午後5時まで行って帰宅し、入浴後に夕食を採っているときに痙攣の症状となり、病院へ運んで治療を受けたが死亡した。	715	11	50～ 99
2000	10	8 ～ 9	コンクリ打設後2ヶ月半の間解体せずに封印していた防火水槽用地下ピット(推測容積22.3?)の型枠解体の準備として、内部の水(水深33cm、推測量2.8?)を排水しようとして、ピット内の水溜まりに転落した。	714	12	50～ 99
2000	10	16 ～ 17	建築現場の地下ピットにおいて、型枠材で密閉されていた隣のピットの人通孔(直径約540mm)の一部に人が通れる程度の穴をあけて同ピットに入ったときにうめきを声を上げ倒れ、意識不明となった。	714	12	50～ 99
2000	8	17 ～ 18	当日の作業が終了しワゴン車へ4名が乗って走行中、トンネル内で前方の観光バスが減速したのでワゴン車も減速したが、後方からきたトラックに追突され、観光バスとトラックの間にはさまれた。(2名が死亡、2名が重傷)	221	17	30～ 49
2000	8	17 ～ 18	当日の作業が終了しワゴン車へ4名が乗って走行中、トンネル内で前方の観光バスが減速したのでワゴン車も減速したが、後方からきたトラックに追突され、観光バスとトラックの間にはさまれた。(2名が死亡、2名が	221	17	30～ 49

			重傷)			
2000	8	16 ～ 17	コンクリート打設用の型枠部材を作業構台に仮置きする作業中に、構台の端から約8メートル下の地面に墜落した。	411	1	300 ～ 499
2000	6	10 ～ 11	建築資材置場で移動式クレーンを使用して建築物の棚の上に積まれたコンクリート・パネルを荷台に積込むため、玉掛作業を行っていて足を滑らせ約4m下に墜落した。(オーバーステイの外国人)	418	1	1～9
2000	3	11 ～ 12	分譲マンション新築工事において、ベランダの梁側面のタイル下地左官作業のためアルミ台場(長さ1.3m、幅0.5m、高さ0.9m)に上がろうとしたとき足を踏み外して墜落した。	411	1	1～9
2000	3	11 ～ 12	型枠の製作準備作業中に昼食のため歩行中、基礎コンクリート上(高さ1.6m)の作業箇所から高さ約2mの架設通路へ移ろうとして墜落した。	416	1	10～ 29
2000	3	7 ～ 8	躯体のコンクリート打設準備のため、放水用ホースを持ってラック式の工事用エレベータの搬器周りの擁壁上を歩いていたときに、降下してきたエレベータと擁壁との間に身体を挟まれた。	214	7	1～9
2000	2	10 ～ 11	建築中のビル現場の23階の工事用ロングスパンエレベーターの昇降路内で、コンクリート打設のための張出し足場を組立て中に下降してきたカウンターウエイトと昇降路の内壁との間にはさまれた。	214	7	10～ 29
2000	12	0 ～ 1	立体駐車場で、クレーンを使用して内装材をパレット上(高さ約40m)に荷降し作業中に、パレットに偏荷重がかかり、荷取作業をしていた2人のうち1人は途中のパレット上に、1人が地上にあった装置上に墜落した。	418	1	100 ～ 299
2000	12	10 ～ 11	28階のエレベーターシャフト開口部に仮設の止水用スラブを設けるため、モルタルをクレーンで吊ったホッパーから流し込んでいたところホッパーのバルブが閉まらず中のモルタル(2?)がデッキプレート上に一時に流れ出し、荷重に耐え切れずにデッキプレートが崩壊してデッキプレート上にいた作業員が27、26階の開口部養生用の足場板を突き破って25階スラブま	391	1	10～ 29

			で約10m墜落した。			
2000	11	16 ～ 17	外部足場の12段目の解体作業で、11段目の足場板上(高さ約19m、幅約75cm)で解体した足場の部材を運搬中にバランスを崩して墜落した。	411	1	10～ 29
2000	10	6 ～ 7	トラックの助手席に乗り工事現場に向かって3車線の最右車線を走行していたときに、左方向から衝突されて反対車線にはみ出し、対向の車に衝突した。	221	17	1～9
2000	9	9 ～ 10	ビル新築工事現場において、12階吹き抜け部のステージ組立で鉄筋作業を行っていたときに、固定されていない足場板上を通行して約12m下の水平ネットに墜落した。	411	1	1～9
2000	9	17 ～ 18	5階建新築工事現場の屋上からコーナーリフトで残材を降ろすため残材をロープでリフトに固定しようとしたときに、誤って足場の交差筋交いにロープを結んでしまったため、リフトが降下しなかったので、搬器の中に入ってロープを切断したところ、リフトが急降下してはずみで後頭部を強打した。	214	3	1～9
2000	8	9 ～ 10	25tラフタークレーンで地盤改良のためのウェルポイント用パイプの引き抜き作業で、クレーンを移動して引き続き作業を行うために鉄板(1.6t)を吊りあげて旋回中にクレーンが転倒し、鉄板の敷設先付近で待機中の者が転倒してきた伸縮ジブに挟まれた。	212	6	30～ 49
2000	7	11 ～ 12	解体工事現場にあった混合ガスボンベを処分するため、資材置場にガスボンベを2人でトラックから荷降ろしするときにボンベが荷台から落下したためボンベの起動ヘッドが外れ、中のガスが噴出して暴れたボンベに足をすくわれ倒れたところにボンベが激突した。	319	6	10～ 29
2000	6	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造建築工事現場において、前日に打設した1Fスラブのコンクリート上で同僚と墨出し作業をしていたところ、突然、全身痙攣発作を起こしたので救急車で病院へ移送したが、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
		13	マンションの外壁等改修工事において、足場の13層目の解体で東側の最後			10～

2000	3	～	の3枠を解体したので地上に降ろす場所(西側13層目端部)に向かうため布	411	1	29
	14		枠上を歩行中に墜落した。			
2000	2	13	外部足場のシート張りをブラケット足場上で行って、躯体と足場との	411	1	100
		～	隙間(40cm～50cm)から19階床に墜落した。			～
		14				299
2000	2	10	マンション1階の腰壁(間口180cm、高さ153cm、厚さ18cm)の解体作業	418	5	1～9
		～	で、腰壁の周囲をはつた後、剥き出しとなった鉄筋の左右両側、腰壁下			
		11	部の二列に並んだ立筋をその下方で切断したところ、腰壁(重さ約500kg)			
			が内側に倒れ、腰壁と建物の壁との間に挟まれた。			
2000	12	13	倉庫の解体作業中に、高さ5.37mのスレート屋根からコンクリート面に	415	1	1～9
		～	転落した。			
		14				
2000	10	16	鉄骨造平屋車庫の解体作業で、単管足場(高さ4.6m)での作業を終え、梯	371	1	1～9
		～	子(長さ約5.7m)を使って地上に降りているときに、高さ約2.5m位置か			
		17	ら地上に転落した。			
2000	9	10	中学校の屋根及び外壁改修工事に使用した地上14メートルの足場の解体作	411	1	10～
		～	業で、部材の一部を外したときに足場としていた足場板が脱落し、高さ約			29
		11	3メートルの躯体屋根に接触したのち地上に墜落した。			
2000	8	6	移動式クレーンでH鋼(長さ4m、重さ600kg)を1本吊りしているときに、	372	4	50～
		～	クランプがはずれてH鋼が落下し下敷になった。			99
		7				
2000	8	8	コンクリート仕上作業のため屋上に上がっていた作業者が地上に墜落し	411	1	10～
		～	た。			29
		9				
2000	4	13	単管パイプの打ち込み作業をおこなうに当たり、機体重量5.1tのドラグ	142	6	1～9
		～	ショベルのバケットの爪先で、単管パイプ(長さ153cm、直径4.8cm)を			
		14	打ち付けていたところ、突然単管が倒れ単管を手で支えていた者の右脚付			

			根を強打した。			
2000	8	6 ～ 7	同僚3人と作業現場へ向うため乗用車で市道を走行中、県道との交差点で信号が赤なのに進行し右折してきたワゴン車と激突した。	231	17	10～ 29
2000	8	13 ～ 14	マンションの外壁塗装工事に使用した外部足場の解体作業で、高さ13.84m、幅50cmの足場板上で同僚とともに布杵材をロープで降ろしていたときにバランスをくずして転落した。	411	1	1～9
2000	7	9 ～ 10	碎石を貯蔵、払出しする建物の解体作業中、床からの高さ約4.6mの梁の一方を他の作業者が切断し、梁上でもう一方をチェーンソーで切断していたところ梁が方杖を支点に回転したため墜落し、建物内の通路の手すりに胸部を強打した。	415	1	10～ 29
2000	7	10 ～ 11	自家用車でコンクリート打設作業の監督のため走行中、信号の無い交差点で進行方向右側から進入してきた4tダンプと衝突した。	231	17	100 ～ 299
2000	4	8 ～ 9	鉄骨造2階建新築工事において、高さ1.12mの脚立に乗って高さ2.7mにある天上梁と壁間柱用ガイドレールをネジで取り付けて降りるときに、脚立から墜落した。	371	1	30～ 49
2000	3	16 ～ 17	事務所に附属する高さ約3.4mのベランダの端に温室の屋根と壁板を取り付ける作業で、温室側面のサッシと屋根の隙間に波板を取り付けるため床の端に脚立(高さ約1m)を置いて作業していてバランスを崩し地面に墜落した。	418	1	1～9
2000	2	13 ～ 14	新築工事現場において、屋上のペントハウスから吊るした親綱に固定していた幹線ケーブルを長さ30mのロープに移し替えて地上に降ろす作業をしていたときに、13階廊下の手すりを越えて36.5m下に墜落した。	418	1	1～9
2000	1	11 ～ 12	パチンコ店の解体作業において、鉄骨外部階段と建物をつないでいる2階床のH型鋼を外部階段の踊り場からガス溶断したところ、階段側の支えがなくなったため階段が傾き、階段は片側だけの手すりであったため高さ	413	1	10～ 29

			3. 79mの踊り場から墜落した。			
2000	5	13 ～ 14	鉄骨平屋建工場の改築工事において、既存のスレート屋根を取り外す作業のためスレート屋根に上っていて、スレート屋根を踏みぬき約4.5m下のコンクリート床面へ墜落した。	415	1	1～9
2000	12	6 ～ 7	会社のトラックに作業用の資材等を載せ工事現場に向かって走行中、センターラインを超えて対向車線に飛び出し、乗用車(RV車)と衝突した。	221	17	10～ 29
2000	9	8 ～ 9	工事現場の4階において、クレーンで吊り上げた籠に安全ネットを入れ、作業床の端から降ろそうとした時に、荷と一緒に地上(約9m)まで墜落した。	416	1	10～ 29
2000	8	11 ～ 12	種子吹き付けによるグラウンドの緑化工事において、同僚と二人で材料(1個20kg)をモッコに移動作業中に気分が悪くなり、病院へ移送したが熱中症で死亡した。	715	11	1～9
2000	7	10 ～ 11	建物の屋根裏(1階天井裏)で電気配線の工事中、既設の三相200ボルト配線の接続部が露出していて、それに身体の一部が接触して感電した。	351	13	1～9
2000	6	14 ～ 15	屋根の葺き替え作業で屋根上にあがったときに、木毛板を踏み抜き7.5m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2000	12	13 ～ 14	公園内のポンプ室新築工事で、コンクリート打設のための外部足場を養生する作業で鋼管枠組足場の2段目で作業中、誤って足場から約4m下の地上に墜落した。	411	1	1～9
2000	10	15 ～ 16	15階建マンション新築工事において、外部足場の19層目より(高さ約33m)から地上の足場部材集積場所に墜落した。	411	1	1～9
2000	9	13 ～	マンション新築工事の完成検査のうち15階屋上で行われた消火栓水压検査が終了したので20mのホースの後片付け中、43m下の駐車場に転落した。	418	1	1～9

		14				
2000	9	11 ～ 12	ハウスの片側全面を新しい波形鋼板と半透明波形プラスチック板に取替る工事で、鋼板の位置合せのために鉄骨交差部上の垂木に腰を掛け、片手で鋼板を引き寄せようとしたときに垂木が折れて5. 2m下の地上に墜落した。	415	1	1～9
2000	6	11 ～ 12	車庫兼倉庫の外壁張替工事において、枠組み足場上で電気ドリルを使って下地材を止める作業を行っていて2.5m下に転落した。	416	1	1～9
2000	6	17 ～ 18	倉庫新築工事現場において、積載型トラッククレーン(2. 9t)で運搬してきた鉄骨を荷台から降ろす作業中に、荷台端に2段に重ねてあった鉄骨の1本が崩れたため、崩れた鉄骨付近で合図と玉掛け作業を行っていた者が地面に投げ出され落下してきた鉄骨(600kg)に頭を直撃された。	212	4	50～ 99
2000	6	14 ～ 15	鉄骨平屋建駐車場の新築工事現場において、デッキプレートを敷設した屋根にコンクリートを打設するため外周にコンクリート止めの鉄板の溶接を行っていて2. 8m下に墜落した。	418	1	1～9
2000	5	9 ～ 10	観客スタンドのベンチ取付け作業のため、コンクリート製スタンドの型枠を解体していた時に空調設備設置用の開口部(1m×0. 7m)の蓋を踏み抜き5. 1m下のコンクリート床に墜落した。	419	1	10～ 29
2000	3	16 ～ 17	倉庫新築工事の鉄骨建方作業で、アーチ状の屋根の垂木に昇って翌日に取付ける安全ネットの取付け位置を確認していたときに、バランスを崩して5. 2m下のコンクリートの床に墜落した。	415	1	1～9
1999	12	9 ～ 10	ロングスパンエレベーターの解体作業の現場において、解体されたロングスパンエレベーターのガイドレール取付用部材である1. 5mの単管が、地上33メートルの足場板上から落下し、そのエレベーターの下で作業していた者の身体に当たった。	521	4	30～ 49
1999	5	15	軽量鉄骨造温室の建設工事において、脚立足場(馬の間に巾14cm、長さ3mの板をのせたもの)の上(高さ2. 8m)で側壁の板の取付作業をしていて	411	1	1～9

		16	地面に墜落した。			
1999	12	9 ～ 10	ホテル9Fの改修工事現場の作業用張出足場の解体作業において、張出足場の腕木と布直交クランプをラチェットで取り外して9階ベランダ部分より約29メートル下のホテル前の道路上に墜落。	411	1	1～9
1999	2	10 ～ 11	フォーリフトのフォークに作業員を乗せ天井のタッチアップ作業を行わせていたときに、フォークリフトのマストと天井梁との間に作業者が頭部を挟まれた。	222	7	50～ 99
1999	8	7 ～ 8	型枠解体作業のためワゴン車(定員9名)で同乗者8名と国道を走行中、緩い右カーブを進行中にハンドル操作を誤り対向車線にはみ出し、法面崩壊箇所の流出防止用土のうに衝突したのち、斜面に激突し、運転手含め9名が死傷した。	231	17	30～ 49
1999	10	16 ～ 17	台風で損壊した倉庫の破損した箇所にスレートを仮さしするため、に屋根上に登って移動中、スレートを踏み抜き約9メートル下に墜落した。	415	1	10～ 29
1999	10	19 ～ 20	マンション新築工事現場からワゴン車に同乗して走行中、対向の車のライトに眩惑され道路脇の電柱に激突したところに後続車に追突された。	231	17	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	鉄骨倉庫の解体作業で、高さ5mの屋根のスレートを取り外していたところ、スレートが割れてスレートと共に土間に落下した。	415	1	1～9
1999	9	11 ～ 12	工場から事務所に入るためドアを開けたと同時に台風の突風にあおられ、転倒し、地面で右側頭部を強打した。	719	2	30～ 49
1999	11	6 ～ 7	会社所有の車両の後部座席に同乗して建設現場に向かって県道を走行中、カーブ沿いの橋の欄干に左側部が激突したため頭部及び腹部を強打した。	231	17	1～9
		14	設備建設工事において、屋根の上で足場材料の荷降ろし作業中に天窓(採			10～

1999	12	～ 15	光用)のガラスを破り11. 2m下のベルトコンベアの上に墜落した。	415	1	29
1999	9	14 ～ 15	朝から仮設ステージの組立作業を行っていたが、午後2時頃になって気分が悪くなり、病院に搬送し治療を受けたが熱射病と診断され死亡した。	715	11	10～ 29
1999	12	15 ～ 16	工場内部の中2階の解体工事において、鉄板部分をガス溶断し、移動式クレーンを用いて吊りながらはがしていく作業で、クレーンの誘導作業を行っていた者が、吊り上げた作業床部分に生じた開口部から約3. 2メートル下の1階床面に墜落した。	414	1	1～9
1999	12	～ 13	12 工務店の事務所兼宿舍の敷地内にある資材置場から出火し、すぐ隣の所属 従業員26名が寝ていた宿舍に燃え移り、このうち1名が逃げ遅れて死亡した。	418	16	30～ 49
1999	6	15 ～ 16	建築工事現場において、型枠材の運搬作業に従事していた労働者が体調不良を訴えたので、救急車で病院へ搬送したが、熱中症のため死亡した。	715	11	1～9
1999	12	～ 16	15 鉄骨造工場の増築工事現場において、木毛板を屋根に葺くため屋根の上で 同僚と運搬中に、木毛板を踏み抜き約4m下の地上に頭から墜落した。	415	1	10～ 29
1999	12	～ 15	14 プラント解体工程において、解体した約300kgのプラントの部材を移動式 クレーンでトラックに積み込む作業中、1本吊りしたところ荷が揺れト ラックに当たりそうになったので、揺れを押さえようと吊り荷に近づいた ときに玉掛けワイヤーが吊り具から外れ、吊り荷と地面との間に挟まれ た。	372	5	1～9
1999	12	9 ～ 10	地下1階地上2階建の鉄筋コンクリート造の建設工事において、ビティ足場の4層の上で2階上屋天井部の梁の配筋作業をしていて約2. 5メートル下の2階のベランダとなるコンクリート床面に転落し、そこから出ていた鉄筋が腹部に刺った。	411	1	1～9

1999	3	8 9	ビル改築工事で建物を解体する前に商品の搬出作業をすることになったが、朝から雨が降っていたので商品の濡れるのを防ぐためビニールシートを建物のパラペット部分と横はけしたトラックの荷台のあおりに取り付ける作業中、パラペットの骨組み部分から屋根のシートを突き破り約3.7メートル下のコンクリート地面に墜落した。	415	1	1～9
1999	12	16 17	鉄筋コンクリートのビルの解体工事現場で、コンクリートのガラをドラグショベルでダンプに積込後、ショベルの前面に堆積した積み残しのガラを整地するため後方に移動し法肩いっぱいまでショベルを停止させたところ法肩のガラが崩れてショベルが転倒し、アームの一部が近くで作業していた者の後頭部に当たった。	141	6	1～9
1999	11	13 14	マンションの基礎杭を打つため、バックホーで約2.3m掘削したのち、床面にあった石の除去と地ならしをしているときに土砂が崩壊した。	711	5	1～9
1999	11	17 18	鉄骨造り六階建のマンションの新築工事現場で、屋上の屋根の作業が完了して工具等をもって屋根上を移動していて、屋根上の開口部(点検口、70センチ×70センチ)から3.5メートル下の六階床に墜落した。	414	1	1～9
1999	12	11 12	鋼管枠組み足場を解体中、高さ12m、幅81cmの足場板上から4m63cm下のコンクリートの建物2階ベランダに墜落し、頭部などを打った。	411	1	30～ 49
1999	11	13 14	枠組足場の最上部にメッシュシートを降ろすスペースを確保するため、躯体側のブレスを2スパン外し、建枠は外側に建枠の幅分移動して荷降ろしをしていて足場上から13.89m下の地面に墜落した。	411	1	10～ 29
1999	11	15 16	資料館AV展示棟の内部工事における足場組立作業で、5.19メートルの足場3段目の作業床からコンクリートの床面に墜落した。	411	1	30～ 49
1999	10	10 11	貸店舗新築工事現場において、高さ4.4mの鉄骨柱上で作業を行っていて、地面に墜落した。	418	1	1～9

1999	10	0 ～ 1	工事現場で、昼休み時間中に2階開口部(908×405mm)から3.8m下の1階フロアに墜落した。	414	1	10～ 29
1999	10	11 ～ 12	台風の被害を受けた倉庫屋根の波形スレートの取り替え工事を行っていて、屋根下地の木毛板を踏み抜き約6、3メートル下へ墜落した。	415	1	1～9
1999	10	15 ～ 16	外部足場の昇降階段をあがっているときに、墜落した。	413	1	1～9
1999	10	13 ～ 14	碎石の積み込みを終えた2トントラックのあおりの固定を行っていたときに、採石場のトラクターショベルが後退してきてトラックとショベルとの間に挟まれた。	141	7	1～9
1999	10	8 ～ 9	鉄骨組立て作業で、クレーンで梁を吊って両端をボルト締めをしたのちに、梁に掛かっていたクランプを外そうと安全帯を外して梁にまたがって外しに向かったときに、バランスを崩して高さ4.24mから墜落し地面から出ていた鉄筋に脇腹が刺った。	415	1	1～9
1999	10	8 ～ 9	コンクリート擁壁の型枠組立作業中に、同僚からさん木(型枠パネル控え用の角材長さ約80センチ)を持ってくるように指示され、地上から枠組足の4層目に届けたときに、高さ7、35メートルの足場上から墜落した。	411	1	10～ 29
1999	10	13 ～ 14	鉄骨3階建住宅建築工事において、3階作業床の端から地上に袋詰めした木片くずを投下しようとしたときに、誤って3階床端部から6.62メートル下の地上に墜落した。	416	1	1～9
1999	10	11 ～ 12	作業床の高さ95センチメートルのうま足場に乗りコンクリート壁のハツリ作業を行っていたところ、後方を移動していたミニアイオン(ドラッグショベルのバケットを交換したもの)のアームの先端が足場にあたったため、足場が崩れて、墜落した。	145	1	10～ 29
		14	高所作業車(作業床の高さ12メートル)のバケットに乗って鉄骨のボルト入			30～

1999	10	15	れ作業を行っていて、作業床の手すりと高さ4メートルの位置にある鉄骨梁との間に胸部を挟まれた。	146	7	49
1999	10	16 ～ 17	中学校新築工事において、校舎屋根部で型枠の組立作業を行っていて足場から12m下に墜落した。	411	1	30～ 49
1999	9	16 ～ 17	鉄骨2階建新築工事現場で鉄骨の組立作業中、高さ3.4メートルの鉄骨梁(幅12.5センチメートル)から墜落し、基礎コンクリートから立ち上げてあった鉄筋(高さ44センチメートル、直径10ミリメートル)が左頬から後頭部に貫通した。	415	1	10～ 29
1999	9	15 ～ 16	高層棟1Fで枠組足場を組み立てているときに、3段目(約5.15m)より落下し壁差し筋が横腹に刺った。	411	1	10～ 29
1999	9	13 ～ 14	工場の新築工事現場において、2階南側の外壁用鉄枠(縦2.7m、重さ約130kg)の取り付け作業中に、約4.5m下の道路に鉄枠と共に墜落した。	418	1	1～9
1999	5	9 ～ 10	2階のコンクリート打設中、コンクリート打設の責任者として、2階スラブ下の作業者に作業の指示をしていたときに、足場から約10m下に墜落した。	411	1	10～ 29
1999	9	14 ～ 15	塔屋外部足場解体のため、7段最上部の建枠ブレースを解体して、6段目に集積し、片方の玉掛ワイヤーを掛け、もう一方のワイヤーを掛けようとしたときに巻き上げ合図をしたために荷が動き、荷とともに合図者が約10m下の5階屋上に墜落した。	411	1	1～9
1999	12	8 ～ 9	2tトラックで走行中、右折車両に気付いて減速したが減速せず、そのまま10tダンプトラックに追突した。	221	17	1～9
1999	8	15	2棟の倉庫間の連絡用通路建築のため、ブラケット側足場2層目の手すり	418	1	1～9
			と建方中の鉄骨上に足を掛け、鉄骨もやを梁に設置する作業をしていたと			

		16	きに、地上約4.6m下に墜落した。			
1999	8	9 ～ 10	基礎地中梁配筋作業に使用する鉄筋をラフテレーンクレーン(吊り上げ荷重45t)で吊り込み作業中、クレーンが転倒し、材料の玉はずし作業者に、クレーンのジブが激突した。	212	6	1～9
1999	8	10 ～ 11	鉄骨の柱に立て掛けた「はしご」の上で梁の部分のボルト締め作業を行って、はしごを降りるときに鉄骨の柱が傾き、はしごと共に墜落し、地中梁の鉄筋が頭を貫通した。	371	1	1～9
1999	8	7 ～ 8	型枠解体作業のため、ワゴン車(定員9名)で国道を走行中、緩い右カーブで対向車線にはみ出し、法面崩壊箇所の流出防止用の土のうに衝突した後、斜面に激突し運転手含め9名が死傷した。	231	17	30～ 49
1999	8	8 ～ 9	建築工事において、建設用リフト(スキップホイスト)を利用し一輪車を3Fまで持ち上げ、その一輪車を取り上げようと手すりから少しはみ出した足場(高さ9.68m)へ身を乗り出したときに墜落した。	411	1	1～9
1999	7	14 ～ 15	型枠用の板(約900kg)を50t移動式クレーンで型枠上に吊上げて置いたところ、型枠の中間梁の部分が変形して鋼製梁が外れたため、梁と型枠用の板が落下し、これが、鉄パイプを運搬しながら下を歩いていた者に当たった。	522	4	10～ 29
1999	7	16 ～ 17	道路新設工事において、ボックスカルバートウイング根元部の鉄筋組立て作業を行うため、開口部(7.1m×1.32m)に鋼製足場板1枚(幅24cm)を掛け渡して、鉄筋と補強筋を番線で固定していたときに足場上から墜落した。	411	1	30～ 49
1999	8	9 ～ 10	建築工事で玄関部分を養生するため、足場と玄関の底の間に約25cm間隔で鋼製布板(幅24cm)を45枚掛け渡し、番線で固定作業を行っていたときに、27枚目の布板と共に墜落した。	418	1	1～9
1999	8	11 ～ 12	高さ3.55メートルの事務所の屋根を解体中に、屋根もろとも墜落した。	415	1	10～ 29
		0	枠組足場解体を最上層(14段目の上)で、行っていた3名のうちの1名が、親			50～

1999	8	～ 1	綱の張られていない箇所から約24m下の地面に墜落した。	411	1	99
1999	4	14 ～ 15	スレート屋根葺き替え工事において、常設されている鉄板歩道から歩み板(約25cm幅の板を2枚横に並べたもの)を渡って作業箇所に向かう途中で、屋根の最上部から下りにさしかかったときにバランスを崩し、約11m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
1999	7	14 ～ 15	製紙工場のワインダーの上に雨漏り防止のために張っていた透明のビニールシートを取り外すため、天井クレーンのランウェイガーダーに上っていたときに裸トロリー線に触れたショックで3.8m下の床に墜落した。	416	1	10～ 29
1999	7	19 ～ 20	コンプレッサーを使用して圧送管内の生コンクリートを排出しているときに、圧送管内の生コンが排出された反動で圧送管が突然回転し、5Fスラブ上にいた者の胸部を強打した。	391	6	0
1999	7	10 ～ 11	くい打機のリーダーの組立作業中、リーダーのボルトを外してくい打機をバックさせたところ、リーダー起伏ロープが少し緩んでいたために水平だったリーダが地面の方向に落ち地上50cmの所で停止したが、その時、落ちたリーダと地面の間を通り抜けようとしてリーダーに激突された。	143	4	1～9
1999	7	10 ～ 11	営業活動のため社用車で県道を走行中、右カーブを曲がり切れず路肩の石垣に衝突した。	231	17	100 ～ 299
1999	1	11 ～ 12	校舎外壁のクラック補修工事で、6尺アルミ製脚立の5段目にまたがりモルタル塗りをしていてバランスを崩してコンクリート土間に転落した。	371	1	30～ 49
1999	6	11 ～ 12	解体を終えた地中梁配筋用足場の整理を地上で行っていたが、大汗をかき、足元がふらついていたので、職長が休養をさせ、休養を終えて、立ち上がり数メートル歩いたものの道路上に倒れ込んだ。(熱中症)	715	11	1～9
1999	6	9 ～	交差点で、信号待ちで右折車線に停車していた乗用車3台の最後尾にいたところ後ろから来た大型ダンプに追突されて、対向車線を突っ切り、道路	221	17	100 ～

		10	脇の送電線鉄塔支柱に激突した。			299
1999	6	9 ～ 10	現場入場して3日目の被災者は、同僚の3人で足場解体作業を行っていた。7階建の建物の6階部分の足場の解体で集めた足場部材を玉掛けしてクレーンで吊ったときに手を挟まれて荷と一緒に吊り上げられ、ステージの外側に体が移動したところで、約24m下の民家の庭に墜落した。	211	1	1～9
1999	6	10 ～ 11	鉄骨造2階建て貸事務所の新築工事で、移動式クレーンにより運ばれて来た梁材を所定の位置に納めるため、柱に抱きついた形で右手を梁材にかけて誘導していたとき、移動式クレーンのジブがクレーン上方10.9mの電線に接触したため、感電した。	212	13	1～9
1999	6	9 ～ 10	鉄骨鉄筋建建築工事現場の6階において、高さ171cmの脚立の上で型枠を組立中に、脚立から転落し、コンクリートから46cm突き出た異形鉄筋に首が刺さった。	371	1	30～ 49
1999	5	14 ～ 15	建築工事現場の屋根上において、鋼板を曲げて加工した屋根材をコロ台の上を転がして葺く場所へ運搬する作業に従事していたところ、気分が悪くなって日陰で1時間程度休憩したが回復せず、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
1999	6	10 ～ 11	倉庫の鉄骨建て方作業で、高さ11mの柱を10本建てその後、移動式クレーンで梁を吊って所定の位置に移動させ、その梁の上を這って柱の方へ移動しているときに、柱が傾いて倒れたため、柱とともに11m墜落した。	418	1	1～9
1999	5	16 ～ 17	2階の梁の上の足場板をクレーンで屋上に吊上げる作業の誘導を行い、屋上から2階に梯子づたいに降りていたときに足を滑らせ、約6m下に転落した。	371	1	10～ 29
1999	5	10 ～ 11	マンション建設工事現場において、4段目まで組立が終了した足場上で防護ネットを設置する作業を行っていたときに、4段目の足場から墜落した。	411	1	10～ 29
1999	5	9 ～ 10	倉庫新築工事現場において、庇の歪みを直すため高さ3.95メートルの足場上に上がり、庇の下の筋かいの調整を行っていたときに、足場上から倉庫入口の砂利上に墜落した。	411	1	10～ 29

1999	5	11 ～ 12	25トン移動式クレーンで、長さ5.5メートル、重さ1.1トンのH鋼を高さ2メートルに持ち上げた状態でH鋼の向きを変えようと静止したときに、一方の吊りクランプがはずれ、続いてもう片方のつりクランプがはずれて落下し、下敷になった。	372	4	1～9
1999	4	10 ～ 11	工場建屋の外壁補修工事で、足場の上で吹き付け作業に従事していた足場を踏み外して約3.5m下に墜落した。	411	1	1～9
1999	4	14 ～ 15	自動車工場の解体現場において、片づけ作業でスレート葺の屋根に登っていたときに、採光用の塩化ビニール窓を踏み抜いてピットまで墜落した。	415	1	10～ 29
1999	2	9 ～ 10	枠組足場の組立作業で、移動式クレーンから足場4層目の足場板上に降ろされた荷に巻上ワイヤーロープが引っかかって、作業にあたっていた者と接触したため、荷もろともに足場間の開口部から、張られていた防網を突き破って24.65m下方の地下3階コンクリート床に墜落した。	411	1	50～ 99
1999	4	9 ～ 10	アマチュア無線のアンテナ用鉄塔の解体で、鉄塔に昇って作業していたときに高さ約12mのところから墜落した。	418	1	1～9
1999	4	11 ～ 12	コンクリートミキサーを用いてモルタルの製造を行っていたコンクリートミキサー内の羽に巻き込まれた。	162	7	10～ 29
1999	4	13 ～ 14	鉄筋2階建住宅建築工事現場で、うまの2段目のパイプ上で1階柱の型枠の組み替え作業を行っていたときに、強風にあおられて墜落し、基礎コンクリートから突き出た鉄筋に足、腰、腹部が突き刺さった。	371	1	1～9
1999	1	7 ～ 8	労働者4名が会社所有の乗用車で工事現場へ向かう途中、国道で路面が凍結していたためにスリップし、対向の10トンダンプトラックに正面衝突した。	231	17	1～9
		10	木造モルタル2階建ての従業員寮が全焼し、焼け跡から1名の焼死体が発見			10～

1999	3	～ 11	された。	418	16	29
1999	4	13 ～ 14	下り追い越し車線を走行中、前方に停車していたトラックに追突した。	231	17	100 ～ 299
1999	4	14 ～ 15	体育館改築工事現場で、同僚6名とともに鉄筋・型枠作業用枠組足場組立て作業中、高さ約7mの足場からコンクリート床上に墜落した。	411	1	50～ 99
1999	3	16 ～ 17	油圧ショベルのアタッチメントにはさみ状のものに取り付け、解体廃材を入れたプラスチックケースを吊り上げてトラックへ積み込む作業中、はさみがプラスチックケースの吊り具をうまくはさめるよう吊り具を両手で保持していたときにはさみが頭部をはさんだ。	149	7	1～9
1999	3	15 ～ 16	移動式クレーンを用いて型枠材を移動中、クレーンが転倒したためクレーンとあらかじめクレーンの側方に置かれていた資材との間に挟まれた。	212	2	10～ 29
1999	3	10 ～ 11	工事現場に自家用車で向かうため国道を走行中、トラックがセンターラインを越えてきて衝突した。	231	17	10～ 29
1999	3	15 ～ 16	新築工事現場において、マンホール内部に逆さになって上半身を入れて配水管の補修作業をしていたときに、通りかかった別の作業員が様子がおかしいのに気づいた。	418	10	1～9
1999	3	9 ～ 10	現場内に敷いてある鉄板を積載形トラッククレーン（2.7t）で片付けるため、クレーンを勾配約10度の坂道に止めて、重さ1.6t×2枚の鉄板を荷台に乗せ、アウトリガーのジャッキを縮めたところトラッククレーンが坂道を下りはじめ、後方で鉄筋をガスで溶断する作業をしていた者を後部タイヤでひいた。	212	7	10～ 29
			ボイラの脱硝反応器をスピードキャリアに積載して水切場からボイラ据付			

1999	3	15 ～ 16	現場へ輸送するため、水切場から約70m先の左にカーブしたところで、スピードキャリアごと右に横転し、その際に工事関係車両5台とコンテナハウス2個が下敷になり、下敷になった1台の車両内に休憩中の作業員2名が被災し、うち1名が死亡した	612	6	1～9
1999	2	13 ～ 14	材料置場で移動式クレーン付きトラックを使用して単管パイプを移動するときに、クレーンの作業半径を大きくとってしまい、またアウトリガーの張り出し巾が狭かったために、クレーンが横転し集積材とトラックのキャビン部の間に胸腹部をはさまれた。	212	6	30～ 49
1999	2	13 ～ 14	社宅新築工事現場の駐車場のアスファルト舗装作業で、レイキ作業を行っていた後進していたタイヤローラーに激突された。	144	6	10～ 29
1999	2	8 ～ 9	鉄筋コンクリート建物解体工事で、歩行健康器具を同僚と2人で4階の窓から地上のコンテナ車に投下しているときに、皮手袋が健康器具のボルトに引っかかったため、歩行健康器具とともに1階コンクリート土間まで墜落した。	418	1	50～ 99
1999	2	0 ～ 1	駐車場の舗装工事において、舗装面手直しに使用するガスバーナーを運搬してコンバインドローラーの後方側を横断中に後進してきたローラーに轢かれた。	144	7	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	RC造3階建て新築工事において、屋上部に取り付ける手すり寸法確認の作業していたとき、2名のうち1名が2階及び3階の階段上部踊り場から階段取り付け予定箇所の躯体内開口部へ落ち、約10m下のコンクリート製の地下への階段まで墜落し、さらに地下室床まで転落した。	414	1	1～9
1999	1	14 ～ 15	工場新築工事で天井裏の配管作業中に70センチのすき間から5.3メートル下のコンクリート床に墜落した。	418	1	1～9
1999	2	9 ～ 10	建築工事現場の内部足場の上で屋根部分の型枠を解体作業をしているときに、体のバランスを崩して足場上から1階のコンクリート床面へ墜落した。	411	1	1～9

1999	2	11 ～ 12	コンクリート打設作業終了後のコンクリートポンプ車の清掃作業において、ポンプ車のホッパー内の攪拌羽根に上半身を巻き込まれた。	149	7	1～9
1999	2	11 ～ 12	マンション新築工事における造成中、進入路に仮置きされた敷鉄板をドラグショベルで吊り上げ左旋回したときに、ドラグショベルが転倒し、運転席が土留め杭に潰された。	142	2	1～9
1999	2	6 ～ 7	2tトラックで工事現場に向かって走行中、接触事故で縦列停車していた2台のトラックに追突し、さらに、後続の乗用車が2台相次いで追突してきた。	221	17	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	建築基礎コンクリート打設のため、幅約2.2m、深さ約1.4mの溝をドラグショベルで掘削し、溝の中に入って整地していたところ境界のブロック塀が崩壊し下敷きとなった。	418	5	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	建築基礎コンクリート打設のため、幅約2.2m、深さ約1.4mの溝をドラグショベルで掘削し、溝の中に入って整地していたところ境界のブロック塀が崩壊し下敷きとなった。	418	5	1～9
1999	2	16 ～ 17	ロングスパン工事用エレベーターのガイドレールを継ぎ足すため、足場上でエレベーターのストッパーレールを引き上げ足場上に仮置きしたときにストッパーレールとともに墜落した。	214	1	1～9
1999	2	9 ～ 10	鉄骨組立作業で、ボルト締め中に安全帯のカラビナが損傷していたため17.3メートル下のコンクリート床面に墜落した。	418	1	1～9
1999	1	9 ～ 10	冷蔵倉庫の防火壁を撤去するための枠組足場を組立てるため、足場1段目の足場板に乗って2段目の交さ筋かいを取り付けようとしたときに、コンクリート床に墜落した。	411	1	1～9
1999	1	15 ～ 16	外壁改修工事の外部足場解体作業中、部材を引き抜いたときバランスをくずして部材とともに約4メートル墜落した。	411	1	10～ 29

1999	1	16 ～ 17	屋根の下側に天井を張る工事のため、既存の10トン天井クレーンの桁の上部に設置作業をし、足場を通過して工場床まで降りようとしたときに7、1メートル下のコンクリート床面に転落した。	211	1	1～9
1999	1	13 ～ 14	現場事務所の職員玄関前外壁面の型枠解体に使用したローリングタワーを別の部屋に移動するため解体しているときに、ローリングタワーよりコンクリートの床面に墜落した。	411	1	30～ 49
1999	1	8 ～ 9	終末処理施設「砂ろ過棟施設」の上部のスラブ上で、つなぎ目の目地部が氷結していたのでプロパンバーナーにより融かす作業を始めたときに、足元下部が爆発し、コンクリート片と共に約4～5m跳ね飛ばされ、コンクリート片の下敷となった。	513	14	10～ 29
1999	1	11 ～ 12	ビルの屋上において点検作業中、屋上の端から約17メートル下の地上に墜落した。	418	1	1～9
1999	1	13 ～ 14	学校の増築工事現場において、解体した型枠の金具・栈木の片付けを外部足場上で行って墜落した。	411	1	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。